761.8/ワ

誰も教えたがらない！

キャッチーなメロディーの極意48

超ヒット曲に学ぶ
シンプルな
作曲のメカニズム

割田康彦 著

RittorMusic

CamScannerでスキャン

はじめに

ヒット曲には、ヒットの理由がある。

アーティストの人気度合い、時代や社会情勢とのマッチング、宣伝戦略の奏功など、その要因は多種多様だ。

しかしその根底にあるのは基本的に〈心に残るメロディ〉であるということ。

〈心に残るメロディ〉とはなんだろう。

私は常日頃からそんなことばかりを考えている。

そこに何か共通点があるはず……そんな想いを抱きながら、私は1960年代以降の日本のヒット・チャートを席巻した歴代の名曲〈100曲〉を任意に選び、分析を試みることにした。

時は2013年10月……最初に分析したのは「どんなときも。」である。分析を進めてゆく中で、ヒット曲における共通点らしきモノを発見できたところまでは良かったのだが、〈その手法〉を端的に表現する《明確な言葉》が存在していないことに気がついた。

折しも〈作曲講座/ワークショップ〉をこなす回数が多くなり、その現場においても《明確な言葉》の必要性を感じていた。都度都度、個別具体的な作曲手法を示すことができても、それらは決して〈美味しい表現〉とは言えなかった。

やはり受講生が覚えやすい〈イメージ共有型の作曲用言語〉が必要だ。しかもそれらは学術的な難しいモノではなく、感覚的に理解できる〈平易な言葉〉が望ましい。しかも〈面白い表現〉のほうが心に残りやすい！

よし、誰もが知っている数々の名曲を分析し、そこに存在する共通点を掘り起こして〈言語化〉し、多くの皆様と《共有》できる状態にするのだ！

……という経緯があり、書籍にするなどという大それた野望を抱くこともなく、あくまでも〈個人的なメモ〉として《100曲分析》を進めていったのである。

あらゆる年代の名曲をカバーするために「どんなときも。」の次に「待つわ」の分析をはじめた。この時点で予想を遥かに超える文字数になっていた。１曲につき２～４ページ相当を考えていたのだが、とてもそんなページ数には収まらない。このペースでいったら100曲完遂はいつになるのか……。

モーニング娘。「LOVEマシーン」を書き終えたところで、私は沈没した。

そんな折、前著となる「一発で記憶に残る曲を作る！ ９つのルール」の出版の話が持ち上がった。この時点で本書原稿の30％程度はラフな状態で存在していた。

「これを使わない手はない！」さっそく私はこの《100曲分析》のラフ原稿を準拠として「９つのルール」を書きはじめたのである。

CamScannerでスキャン

……そう、その通り！
何を隠そう、本書は『９つのルール』の《ネタ元》なのであ（……以下自粛）。

前著は「メロディ・メイキングの言語化がありがたい」「頭の中でモヤモヤしていた考えを明確な文字にしてくれたことでスッキリした」などという賛辞を頂戴した。
私は《100曲分析》の意義を再認識した。
世のため、人のために「やはり作曲手法のわかりやすい言語化が必要だ」と。

私は中断していた分析作業を再開させた。
仕事の合間を惜しんで、星野源さん「恋」を書き、米津玄師さん「Lemon」を書き、さらにその先をせっせせっせと書き進めていった。
分析すればするほど面白くなってゆく。そこにさまざまな〈作曲の技法/歌づくりの作法〉があり、あっと驚くような〈裏技〉や〈超必殺技〉が待ち構えていた。
ん？　みんな、これらの存在に気づいていないだろうか。
いや、ホントは気づいているのかもしれない。
気づいてはいるけれど、「誰にも教えたくない」に決まっている。
そう、これらはまさに《企業秘密》……。

私は天邪鬼だ。
誰も「教えたがらない」のであれば、この私が教えてしまおうではないか！

♬　　♬　　♬

本書は〈名曲分析〉から導き出したノウハウを《極意》という形で48にまとめ、それらに伴ういくつかのティップスを《心得》という形でお示ししている。
48という〈数字〉に特別な意味はない。たまたまそうなっただけ（？）なのであるが、このことについては、巻末の《おわりに》で触れさせていただく。

最終的に本書でメインとして取り上げたのは15曲。
参考曲として33曲を援用している。

お気づきのように、私の分析は〈100曲〉に到達できなかった。
残りの曲を分析するのは、本書を読み終えた後の《アナタ》である。

CamScannerでスキャン

目次

序章 P007

第1章
反復の技法① P013

Lesson 01 P014
「どんなときも。」
槇原敬之

極意 01 単純反復
極意 02 単純反復＋味変の術
極意 03 メロディの反復には言葉の反復を
極意 04 情報を盛り込みすぎることなかれ
極意 05 作曲者の主張 ×
主人公の意志/主張
＝パワーフレーズ
極意 06 反復は〈キャッチー〉への近道である

Lesson 02 P026
「待つわ」
あみん

極意 07 スライド反復（平行移動型）
極意 08 スライド反復＋オカズ違い
極意 09 〈安住〉と〈刺激〉の共存
極意 10 美味しいメロも三度まで
極意 11 重役出勤型ハモ
極意 12 繰り返しは、飽きさせない程度に

Lesson 03 P042
「ラブ・ストーリーは突然に」
小田和正

極意 14 小田忍法★カラクリ二重反復の術
極意 15 高圧系〈不完全終止〉の術

第2章
メロディと歌詞は運命共同体 [illegible]

Lesson 04 [illegible]
「真夏の果実」
サザンオールスターズ

極意 16 2小節以上のメロディでは
歌詞の〈二度づけ禁止〉
極意 17 極力〈言葉の語感〉をそろえるべし
極意 18 メロディと歌詞は
寄り添わなければいけない

Lesson 05 [illegible]
「恋愛レボリューション21」
モーニング娘。

極意 19 反復★三段飛び
……略称：HSJ型
＝ホップ・ステップ・ジャンプ
極意 20 語感をそろえたほうが
〈歌い手〉も覚えやすい

Lesson 06 P074
「LOVEマシーン」
モーニング娘。

極意 21 〈主メロ&合いの手〉
ツートップ戦法
極意 22 秘技〈合いの手まかせ〉の術

Lesson 07 P084
「SAKURAドロップス」
宇多田ヒカル

極意 24 〈韻を踏む/語感をそろえる〉
＝〈安堵感〉の希求

CamScannerでスキャン

第3章
反復の技法② P093

Lesson 08 P094
「三日月」
絢香

極意25 ジョン・ウィリアムズの法則
極意26 中だるみ回避〈中継ぎ反復〉の術
極意27 サビに必ず〈主張/強い意志〉を盛り込むべし
極意28 キャッチーの〈三種の神器〉

第4章
メロディは変態を遂げる P109

Lesson 09 P110
「恋」
星野 源

極意29 バタフライ変態
極意30 中だるみ回避〈8分食い〉
極意31 〈安住と刺激〉のハイブリッド
極意32 デザートは喜びである

休憩 ~intermission~
サビ直前のキモ P129
－2タイプの弱起/メロディ界の〈助演男優賞〉－

「硝子の少年」Kinki Kids
「瞳をとじて」平井 堅
「おどるポンポコリン」B.B.クィーンズ

第5章
省エネ構造と気配りの関係 P141

Lesson 10 P142
「Lemon」
米津玄師

極意33 省エネ建築タイプ
極意34 HSJ★内部連続反復型（ドルフィンジャンプ）
極意35 省エネ建築★三原則
極意36 徹底的に〈韻を踏む〉＝リスナーへの《気配り》
極意37 押し付けがましくない反復感

第6章
ニッチな旨味成分を探る P159

Lesson 11 P160
「Get Wild」
TM NETWORK

極意38 超VIP扱い〈SP〉完全シンクロ術
極意39 ゲワイ信仰 [VIm－V－IV]

Lesson 12 P174
「千本桜」
黒うさP feat. 初音ミク

極意40 ここぞという時には〈日本刀〉を使え

CamScannerでスキャン

第7章
音符に込める愛と工夫とエネルギー　P193

Lesson 13　P194
「天体観測」
BUMP OF CHICKEN ［前編］

極意 41　2文字@1音〈Wスタック（乗車率200%型）〉の術
……密デス効果

Lesson 14　P206
「天体観測」
BUMP OF CHICKEN ［後編］

極意 42　斜め切り〈フライング反復〉
極意 43　反復の〈援護射撃〉
極意 44　メロディの高カロリー化
［2種ソース添え］

第8章
シンプルな構成を味わう

Lesson 15
「クリスマス・イブ」
山下達郎

極意 45　サンドイッチ型は
《冒頭メロディ（イチロー選手）》を軸に

Lesson 16
「LOVE LOVE LOVE」
DREAMS COME TRUE

極意 46　秘伝★音楽的〈D・I・Y〉
……困った時のスキャット頼み
極意 47　劇的ビフォーアフター型
極意 48　伝えたいことを伝え
第三者が受け入れやすい
構造であれば
〈一定の形式〉にこだわる必要はな

作曲プチQ&A

1　〈頭サビ〉って、どういうときに使うと効果的ですか？　P025

2　サビの〈定義〉とは何でしょうか？　P065

3　作曲を学ぶには、何から始めたらよいでしょうか？　P083

4　作曲を学ぶには、どのような曲をお手本にすべきでしょうか？　P092

5　割田さんにとって〈曲づくり〉とは？　P108

6　作曲初心者です。自分で納得できる曲がなかなか作れません。
どうしたらよいでしょうか？　P140

7　作曲のアプローチに行き詰まったとき、何か対処法はありますか？　P158

8　「良い曲ができた！」と思っても、他人に聴かせると
「キレイなんだけど、イマイチ印象に残らない」と言われてしまいます。
どうしたらよいでしょうか？　P218

CamScannerでスキャン

序章

CamScannerでスキャン

本書は〈初級～中級者向け〉に書かれている上に、音楽的な理論については触れていない。〈ツーファイブ〉くらいは登場するかもしれないが、〈トライトーン〉〈オルタード・スケール〉〈アッパー・ストラクチャー〉などという専門用語は登場しない（というか、私自身が作曲する際、このような言葉はまったく意識になく、そもそも半分も理解していない）。

理論的な知識を習得したい方は、まず専門書をご購入いただきたい。

そして専門書をお読みいただいた上で、本書をサブテキストとしてご活用いただきたい。本書の役割は、そう〈副読本〉なのである。

♬　♬　♬

本書では、J-POP LEGENDたる超有名曲の**メロディ・メイキング**および**歌づくりの〈作法〉**を構造的な視点から紐解く、という試みを行っている。

例えば。

優れた料理人は〈味の分析力〉に長けている。

料理の調理方法はもちろんのこと**〈なぜ美味しいのか〉**の理由を説明できる。

それと同様に、優れた作曲家は〈曲の分析力〉に長けている。

作曲のアプローチ法はもちろんのこと**〈なぜ美味しいメロディに聴こえるのか〉**の理由を説明できる。

日本ポップス史に燦然と輝く名曲たちは、いったいどのような**作曲の技法／歌づくりの作法**の上に成り立っているのだろうか？

そして、そこにどのような**《極意》**が秘められているのだろうか？

歌づくりの作法とは？

思わず鼻歌で出てきたメロディ。

何気なく脳裏に浮かんだメロディ。

実は誰でも簡単に歌のワンフレーズくらいは作れてしまうものだ。

しかし、それを〈一曲〉として完成させるとなると大変な作業である。

鼻歌の寄せ集めでは、なかなか〈一曲〉にはならない。

かの小田和正氏は**「作曲と建築は通じるところがある」**とおっしゃった（東北大学工学部建築学科で学ばれていた小田さんの含蓄あるお言葉）。

なるほどなるほど。

作曲も建築も、どちらも**〈組み立てて構築〉**してゆくモノ。

CamScannerでスキャン

家を建てるには《建築の作法》を知らないといけない。
作曲もしかり……。
インスピレーションで浮かんだ直感的なフレーズを、どのような形で膨らませて〈一曲〉の作品に仕上げていけばよいのか。
そのためには「作法」を知らなければいけない。**コード進行のノウハウ**はもちろんのこと、小説や映画と同様に［起・承・転・結］や［ワビ・サビ］など、メリハリや緩急をつける**構成力**を身につけなければならない。

ポップスの本質とは

曲を作ったからには、一度聴いてもらっただけでその曲を覚えてもらいたい。
1曲まるごととは言わないまでも〈サビ〉くらいは覚えてもらいたい。
いや、サビまるごととは言わないまでも、せめて**〈サビのワンフレーズ〉**くらいは覚えてもらいたい。
それが作曲家、音楽クリエイター、ソングライターの本音である。
覚えてもらうには《主張あるメロディ》を作らなければならない。
「ホラ！みなさん！ ココ、覚える部分ですからね！」とメロディ自体がアピールしていなければならない。

誰かが言った。
ポップスは繰り返しの芸術である……と。
3～4分間という短い尺の中で、端的に風景を描写し、登場人物を動かし、印象的なフレーズを効果的に繰り返しながら、リスナーを作品世界に誘い込み、いかに心地よくさせてあげることができるか？ いかに瞬間的に別世界へと連れて行ってあげることができるか？ いかにその心を動かし、揺さぶることができるか？
それが、**ポップスに与えられた使命**であり、**本質**であろう。

よくよく考えてみたら、**ポップスというお気軽なモノ**を作るには、**かなりの制約**があるようだ。限られた〈尺〉の中で、情報が少なければ飽きられてしまう。かと言って、詰め込み過ぎれば情報過多となり、聴き手が処理しきれない。パンクしてしまって、逆に〈何も残らない〉という結果に陥ってしまう。
そう、**やみくもにつくってはいけないモノ**なのだ。
聴き手に《効果的に＆美味しく》味わってもらえるポップスとは、**いったいどのように作られているのだろうか？**
それが本書におけるテーマである。

CamScannerでスキャン

〈キャッチー〉という定義のない言葉

そもそも、本書のタイトルにもなっている〈キャッチー〉とは、なんなのか？

音楽業界のアチコチで飛び交っているこの言葉、自信を持って説明できる人が果たしてどれだけいるのだろうか？

もちろん、私も答えられない。

WEBで検索してみると、次のような回答に行き当たった。

キャッチー【catchy】
［形動］受けそうであるさま。人気になりやすいさま。
特に音楽で旋律が覚えやすいさま。「キャッチーなメロディ」。
（英和辞典 Weblio辞書より）

な、なんと。

「音楽で旋律が覚えやすいさま」とは、そのままではないか！

しかも例文として「キャッチーなメロディ」とまで記載されている。これはどう考えても決定的に《音楽業界人公認》の専門用語である。

しかし。

キャッチーの意味はわかったが、結局その「定義」はわからないままだ。

名曲を分解して紐解く

私は今まで幸運にも、曲を作る側（作曲家/アーティスト）と、曲を選ぶ側（プロデューサー/ディレクター）の双方の立場で、音楽業界に携わってきた。

その見地からなんとなく学んだ〈作曲の技法/歌づくりの作法〉のようなモノがある。それらは絶対的なモノではなく、相対的なモノであるため、一概には説明しにくい。

そこで今回は、ヒットチャートを賑わせた《超ヒット曲》にご登場いただき、具体例を示しながら、ケース・スタディという形で進めさせていただく。

名曲を分解し、構造をパーツでとらえ、そのメカニズムを徹底分析！

そこに見え隠れする、誰も教えたがらない《極意》の数々……。

ようこそ、〈プロの技〉を暴く旅へ。

CamScannerでスキャン

第1章

反復の技法 ①

CamScannerでスキャン

Lesson

「どんなときも。」

槇原敬之

……で大発見！

極意 01 単純反復

極意 02 単純反復＋味変の術

極意 03 メロディの反復には言葉の反復を

極意 04 情報を盛り込みすぎることなかれ

極意 05 作曲者の主張 × 主人公の意思/主張
＝パワーフレーズ

極意 06 反復は〈キャッチー〉への近道である

｜作詞｜槇原敬之　｜作曲｜槇原敬之　｜編曲｜槇原敬之
｜発売｜1991年6月10日
｜備考｜映画『就職戦線異状なし』主題歌（主演：織田裕二）

CamScannerでスキャン

疑いようもなくキャッチーなサビのメロディ

まず本書は「どんなときも。」の分析からスタートしてみたい。
いわずと知れた槇原敬之さんによる国民的名曲。
例えば、銀座のド真ん中でこんな街頭インタビューを試みたとする。

【問】
「どんなときも。」って、どんな歌ですか？
思いつくフレーズを歌ってみてください。

きっと全員がサビの〈あのフレーズ〉を歌い出すに違いない（P17の**歌詞Ⓐ**参照）。Aメロや Bメロを口ずさむ人はおそらくいないはず。

サビのこのフレーズは、子供が聴いてもすぐに覚えられるほどシンプルであり、**疑いようもないキャッチーなメロディ**である。発売以来、多くのアーティストにカバーされていることが、賞味期限のないエバーグリーンな作品であることを証明している。

名曲量産の年

この曲が生まれた1991年（平成３年）は、どんな年だったのだろうか？

・TVドラマ『東京ラブストーリー』『101回目のプロポーズ』が大ヒット
・SMAPがCDデビュー
・ディスコ〈ジュリアナ東京〉オープン
・東京23区の電話番号が10桁に（03-XXXX-XXXX）
・Microsoft社のパソコン用OS〈Windows 3.0〉の日本語版が発売
・湾岸戦争が勃発
・バブル崩壊

そしてこの年は、後世に歌い継がれる名曲が量産された大豊作の年でもあった。

☐ 小田和正「ラブ・ストーリーは突然に」
☐ CHAGE and ASKA「SAY YES」
☐ 尾崎豊「I LOVE YOU」（初出は1983年発売のアルバム/1991年シングル発売）
☐ B'z「ALONE」
☐ 今井美樹「PIECE OF MY WISH」

CamScannerでスキャン

☐ **小泉今日子「あなたに会えてよかった」**
☐ **長渕剛「しゃぼん玉」**

今もカラオケで歌い継がれている定番曲がズラリ。
恐るべし1991年！

意図的に繰り返されるメロディ

早速、**譜例①**で「どんなときも。」のサビ前半8小節を見てみよう。

だれが何と言おうと、この曲の〈主役部分〉はサビ冒頭の四角で囲んだ部分である。しかも、このフレーズは**2小節連続**で登場している。つまり**意図的に〈繰り返し＝反復〉が施されているというコト**。ここに作者の〈主張〉がある。

主張とは**「ココだけは必ず覚えてほしい」**という作曲者の意志表明である。2小節連続の反復が〈印象づけ〉に直結しているのはいうまでもない。

そこでまず覚えておいていただきたいのは、ポップスの基本中の基本である下記の心得である。

心得　メロディの反復は〈印象づけ〉に効果的

ひとつめの〈極意〉登場

もう一度、**譜例①**の冒頭2小節を見てみよう。

1回目が［ドードドシド］で、2回目も［ドードドシド］だ。シンプルな同じメロディを単純明快に反復している。よって、この手法をそのまま**〈単純反復〉**と命名する。

極意 01　単純反復

例えば［ドードドシド］を、伴奏なしの状態で〈単音で2回続けて〉弾いてみていただきたい（**譜例②**）。

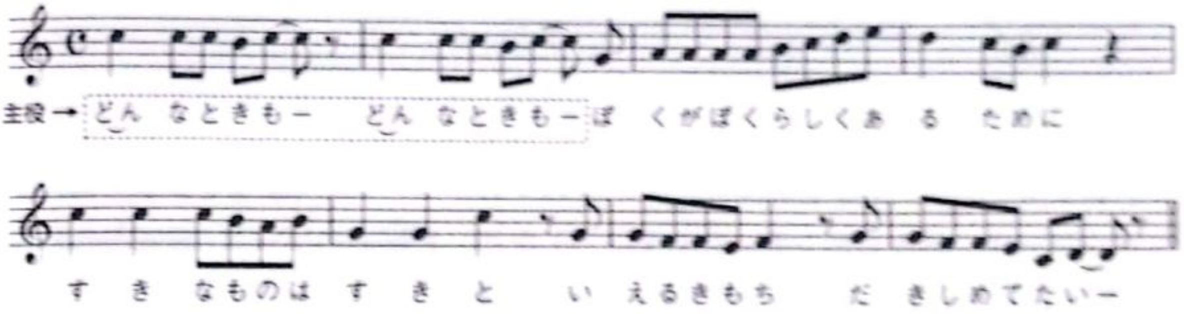
シンプルで親しみやすいフレーズである反面、残念ながらすぐに飽きてしまう。単音で表現するだけでは旨みや深みを感じることはできない。

CamScannerでスキャン

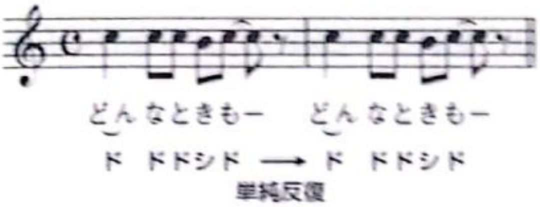
歌詞Ⓐ　「どんなときも。」といえば、このフレーズ

どんなときも～ どんなときも～♫

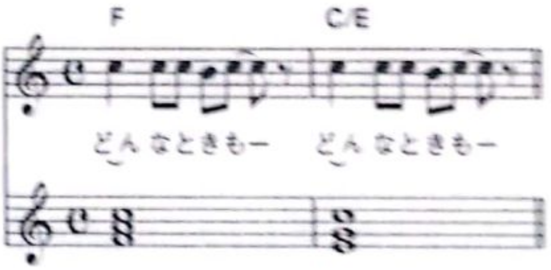
譜例①　「どんなときも。」サビ前半……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はF♯メジャー）



譜例②　単純反復



譜例③　伴奏（コード変化）を与えると……



しかし**譜例③**のように、それぞれのフレーズに異なったコード（和音）を伴奏として与えると、あら不思議。あっという間に《**美味しく**》変化してしまうではないか。

なるほど。

同じメロディ（＝同じ食材／ネタ）でも、**コード（＝調味料／ソース／タレ）**が変わるだけで、ガラリと印象が変わってしまうモノなのか！

とワザとらしく大げさに驚いてみたが、これは**ポップスにおける常套手段**である。

反復するメロディにコード変化を与える

では、エチュード（練習曲）の一例として、同じメロディを4回反復させながら、**〈コード変化のみで印象的なフレーズを成立させる〉**という安易で姑息な方法を学んでみよう。

CamScannerでスキャン

譜例④をご覧いただきたい。オリジナルの〈メロディ〉を用意してみた。

なるほど。すべて同じメロディなのに、その味わいが1小節ごとに異なっているではないか。これぞまさに《味変》……。

というワケで、この手法をイメージしやすいように、次のように命名したい。

極意 02 単純反復＋味変の術

メロディをステーキなどに見立てて、それぞれのコードに〈**赤ワインソース**、**オニオンソース、おろしポン酢、塩こしょう**〉など、お好みのソース/調味料の名称を与えてみると理解しやすいかもしれない（**譜例⑤**）。

「ステーキは胃もたれするので……」という方は、野菜サラダとドレッシングの関係をイメージしてもらってもよい（フレンチ、サウザンアイランド、和風、オリーブオイル、etc）。

譜例⑤に挙げたコード進行は、ほんの一例である。

イメージをガラリと変えてしまいたい場合は、**譜例⑥**や**譜例⑦**のようなコード進行も考えられる。すべて同じメロディであるにもかかわらず、まったく違うフレーズに聴こえてくる。コード（ソース/調味料）の変化で、食材の味わいが劇的に変貌してしまうのである（コード進行の組み合わせは無限にあるので、上記以外にもいろいろと試してほしい）。

心得 〉メロディはコード次第で〈味わい〉が劇的に変わる

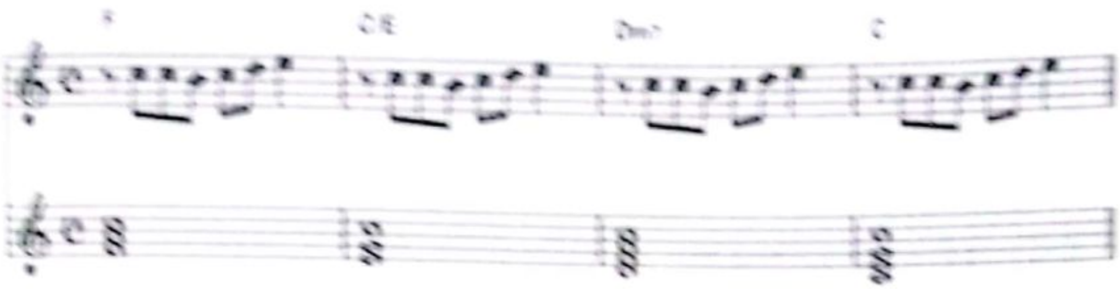
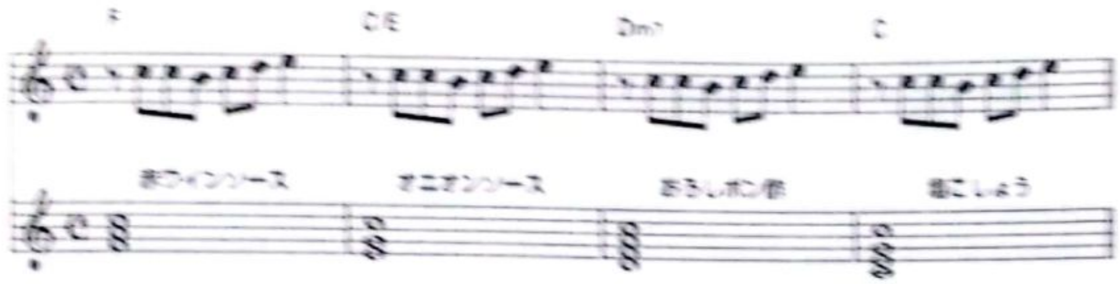
極端な例を挙げてみよう。

ある女優さんが〈涙を拭っている演技〉をしているとする。しかし、その背景が、

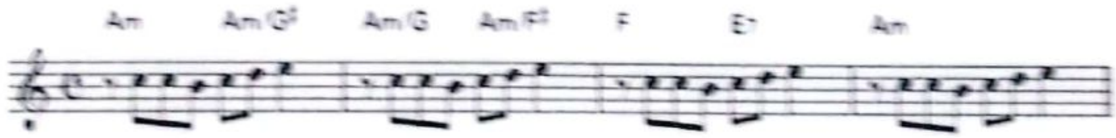
- → **映画館だったら**
- → **空港だったら**
- → **結婚式場だったら**
- → **葬儀場だったら**

想像していただきたい。同じ涙でも意味合いが変わってくる。

CamScannerでスキャン

譜例④ 同じメロディに〈異なるコード〉を与えてみよう

譜例⑤ それぞれのコードに〈名称〉を与えてみよう

譜例⑥ ツーファイブ（IIm7-V）進行を使用した例

譜例⑦ 下行型クリシェ（半音階進行）を使用した例



CamScannerでスキャン

メロディとコードの関係は、この《女優さん＋背景の関係》であると言える。コード（背景）が異なるだけで、メロディの味わい（女優さんの演技の印象）は全く異なるモノに変貌してしまうのだ。

反復には反復を……

ここでおさらいをしてみよう。

【問】「どんなときも。」のサビがキャッチーに聴こえるのはなぜ？

きっとアナタは、自信をもって次のように答えるはず。

【答】同じメロディが効果的に繰り返されているから。

ブブブー、ハズレっ！
50%は合っているが、完全なる正解ではない。歌はメロディだけで成り立っているのではない。アナタは〈歌詞の存在〉を忘れている。
ということで、答えは歌詞にあり。正解はジャジャン！

☞〈同じメロディ〉に〈同じ言葉〉が与えられているから

同じ言葉を繰り返す、実はこのコトで〈とても大事な現象〉が発生しているのである。それは何か？
そう……《訴えかけ》である！

心得〉同じ言葉の繰り返し →《訴えかけ》の発生

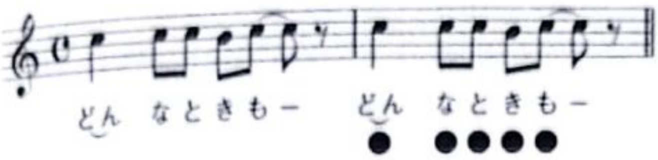
例を挙げてみよう。
ある日の夕方、高校に通う息子が下校するなり、面倒くさそうに母親にこう告げたとする。

「あぁ腹減ったぁ～、メシまだぁ～」

一度だけならまだ許せる。しかし間髪入れずに次のように連続して発したとしたら、どうだろうか。

CamScannerでスキャン

譜例⑧ 【実験】●●●●●に〈別の言葉〉を想像してみよう



「あぁ腹減ったぁ～、メシまだぁ～。
あぁ腹減ったぁ～、メシまだぁ～」

お母ちゃんはきっとカチンときてしまうことであろう。
「今、作ってんだから、少しは待ちなさいよっ！」と。
これこそが繰り返しによる**《訴えかけの効果》**なのである。

ではここで、実験！
例えば、「どんなときも。」の反復メロディに**異なる言葉**が付いていたとしたら、どうなるだろうか？
譜例⑧の●●●●●に対して、別の言葉を想像してみよう。

例① 君といたい
例② 愛してるよ
例③ 2人きりさ

おっと。
一気にキャッチーさが減少してしまった。あの**畳み掛ける感じ**がどこかに行ってしまったではないか。本来「メシまだぁ～。メシまだぁ～」であるべきところが、「メシまだぁ～。さて寝ようかな」の如きに変貌してしまっている。息子の意見が「メシまだぁ～」と「さて寝ようかな」の2つに分散されてしまったので、彼の一番言わんとしたいことがボヤけてしまった。もはやそこに主張はない。
つまり**〈訴えかけ〉**が消滅してしまったのである。

CamScannerでスキャン

♫　　♫　　♫

作曲家、音楽クリエイター、アーティストを目指している人は、古今東西の名曲を何度も耳にすることで、サビにおける**《メロディの繰り返し》**の手法を自ずと身につけているはず。

しかし、アマチュア作家のオリジナル曲を耳にするたび、メロディが繰り返されているにもかかわらず、**言葉/語感が繰り返されていない**という残念な事象に出くわすことが多い。

情報を詰め込もうとするあまり〈メロディの反復〉を無視した形で歌詞を乗せてしまい、〈言葉/語感の繰り返し〉を完全に無視。よって《訴えかけの効果》は発生せず、聴いている人の耳を見事なまでにスルー。

これは作詞家を目指す人にとっても、大いに学ぶべきポイントである。**イヤー・キャッチを望む**のであれば、作詞者はその曲の〈メロディの繰り返し部分〉をしっかりと読み取り（作曲者の意図を汲み取って＝忖度して）、**《訴えかけ》の効果を発揮させるべく**、まずは次のことを徹底していただきたい。

極意 03　メロディの反復には言葉の反復を

……全く同じ言葉/同じ語感を持つ言葉/韻を踏むなど

極意 04　情報を盛り込みすぎることなかれ

……引き算の美学

同じメロディが繰り返されている部分は「1回聴いただけでも最低限ココだけは覚えてほしい」という**《作曲者の主張》**がある部分。

このメロディに〈繰り返される同じ言葉〉が与えられることで、**歌の主人公の強い意思/主張**が表現され、そこに**訴えかけ**が発生し、聴いている者の心にぐっと迫ってくる。

この2つの要素が融合したときにキャッチーなフレーズ＝**パワーフレーズ**が誕生する。

これが「どんなときも。」が導き出した答え……なのである。

極意 05
作曲者の主張【メロディ】 × 主人公の意思/主張【歌詞】
= パワーフレーズ【訴えかけ=キャッチー】

直感を大事にすべし

余談ではあるが、とあるラジオ番組で槇原さんがこの曲の誕生秘話を語っていた。映画「就職戦線異状なし」の主題歌を募集しているから作ってみたら？……と勧められた際に、ふと頭に浮かんだフレーズが、この「どんなときも～♬」だったとのこと。

しかし、あまりにも単純で直球的なフレーズであるがゆえに、ダサいのではないかと自信が持てなくなり、他の言葉をあてはめることを考えたそうなのだが、なかなか良い言葉に出会えず、結果的には初志貫徹、ダサいとは思いつつも脳裏から離れない「どんなときも～♬」のフレーズで曲を作り上げて提出。そして見事、映画主題歌の座を勝ち取ったのだという。

最初に浮かんだ直感的なアイデアを信じてつかんだ大いなる成功。素敵なエピソードである。

§

これと似たようなコトは、レコーディング作業中によく出くわす。

例えば、間奏部分のギター・ソロのダビング中（録音作業中）の出来事。肩慣らしのつもりで直感的に最初のテイクをテスト録音。その後、ベストなモノを探るべく、テイクにテイクを重ね続けるのだが、途中から考えすぎてしまい、何が良いのかわからなくなってしまう……いわゆる〈ドツボにはまる〉の状態に。テイク数が膨れ上がってしまい途方に暮れかけたところで、ふと原点回帰、最初のテイクを聴き直してみると、あら不思議!? **ファースト・テイクこそがベスト・テイクであったことに気づく**。これぞ音楽業界の「あるあるネタ」である。

心得 ファースト・テイクを大事にすべし

こうした経験則から、私はファースト・テイクを必ず残すようにしている。

〈作曲〉においても然り、インスピレーションで得たフレーズ（ファースト・テイク）を活かしつつ、そこに肉付けを施し、曲想を膨らませる。
いかに調理し、いかに味付けをしてゆくか？
いかにお客様にご満足いただける美味しい料理に仕上げてゆくか？

作曲は料理に似ている。
「どんなときも。」を作った槇原シェフは、調理する上で、訴えかけの効果を最大級に発揮する**《メロディ＆歌詞の反復》**という旨味成分をこの曲に与えた。この曲がキャッチーたる理由は〈この一点〉に集約される。
反復こそがキャッチーを成立させる最も身近な**《ポップスの作法》**。
この曲はそのことを証明してくれているのだ。

極意 06　反復は〈キャッチー〉への近道である

作曲プチQ&A 1

Q 〈頭サビ〉って どういうときに使うと効果的ですか？

A

基本的に頭サビが映えやすいのは〈アップテンポ〉の曲。とはいえ、頭サビの構成にする場合、サビフレーズの全編使用は避けて「半分尺/冒頭2小節のみ/冒頭4小節のみ/リズム抜き」など、あくまでも**本編サビの予告編として《チラ見せ》の状態に**徹するべき。最も大事なのは「頭サビではすべてを出し切らない」ということ。**本編サビ登場時の《喜び度》を損ねてはいけません！**

CamScannerでスキャン

Lesson

「待つわ」

あみん

……で大発見！

極意 07 スライド反復（平行移動型）

極意 08 スライド反復＋オカズ違い

極意 09 〈安住〉と〈刺激〉の共存

極意 10 美味しいメロも三度まで

極意 11 重役出勤型ハモ

極意 12 繰り返しは、飽きさせない程度に

｜作詞｜岡村孝子 ｜作曲｜岡村孝子 ｜編曲｜萩田光雄
｜発売｜1982年7月21日
｜備考｜第23回「ヤマハポピュラーソングコンテスト」グランプリ受賞曲（1982年）

CamScannerでスキャン

〈ポプコン〉のグランプリ曲

次にご登場いただくのは、1982年の名曲「待つわ」。

一世を風靡したこの曲は、同年開催の第23回「ヤマハポピュラーソングコンテスト」(通称ポプコン)のグランプリ受賞曲である。

歌っていたのは岡村孝子さんと加藤晴子さんによるデュオ〈あみん〉。この２人が現役大学生ということもあってか、発売されるやいなや瞬く間にチャートを駆け上がり、なんとデビュー曲にして〈年間売上げ第１位〉に輝いてしまった。

「そんな古い曲、知らないなぁ」「私はまだ生まれていないから」という方もいらっしゃると思うが、ご存知ない方は動画サイトやサブスク等でご試聴いただきたい。きっと「このメロディ知ってる！」と思っていただけるはず。

というのもこの曲、往年の名曲を特集するテレビ番組の常連であり、数年前のソフトバンクのCM〈白戸家〉シリーズでは、あみん自身がテレビ初出演を果たした1982年当時の貴重な映像がそのまま使用され話題になったりもしたので、若い方にも耳なじみがあるのではないだろうか。

ちなみに前述のポプコンは、1969年から1986年まで行われたヤマハ音楽振興会の主催による当時最大級の**〈プロへの登竜門〉**であり、日本全国のアマチュア・ミュージシャンの憧れの舞台であった。受賞者/出場者には、**井上陽水、小坂明子、八神純子、谷山浩子、松崎しげる、中島みゆき、因幡晃、円広志、佐野元春、長渕剛、世良公則&ツイスト、CHAGE and ASKA、クリスタルキング、辛島美登里**など、その後の日本ポップス界を牽引することになるレジェンドがズラリ。

お恥ずかしながらこの私、高校２年のときにオリジナル曲で初応募し、幸運にも県大会決勝まで勝ち進んだ経験がある(この時のグランプリは、TOM★CAT「ふられ気分でRcok'n'Roll」)。

世界初のCDプレーヤーが発売された年

1982年(昭和57年)とは、いったいどんな年だったのだろうか。

・『森田一義アワー 笑っていいとも！』放送開始
・ソニーが世界初のCDプレーヤー〈CDP-101〉を発売
・ホテルニュージャパン火災発生
・日本航空350便墜落(日航機羽田沖墜落事故)
・映画『E.T.』公開
・500円硬貨発行

CamScannerでスキャン

ちなみに、この年のヒット曲は次の通り。

- □ 松田聖子「赤いスイートピー」
- □ サザンオールスターズ「チャコの海岸物語」
- □ 薬師丸ひろ子「セーラー服と機関銃」(1981年発売)
- □ 中島みゆき「悪女」(1981年発売)
- □ 岩崎宏美「聖母たちのララバイ」
- □ 近藤真彦「ハイティーン・ブギ」
- □ 細川たかし「北酒場」
- □ 中村雅俊「心の色」(1981年発売)

なんと皆さま全員が、2020年の現在においてもアーティスト、歌手、俳優、女優、タレントとして、それぞれのフィールドで現役として大活躍されているというこの事実……オドロキを禁じえない。

長きにわたる皆さまのご活躍に最敬礼！

〈間延び〉という厄介者

さて、この「待つわ」をケース・スタディの2曲目に選んだのにはワケがある。実は意外にも(と言っては失礼か)、ポップスのサビの作り方において、さまざまな示唆に富んでいる作品なのであった。

この曲における〈主役部分〉とは、いったいどこであろうか。最も作者の主張が込められている部分、つまり「ここだけは必ず覚えてほしい」という気持ちが込められている部分……それは誰がなんと言おうと、やはりサビ冒頭のこのフレーズであろう(**歌詞Ⓐ**)。

このフレーズ、一度聴いたら耳から離れない、忘れようとしても忘れられない。これをキャッチーと言わずして何と言おう。失恋ソング界の〈主演女優賞〉に値するメロディ・ライン&歌詞とでも言おうか。

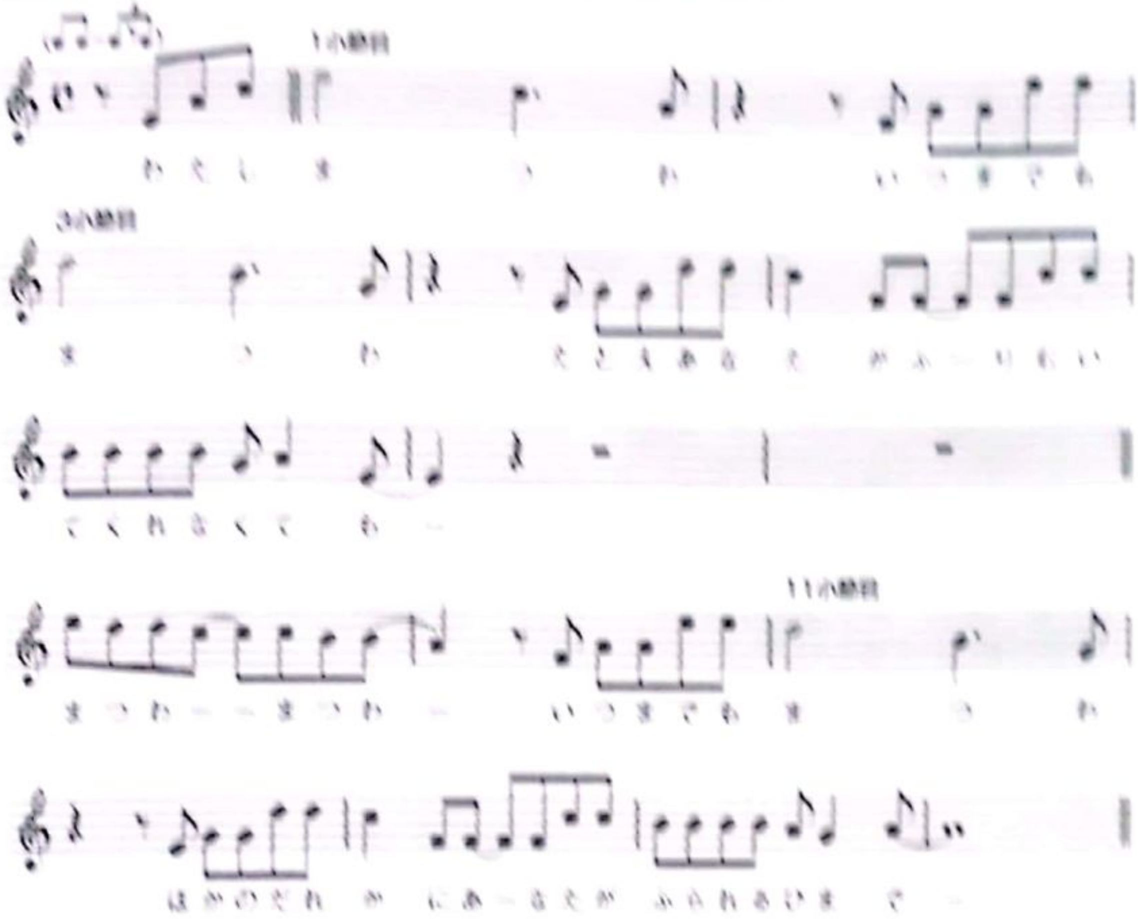
譜例①でサビ全体を俯瞰で見てみよう

なるほどなるほど。この曲のサビには、核となる**〈主役級の同じ音型〉**がいくつか存在しているのがわかる。

歌詞② 「待つわ」の主役部分

わたし待つわ〜♪

譜例① 「待つわ」の主役部分――Key＝Aマイナーで記載（原曲はFマイナー）



①1小節目
②3小節目
③11小節目

譜例①で示したこれら3つのメロディ……。
本項ではこの**主役級の同じ音型**のことを（メイン）と呼ぶことにする。

次に譜例②でサビ前半部分の〈1小節目〉&〈3小節目〉を見てみよう。
いわゆるメイン❶は[ミ・ド・ラ]、メイン❷は[レ・シ・ソ]。この2つのメロディを対比させてみると、同じ音型をそのまま2度ほど下方向にスライドさせた関係……つまり《平行移動》の関係であることがわかる(譜例③)。
平行移動して繰り返している型なので、このような展開手法を《スライド反復》と命名することにする。

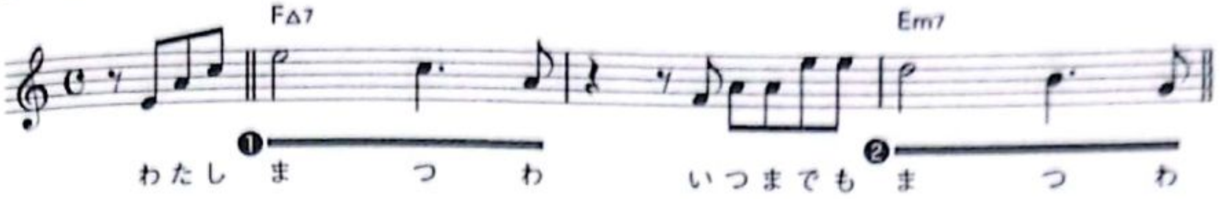
極意07 スライド反復(平行移動型)

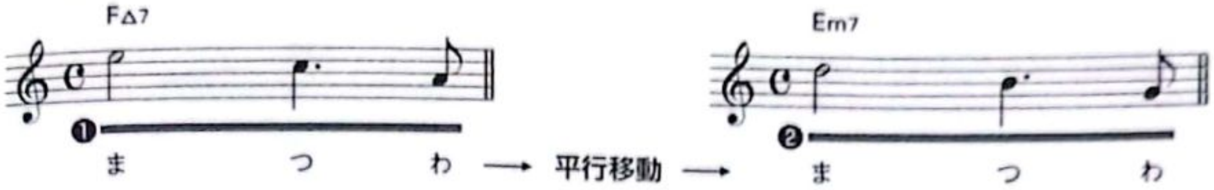
サビ前半の4小節間は、ざっくり表現すると〈メインが2回繰り返されている〉という印象ではあるが、歌詞Ⓑを見てみると、それぞれの〈メイン〉を修飾する言葉の存在に気づく。
このように主役級のメインのメロディを修飾(色づけ/補助)する存在を、以降〈オカズ〉と呼ぶことにする(歌詞Ⓒ)。

ここで気づいてほしい。
譜例④で示したサビ前半部分、オカズに《文字数の違い》があるではないか!?
1回目のオカズは〈3文字〉であり、2回目のオカズは〈5文字〉である。

例えば、この繰り返しのフレーズが2つとも歌詞Ⓓのように〈同じ言葉〉だったら、どのように聴こえてくるのだろうか?
脳内でイメージしていただきたい……。
おっ~と、なにやら残念な感じである。同じ文字数なので安定感100%なのだが、2回目の味わいが〈淡白〉になってしまった。何か物足りない。
その理由とはいったい何なのか?

CamScannerでスキャン

譜例②　サビ冒頭

譜例③　下方向に２度スライドさせた"平行移動"の関係



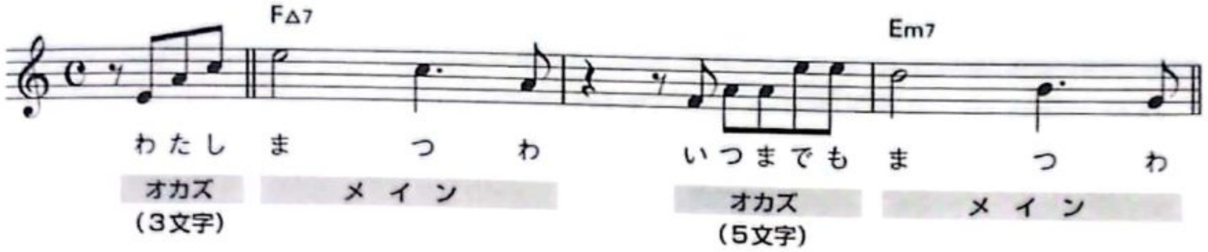
歌詞Ⓑ　［待つわ〜♫］を修飾する言葉

（修飾する言葉）
わたし　　待つわ
いつまでも　　待つわ

歌詞Ⓒ　メインを修飾する存在＝〔オカズ〕

〔オカズ〕わたし　　〔メイン〕待つわ
〔オカズ〕いつまでも　　〔メイン〕待つわ

譜例④　２つのオカズの〈文字数の違い〉に注目



歌詞Ⓓ　【脳内でイメージ】２つのフレーズが〈同じ歌詞〉だったら……

〔オカズ〕わたし　　〔メイン〕待つわ
〔オカズ〕わたし　　〔メイン〕待つわ

CamScannerでスキャン

譜例⑤を使って言葉数の〈差異〉を示してみる。

そのまま同じ言葉を2回繰り返すということは、文字数的に考えると2回目のオカズを本来の〈5文字〉から〈3文字〉に減らすということである。

なるほど、一見スッキリした印象である。しかし、スッキリさせたことによって微妙な隙間が発生してしまった（**譜例⑥**）。

実はこれがすべての元凶なのであった！

この隙間の正体、悪く言うと**《間延び》**である。間延びとは、平静で穏やかな状態が生み出す〈厄介者〉……。そこに〈変化や驚きやドキドキやワクワク〉といった**《刺激》**は一切存在しない。

もう一度、**譜例⑥**を見ていただきたい。

メロとメロの谷間に間延びが発生したことで、メロディの力強さが薄まってしまった。何よりも、2回目のメインに対する**《勢い》**が消滅してしまったのだ。では勢いを復活させるためには どうしたらよいのか……。答えはただひとつ。

☞ 不要な〈隙間〉を埋めよ！

ということで、隙間に対する**〈埋め立て工事〉**を開始！

譜例⑦のビフォー＆アフターで比較してみると……納得！〈埋め立て工事〉の成功によって〈オカズ5文字バージョン〉に勢いが出てきた。間延びという〈厄介者〉を追い払うことに成功したのである。

明らかにこちらのほうが美味しい。ビックリである。反復しているメインの音型はまったく同じであっても、直前のオカズがほんの少し変わるだけで、こうも全体的な印象が変化してしまうものなのだ。

たかがオカズ、などと軽くあしらってはいけない。

「オカズ侮ることなかれ！」である。

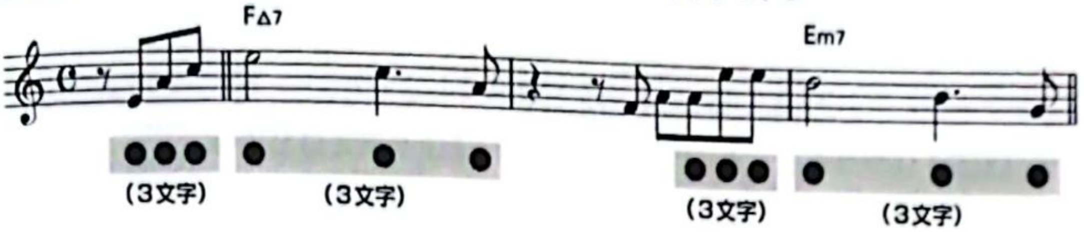
心得 ＞ 単純フレーズの繰り返しには〈オカズ〉で変化を

ということで、この反復方法……自信をもって次のように命名したい！

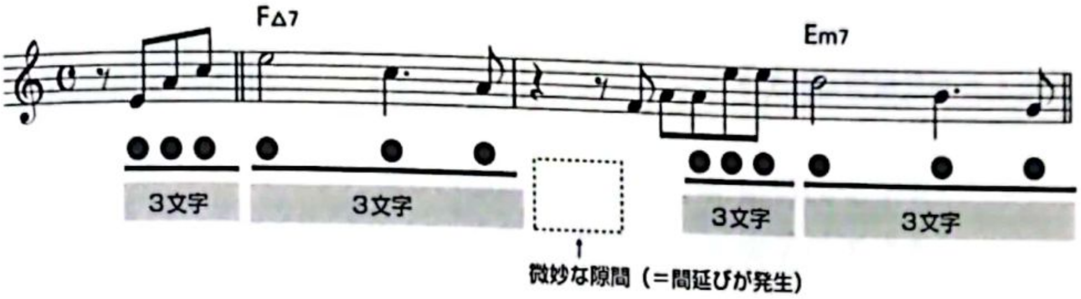
極意 08 ｜ スライド反復＋オカズ違い

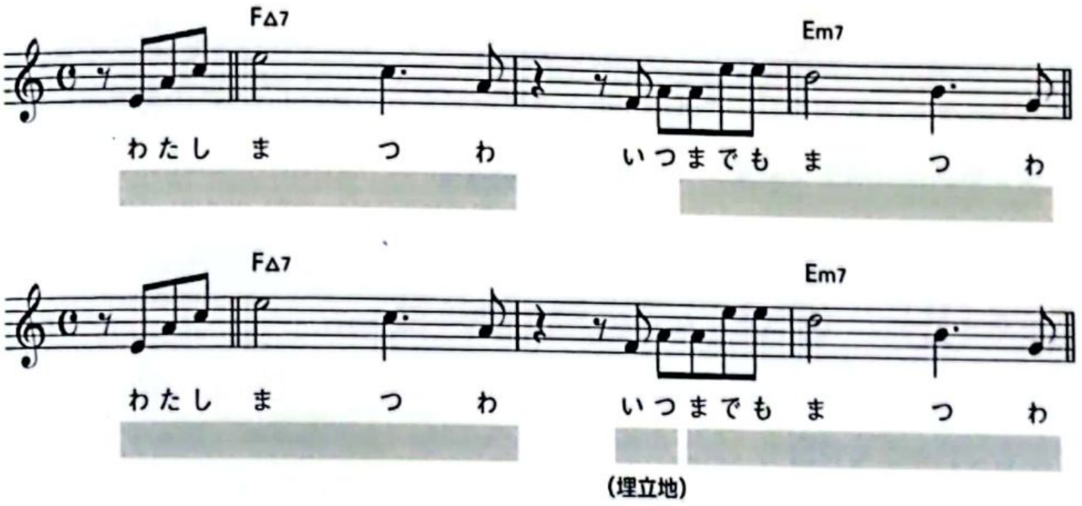
CamScannerでスキャン

譜例⑤　【実験】2回目のオカズを〈5文字〉から〈3文字〉に減らしてみる



譜例⑥　2つめのオカズを3文字にしたことで発生した〈微妙な隙間〉



譜例⑦　隙間の埋め立て〈ビフォー＆アフター〉

CamScannerでスキャン

〈安住〉と〈刺激〉

人間は〈安定/安心〉といった《安住》を求めつつも、その反面、常に〈変化/驚き/ドキドキ/ワクワク〉といった《刺激》を求めてしまう悲しい生物である。いつまでも《安住》ばかりが続くと、ついには《刺激不足》を訴えはじめる。

ないものねだり……人間とは、いかにやっかいな生き物か。

しかし「待つわ」は実に用意周到であった。

メインの繰り返しによる安住が引き起こす《刺激不足》を未然に防ぐために、あらかじめオカズの言葉数に〈変化〉を与えていたのだ。

なんたる**危機管理能力**！

メインの反復 ＝ 安住(安定/安心)
オカズの変化 ＝ 刺激(変化/驚き/ドキドキ/ワクワク)

安住と刺激。

「待つわ」は、根源的なこの両極の欲求(サガ)を、いずれも満足させることに成功している。

というワケで、私は〈安住〉と〈刺激〉の同居こそが、名曲を成立させる《必須条件》のひとつであると確信し、これを次のように命名することにした(この言葉は以降、本書で頻繁に登場する重要ワードである)。

極意 09 〈安住〉と〈刺激〉の共存

美味しいメロも三度まで？

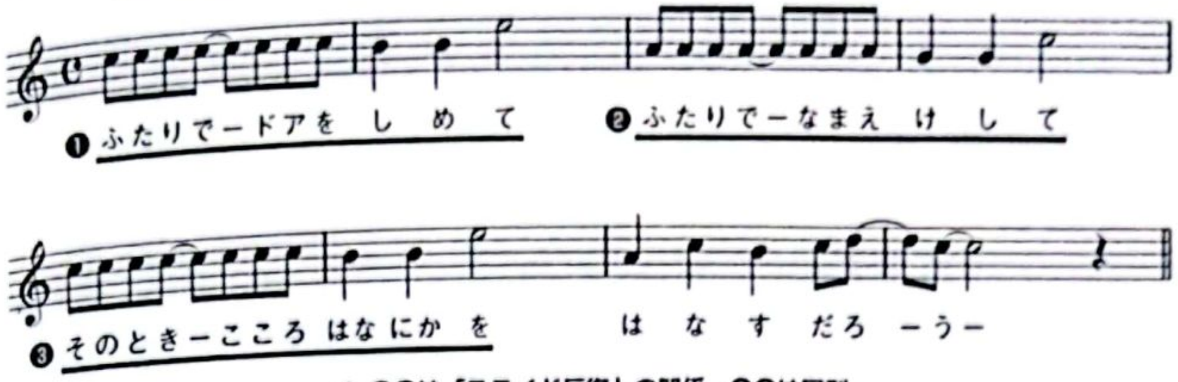
〈仏の顔も三度まで〉ということわざがある。〈慈悲深く心の広い仏さまでも三度も顔をなでつけられれば腹を立てる〉ということから転じて、〈どんなに温厚な人でも、ひどい仕打ちや無礼なことが重なれば、さすがに怒るぞ！〉という意味。

この言葉、もしかしたらポップスにおいても当てはまるかもしれない。

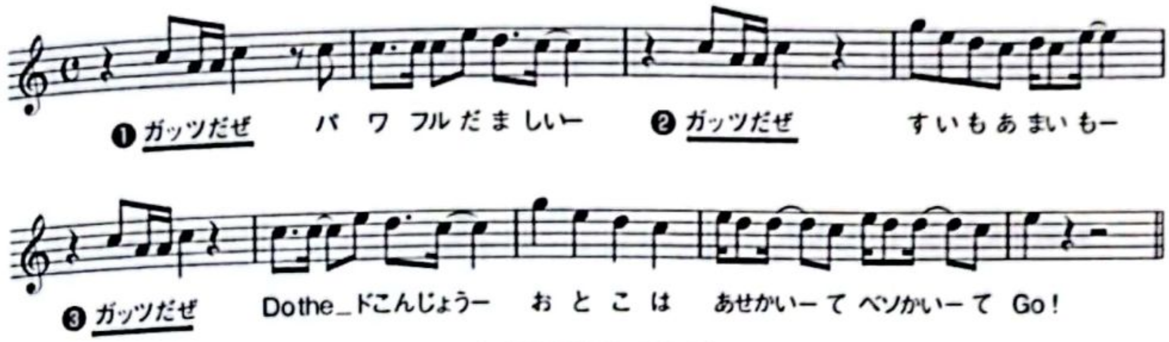
同じメロディ(同じ音型)を3回以上聴かされると、食傷気味になってしまうことがある。逆説的に言えば〈3回繰り返せば十分に伝わる/満腹感を与えられる〉と

CamScannerでスキャン

譜例⑧　「また逢う日まで」尾崎紀世彦……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はDメジャー）
作詞：阿久悠／作曲：筒美京平／編曲：筒美京平／発売：1971年3月5日



★ ❶❷は「スライド反復」の関係、❶❸は同型

譜例⑨　「ガッツだぜ!!」ウルフルズ……Key＝Aマイナーで記譜（原曲はBマイナー）
作詞：トータス松本／作曲：トータス松本／編曲：ウルフルズ、伊藤銀次／発売：1995年12月6日

★ ❶❷❸はすべて同型

いうことである。それゆえに、ポップスのサビ部分では、3回目までは同じ音型を反復させて→4回目で変化をつけるという手法が多く見受けられる。譜例⑧と譜例⑨がその例だ。

なるほどなるほど。

いずれの楽曲も同じ音型が出現するのは〈3回〉だ。楽曲を《美味しく味わっていただく》ためには、サビにおける同じ音型の使用回数の上限を〈3回〉に設定すればよいのかもしれない。

というコトで、以上を踏まえて仮説に基づく〈極意〉を掲げさせていただく。

CamScannerでスキャン

極意 10　美味しいメロも三度まで

……もちろん、例外はある

♫　♫　♫

話を「待つわ」に戻す。

この名曲も例に漏れない。やはり飽きられてしまうことを恐れたのだろう。メインのキャッチーなフレーズの出現は、**譜例⑩**に挙げるように3回にとどめられている（四角で囲った部分）。

ん……だがしかし、前掲2曲とは少し様相が異なる。

「また逢う日まで」と「ガッツだぜ！」は、3回連続で繰り返しのフレーズが出現したが、「待つわ」では**譜例⑩**における第3ポイントには出現せず、ひとつ置いて第4ポイントに出現している。

▶第1ポイント：出現
▶第2ポイント：出現
▶第3ポイント：　？
▶第4ポイント：出現

いや、正確に言うと、第3ポイントではメインのフレーズが**《変身》**を遂げているのだ。つまり、どういうことか？　9小節目界隈にフォーカスした**譜例⑪**を見てほしい。

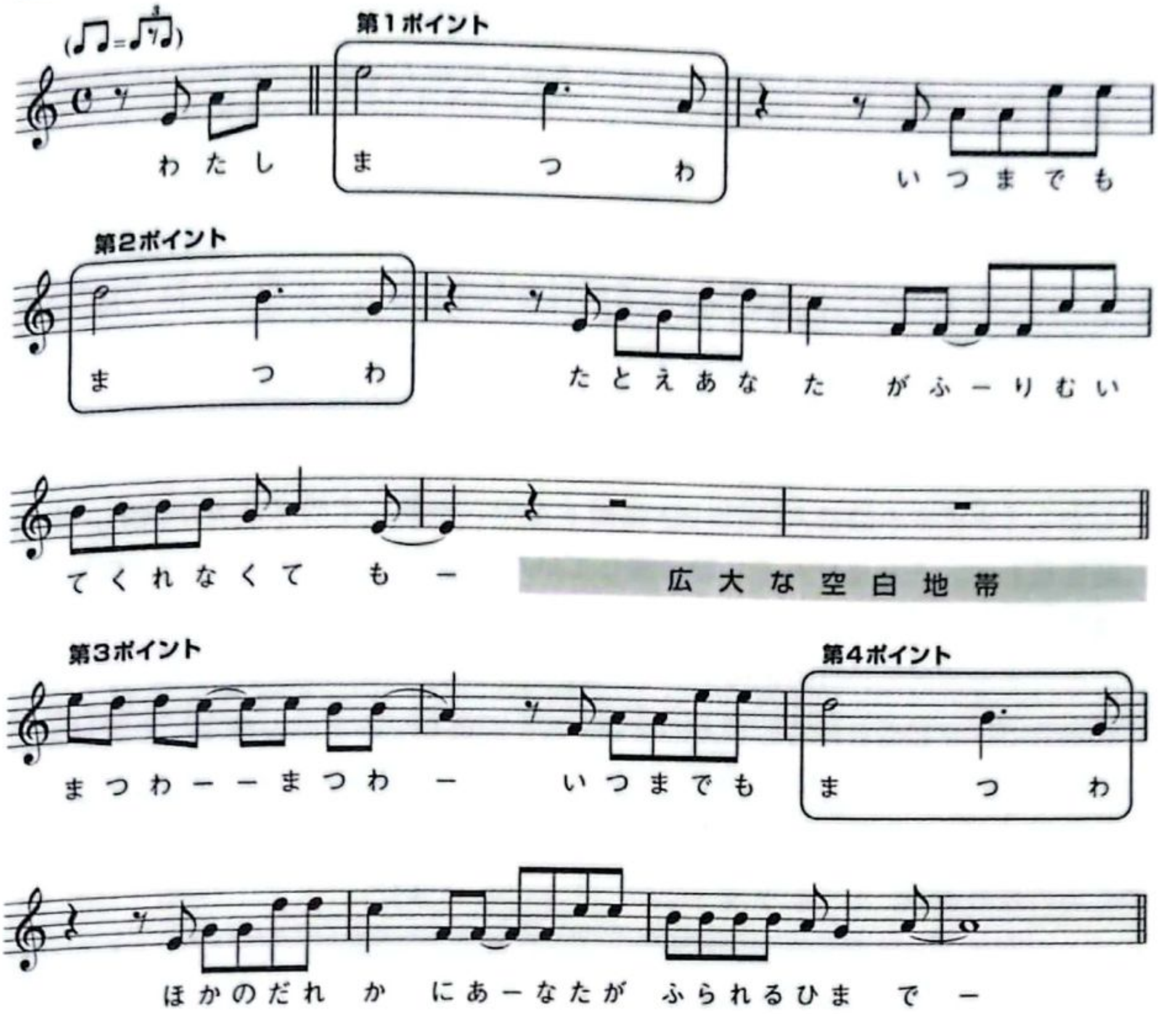
おっと、まさかまさかの**〈メイン×2〉**の連射砲！

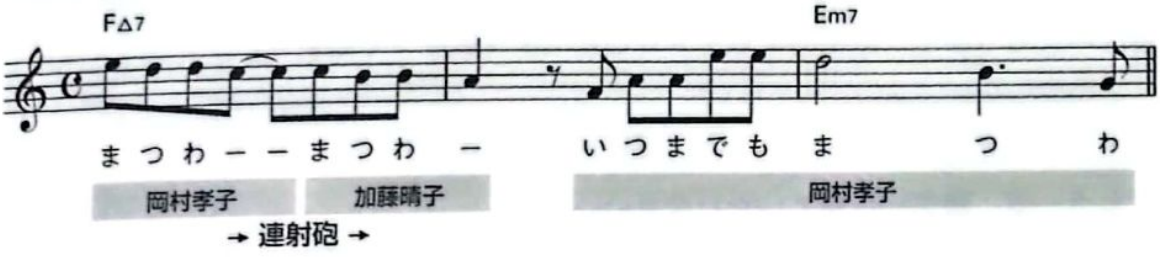
単純な反復のままでは、さすがに芸がないと悟ったのであろうか。予想を裏切る形で〈岡村孝子→加藤晴子〉のバトン・リレーを彷彿させる**《連射砲》**を繰り出してきたのである。

しかもよく見ると、この連射砲には〈オカズ〉がない。

連射砲の直前にはオカズがない上に、ほぼ2小節間にもおよぶ〈広大な空白地帯〉が広がっている（**譜例⑩**）。この空白地帯でたっぷり助走して勢いをつけ、エネルギー充填＆充填＆充填からの**《連射砲発射》**という作戦か……。

CamScannerでスキャン

譜例⑩ メインフレーズ[待つわ〜♫]の出現ポイント

譜例⑪ 「待つわ〜♬」連射砲(サビ9〜11小節目)



CamScannerでスキャン

さらに言うなれば、オカズがないかわりに、**超レジェンド編曲家〈萩田光雄〉大先生**による**超S級のストリングス**のフレーズによって、この広大な空白地帯がしっかりと埋めつくされていることを、我々はもっと評価すべきなのである（**譜例⑫**）。

フレーズ連射砲の正体を見たり

さて、動画サイトやサブスクなどで確認していただけるとおわかりいただけると思うが、この「待つわ」、主メロを歌う岡村さんに対して、加藤さんはと言うと、冒頭部分においてユニゾンで登場したのも束の間、Aメロ後半以降は**〈ハモリ役〉**に転じ、あたかも船に並走するイルカの魚影の如く、岡村さんを水面下でフォローしていらっしゃるのであった。

しかし〈サビ9小節目/3拍目裏〉に達するや、一転、そのイルカが突如、水面に姿を現わす。それまでハモリ役に徹していた加藤さんが、ついに〈主メロ〉の座を奪うのである。

これこそが連射砲の真の正体！

譜例⑬で、サビにおけるお2人のフレーズを記載してみよう。基本的に岡村さんが〈主メロ〉であり、加藤さんが〈ハモリ〉である。岡村さんが放った**〈メイン〉**のフレーズ末尾が伸びているところに、加藤さんが同じ**〈メイン〉**のフレーズで絡んでくるのがわかる。

デュオという特性を最大限に活かした**畳みかけの〈輪唱的〉**なアプローチ。ソロ歌手では完全に不可能な手法である。

……とここまで書いてきて、あるコトを発見してしまった。

譜例⑭で〈連射砲〉の箇所をクローズアップしてみると、岡村さんが［ミレレド］と歌っているのに対して、加藤さんは［ドシシラ］。

あれれ……加藤さんの［ドシシラ］って、ひょっとすると、主メロの〈3度下〉の音なのだろうか？　譜割的にも主メロとピッタリ重なってしまう。

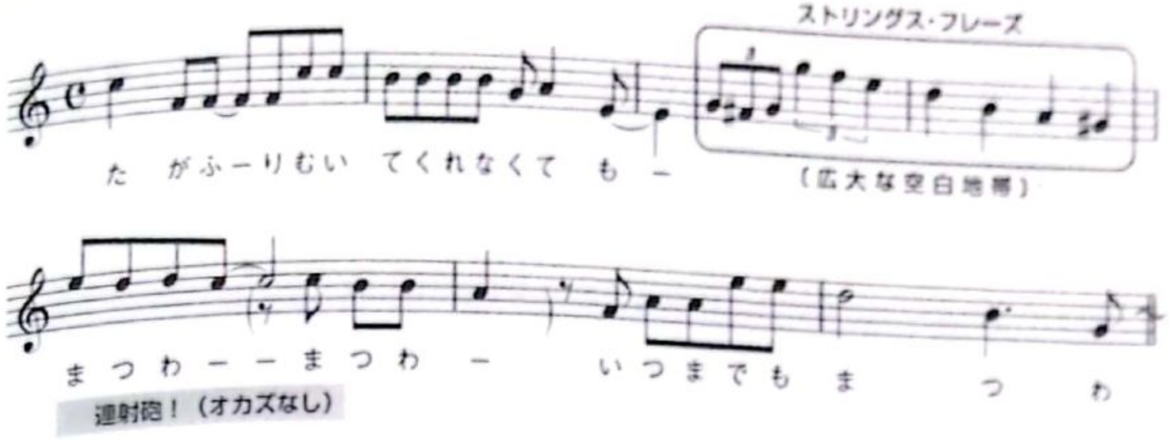
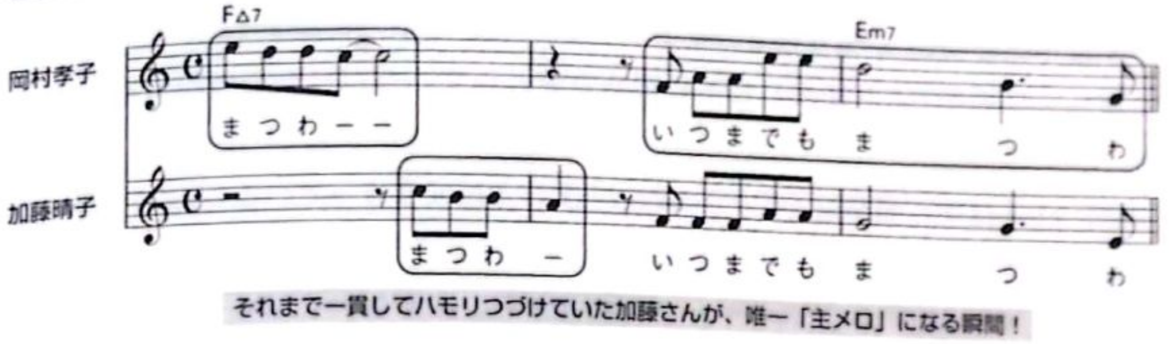
このフレーズ、実は〈ハモリ〉？

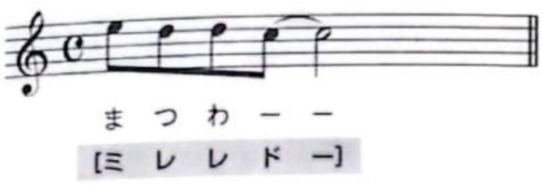
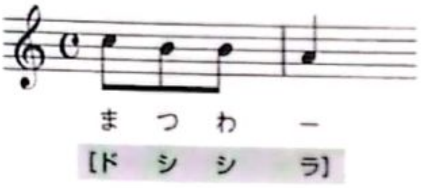
主メロと見せかけておいて、その実態は〈ハモリ〉!?

もう一度、**譜例⑬**を見ていただきたい。

なるほど、謎が解けた！

このフレーズ、音程的見地から判断してみても〈ハモリ〉のような気がする。というコトで、自信をもって大胆な**《推論》**を唱えさせていただく。ジャジャン！

譜例⑫ 空白地帯を埋める（超S級ストリングス・フレーズ）by 萩田光雄先生

譜例⑬ 岡村さんと加藤さんの主メロの受け渡し

譜例⑭ 岡村さんと加藤さんのフレーズの比較

岡村さんのフレーズ

加藤さんのフレーズ

CamScannerでスキャン

つまりコレは、主メロから〈2拍半遅れて〉ハモリが舞台上に登場という演出！楽譜を見れば一目瞭然、この曲中で加藤さんは仕事人のごとく、ずっと〈ハモリ〉に徹していらっしゃる。そしてこの箇所だけ、歌うタイミングを〈2拍半〉遅らせているにすぎない。言うなれば、遅れてきたハモリ……つまり〈ハモリの遅刻〉！しかも、ただの遅刻ではない、確信犯的な〈遅刻〉なのである。

私は畏敬の念を込めて、この大胆な手法を次のように命名したい。

極意 11　重役出勤型ハモ

繰り返しは飽きさせない程度に

多種多様な〈技〉が繰り出された名曲「待つわ」。本項の冒頭で〈さまざまな示唆に富んでいる作品〉と紹介したその理由をおわかりいただけたのではないだろうか。

「待つわ」は実に見事な《ポップスの作法》の上に成り立っている。右ページにこの名曲のサビにおける《匠の技》を整理しておこう。

〈繰り返しつつ/飽きさせない〉……この極意がそこにある。

極意 12　繰り返しは、飽きさせない程度に

§

この曲を作った時点で、大学生である岡村さんは若干20歳。

ふと、Aメロ冒頭の歌詞Ⓔのフレーズが頭をよぎる。

いえいえ、岡村さん！

〈わりと〉どころか〈かなり〉……ですから!!!

CamScannerでスキャン

「待つわ」における《巧みの技》

・大前提として ▶ [待つわ〜♫]という強力なフレーズの存在
・飽きさせない工夫① ▶ それぞれの[待つわ]の直前に[異なるオカズ]を配置
・飽きさせない工夫② ▶ 〈安住〉と〈刺激〉の共存
・飽きさせない工夫③ ▶ 単純反復を3回にとどめる(→美味しいメロも三度まで)
・飽きさせない工夫④ ▶ 連射砲の使用(重役出勤型ハモ:[待つわ〜 待つわ〜♫])

歌詞E Aメロ冒頭（※傍点著者）

♫ かわいいふりしてあの子　わりとやるもんだねと

Back Stage

さだまさしさんの名アルバム『夢供養』(1979年発売) に、コミカルでハートフルな "パンプキン・パイとシナモン・ティー" という名曲がある。その曲中に登場する喫茶店の名前が〈安眠〉……つまり〈あみん〉。さださんのファンであった岡村さんが、デュオ名をこの歌詞から拝借したのは、知る人ぞ知るエピソードである。

CamScannerでスキャン

Lesson 03

「ラブ・ストーリーは突然に」

小田和正　……で大発見！

14　小田忍法★カラクリ二重反復の術

15　高圧系〈不完全終止〉の術

名曲〈大豊作〉の1991年

誰もが知っている名曲を分析するというのは、実に畏れ多い作業である。

ここまで書き進めてきて、今さらながら後悔している。そもそも名曲なんて誰もが「素晴らしい！」と思っているワケなのであるからして、本来的には重箱の隅を突ついてアレコレ語る必要などない。

とはいえど、これらの掘り起こし作業の過程で**《意外なお宝》**に出くわすという僥倖に見舞われる場合がある。ゆえに「なかなか侮れないぞ」と実感している次第。

さて、次にご登場いただくのは小田和正さんの「ラブ・ストーリーは突然に」。1991年1月に始まったフジテレビ系ドラマ『東京ラブストーリー』の主題歌である。

ドラマの主人公は織田裕二さんと鈴木保奈美さん。柴門ふみさん原作のコミックを映像化した1990年代恋愛ドラマの金字塔であり、最高視聴率は32.3%。放送時間帯の毎週月曜夜9時は、ドラマ見たさに〈OLが街から消える〉とまで言われた。

ちなみにこの曲は「どんなときも。」と同じ名曲大豊作の1991年の発売。1年間でなんと〈250万枚以上〉を売り上げている。

〈ポップス〉と〈トレンディ・ドラマ〉が寄り添っていた蜜月時代……。

例によって、まずは〈この曲といえばココ！〉の部分、日本人の99%がサビ冒頭のこのフレーズ(**歌詞Ⓐ**)を口ずさむはずである。

99%としたのは「いやいや、イントロのチャカチャーンという佐橋佳幸さんのギター・フレーズでしょう！」と反論する人が2～3人ほどいるかもしれないからだ(いや、もっといるかも?)。

歌詞Ⓐ 「ラブ・ストーリーは突然に」といえば、このフレーズ

あの日〜あの時〜あの場所で〜♫

CamScannerでスキャン

〈単純反復〉と〈スライド反復〉の合わせ技

早速、**譜例①**で〈1番サビ〉を見てみよう。

そして、**譜例①**をさらにズームインしたのが**譜例②**だ。サビ前半4小節が、いわゆる〈この曲といえばココ！〉の部分である。**3連符（上り）＋3連符（下り）**からなる山型のような音型が連なり、あたかも山脈を形成しているかのようである。

見ての通り、上記の〈4つの山型音型〉から**効果的な繰り返しの匂い**がプンプンと漂っている。前掲の「どんなときも。」と「待つわ」では、それぞれ**単純反復**と**スライド反復**を学んだのだが、ここで早くも小田教授による復習講座の開講である。

譜例③を見ると、以下のことがわかるだろう。

- 1の山を基本型とすると、2の山は1の山の**《ほぼ単純反復》**
  （注：2の山の後半は音程が2度下がっているので〈ほぼ〉とする）
- 3の山は、1の山の**《スライド反復》**
- 4の山は、3の山の**《単純反復》**と思いきや、後半部分が異なる

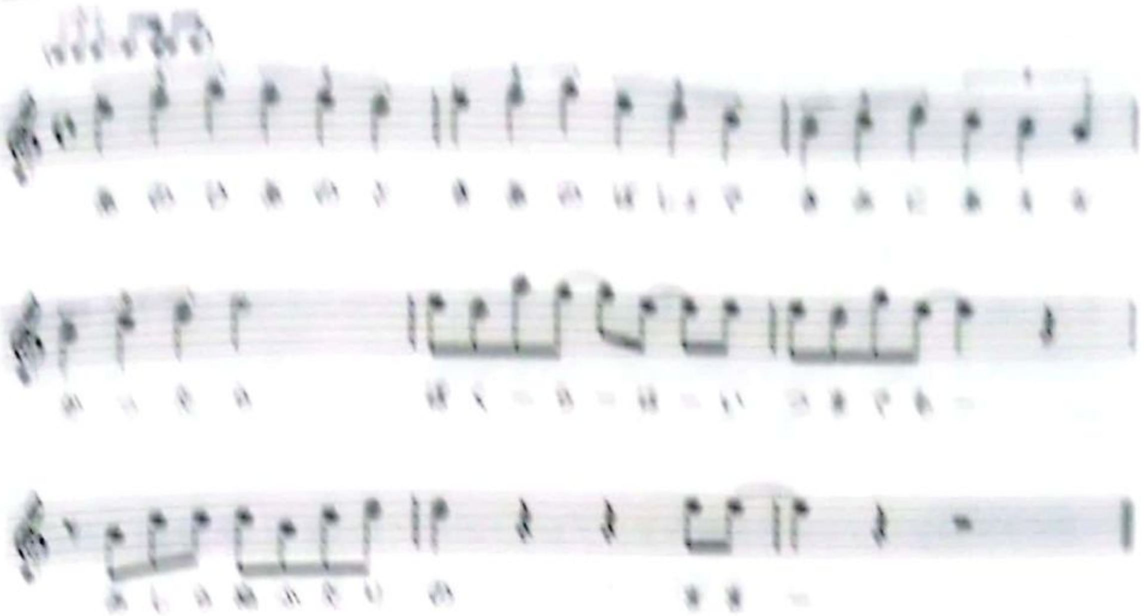
というワケで、ここで**［極意10］**を思い出してほしい。

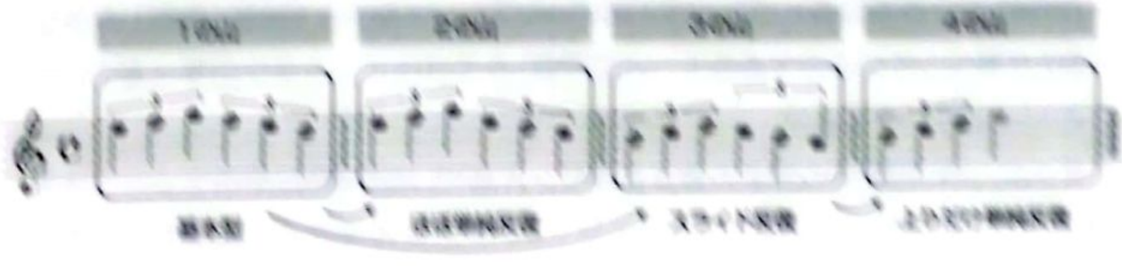
極意 10　美味しいメロも三度まで

これは「待つわ」で学んだ極意であるが、「ラブ・ストーリーは突然に」もこの作法に則っていることがわかる。

1の山、2の山、3の山……までは、ほぼ同じ〈山型の音型〉を保っているのだが〈4の山〉で変化している。つまり、美味しいメロの使用を〈3回〉にとどめている。いや厳密には〈4の山〉には半分ほど登りかけているので〈3.5回〉が正しい。

CamScannerでスキャン





CamScannerでスキャン

さて、ここで実験コーナー。

もし〈4の山〉に変化を与えず、そのまま繰り返しを続けてみたらどうなるのだろうか？　わかりやすいように〈譜割のみ〉で示してみよう（**譜例④**）。

ふむふむ、悪くはない。

しかし、同じ音型を4回も連続で聴くと**供給過多**となり、さすがに飽きが訪れる。

では〈飽き〉を感じさせないためには、どうしたらよいか？

答えは簡単、4回目（4の山）に変化をつければよいのだ。そうすることで〈飽き〉を回避できるはず……なのだが、いやいやちょっと待てよ。そもそも、この場所で変化をつけなかったら**息つぎ**ができないではないか!?

〈歌モノ〉の長いフレーズにおいて、ブレス・ポイントは必須（**譜例⑤**）。作曲する段階で、ブレス（息つぎ）をする位置を事前に確保しておかなければ、歌い手は窒息してしまう。

なるほど「ラブ・ストーリーは突然に」における4回目（4の山）の変化は、生理的見地から考えても必然的なモノであったのだ。

心得　窒息防止の〈ブレスポイント〉を確保せよ！

隠されていた小田忍法

さて、ここまで分析してきて、何か**違和感**を覚えなかったであろうか？

なんとこの曲、サビ冒頭の4小節間に**ものすごい事実**が隠されているのである。

私は本項の冒頭で〈掘り起こし作業の過程で**意外なお宝**に出くわすという僥倖がある〉と書いたが、まさに今回、その**《意外なお宝》**に出くわしてしまったのだ。

群馬県赤城山のふもとに眠ると言われる〈徳川埋蔵金〉のごとく、メロディ山脈の地中の奥深くに埋もれていたそのお宝とはいったい……。

ジャジャン、簡潔に言おう。

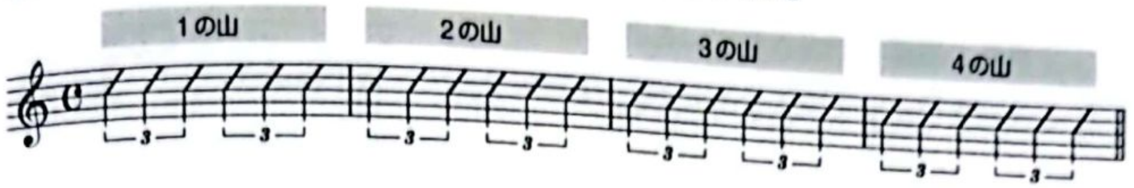
この曲……繰り返されている**《メロディのフレーズ数》**と**《言葉（歌詞）のフレーズ数》**が異なっているのである！

え……どういうこと!?

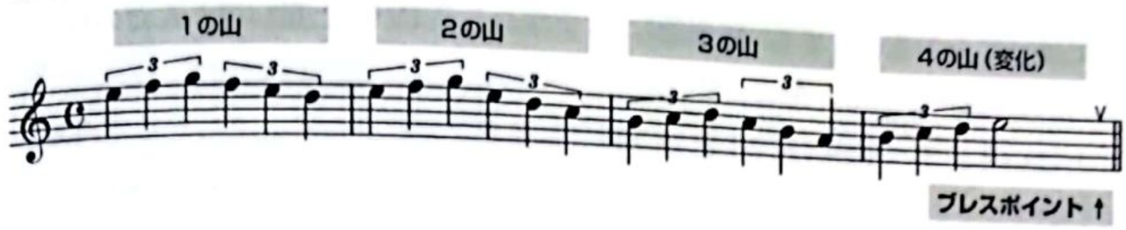
きっと、99.9999%の読者の皆さまはピンと来ていないはず。

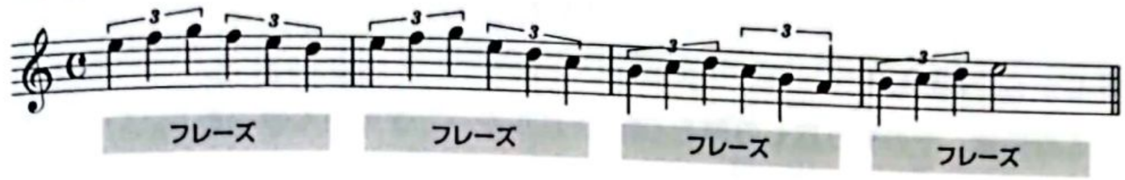
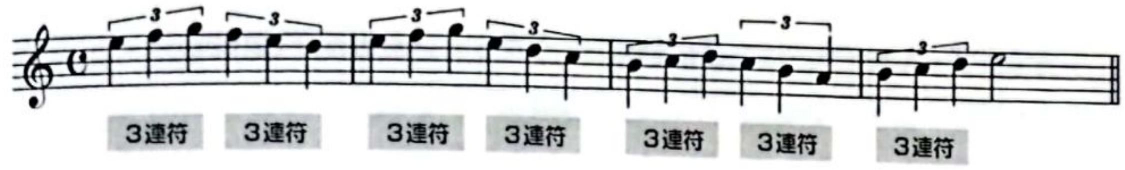
というコトなので、このお宝のスゴさをしっかりとご説明せねば……。

譜例④　【実験】〈4の山〉に変化を与えず、そのまま繰り返してみる



譜例⑤　〈4の山〉の後半＝ブレス・ポイント



譜例⑥　1小節単位の音型＝1フレーズ

譜例⑦　3連符のかたまり＝メロディの最小単位

これまで、サビ冒頭のメロディは**譜例⑥**に示すように〈1小節単位の山型の音型〉を1フレーズとして捉えてきた。

しかし、ひとつひとつの〈フレーズ〉を分解していくと、**3連符のかたまりがメロディの最小単位であることがわかる（譜例⑦）。**

さぁ、ここで想像していただきたい。

例えば、作曲家から作詞家に対して「このメロディに歌詞をつけてほしい」と依頼があったとする。作詞家は手渡された〈メロディ譜面〉を見て、きっと次のように考えるはずだ。

CamScannerでスキャン

【作詞家のひとりごと】
3連符の連続で構成されているから、
3連符を活かすように《3文字ずつ》言葉を当てはめてみよう。

……と。

譜例⑧をご覧いただきたい。このサビ冒頭の2小節間には〈3連符のかたまり〉が4つ連続して存在している。これらの3連符のかたまりに〈3文字ずつ〉言葉を当てはめてみることにする（**譜例⑨**）。3文字の言葉でパッと思い浮かんだのは〈恋も〉という言葉である。理解していただきやすいように、**譜例⑨**は譜割のみで示す。

とはいえ、すべてが［恋も］という同じ言葉だと変化がなく、まったく面白みがないので、〈4つの音型〉に対して韻をそろえる形で［恋も／愛も／夢も／嘘も］というワードに当てはめ直してみた（**譜例⑩**）。

歌詞の当てはめ方としては至極シンプルな方法ではあるが、繰り返しの理には十分にかなっている（言葉の内容や意味は度外視する）。

しかし、しかし！

この曲は、その**繰り返しの理**を〈壊し〉にかかってきているのである。いや、正確には〈壊し〉ではなく《ズラシ》である。

つまり、どういうことか？

前述の〈4つの言葉〉を順に書くと、**歌詞Ⓑ**のようになる。

一方「ラブ・ストーリーは突然に」は、どうなっているのか？（**歌詞Ⓒ**）

ん……〈4つのメロディ〉に対して〈言葉が3つ〉？

え、え、え!?

しかも、**繰り返すたびに〈1文字〉ずつ増えている!?**

どういうこと？

キ、キタ――――――――――――――――ヽ(ﾟ∀ﾟ)ﾉ

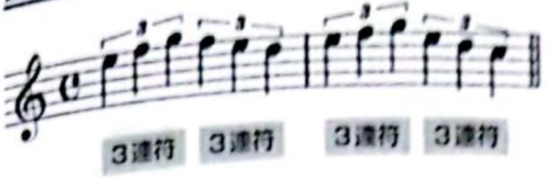
これはまさに《魔術》である。

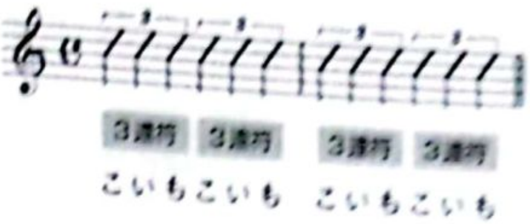
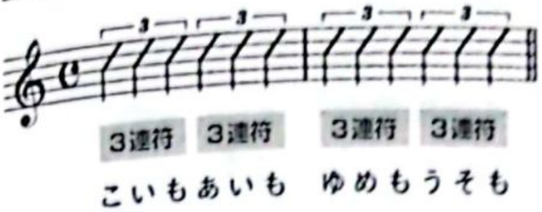
小田魔法である!!

やられた……。

♫　♫　♫

譜例⑧ 3連符のかたまり×4回



譜例⑨ 3文字の言葉［恋も］を当てはめてみる

譜例⑩ 3文字の言葉［恋も/愛も/夢も/嘘も］を当てはめてみる

歌詞Ⓑ 4つのメロディに〈4つの言葉〉

こ　い　も
あ　い　も
ゆ　め　も
う　そ　も

歌詞Ⓒ 4つのメロディに〈3つの言葉〉!?

あ　の　ひ
あ　の　と　き
あ　の　ば　しょ　で

我々は〈あの〉という共通ワードの存在により、似たような印象の言葉が〈単純に反復されている〉という安心感を覚えてしまっていたようだ。しかし実際には、その安心感を伴った反復過程の中で密かに言葉が〈1文字〉ずつ増殖していたのである。

つまり、繰り返しの安住の中で不安定さ（刺激）が進行していた……というコト。単なる反復に終わらせることなく、**反復の中に〈異なる反復要素〉**を忍び込ませていたのだ。

なるほど、飽きないフレーズの秘密はここにあった！

これぞ反復の二段仕込み、今の今まで気がつかなかった絶品高等テクニック！分析した甲斐があったというものだ。

東北大学工学部建築学科で学ばれた小田博士……。恐るべしメロディの一級建築士、いや特級建築士！

CamScannerでスキャン

というわけで、今回掘り当てたこの〈超お宝級の秘法〉、有り難く次のように命名させていただく所存！

極意 14　小田忍法★カラクリ二重反復の術

……またの名を〈反復の二段仕込み〉

譜例⑪で、その秘法（秘宝）をじっくりと拝んでいただきたい。

心得　**反復の中に〈異なる反復要素〉を忍び込ませることで味わいが深まる！**
（反復の二重構造）

継続感を与える秘法〈不完全終止〉の術

さてさて、この曲の〈お宝〉はこれだけではない。それはいったいどこにあるのか？

ジャジャン。

サビ末尾のメロディ、**譜例⑫**のアンダーラインを引いた部分……！

一般的にメロディというモノは、その曲の〈調〉の基調となる音（主音＝トニック）で終止することがほとんどである。

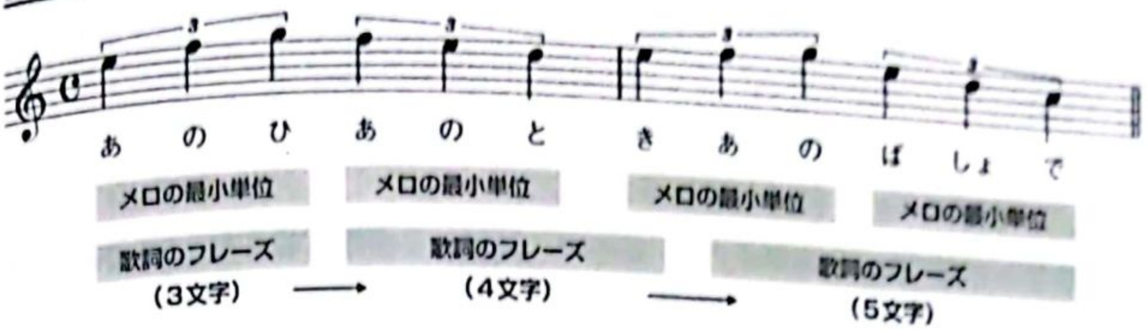
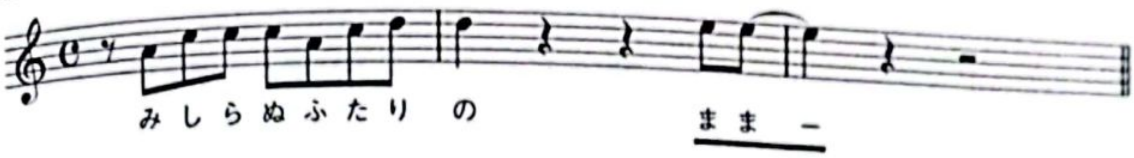
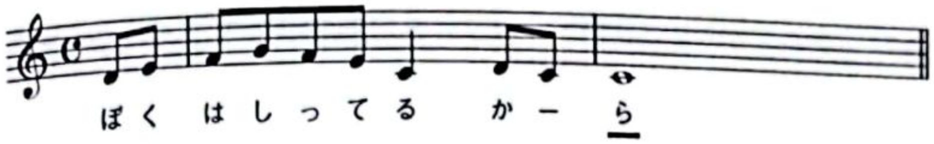
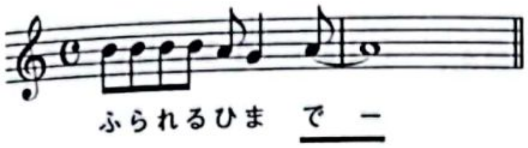
長調の場合

- Key＝Cメジャー → 主音C音［ド］で終止
- Key＝Gメジャー → 主音G音［ソ］で終止

短調の場合

- Key＝Aマイナー → 主音A音［ラ］で終止
- Key＝Eマイナー → 主音E音［ミ］で終止

ちなみに「どんなときも。」と「拝っわ」は、どのように終わっているのだろう。**譜例⑬**と**譜例⑭**で確認してみよう。

譜例⑪ 小田忍法★カラクリ二重反復の術（反復の二段仕込み）

譜例⑫ 「ラブ・ストーリーは突然に」サビ末尾

譜例⑬ 「どんなときも。」サビ末尾……Key＝Cメジャーで記譜
作詞：槇原敬之／作曲：槇原敬之

譜例⑭ 「待つわ」サビ末尾……Key＝Aマイナーで記譜
作詞：岡村孝子／作曲：岡村孝子

CamScannerでスキャン

おわかりいただけるように「どんなときも。」は、**長調の主音であるC音[ド]で**
終止。一方「待つわ」は、**短調の主音であるA音[ラ]**で終止している。両者ともまっ
とうな終わり方、気持ちの良いごく自然な終わり方である。

一方「ラブ・ストーリーは突然に」は、というと(**譜例⑮**)。

な、なんと……E音[ミ]で終わっている!

本来であれば〈Key=Aマイナー〉なので、**短調の主音であるA音[ラ]**で終止す
べき。しかしあえて、E音[ミ]で終わらせている。

いや、終わっているようで終わっていない。

いやいや、終わっていないようで終わっている?

んんん……どっちなのだろう。

いずれにしても、安定した終止感が得られていないことは確かである。
この〈トニック(主音)で終わっていない形〉を読んで字のごとく《不完全終止》と
呼ぶ。不完全終止はメロディに継続している印象を与える。

ドラマ『東京ラブストーリー』のオープニングでは毎回この曲が流れ、最後の最
後で小田さんの[まま〜♫]の声が、強烈なリバーブ(残響音=エコー)を伴ってカッ
トアウトされていた。

すると、どうでしょう!?

視聴者は終止感を得られないまま宙吊り状態となり「うわぁ今週はいったいどん
な展開になるのだろう」というはやる気持ちを抑えきれず、一気にドラマの世界に
のめり込んでゆくのであった。

小田さんは、きっと確信していたはずだ。

サビの最後は終止形にしないほうが、
よりドラマチックな印象を与え、
必ずやリスナーの耳に残るはず

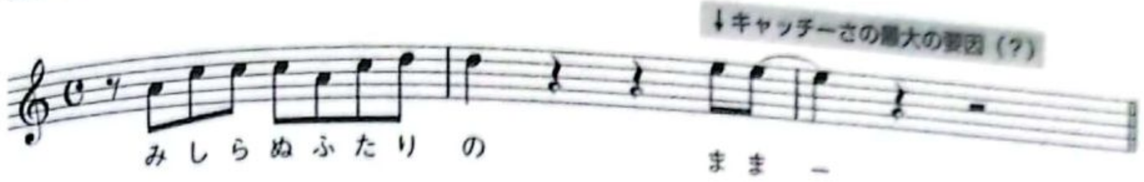
……と。

日本国民はまんまとその罠にハマってしまった。例えば[まま〜♫]の部分の
を切り取って、道行く人に聴かせたとしよう。きっと40〜60代の日本人の大半は
この曲が何の曲なのかを瞬時に識別してしまうことであろう。それほど、この
レーズは〈**インパクト大**〉なのであった。

CamScannerでスキャン

譜例⑮　サビ／最後の言葉→〈まま〉

譜例⑯　サビ末尾をもう一度見てみよう



音節が持つ力

実のところ、このフレーズの成功の要因は**メロディ以外**にもあると考えている。

メロディ以外……つまり〈言葉〉だ。

サビの最後の最後に**〈まま〉という言葉を選んだコト**こそが、このフレーズをキャッチーなモノとして成立させている《最大の要因》であると考える。

サビ末尾のフレーズは**〈ま〉という音節の反復**で構成されている（**譜例⑯**）。

これが例えば、異なる音節の組み合わせによるフレーズだったとしたら、どのように聴こえるだろうか？ 想像してほしい。

想像① ～から
想像② ～だけ
想像③ ～まで
想像④ ～のに

なんだかしっくりこない。妙な間延び感がある。〈ま〉の繰り返しによる強烈さにはかなわない。

なぜなのか？ その理由はふたつある。

● **理由その１**　〈まま〉＝〈ア段〉で終わっている。

ア段は、他の段（イ段／ウ段／エ段／オ段）よりも**明るく聴こえる**という特徴がある。

CamScannerでスキャン

試しに〈ま/み/む/め/も〉を順にゆっくりとはっきり発音してみてほしい。

ま(マ)＝ア段
み(ミ)＝イ段
む(ム)＝ウ段
め(メ)＝エ段
も(モ)＝オ段

明らかに〈ま〉の音節が、一番明るく開放感のある音として聴こえてくるはずだ。ゆえにこのサビ末尾の〈ま〉は、音の質感の印象として〈明るさ&開放感〉を与えることに成功している。

そして、もうひとつの理由……。

●理由その2 〈ま〉は、一度口を閉じてからでないと発音できない。

〈ま〉という音を大きな声で発していただきたい。

子音		母音		
M	+	a	＝	Ma(ま)

Ma(ま)を発する瞬間、アナタの口内で圧縮された二酸化炭素が外界に向かって一斉に発射されるはずである。

それはまさに、瞬発力を伴った破裂性質/高圧エネルギー系音節！

Ma(ま)は、他に比べて耳に残りやすい音節であるといえる(マ行のほかに、パ行、バ行もその仲間)。

小田師範はサビの最後の最後で〈明るさ/開放感/瞬発力/破裂性質〉という、これ以上ない強力な特徴を持った高エネルギー音節Ma(ま)を、惜しげもなく2発連続で発射したのであった。しかも高音域で！

これをキャッチーと言わずして、何と言おう。

極意 15 高圧系〈不完全終止〉の術

§

恐るべし「ラブ・ストーリーは突然に」……。

サビ冒頭のフレーズに対抗できるほどのキャッチーなフレーズが、なんとサビの最後にも配備されていたのである。

まさにキャッチーのダメ押し！

作曲していると、途中でアイデアに行き詰まり〈曲の最後の最後で失速してしまう〉という局面が多々ある。

惰性で作った挙句、サビの終わりを〈どこかで聴いたようなありがちなフレーズ〉や〈予定調和的なこじんまりとしたフレーズ〉にまとめてしまっている人がきっと多くいるはずだ。

そんな人に、小田師範はエールを送っている。

「最後の最後まで手を抜くな」と。

心得 印象的なフレーズは
〈サビの最後〉でも構築可能
最後まで手を抜くべからず！

CamScannerでスキャン

Back Stage

[illegible]

密林發生的戀情故事

[illegible]

第2章

メロディと歌詞は運命共同体

CamScannerでスキャン

Lesson 04

「真夏の果実」

サザンオールスターズ ……で大発見！

極意 16 ２小節以上のメロディでは歌詞の〈二度づけ禁止〉

極意 17 極力〈言葉の語感〉をそろえるべし

極意 18 メロディと歌詞は寄り添わなければいけない

｜作詞｜桑田佳祐　｜作曲｜桑田佳祐　｜編曲｜サザンオールスターズ＆小林武史
｜発売｜1990年7月25日
｜備考｜映画『稲村ジェーン』主題歌（監督：桑田佳祐）

CamScannerでスキャン

四字熟語の衝撃

第2章では〈メロディと歌詞の関係〉をひもといていく。

最初にご登場いただくのは、サザンオールスターズ「真夏の果実」。この曲は桑田さんが初監督を務めた映画「稲村ジェーン」の主題歌であるが、ファンの間では「TSUNAMI」「希望の轍」などと1位2位を争うほどの屈指の人気曲であり、なぜ私が本書でこの曲を取り上げたのかというと〈サザン作品の中で一番好きな曲だから〉という理由に他ならない（と言いつつも、カラオケでは一度たりとも歌ったことがない）。

さて、〈この曲といえばココ！〉は、ズバリ歌詞Ⓐの部分であろう。

日本音楽史上〈四六時中〉という言葉が歌に出てきたのは、この曲が初めてではないだろうか。サビ冒頭に四字熟語をぶつけてくるそのセンス。今ではさほど珍しいコトではないのかもしれないが、その当時においてコレはかなり革新的であり、既成概念を破壊する創造力&発想力に衝撃を受けた記憶がある。常に時代の数歩先を行く桑田さんのセンスに、ただただ敬服するばかり。

ちなみに、この曲が発売された1990年はこんな年だった。

- 任天堂スーパーファミコン発売
- アニメ「ちびまる子ちゃん」放送開始
- 横綱、千代の富士が大相撲史上初の通算1000勝達成
- 映画監督、黒澤明が米アカデミー賞特別名誉賞を受賞
- ザ・ローリング・ストーンズ初来日公演
- ポール・マッカートニーがソロとして初来日公演

歌詞Ⓐ 「真夏の果実」といえば、このフレーズ

> 四六時中も好きと言って〜♫

CamScannerでスキャン

「どんなときも。」と大きく異なる点は？

さて、お聴きいただければおわかりの通り、サビ冒頭の2つのフレーズ❶&❷のメロディは、開始音のみ若干異なるが〈ほぼ同じ〉である（**譜例①**）。

同じメロディに異なるコード（和声）を与え、印象を変化させる作法……これは「どんなときも。」で学んだ極意**《単純反復/味変の術》**である。

しかし「真夏の果実」には「どんなときも。」と大きく異なる点がある。

「どんなときも。」のサビの主役級メロディは**〈1フレーズ＝1小節単位〉**であった。ところが「真夏の果実」は**〈1フレーズ＝2小節単位〉**となっている。

この2曲を**譜例②**と**譜例③**で比較してみよう。

「どんなときも。」	＝	**単純反復（1小節単位）**
「真夏の果実」	＝	**単純反復（2小節単位）**

このわずかな違いは、何を引き起こすのか？

「どんなときも。」は1小節の短いフレーズの反復なので、**同じ言葉の繰り返しでも飽きなかった**。ところが「真夏の果実」はそうはいかない。2小節の長いフレーズをそのまま丸ごと繰り返したら、**すぐに飽きてしまうはずだ**。**歌詞Ⓑ**を脳内で再生してみてほしい。

うわわ、一瞬にして〈美味しさ〉が半減してしまった。なにより効果的でない。

「どんなときも。」では同じ歌詞の反復によって〈訴えかけ〉が発生していた。

しかし「真夏の果実」において**歌詞Ⓑ**のような繰り返しを行ってしまうと、訴えかけどころか〈ちょっとした嫌がらせ〉の様相を帯びてくる。

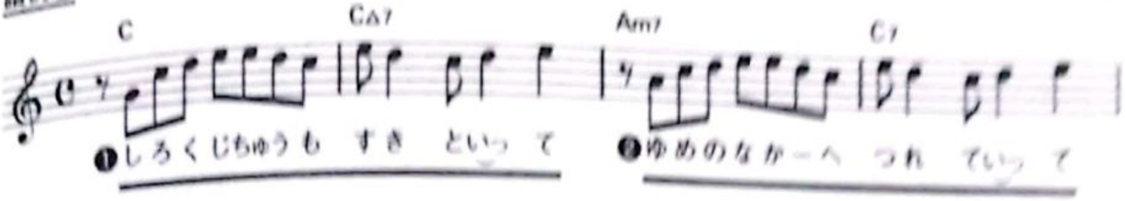
極意 16

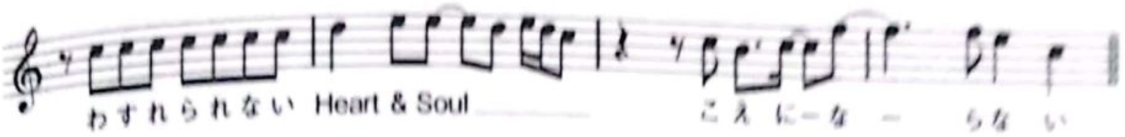
2小節以上のメロディでは
歌詞の〈二度づけ禁止〉

……同じ歌詞をそのまま反復することなかれ

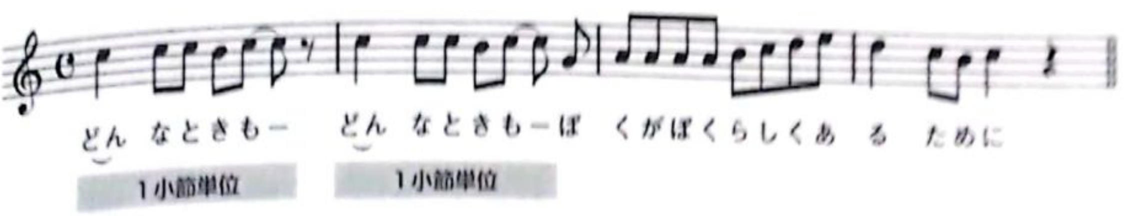
CamScannerでスキャン

譜例①　「真夏の果実」サビ冒頭→単純反復／味変の術……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はDメジャー）

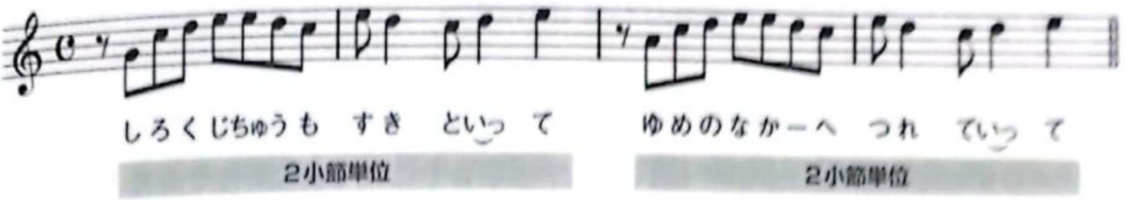




譜例②　「どんなときも。」サビ冒頭……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はF♯メジャー）
作詞：槇原敬之／作曲：槇原敬之



譜例③　「真夏の果実」サビ冒頭



歌詞Ⓑ　【脳内再生】主役フレーズをそのまま２回繰り返してみる

> 四六時中も　好きと言って～♫
> 四六時中も　好きと言って～♫

CamScannerでスキャン

同じメロディの反復では歌詞にひと工夫を

歌詞というモノ、実に奥深い。

脈絡のない言葉を羅列しただけでは、ポップスの歌詞は成立し得ない。なんらかのルールや法則に則って作られたモノにこそ〈味わい〉や〈旨味〉が感じられる。

「真夏の果実」の場合、**歌詞Ⓒ**をご覧いただけば、おわかりいただけるように、同じメロディに対して〈別の歌詞〉が乗せられているものの、〈末尾の言葉〉はきちんとそろえられている。

これはいわゆる《韻を踏む》という手法である。桑田さんは同じメロディの繰り返しに対して《韻》を踏んだのだ。韻を踏むことで〈適度な繰り返し感〉が発生する。桑田さんが選んだ言葉は**同じ響きを持つ同音異義語**の〈言って/行って〉である。

♫　♫　♫

では、サビ後半(9～12小節目)は、どうなっているのだろうか？

歌詞Ⓓをご覧いただこう。

なるほど。〈消して〉の箇所はサビ前半の〈言って/行って〉に呼応するように〈～て〉という言葉で韻を踏んでいる。しかし、最後の〈～のか〉に至っては「これ以上の韻はちょいとクドイかも」と桑田さんがお感じになられたのであろうか「最後の反復は韻に固執する必要にあらず、歌詞の流れと意味を尊重すべし！」という王者の余裕で判断を下したモノと推察される(**譜例④**)。

このように、同じ音型のメロディを反復させながら楽曲を展開させていく場合、そのメロディの歌詞においては**〈韻を踏む/音節をそろえる/文節をそろえる〉**など、ある程度〈言葉の語感をそろえる〉ことが重要だと言える。

極意 17
極力〈言葉の語感〉をそろえるべし
……同じ音型の反復において

必ずしも、このようにしなければならないという決まりはないが、語感をそろえたほうが、圧倒的に**リスナーの耳に残る確率が高まり**、覚えてもらいやすくなるはずだ。「どんなときも。」のように、**飽きない範囲内で同じ言葉をそのまま繰り返す**ことも強力な手法であるが、楽曲の構造上それが困難な場合は、上記手法をオススメする。

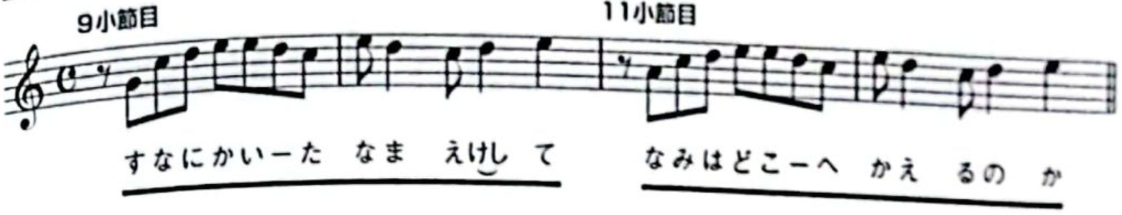
CamScannerでスキャン

歌詞Ⓒ そろえられている言葉＝韻を踏んでいる（※傍点著者）

> 四六時中も　好きと言って
>
> 夢の中へ　連れて行って

歌詞Ⓓ サビ後半（※傍点著者）

> 砂に書いた　名前消して
>
> 波はどこへ　帰るのか

譜例④ 「真夏の果実」サビ後半

メロディと歌詞は〈運命共同体〉

ヒット曲はしっかりと設計されている。

では、なんのために設計するのか？

言うまでもない。〈他人に伝わりやすい体裁〉に整えるためであり、〈美味しく味わってもらう〉ためである。

> **心得** ヒット曲はしっかり設計されている
> 【1】他人に伝わりやすい体裁に整えるため
> 【2】美味しく味わってもらうため

いくらメロディが秀逸でも、そこに乗っている歌詞がメロディを活かした形で当てはめられていないと、その曲の魅力は確実に損なわれてしまう。

〈歌モノ〉の楽曲において、メロディと歌詞は共存している。

一蓮托生、運命を共にしているのである。お互いを相殺してはいけない。

> **心得** メロディと歌詞は〈運命共同体〉

- 曲先の場合、歌詞は〈メロディ〉に寄り添わなければいけない
- 詞先の場合、メロディは〈歌詞〉に寄り添わなければいけない

CamScannerでスキャン

極意18 メロディと歌詞は寄り添わなければいけない

お互いに相手をきちんと理解し、おもんぱかって寄り添い合う。そこにキャッチーなフレーズ＝〈パワーフレーズ〉が誕生する。これこそがまさに、メロディと歌詞の《幸福な結婚生活》なのである。

心得 目指せ！ メロディと歌詞の《幸福な結婚生活》

§

〈語感をそろえる〉について、次項でさらに詳しく分析してみることにする。

作曲プチQ&A 2

Q サビの〈定義〉とは何でしょうか？

A

大切なのは、なんとなく作曲するのではなく、自分なりに〈サビを定義付け〉しながら曲を作ってみるということ。その思考自体が作曲技術向上の大いなるヒントになり得ます。以下、私が考える《サビの定義》……暫定「仮」バージョン！

●私なりのサビの定義（仮）

・覚えやすい
・繰り返しのフレーズがある
・主張がある
・盛り上がっている
・飽きない
・印象的な歌詞
・グっとくる

上記キーワードは〈サビを成立させる要素〉であるとも言える。さて、アナタの作品はいくつ当てはまる!?

CamScannerでスキャン

Lesson 05

「恋愛レボリューション21」

モーニング娘。……で大発見！

極意 19 反復★三段飛び
……略称：HSJ型＝ホップ・ステップ・ジャンプ

極意 20 語感をそろえたほうが
〈歌い手〉も覚えやすい

|作詞|つんく |作曲|つんく |編曲|ダンス☆マン
|発売|2000年12月13日

CamScannerでスキャン

長期にわたりアイドル界の第一線で活躍

次にご登場いただくのはこの曲、モーニング娘。「恋愛レボリューション21」。
槇原さん→あみん→小田さん→サザンからの……モーニング娘。!!
この脈絡の無さが本書の売りなのである。

「恋愛レボリューション21」が発売されたのは、20世紀がまさに幕を下ろそうと準備を進めている最中の2000年12月13日。タイトルの〈21〉には、来るべき21世紀への想いが込められているのだろう。

驚くべきことにモーニング娘。は、本書執筆時点(2020年9月)でグループ発足〈満23年〉を迎えている。メンバーの変遷はあれど、これほどの長期間、第一線で活躍を続けるアイドル・グループが、いまだかつて存在しただろうか。

同グループの生みの親で、大半の楽曲の作詞作曲およびサウンド・プロデュースを手がけてきた〈つんく♂〉さんも、ここまで息の長いグループに発展するとは思っていなかったに違いない。『NHK紅白歌合戦』10年連続出場など、その偉業は賞賛に価する。

さて、2000年とはどんな年であったのだろうか？

- 新紙幣2000円札、新五百円硬貨発行
- 東京ディズニーシー開園
- 映画『千と千尋の神隠し』大ヒット
- ドラマ『ビューティフルライフ』『やまとなでしこ』が高視聴率を記録
- シドニーオリンピック開催。高橋尚子が女子マラソンで金メダルを獲得
- イチローがメジャーリーグ移籍
- 厚底ブーツが流行

CamScannerでスキャン

キャッチーのお手本

早速、「恋愛レボリューション21」を分析させていただく。

譜例①でおわかりの通り、この曲のサビ冒頭部分のメロディは**スライド反復を軸**に展開している。さらに言えば**〈合いの手〉**もスライド反復である。

実に覚えやすく美味しいメロディ。これぞ〈キャッチーのお手本〉というべきか。

サビ前半にフォーカスしてみよう（**譜例②**）。

基本型は**フレーズ❶**。

これを〈スライド反復〉させたモノが、**フレーズ❷**である。

しかし**フレーズ❸**には共通点を見出せない。

❸は無関係……ホントにそうだろうか？

いやいや〈音型/譜割〉にだまされてはいけない。

〈音の高低〉で物事をとらえる必要がある。

譜例③に示すように、音型を度外視して、それぞれのフレーズ冒頭の〈5音〉をピックアップしてみると……。

おぉ～と、関係性**〈ありあり〉**ではないか!?

浮かび上がってきたのは、この三者のズブズブの関係性だ！

❶→❷→❸とキレイに〈2度ずつ〉降下してゆく見事なまでの平行移動。

というコトは……〈音型を度外視〉してとらえると、**❸**も〈スライド反復〉の関係にあるということだ。同じ音型を借用しながら少し長尺に発展させたフレーズ、それが**❸**の実体であったのだ。

♫　♫　♫

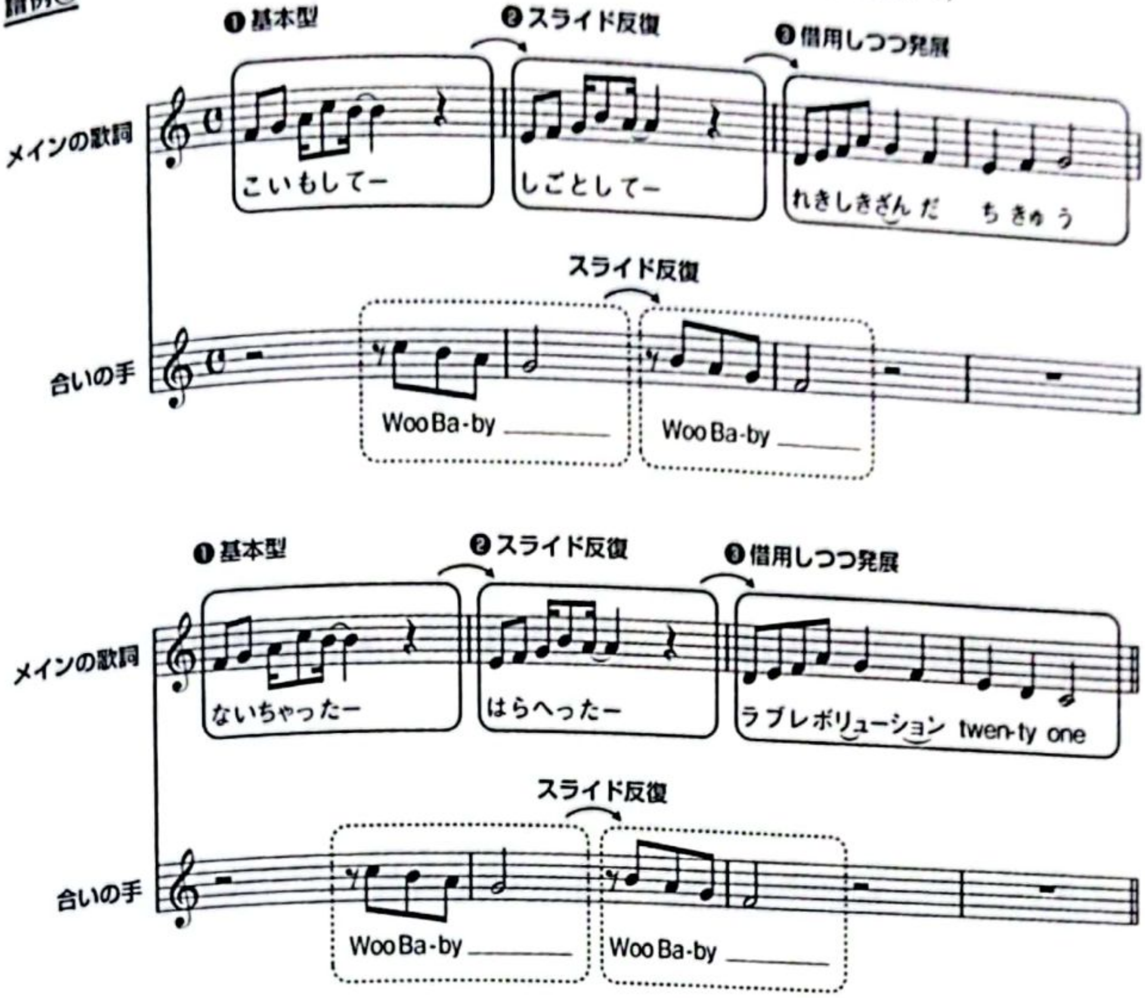
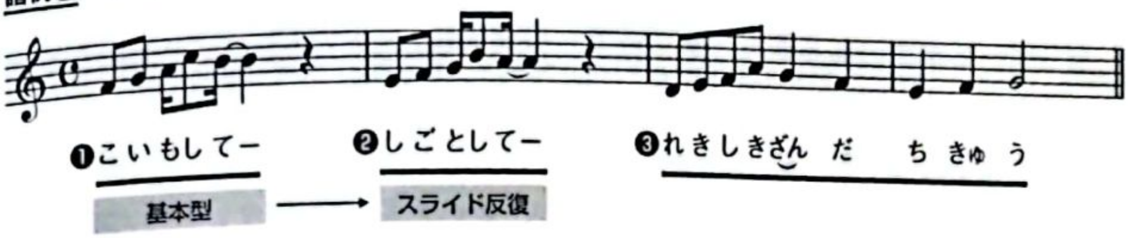
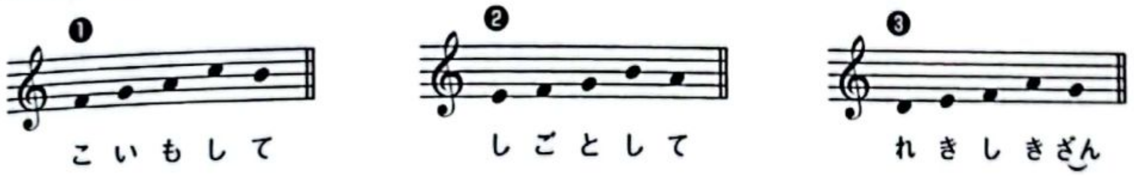
❸に対する大いなる関係性が証明されたことを受けて、この部分をさらに掘り下げてみようと思うが、よくよく注視してみると、この一連の流れ、何かに似ている気がする。

ヒントは、**❶→❷→❸**。

そう、**《三段跳び》**だ！

ホップして、ステップして、そして最後に大きなジャンプ!!!

CamScannerでスキャン

譜例① 「恋愛レボリューション21」1番サビ……Key＝Cメジャーで記譜（原曲ママ）

譜例② サビ前半

譜例③ フレーズ❶❷❸の《関係性》を探る

なるほど。
ひとつのモチーフ（アイデア）を反復させながら段階的に発展させてゆくこの手法は、まさに**〈三段跳び〉**！
というコトで、仰々しくも次のように命名することにする（**歌詞⑤、譜例③**）。

極意 19 反復★三段跳び
……略称：HSJ型 ＝ ホップ・ステップ・ジャンプ

誤解のないように、ここであえて言わせていただくが、必ずしも〈覚えやすい曲＝良い曲〉ではない。いくら覚えやすくても、メロディが単調であれば、すぐに飽きられてしまう。メロディ自体に魅力がなければ、受け入れてもらえない。
ゆえに、シンプルな構造でありつつも、**何度聴いても美味しいと感じてもらえる飽きないメロディ**を有している作品こそが、ポップスにおける〈至宝の作品〉となり得る。
覚えやすくて飽きのこないメロディをつくる！
これこそが作曲家や音楽クリエイターやアーティストの〈腕の見せドコロ〉なのである。

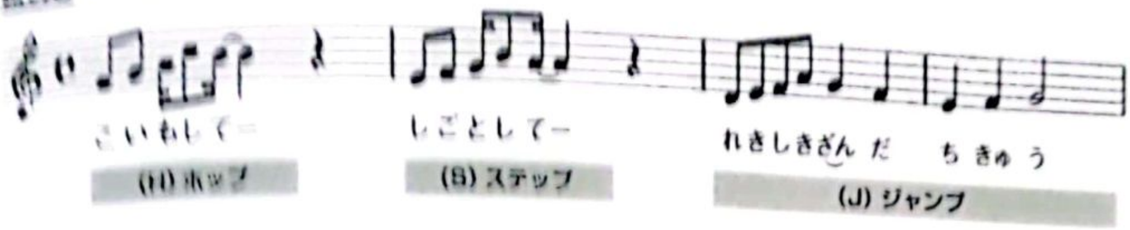
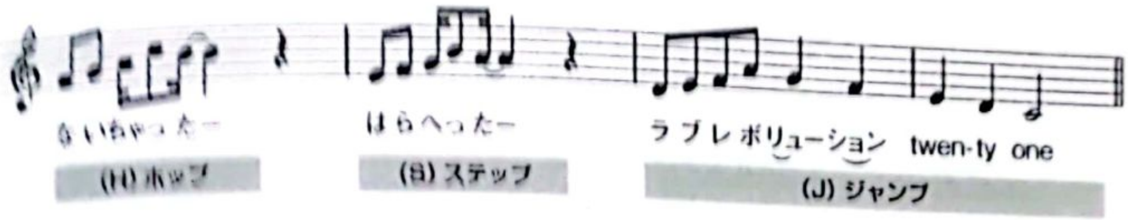
「恋愛レボリューション21」……サビに限って言えば〈シンプルな構造〉ではあるものの、サビに至るまでの〈イントロ～Aメロ～Bメロ～ブリッジ～サビ〉というつくりが実はとても凝っている。
凝っている構造であるからこそ、カタルシス（浄化作用）として、サビのシンプルな構造が強烈に活きてくるのである。
成否のカギは〈バランス〉にある。
そう、すべての物事の成り立ちは〈プラス/マイナス、サビ/サビ、陰/陽〉のバランスの上にあるのだ。……という細かな分析を行いたいところなのだが、それはまた別の機会に譲るとする。

心得 目指せ！ 覚えやすくて飽きないメロディ

歌詞Ⓒ 三段跳び

恋もして (ホップ)	→	仕事して (ステップ)	→	歴史きざんだ地球 (ジャンプ)
泣いちゃった (ホップ)	→	腹へった (ステップ)	→	LOVE REVOLUTION 21 (ジャンプ)

譜例Ⓓ 反復★三段跳び (HSJ型)



歌詞Ⓔ 1番サビ／歌詞

恋もして	仕事して	歴史きざんだ地球
泣いちゃった	腹へった	LOVE REVOLUTION 21

〈言葉の語感〉をそろえる

さて、ここで話を歌詞に転じてみる。

この楽曲、キャッチーなメロディに対して、どのような歌詞が乗っているのだろうか？ あらためて歌詞Ⓔで確認してみよう。

なるほどなるほど。メロディは〈印象的な同じ音型〉の繰り返しで構築されてはいるが、歌詞の繰り返しは施されていない。

その代わり、それぞれ〈~して〉〈~た〉のように語尾の語感だけは、しっかりとそろえられている(歌詞©)。

なぜ、このような施しがなされているのか?

理由は単純明快、次のふたつ。

【1】耳に残りやすい

【2】覚えやすい

しかし、この施しは聴き手(リスナー)のみを対象としているワケではない。実は〈歌い手本人〉にとっても大きな恩恵があるのだ。

え、それって、どういうこと?

よくよく考えてみれば、おわかりいただけるはず。

極意 **20**

語感をそろえたほうが〈歌い手〉も覚えやすい

……語感がそろっている

→ 頭に入りやすく忘れにくい

→ 歌い手の負担軽減

こういった制作サイドの内情は、いわゆる企業秘密にあたるので、あまり公の場で語ってはいけないのかもしれないが、語感をそろえることは、歌の送り手(=歌手)にとっても、歌の受け手(=リスナー)にとっても、有利に働くモノなのであるということを知っておいていただきたい次第……。

§

と、ここまで書いてきて、動画サイトで〈モー娘〉の他の曲をアレコレ試聴していたら、偶然にも〈教材的ネタ満載〉の曲に出逢ってしまった。

当初、次項では別アーティストの有名曲を取り上げる予定だったのだが、急遽予定を変更し、この曲を分析する。

ご存知「LOVEマシーン」である(行き当たりバッタリですみませぬ)。

歌詞© そろえられている語感

恋も[して]
仕事[して]
泣いちゃっ[た]
腹へっ[た]

CamScannerでスキャン

Lesson

「LOVEマシーン」

モーニング娘。　……で大発見！

極意 21 ｜〈主メロ＆合いの手〉ツートップ戦法

極意 22 ｜秘技〈合いの手まかせ〉の術

【作詞】[illegible]　【作曲】[illegible]　【編曲】[illegible]
【発売】1999年9月9日

超アッパーなダンス・チューン

時計の針をほんの少し前に戻す。

時は1999年、「恋愛レボリューション21」発売の1年前。モーニング娘。の７枚目のシングルとして発売されたのが、この「LOVEマシーン」である。

それまでの〈ほのぼの〉とした彼女たちのイメージを一変させた分水嶺的作品であり、これを契機として、カラオケで盛り上がる**超アッパーかつコミカルなダンス・チューン**路線が、以降のモーニング娘。の代名詞として定着。グループ初のミリオンを達成したこの曲は、彼女たちにとって記念碑的な作品となったのである。

ちなみに、1999年（平成11年）とはこんな年であった。

- 携帯電話＆PHSの電話番号11桁化
- 石原慎太郎が東京都知事就任
- カリスマ美容師が流行
- ジャイアント馬場死去
- 「だんご３兄弟」が大ヒット
- 宇多田ヒカルの1stアルバム『First Love』が736万枚を売り上げる
- 世界各地でミレニアムのカウントダウンが開催

CamScannerでスキャン

サビにおける繰り返しの〈もうひとつの手法〉とは？

アッパーなダンスチューンの「LOVEマシーン」。

早速、サビ部分を書き起こしてみた（譜例①）。

フレーズ❶＝基本型
フレーズ❷＝メロディの上下移動が少し異なるが、基本型❶と同じ譜割
フレーズ❸＝基本型❶と全く同じメロディ

総じて言うと❶❷❸は兄弟関係であることがわかる。

おっと、またしても《3》というキーワードの登場だ。くどいようだが、あえてこの場でも言わせていただく。ジャジャン。

極意 10　美味しいメロも三度まで

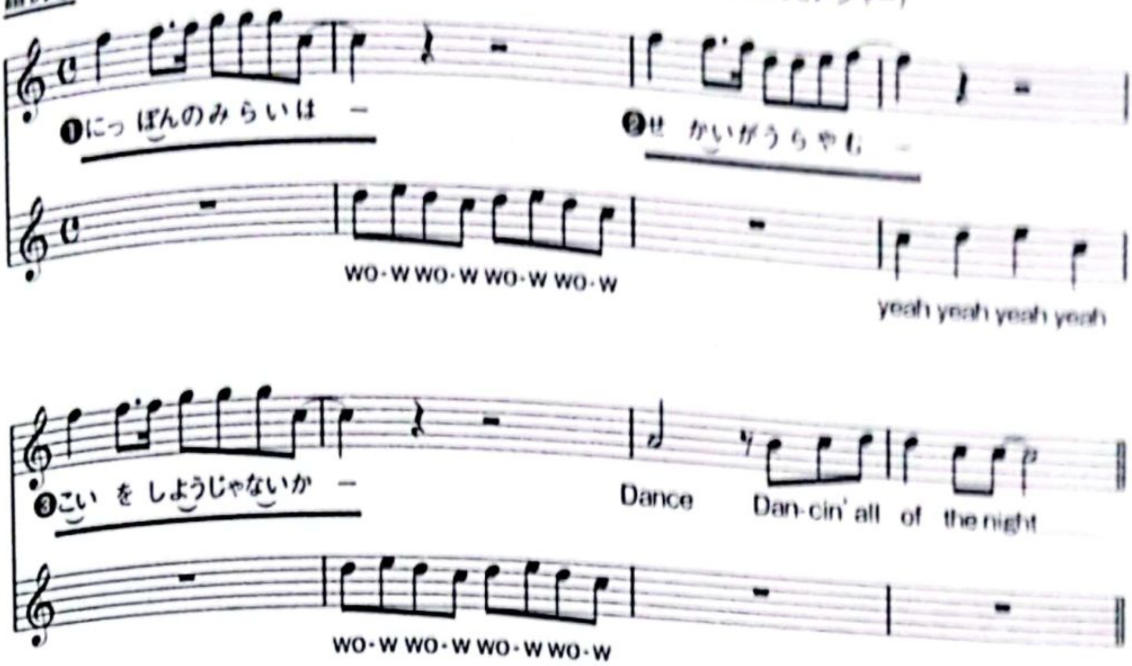
「LOVEマシーン」においても、この法則はしっかりと当てはまるようだ。

〈合いの手〉の意外な利便性

次に**歌詞Ⓐ**に注目してみると、一目瞭然、そこに構造的な特徴がある。

フレーズのほとんどが［前半／日本語］＋［後半／英語］のつくりになっているのだ。日本語部分に反復性はまったく感じられないが、あえて言うならば、1行目末尾〈は〉と、3行目末尾〈か〉が、共通の母音〈ア段〉でそろえられているという点のみ。

しかしこの曲には、なにやら別の大いなる反復性が潜んでいるような気配がする。それはいったい何か……。

譜例①　「LOVEマシーン」1番サビ……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はEメジャー）

歌詞Ⓐ　1番サビ／歌詞

日本の未来は	(wow wow wow wow)
世界がうらやむ	(yeah yeah yeah yeah)
恋をしようじゃないか！	(wow wow wow wow)
Dance!　Dancin' all of the night	

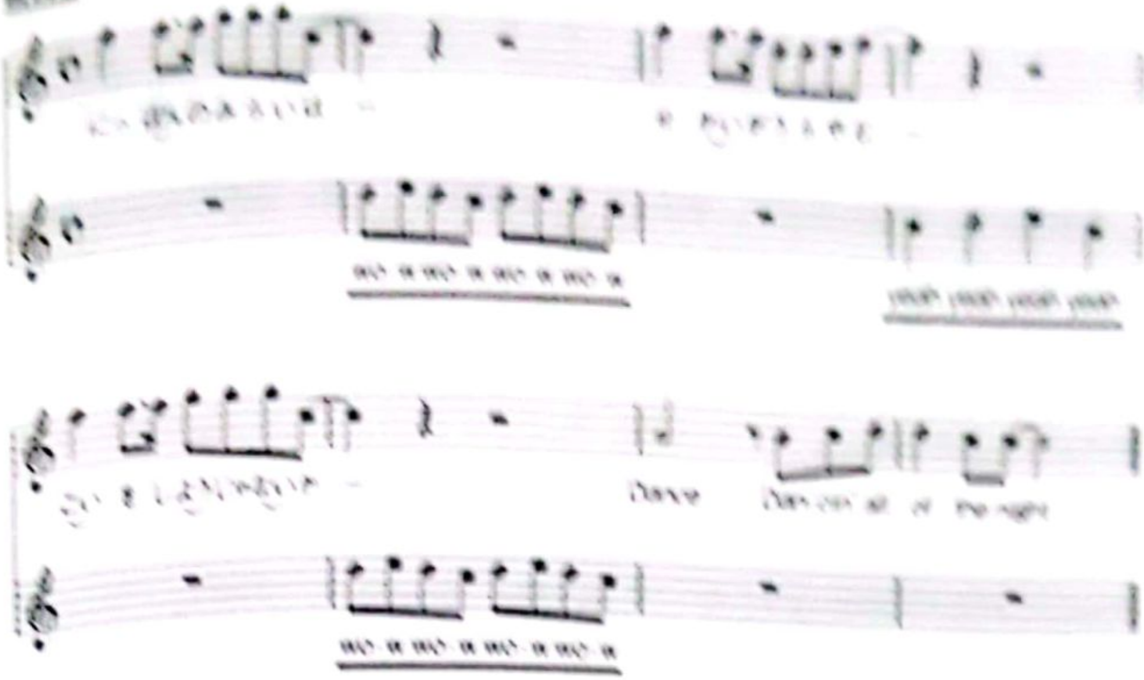
答えはズバリ……英語の《合いの手》の存在である！（譜例②）
なるほど、合いの手のフレーズは〈Wow〉〈Yeah〉という平易な単語で形成されているので、実に覚えやすい。
歌詞やメロディを完ぺきに覚えていなくても「この部分さえ覚えれば、すぐにこの曲に参加できちゃうわよ～。カラオケで必ずみんなと一緒に盛り上がれちゃうわよ～」と気軽な感じで誘われているような気分になってしまうのだ。
ということは、大胆に言ってしまうと、こういうことである。

心得 〈合いの手〉は音楽の《バリアフリー》

実験してみよう

ここで実験！
もし、合いの手の部分が英単語ではなく《日本語》だったらどのように聴こえてくるのだろうか？ **歌詞Ⓑ**の●●●●●●●●の部分に、適当な〈8文字の日本語〉を当てはめてみてほしい。
ふむふむ。情報量が増えてにぎやかな感じにはなったものの、なんだか散漫になり、覚えにくくなってしまった。
言葉の盛り込み過ぎは逆効果……確かそんなコトを「どんなときも。」の項で学んだはず。〈Wow〉や〈Yeah〉のように、簡単に口ずさめるフレーズであるからこそ参加意欲が高まり、すぐに盛り上がれるのだ。そしてテンションが上がり、ボルテージが上がり、酒が進むのである。
というコトで、酔っ払ったついでにワケもなく関西弁で叫んでみる。

☞〈合いの手〉ってメッチャお得やん～！

練習② 英語の（合いの手）の発音に注目

練習③ 【実践】流行る（4文字の日本語）をイメージしてみよう！

（日本語／合いの手）

日本の未来は ●●●●●●●●●

世界がうらやむ ●●●●●●●●●

恋をしようじゃないか！ ●●●●●●●●●

<例>
- みんなでつくろう
- みんなで頑張ろう
- すてきな将来
- 笑顔でオッケー
- あなたもわたしも
- いつでもハッピー

CamScannerでスキャン

主旋律と合いの手の反復性

しかし、よくよく考えてみると、この曲における〈反復性のあるキャッチーなフレーズ〉は、主旋律と合いの手の２種類が存在しているということになる(**歌詞Ⓒ**)。

なるほど、もう一度、譜面を見てみよう(**譜例③**)。

主旋律と合いの手の両者が、ほぼイーブンの関係で互い違いに登場している。そして両者が共に〈キャッチーな反復性〉をしっかりと担っている。これは、今までにないパターンだ。

ひるむ間もなく〈キャッチーなフレーズ〉が交互に畳み掛けてくるこの戦法……。次のように命名したい。

極意 22 〈主メロ＆合いの手〉ツートップ戦法

♫ ♫ ♫

ここで唐突ではあるが、前項で取り上げた「恋愛レボリューション21」に戻る。「LOVEマシーン」における〈合いの手〉のパンチ力には及ばないかもしれないが、「恋愛レボリューション21」でもメロディの隙間を埋めるように〈合いの手〉が盛り込まれていたことを覚えていらっしゃるだろうか？

ページをめくり返すのも面倒だと思うので、**譜例③**にメロ譜を再掲する。

そして、ここでまたしても実験開始！

もしも「恋愛レボリューション21」の合いの手が〈日本語〉だったとしたら!?

というワケで、**歌詞Ⓓ**の●●●●の部分に適当な言葉（例を参照）を当てはめてみてほしい。

んんん……なにやら一気に残念なムードが漂ってきた。曲のスムーズな流れが消滅、パーティ感が完全に損なわれてしまったようだ。**情報量が多く、覚えにくく**、これでは盛り上がりきれない。予想通り「LOVEマシーン」と同じ現象である。

やはり〈合いの手〉には**本来の役割を徹底的に演じてもらう必然性がある**のだろう。

そこに無理やり歌詞を当てはめる必要はない。

単純な〈合いの手〉のほうが利点は多い。

あらためて、そう感じる。

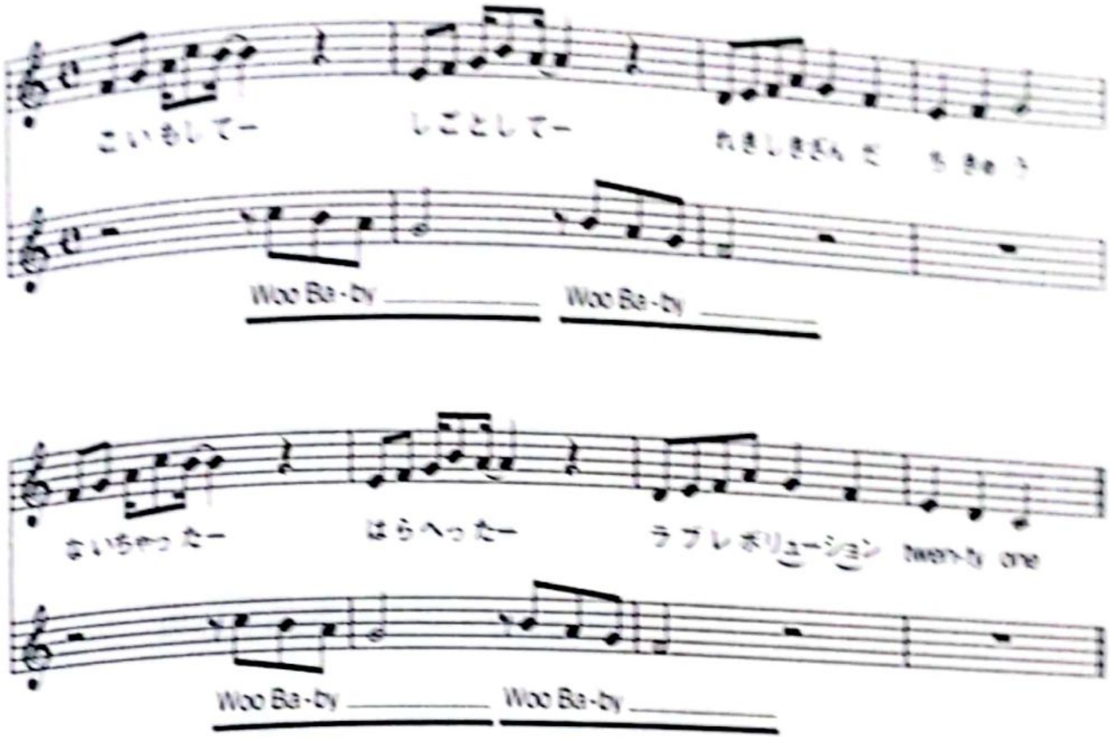
譜例② 反復性のある（2種類）のキャッチーなフレーズ

主旋律

❶日本の未来は～♫　❷世界がうらやむ～♫　❸恋をしようじゃないか～♫

英単語の合いの手

❶Wow～♫ x 4　❷Yeah～♫ x 4　❸Wow～♫ x 4

譜例③ 「恋愛レボリューション21」1番サビ……Key＝Cメジャーで記譜（原曲ママ）
作詞：つんく／作曲：つんく

歌詞④ 【実験】合いの手が〈英語〉ではなくて〈日本語〉だったとしたら？

		<例>
恋もして	(●●●●)	素敵な ／ ドキドキ
仕事して	(●●●●)	頑張った ／ 汗かいた
歴史きざんだ地球		
泣いちゃった	(●●●●)	フラれた ／ 一晩中
腹へった	(●●●●)	疲れた ／ 食べちゃえ
LOVE REVOLUTION 21		

CamScannerでスキャン

単純な〈合いの手〉の利点

- 何はともあれ〈覚えやすい〉&〈歌いやすい〉
- 反復性が生み出す〈グループ感〉
- ノリが良くなり、盛り上がる
- 参加しやすい(=バリアフリー)

〈合いの手〉は情報の簡素化を手伝うだけでなく、曲全体の潤滑油としての大きな役割も担っているようである。

§

以上のことから導き出される仮説。
サビのメロディ作りで悩んでしまったら→〈合いの手〉に逃げればよい!
もとい……(仕切り直し)。

サビのメロディ作りで悩んでしまったら→〈合いの手〉を盛り込むべし!
モー娘をはじめ、AKBや坂道系のような〈大所帯グループ〉をイメージしてみることで、きっと〈合いの手〉のアイデアも広がり、作曲のモチベーションも上がるはずである。

心得 サビで悩んだときは"合いの手"~~でごまかせ~~を盛り込め

というワケで、この手法……前掲【極意22】のスピンオフ版として次のように命名することにする。

極意23 秘技〈合いの手まかせ〉の術

作曲プチQ&A　3

Q

作曲を学ぶには何から始めたらよいでしょうか？

A

作曲の原初形態は《モノマネ》！ つまり《学ぶ＝真似ぶ》。では何をどのようにマネすればよいのか……というと。

●名曲から真似ぶ《禁断のモノマネ作曲法》

1　名曲のコード進行を拝借
　→そこに《思うがまま》に別メロディを乗せてみる
2　名曲の譜割を拝借
　→そこに《全く別の音程》を当てはめてみる
3　名曲の歌詞を拝借
　→そこに《全く別のメロディ》を乗せてみる
4　有名アーティストになりきって声色のモノマネをしながら《即興でテキトー》に歌ってみる

真似しているうちに「いや、もっと別モノにしたほうがよいかも」と思いはじめたら、自分が気持ちよいと感じる方向にシフトすべし。そこからアナタの世界がはじまる！

CamScannerでスキャン

Lesson 07

「SAKURAドロップス」

宇多田ヒカル

……で大発見！

極意 24 〈韻を踏む/語感をそろえる〉＝〈安堵感〉の希求

｜作詞｜宇多田ヒカル　｜作曲｜宇多田ヒカル　｜編曲｜宇多田ヒカル&河野圭
｜発売｜2002年5月9日
｜演奏｜[illegible]

デビュー・シングルが〈宇多田現象〉を巻き起こす

アッパーなダンス・チューンが2曲も続いたので（しかもモー娘が2曲も）、BPMをぐっと下げてみよう。ここでご登場いただくのは、宇多田ヒカル姫の「SAKURAドロップス」である。

歌姫〈宇多田ヒカル〉。

その存在と活躍ぶりについては、私がここであらためて語る必要はないが、1998年12月9日に発売されたデビュー・シングル『Automatic/time will tell』は、その類まれなる歌唱センス、若干15歳での作詞作曲、バイリンガル、独特のミュージック・ビデオといった複合的な要素が相まって、その年の年末頃から世間をザワザワさせはじめていた。

「Automatic」のミュージック・ビデオは、MTVはじめ各局でオンエアされてはいたが、当の生身の本人がなかなか地上波に登場しなかったことから、飢餓感が飢餓感をあおり、ヴェールに隠されたその姿をなんとかテレビ・カメラに収めようと、当時彼女がパーソナリティを務めていたFM局に芸能レポーターが大挙して押し寄せ、朝のワイドショーなどで〈ついに宇多田ヒカルの姿をキャッチ！〉などとその模様が大仰に紹介されていたりもした。ラジオ出演するだけで大きなニュースになってしまったのだからスゴイとしか言いようがない。

さらには音楽雑誌だけでなく、一般週刊誌もこぞって特集を組むなどして、まさに《宇多田現象》といえる状態に発展。加熱したその異常な現象における〈日本国民の熱量〉は、それまでの常識をことごとく覆す記録的なアルバムの売上枚数に如実に反映されることになる。

1999年3月発売のデビュー・アルバム『First Love』……売上枚数700万枚！

かくいう私も、その宇多田現象に飲み込まれた一人であり、発売日当日の午前中、渋谷HMVに足を運んでアルバムを手に入れたのであった。

さて「SAKURAドロップス」。

この曲は、両A面シングル『SAKURAドロップス/Letters』として、2002年5月にリリースされた宇多田ヒカルの11枚目のシングルである。

2002年（平成14年）とは、どんな年だったのか？

- サッカーのFIFAワールドカップ、日韓共同開催
- 東京都千代田区が全国初の喫煙及び歩きタバコ禁止条例施行
- ノーベル賞初の日本人ダブル受賞（小柴昌俊/田中耕一）

・フリーター増加、社会現象に
・讃岐うどんがヒット
・映画『ハリーポッター』シリーズが大ヒット

〈韻〉と〈語感〉をさらに掘り下げる

メロディアスで美しいこの曲、タイトルに〈SAKURA〉の文字が入っているからといって、〈春の歌〉だと思い込んでしまうのは早計だ。まずは、しっかりと歌詞を読み込んでいただきたい。

さて〈この曲といえばココ！〉は、**譜例①**の冒頭2小節の部分であろう。ご覧のように、この曲のサビは〈**4種類の音型**〉で構築されていることがわかる。

音型❶は〈1小節単位〉の単純反復（末尾は別音）
音型❷は〈0.5小節単位〉のスライド反復

スライド反復が効果的に使用されているシンプルな構造ではあるが、何よりも特筆すべきは、**音型❸**と**音型❹**の〈**音域の高さ**〉である。

譜例①は、わかりやすくするためにAマイナー・キーで記譜してあるので、最高音は［G音］となっているが、原曲はGマイナー・キーなので、実際には［F音］である。

この［F音］という音……かなり高い！

今までの私自身の音楽史をたどってみても、レコーディング現場において、主旋律に［F音］が使用されている曲に遭遇した記憶はない。思い出す限りの上限はせいぜい［E音］。つまり「SAKURAドロップス」のサビ4小節目と8小節目のこの音は〈**まれにみる高音**〉であると言ってよい。

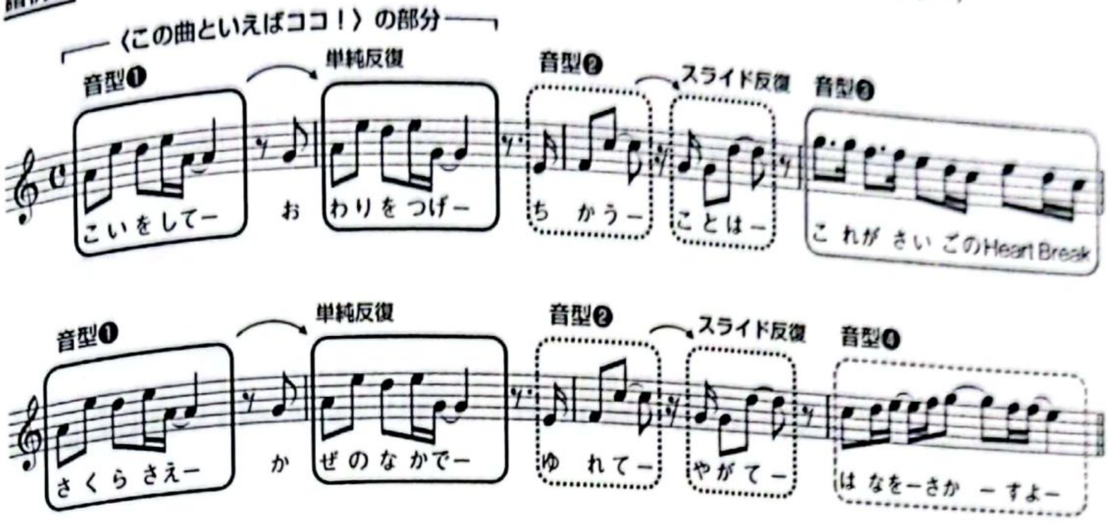
［F音］は一般女性のファルセット（裏声）でギリギリの音。ここに私は**緊張感**という〈**刺激**〉を感じずにはいられない。

というわけで。

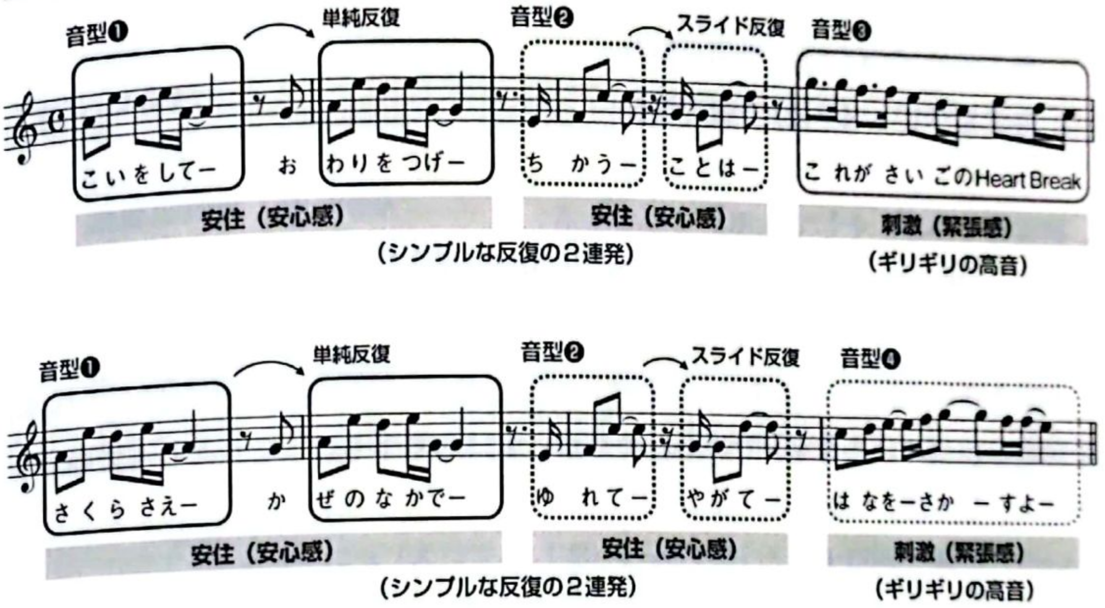
ここで「待つわ」の項で掲げたこの言葉を思い出してほしい。

極意 09 〈安住〉と〈刺激〉の共存

譜例①　「SAKURAドロップス」冒頭サビ……Key＝Aマイナーで記譜（原曲はGマイナー）



譜例②　〈安住〉と〈刺激〉の共存



名曲には〈安住〉と〈刺激〉が同居している。
「SAKURAドロップス」も例に漏れず、この法則の上に成り立っているのだ。
譜例②で、その構造とバランス感覚を存分に味わっていただきたい。

安住（安心感）＝シンプルな〈反復〉2連発
刺激（緊張感）＝ギリギリ感のある〈高音ファルセット〉

CamScannerでスキャン

語尾に注目

さて、ここからは譜例①&②の音型❶として登場した〈1、2、5、6小節目〉の4つのフレーズに着目してみる。これら4つのフレーズは、音型が同じであること以外にある共通点が存在するのだが、おわかりいただけるだろうか？

歌詞Ⓐで、これら4つのフレーズの〈語尾〉に注目してほしい。

各語尾は［て］［げ］［え］［で］……いずれも母音が〈エ段〉。つまり《韻》を踏んでいる状態である。

次に歌詞Ⓑで、1番サビを見てみよう。使用されている言葉の一部に変化が見られるが、こちらの各語尾も［て］［げ］［え］［で］……《韻》を踏んでいる部分は曲冒頭のサビと同じである。

さらに2番サビはというと……(歌詞Ⓒ)。

なるほどなるほど。各語尾は［い］［み］［り］［り］であり、母音はいずれも〈イ段〉。やはり《韻》を踏んでいる。

- **1番サビ →〈エ段〉で韻を踏む**
- **2番サビ →〈イ段〉で韻を踏む**

徹底している、そして仕事が丁寧である。

「いい仕事してますねぇ～」という誰かのセリフをそのまま真似したい！

〈韻を踏む/語感をそろえる〉ことは、パズルのピースを埋めてゆくような〈地味で地道な根気のいる作業〉ではあるのだが、実は作り手もけっこう楽しんでいたりするモノなのだ。

いや、正確に表現すると〈苦しみつつ楽しんでいる〉と言うべきか。

表現したいコトに合致する言葉がなかなか見つからず、辞書を引いたり、いろいろなアーティストの歌詞カードを手当たり次第にあさったり……。トライ&エラーの作詞の旅を経て、すべてのパズルのピースが埋まった瞬間のあの達成感と満足感は何とも形容し難く、勢い余って「自分って天才かも!?」と必ずや自画自賛してしまうのである。

察するに、この「SAKURAドロップス」の2番サビにおいて、［り］で終わる2つのフレーズを思い浮かべた瞬間、宇多田ヒカル姫は絶対にほくそ笑んだはずだ。この私なら、ほくそ笑むどころか、爆笑して、他人に歌詞を見せびらかして、大いに自慢し、褒めてくれた人にはきっとビールを奢っているに違いない。

歌詞Ⓐ 冒頭サビより抜粋

恋をし[て]
終わりを告[げ]
桜さ[え]
風の中[で]

歌詞Ⓑ 1番サビ

恋をして 全て捧げ
願うことは: これが最後のHeartbreak
桜さえ時の中で揺れて
やがて花を咲かすよ

↓

恋をし[て]
終わりを告[げ]
桜さ[え]
風の中[で]

歌詞Ⓒ 2番サビ

止まらない　胸の痛み
超えて　もっと君に近づきたいよ
一周り　しては戻り
青い空をずっと手探り

↓

止まらな[い]
胸の痛[み]
一周[り]
しては戻[り]

CamScannerでスキャン

なぜ〈韻〉を踏み、〈語感〉をそろえるのか

昨今の楽曲制作は〈曲先〉が主流であり〈まず曲が作られて→そのメロディに合わせて歌詞が作られる〉という手順が慣例的なので、作詞という行為は前述したようにまさにパズルのピースを埋めてゆくがごとく。

さらに言えば、メロディの譜割に基づく〈限られた言葉数〉という制約の中で、さまざまなコトを表現しなければならないので、その〈脳内労働量〉たるや半端ではない。

- **誰の視点で何を歌うか？（恋愛？　人生？　ハッピー？　アンハッピー？）**
- **登場人物のキャラ設定**
- **登場人物の相関関係**
- **シチュエーション**
- **物語展開**

これだけの情報を盛り込まなければならないにもかかわらず、なぜ作詞者は〈**韻を踏むこと/語感をそろえること**〉にこだわるのか。

答えは明白だ。

- **歌っていて気持ちがよいから**
- **聴いていて気持ちがよいから**
- **覚えてもらいやすいから**

人間とは単純な生き物である。

同じコトの繰り返しの中に〈心地良さ〉を見出し、そして〈安らぎ〉を見出す。手から離れていったモノが定期的に元の場所に戻ってくるあの感覚が好きなのだ。例えば、時計の長針が1時間ごとに必ずテッペンの〈12〉の数字の位置に戻ってくる……あの感覚。例えば、頭上高く放り投げたボールが、必ず引力で自分のもとに落下し戻ってくる……あの感覚。

韻を踏むという行動は、《安堵感》の希求なのかもしれない。

極意 24 | **〈韻を踏む/語感をそろえる〉＝〈安堵感〉の希求**

§

ポップスは、繰り返しの芸術。
〈メロディの繰り返し〉と〈歌詞の反復〉に**旨味成分**が潜んでいるのである。

Back Stage

「SAKURAドロップス」の最初の仮タイトルは意外や意外「椿山荘」だったとか（椿山荘をご存じない方はネット検索を）。ちなみに、2014年12月発売された著名アーティストによるカバー・アルバム『宇多田ヒカルのうた』では、井上陽水さんがオルケスタ・デ・ラ・ルスと共に「SAKURAドロップス」をカバーしている。この曲のヒットのおかげで「サクマドロップス」の売り上げに好影響が出たというのも有名な話……。

作曲プチQ&A 4

Q 作曲を学ぶには どのような曲をお手本にすべきでしょうか？

A

まずは本書で取り上げているレジェンド級の名曲の数々を徹底的に分析すべし！ヒット曲にはヒットの理由があります。とはいえ、作曲の教材は〈名曲〉だけにあらず。〈自分が好きになれない曲〉や〈食わず嫌いな曲〉が、意外にも《反面教師》になってくれる場合があるのです！

●反面教師からの学び方

「この曲にはあまり魅力を感じないなぁ」と思える楽曲に出会ったら、なぜそう思ったのかを考えるべし。

・〈自分の琴線に触れなかった理由〉はどこにあるのか？
・〈どんなメロディ〉だったら喜びを感じることができるのか？
・自分がリメイク（手直し）するとしたら、どこをどのように修正、補正、加工するか？

CamScannerでスキャン

第3章

反復の技法 ②

CamScannerでスキャン

Lesson 08

「三日月」

絢香

……で大発見！

極意 25	ジョン・ウィリアムズの法則
極意 26	中だるみ回避〈中継ぎ反復〉の術
極意 27	サビに必ず〈主張/強い意志〉を盛り込むべし
極意 28	キャッチーの〈三種の神器〉

｜作詞｜絢香　｜作曲｜西尾芳彦、絢香　｜編曲｜L.O.E
｜発売｜2006年9月27日
｜備考｜情報番組「未来観測 つながるテレビ＠ヒューマン」テーマ曲、au「LISMO」CMソング

この曲はヤバイ……

第3章はこの曲、絢香さんの「三日月」。

この曲を最初に聴いたときのことは、今でもはっきりと覚えている。

当時、私が勤務していた大手芸能プロダクションに絢香が所属してきたのは、2005年のこと。彼女はデビューに向けた準備を進める中で、CD制作のかたわら精力的にライブ活動を展開していた。認知度アップ＆絢香本人のスキルアップのためであろうと思われるが、それにしてもそのライブ本数の多さたるや、デビュー前の新人としては異例中の異例であった。

事務所のレッスン室で毎日のようにリハーサルを重ねる絢香。ビルのつくりが古いせいもあって、彼女の声量ある魅力的な歌声がよく漏れてきていた。

そのメロディが耳をかすめたのは、ある夏の日の午後……。一度聴いただけでは軽いジャブ程度だったが、その翌日のリハーサルで再びこのメロディに触れた瞬間、私は確信した。

「この曲はヤバイ……」

デビュー曲となる「I believe」は、この時点で既にレコーディングされており、情報解禁前の音源はもちろん試聴済みであったが、私の心は「I believe」よりも何よりも、タイトルもわからないその未発表曲にすっかりやられてしまったのである。

それが、この「三日月」だ。

サビの5〜6小節目

2005年9月27日、ライブハウス〈Shibuya O-WEST〉。この日の出演者は、SisterQ、アンジェラ・アキ、奥田美和子。そして、オープニング・アクトとして、デビュー前の〈絢香〉が登場。

やはり「三日月」は圧巻だった。

パフォーマンスの後、バックヤードで絢香に声を掛けた。

「この曲、絶対売れると思う。保証する。売れないワケがない！」
「え~そうですかぁ~。めっちゃ嬉しいです~」

私の興奮気味の声に相反して、控えめに応える彼女の関西弁のイントネーションが、今でも耳に残っている。

翌2006年2月、デビュー曲「I believe」で彗星のごとくJ-POPシーンに登場した絢香はたちまちセンセーションを巻き起こし、一躍人気アーティストとなる。

立て続けにシングルを発表し、同年9月27日、4thシングルとして「三日月」を発売。何の因果か、この日は奇しくもあの〈Shibuya O-WEST〉でのライブからピッタリ1年後。絢香はこの曲で、自身初のオリコン週間チャート初登場1位を達成することになる。

その勢いはもう止まらない。12月31日、第57回NHK紅白歌合戦に初出場し「三日月」を熱唱。紅白効果も手伝い、翌2007年にはオリコン年間カラオケ・チャート第1位を記録。

レッスン室でしか響いていなかったあのメロディは、気がつくと日本全国で鳴り響いていた。

思えば、本人に「この曲、絶対に売れると思う」と伝えたあの日、私はその理由を次のように力説したのだった。

「何がイイのかっていうとね……、サビの5～6小節目！
この部分が特に素晴らしい！」

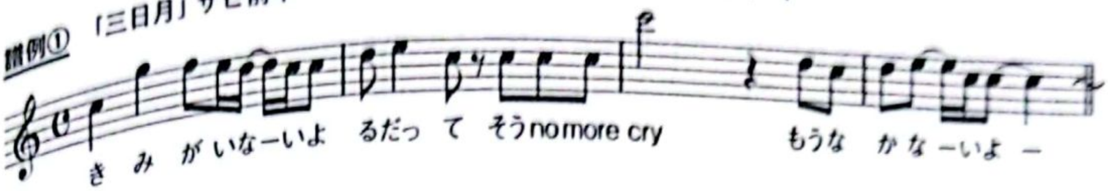
作者に対して上から目線で分析するのも無礼千万であるが、言われた当の絢香は「へぇ～、そうなんですねぇ～」くらいにしか思っていなかったようである。

実はこの曲は、絢香と西尾芳彦氏（当時の絢香のプロデューサー）の共作である。どの部分をどちらが作曲したのか、いまだ確認していないので、もしかしたら私が「イイね！」と指摘した部分は西尾さんが作られた部分かもしれない。よって、この曲への賛辞はお二人に贈らせていただくことにする。

ちなみに、この曲が発売された2006年（平成18年）とは、どんな年だったのか？

・表参道ヒルズがオープン
・第1回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）が開幕
・夏の甲子園で、早稲田実業〈斎藤佑樹〉のハンカチ王子ブーム
・携帯電話の番号ポータビリティ制度開始
・任天堂『Wii』発売
・フィギュア・スケート荒川静香の得意技〈イナバウアー〉が流行語に

譜例①　「三日月」サビ前半……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はDメジャー）



「三日月」の秘密

さて「三日月」のメロディ。

Aメロ～Bメロは、秋から冬にかけての冷んやりとした空気の匂いを連れてくる、そんな凛としたたたずまい。そしてサビに差し掛かった瞬間、芯のある力強い歌声の背後に〈壮大な宇宙空間〉が広がってくる。

サビ前半のメロディを書き起こしてみよう（**譜例①**）。

おや、今までと少し様相が異なる。

何かが違う。

〈音型の繰り返し〉が……ない！

2小節目と4小節目の音型は〈ほぼ近似値〉ではあるものの、聴感上の印象として〈反復感〉は希薄である。

今まで取り上げてきた曲では、必ずサビの前半部分に**何らかの繰り返し要素**が存在していた。しかし、この曲の前半においては、イヤーキャッチの常套手段である、いわゆる《単純反復》や《スライド反復》は見当たらない。

繰り返しがないということは〈覚えにくいメロディ〉というコトなのだろうのか？

いや、そんなことはない。〈繰り返し〉を施さないかわりに、きっとメロディ自体に**〈覚えやすくさせるための旨味成分〉**が入念に練りこまれているはず。それこそが、この曲を〈美味しく感じさせる〉要素……。

というワケで、この曲に隠されている〈旨味成分〉を探しに出かけるとしよう。

低い音から高い音へ

数行前、このメロディから受ける印象について、私は次のように書いた。

〈芯のある力強い歌声の背後に壮大な宇宙空間が……〉と。

いやがおうにも、このメロディは〈夜空〉を連想させる。歌詞に〈夜〉というワードが登場してはいるものの、それを抜きに考えても直感的にそう思う。

それはなぜか？

答えは……ジャジャン！

☞ 音の跳躍

譜例②を見てほしい。

サビ冒頭のフレーズにおける〈き〉から〈み〉への《音の跳躍》。

この［ド］から［ソ］へのメロディの上昇は〈視点の上方移動〉を想起させる。まさに首を上にもたげて、深遠なる夜空を仰ぎ見るようなイメージ……。

音の跳躍には〈エネルギーの大きな移動〉を伴う。低い音から高い音に移動する瞬間、一種の〈緊張感〉が走る。エネルギーの圧力が高まり、空気の振動数が増加。ゆるやかな状態〈＝弛緩〉から、一気に張り詰めた状態〈＝緊張〉へ。ゆえに音の跳躍は耳に残りやすい。

この《音の跳躍》にこだわっている超有名作曲家がいる。

その人の名は……、

☞ ジョン・ウィリアムズ

ハリウッド映画音楽界の超巨匠！

以下に挙げるのは、巨匠が手がけた世界的大ヒット映画の〈超有名テーマ曲〉。

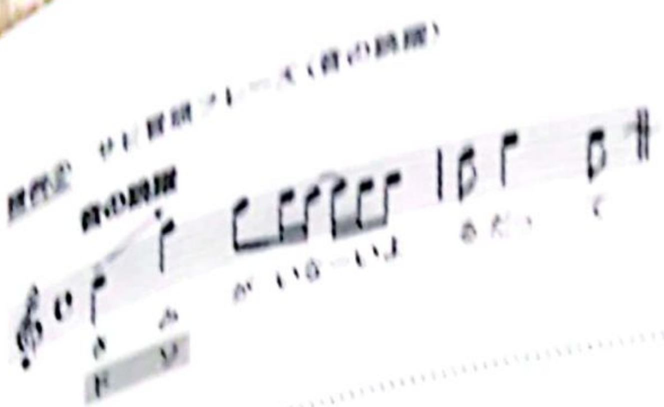
これらの曲をぜひとも脳内で、大音量で、そしてフルオーケストラで再生していただきたい。そこに共通して存在する音の跳躍がいかに〈黄金の味わい〉であるか、身をもって理解していただけるはずである。

- □ 映画『スター・ウォーズ』テーマ曲
- □ 映画『スーパーマン』テーマ曲
- □ 映画『インディ・ジョーンズ』テーマ曲
- □ 映画『E.T.』テーマ曲

おぉ～！

すべての曲の冒頭に跳躍フレーズが!!

CamScannerでスキャン



これぞ〈跳躍〉の大黒柱。

このほかにも「ジョーズ」「未知との遭遇」「ホーム・アローン」「ジュラシック・パーク」「シンドラーのリスト」「ハリー・ポッター」シリーズなど、誰もが一度は耳にしたことのある有名フレーズを世に送り出してきたハリウッドの超至宝〈ジョン・ウィリアムズ〉。

巨匠は「これでもか！」とばかりに音の跳躍を多用する。

なぜ多用するのか？ それはズバリ、

☞　**キャッチーだから！**

これ以外に答えはない。

ジョン・ウィリアムズは〈確信犯的〉に音を跳躍させているはず。

ゆえに私はこの跳躍のコトを勝手に、次のように呼んでいる。

> 極意 **25**
>
> **ジョン・ウィリアムズの法則**
>
> **低い音　→　高い音**
> **弛緩　　→　緊張**
> **音の跳躍は耳に残りやすい ＝ キャッチー！**

とはいえど、この跳躍はジョン・ウィリアムズの〈専売特許〉というワケではない。
時代を遡れば、そのルーツにいとも簡単にたどりつく。

クラシック曲……である。

譜例③と譜例④をご覧いただきたい。

例に挙げたのは、映画やTV-CMなどでもおなじみの有名曲「ノクターン第2番」「月の光」。偶然にもこの2曲、それぞれ〈夜〉と〈月〉がテーマではないか。考えてみれば、ジョン・ウィリアムズの曲も〈宇宙〉や〈空〉に関連するモノばかり。音の跳躍が〈夜空〉を想起させることに、もはや異論を挟む余地はない。

甘美なクラシック曲のDNAを受け継ぐ〈跳躍メロディ〉……。

夜空を想起させる「三日月」が美味しく聴こえる理由はこんなところにあったのだ。

音の跳躍《2連発》

さて「三日月」における〈ジョン・ウィリアムズの法則〉……これだけでは終わらない。あらためて譜例⑤でサビ前半のメロディを確認してみてほしい。注目すべきは、2小節目後半から3小節目にかけて……(下線部)。

出た～～っ、またしても跳躍だ！

まさかまさかの〈ジョン・ウィリアムズの法則〉の2連発！

野球に例えるなら2者連続の特大ホームラン！ 夜空に架けるアーチの如し。

前述したように「三日月」サビ前半には〈単純反復〉や〈スライド反復〉は仕込まれていない。しかし、その代わりに音の跳躍という大技を《2連発》で繰り出すことによって、聴き手の心をギュッとつかつかむことに成功しているのであった。

心得 音の跳躍は耳に残りやすく〈印象度〉を高める

《中だるみ危険地帯》の歩き方

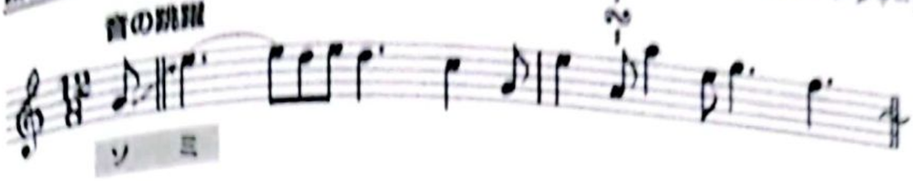
すっかり、《ジョン・ウィリアムズの法則》で盛り上がってしまったが、本項で私が最も伝えたかったポイントは、実は別なところにある。

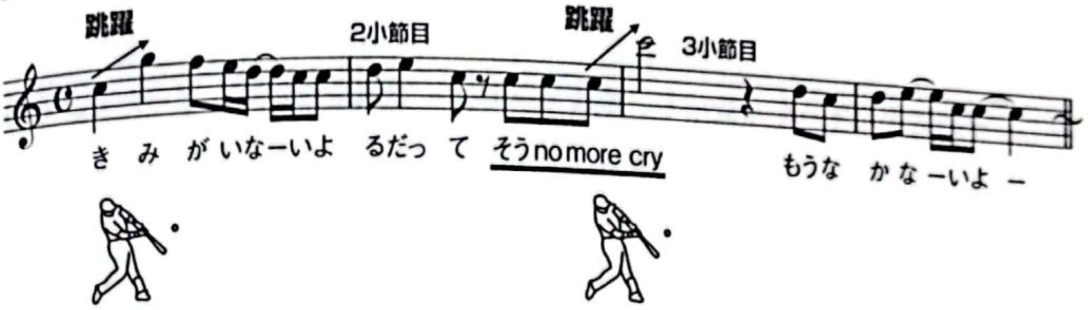
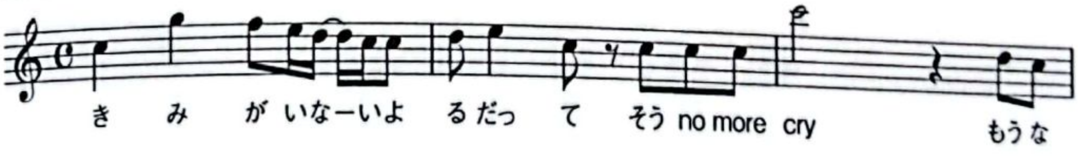
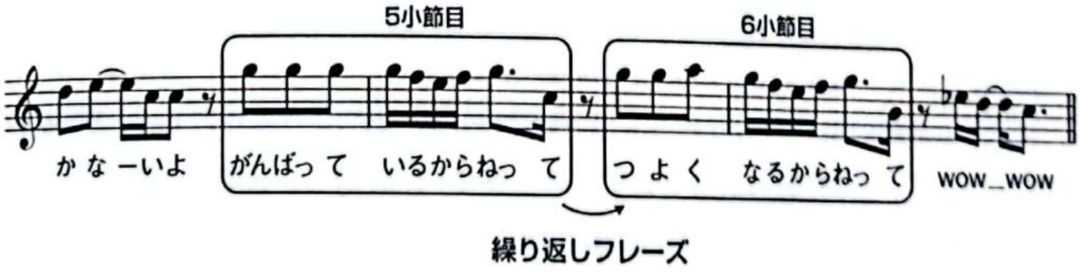
私が絢香に力説した〈あの言葉〉を思い出してほしい。

「何がイイのかっていうとね……、サビの5～6小節目！
この部分が特に素晴らしい！」

サビの5～6小節目……いったい何が素晴らしいのか？

譜例⑥をじっくりとご覧いただきたい。

譜例③ 「ノクターン第2番」ショパン……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はE♭メジャー）

譜例④ 「月の光」ドビュッシー……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はD♭メジャー）

譜例⑤ 〈ジョン・ウィリアムズの法則〉の２連発

譜例⑥ ５～６小節目界隈で、ついに〈繰り返しフレーズ〉が登場！



CamScannerでスキャン

この曲のサビ前半では一切登場しない《繰り返しフレーズ》が、5～6小節目界隈に達したところで、ついに満を持して初登場する。上下移動は微妙に異なるが〈同じ音型の繰り返し〉の構造であると言える。つまり大きくとらえて《単純反復/味変の術》！

私の個人的見解としては、この曲のサビの成功のカギは〈この界隈に集約されている〉と信じて疑わない。そこまで言い切るのには大いなる根拠がある。

作曲に勤しんでいる方ならご理解いただけると思うが、サビの作曲において最も〈中だるみ〉しがちなエリアが、実はこの界隈なのだ。私はこの界隈のことを自戒の念を込めて**中だるみ危険地帯**と呼んでいる。

もちろんこのエリアの様態は、曲の構成によって大きく異なる。例えば、主役級の2つのメロディに挟まれた地点であったり、〈この曲といえばココ！〉の直後の地点であったり……。

「三日月」に関していえば、〈冒頭5小節目以降のエリア〉というコトになる。

では《中だるみ》とはいったいどういう状態を言うのだろうか？

例えば、サビ冒頭に超キャッチーなメロディを生み出すことができたとする。しかし、そのことにすっかり安堵し、直後のメロディで気を抜いてしまったり、その場しのぎの惰性的な存在感の薄いメロディなどで間に合わせてしまったりすることが多々ある。……これが《中だるみ》である。

この《中だるみ》が原因で、サビの魅力を半減させてしまっている残念なケースによく出くわす。料理に例えて言うと、メイン・ディシュの〈ステーキ〉は抜群に美味かったのに、メインを引き立たせるべき〈付け合わせ〉が想定外の手抜き料理だったため、総体的に美味しく感じられなかった……というようなイメージ。

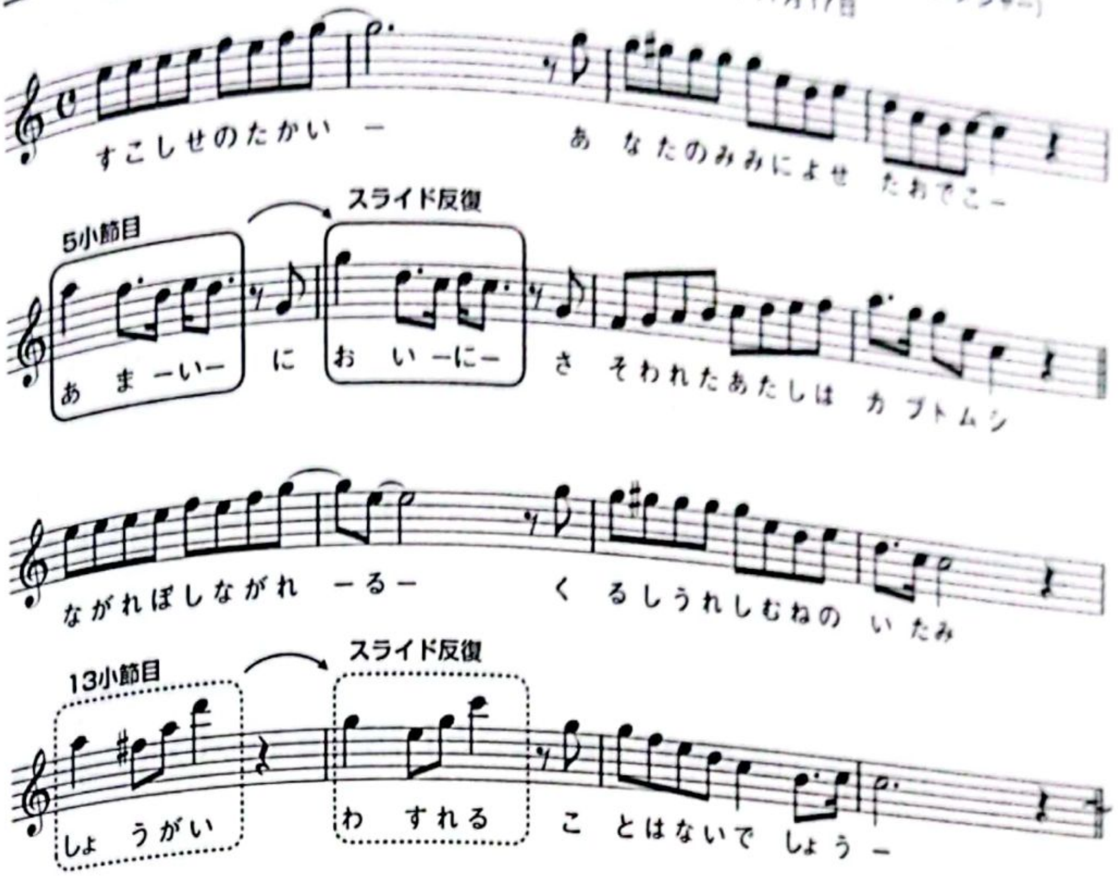
サビ全体の味わいを100%の状態に持っていくためには、この《中だるみ危険地帯》を慎重かつ丁寧に構築してゆくことがとても重要になってくる。

では「三日月」はいかにして《中だるみ》を回避しているのか？

ジャジャン……《繰り返しフレーズ》の起用である。

中だるみ危険地帯であるサビ5～6小節目界隈に《音型の繰り返し/反復》を施すことによって〈存在感のあるメロディの構築に〉に成功し、より魅力的なサビへと昇華させているのだ（前ページの譜例⑥参照）。

譜例⑦ 「カブトムシ」に登場する〈中継ぎ反復〉……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はE♭メジャー）
作詞：AIKO／作曲：AIKO／編曲：島田昌典／発売：1999年11月17日



今までご紹介した楽曲において、繰り返しフレーズというモノは、ほとんど〈サビ冒頭〉に配置されていた。しかし、この形式がすべてではない。効果的な繰り返しは、サビ途中においても登場させることが可能。ピッチャーに例えて言うなら〈先発投手〉と〈抑えの切り札〉の間に登場する〈頼もしい中継ぎ投手〉のような存在。

というワケで、この手法を次のように命名したい。

極意 26　中だるみ回避〈中継ぎ反復〉の術

♫　♫　♫

実は「三日月」と同じような構造の曲に、aikoさんの「カブトムシ」という超名曲がある（譜例⑦）。この曲、サビ冒頭部分に〈象徴的な反復フレーズ〉は登場しない。

しかし譜面に示したように、サビ〈5～6小節目界隈〉&〈13～14小節目界隈〉の中だるみ危険地帯において、実に印象的かつ効果的な繰り返しメロディ（スライド反復型）を登場させている。

実に見事な〈中継ぎ反復〉である。

主人公の《確固たる主張/強い意志》

話を「三日月」に戻す。

この曲の《中継ぎ反復》のフレーズには何らかの特徴がある……それは何か？

そう、お気づきの通り、メロディの《音型》が繰り返されているだけではなく、しっかりと歌詞の語感がそろえられ《韻》が踏まれているのである（**譜例⑧**）。

韻を踏む効果 →〈耳に残りやすい/覚えてもらいやすい〉。これは「SAKURAドロップス」で学んだ。

しかし。

「三日月」におけるサビの旨味は、この《繰り返し&韻》の2つの要素だけでは成立し得ない。もうひとつ〈ある要素〉が加わることで**《揺るぎないパワーフレーズ》の誕生へと繋がる**のである。

それは何か？ ジャジャン！

☞ 歌の主人公の《確固たる主張/強い意志》の明示

そうなのだ。

私は今まで数多くの講座やワークショップなどで、ことあるごとに説いてきた。

「サビでは必ず**《主人公の確固たる主張/強い意志》**を盛り込むべし！」と。

主人公の確固たる主張/強い意志 → つまり**《訴えかけ》**である。

極意 27　サビに必ず〈主張/強い意志〉を盛り込むべし

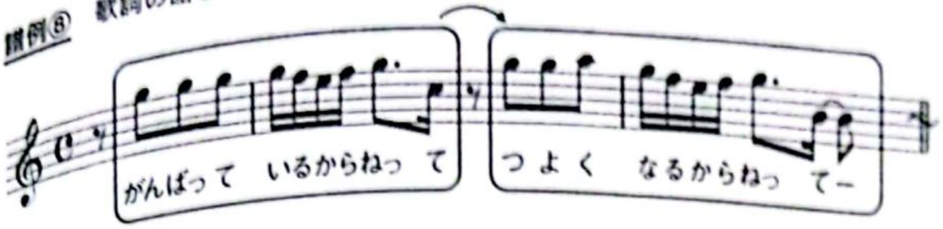
譜例⑨をご覧いただきたい。

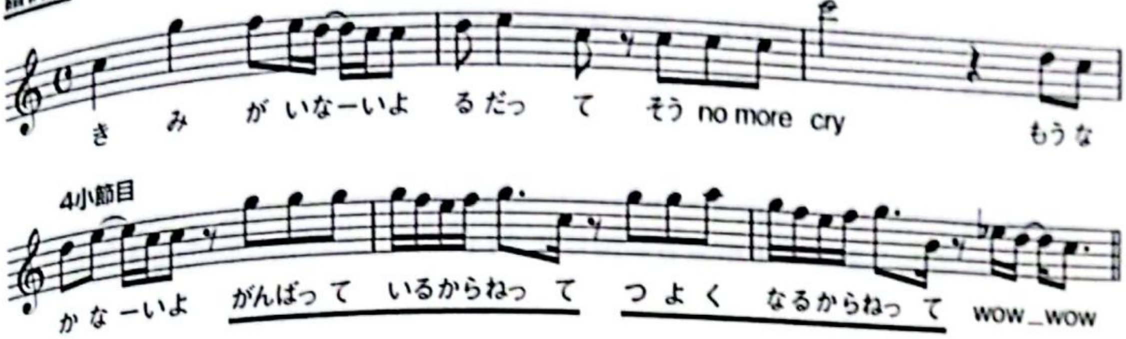
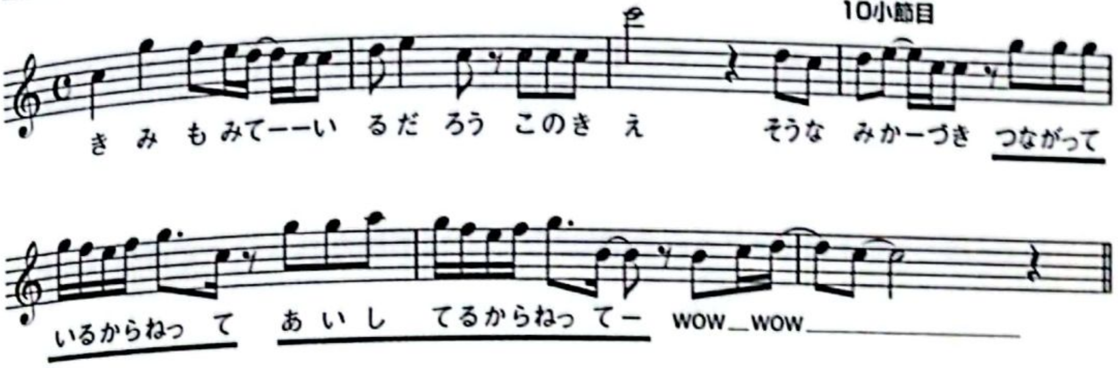
「三日月」における主人公の**《訴えかけ》**は、サビ〈4小節目後半～6小節目〉にかけて行われている（下線部）。

つまりこの歌で、主人公が一番強く訴えたい部分は〈ココ〉なのだ。

CamScannerでスキャン

譜例⑧ 歌詞の語感がそろえられ、韻が踏まれている〈中継ぎ反復〉



譜例⑨ 「がんばっているからねって」「強くなるからねって」＝【訴えかけ】

譜例⑩ 「つながっているからねって」「愛してるからねって」＝【訴えかけ】

そしてこの印象的なメロディは、サビ後半部分の〈10小節目後半～12小節目〉にもう一度登場する（**譜例⑩**/下線部）。

これぞまさに〈強い意思表示〉……。

この歌における**《最たる主張部分》**なのである。

CamScannerでスキャン

キャッチーの〈三種の神器〉

ではここで、サビ〈4小節目後半～6小節目〉&〈10小節目後半～12小節目〉における《中だるみ危険地帯》への対応策として評価されるべきポイントを整理してみよう。

評価されるべきポイント

【1】印象的な音型の繰り返し
→耳への訴えかけがある＝覚えやすい

【2】韻を踏む
→耳への訴えかけがある＝覚えやすい

【3】歌詞における《主人公の確固たる主張/強い意志》
→心への訴えかけがある＝残りやすい

これら3点を集約して、次のように命名したい。

極意 28

キャッチーの《三種の神器》

【1】効果的な繰り返し
【2】韻（語感をそろえる）
【3】心への訴えかけ（主人公の確固たる主張/強い意志）

この《三種の神器》は〈中だるみ危険地帯〉のみに適用されるワケではない。もちろん〈サビ冒頭部分〉などでの適用も可能。ぜひ、アナタのメロディ・メイキングに活かしていただきたい。

§

さて、サビ冒頭に反復フレーズが存在しない「三日月」における《旨味成分》を暴く旅……。さまざまな発見があった。

CamScannerでスキャン

「三日月」の旨味成分

- ▶ ジョン・ウィリアムズの法則/特大アーチ2連発
- ▶ 中だるみ回避〈中継ぎ反復〉の術
- ▶ キャッチーの〈三種の神器〉投入

強力な要素が〈3つ〉も存在している「三日月」のサビ、耳に残らないワケがない。名曲には名曲たる理由があるのだ。

CamScannerでスキャン

作曲プチQ&A 5

Q 割田さんにとって〈曲づくり〉とは？

A 曲づくりとは、知らない自分に出逢う旅。職業作曲家という仕事柄、自分の引き出しにないモノ（不得手なジャンル）をオーダーされることも多く、四苦八苦しつつもなんとか完成させるたびに「え!? 自分ってこんな曲も作れたんだ！」という新発見があり、それがちょっとした自信に。しかしその反面、困ったことに《過去の自分の作品》に驚かされることも多々あり「うわぁ今の自分にはあんなトンガった曲は作れんぞ！」と〈発想力の劇的な退化〉にうなだれることも。常に自分を超えていくしかないのが〈曲づくり〉。ライバルは過去の自分……!?

CamScannerでスキャン

第4章

メロディは変態を遂げる

CamScannerでスキャン

Lesson 09

「恋」

星野 源

……で大発見！

極意 29 | バタフライ変態

極意 30 | 中だるみ回避〈8分食い〉

極意 31 | 〈安住と刺激〉のハイブリッド

極意 32 | デザートは喜びである

|作詞|星野 源　|作曲|星野 源　|編曲|星野 源
|発売|2016年10月5日
|備考|TVドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」主題歌（出演：新垣結衣、星野源、ほか）

CamScannerでスキャン

カッティングのうまさに驚嘆

第４章のテーマは〈メロディは変態を遂げる〉。
フレーズ構築の裏側に潜む飽きさせないための工夫を暴いてゆこう。

ご登場いただくのはこの曲、星野源さんの「恋」。

2016年、TBS系ドラマ『**逃げるは恥だが役に立つ**』の主題歌として大ヒット。各音楽配信チャートにおいて連続１位などの新記録を次々と樹立。ドラマのエンディングで出演者が踊る〈恋ダンス〉は爆発的な人気を博し、有名人/一般人問わず投稿された〈踊ってみた動画〉が話題となり、若年齢層をも巻き込む〈社会現象〉へと発展した。当時小学３年生だった我が家の次男坊も、この踊りを完ぺきにマスターしたうちのひとりである。

実は前年の2015年秋、私はこの〈逃げ恥チーム〉のプロデューサー&監督陣が制作していたTBS系金曜ドラマ『**コウノドリ**』（第１シリーズ）にかかわっていた。当時、私がプロデュース&マネジメントを手掛けていたピアニスト清塚信也氏が、このドラマのテーマ曲および劇中曲を書き下ろし、劇中の綾野剛さんのピアノ指導を行い、さらには自ら出演も果たしていたこともあって、私の2015年秋はまさに「コウノドリ」一色なのであった。

このドラマ、主演の綾野剛さんをはじめ一流のそうそうたる顔ぶれが並んでいた。大森南朋さん、吉田羊さん、松岡茉優さん、そして１年後に大ブレイクを果たすことになる星野源さん……。

星野さんに『逃げ恥』への出演のオファーがあったのは、この「コウノドリ」の撮影終了後のことだという。

思い返せば、まさにクランクアップ直後の12月中旬、高視聴率で幕を閉じようとしていた『コウノドリ』の打ち上げが都内某所で盛大に催されたのだが、「オファーがあったのはもしかしてこの時に？」などと勘ぐってしまう。

そんなコトもつゆ知らず、打ち上げの中盤で星野さんがアコギ（ギブソンJ-45）をかき鳴らし、余興として弾き語りで、ご自身の当時の最新曲「SUN」を披露してくださったのだが、会場に響くその温かな歌声もさることながら、ギターのカッティングのうまさに驚嘆し、私は会場の片隅から〈お源さん〉のピッキングをマジマジと凝視していたのであった。

CamScannerでスキャン

さて、「恋」が発売された2016年（平成28年）とは、どんな年だったのか？

・『Pokémon GO』が国内外で人気爆発
・イチローが大リーグ通算3000本安打を達成
・漫画『こちら葛飾区亀有公園前派出所』が連載40年、単行本200巻で完結
・ボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞
・映画『君の名は。』『シン・ゴジラ』が大ヒット
・ピコ太郎の「PPAP」が世界的な人気に
・SMAP解散

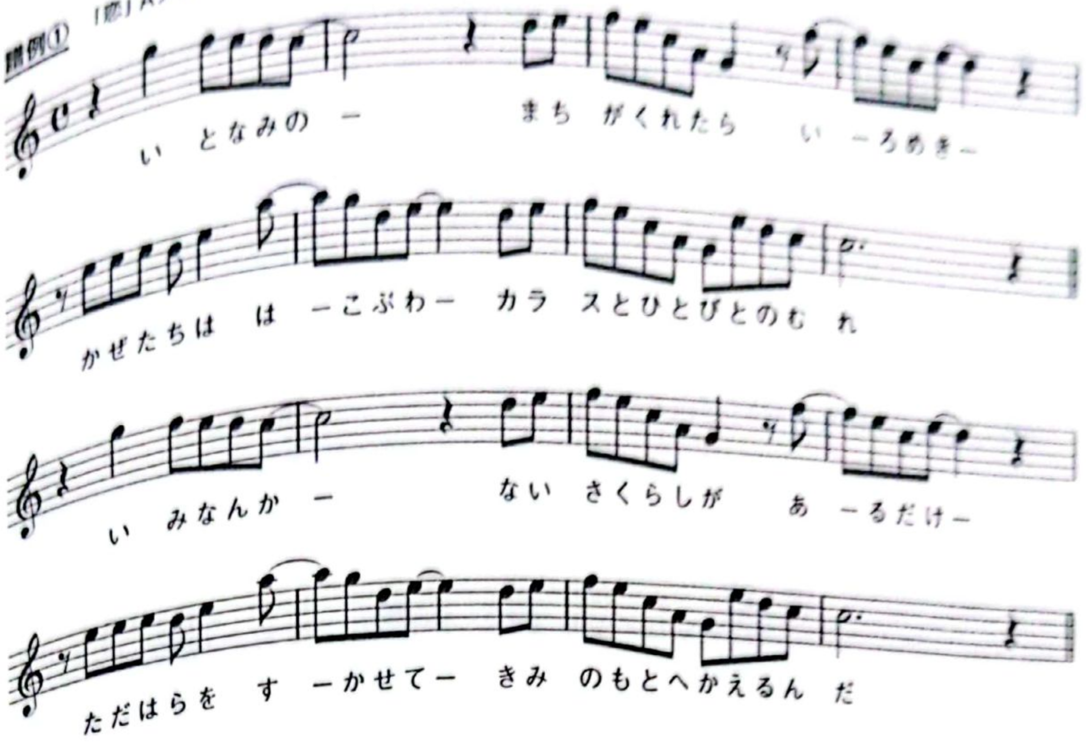
Aメロがすんなり体になじむ理由とは

この曲、年齢を超えてブームになっただけのことはあり、とても親しみやすい。この親しみやすさの理由はどこにあるのだろうか？
まずは**譜例①**で〈Aメロ〉にフォーカスしてみる。

正直なところ、メロディラインが平易であるとは言いがたい。似たような音型はいくつか散見できるが、これといった明らかな繰り返しフレーズは見当たらない。しかし、**すんなりと体に染み込んでくる**。違和感なくすっと体に入ってくる。
なぜだろう??
その謎を追究すべく、〈Aメロ〉を何度も何度も頭の中で反すうしてみた。そして、ひとつの仮説に行き当たった。
覚えやすい理由……それは**〈各フレーズの文字数〉**に潜んでいたのだ!!
早速、**歌詞Ⓐ**で検証してみよう。

なんとまぁ、〈5文字〉や〈7文字〉の多いこと多いこと！
これは俳句か？　川柳か？（P114の**歌詞Ⓑ**を参照）
日本語表現には〈五七調〉あるいは〈七五調〉のモノが圧倒的に多い。演歌をはじめ、宣伝のコピーや標語にも、この型が多く使われている。
千年以上も前から脈々と日本人のDNAに受け継がれている〈五〉と〈七〉のリズムは、とても不思議な存在だ。現代を生きる我々にとっても不動の親和性があり、無理なく心地よく、そして覚えやすく感じられる魔法のリズム……。

CamScannerでスキャン

譜例① 「恋」Aメロ……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はAメジャー）

歌詞Ⓐ Aメロ〈各フレーズの文字数〉

営みの → 5文字
街が暮れたら → 7文字
色めき → 5文字（＝いろめきィ）
風たちは → 5文字
運ぶわ → 5文字（＝はァこぶわ）
カラスと → 4文字
人々の群れ → 7文字
意味なんか → 5文字
ないさ暮らしが → 7文字
あるだけ → 5文字（＝あるだけェ）
ただ腹を → 5文字
空かせて → 5文字（＝すゥかせて）
君の元へ → 6文字
帰るんだ → 5文字

CamScannerでスキャン

なるほど。

「恋」のAメロの親しみやすさは、この**《五七調/七五調》**の活躍によるモノだったのである。

心得 〉親しみやすさの理由は《五七調/七五調》にあり

メロディラインの曲線美

音楽は〈起伏〉がなければ面白くない。

起伏とは時間経過（ヨコ軸変化）におけるメロディの上下移動（タテ軸変化）であり、〈起承転結〉や〈ワビ/サビ〉といった楽曲全体の構成に大きな影響を及ぼしてくる。

というワケで「恋」のメロディラインを強引にグラフ化してみた（図①）。

見事なまでの〈起伏〉である。

ワンコーラス全体を通して理想的な〈起承転結〉を描いていることがわかる。

このデコボコしているグラフをゆるやかな線で結び、視界をぼやかして見てみると、そこに〈曲線美〉が浮かび上がってくる。それはまるで週刊誌のグラビアで見目麗しき女性が浜辺に横たわっているかのような姿……にも見えなくない。特にBメロ付近は**くびれ部分**とも表現できる。

……などと調子にのって筆を滑らせると、セクハラで訴えられそうな気配なので、このへんにしておくが、このBメロの**くびれ部分**こそが、サビへの坂道を登る前の**《エネルギー充填区域》**の役割を担っているのだ。

心得 〉Bメロは〈サビ〉という坂道を登る前の
《エネルギー充填区域》である

ご覧いただけばおわかりの通り、「恋」におけるBメロは他のセクション（Aメロ&サビ）に比べて、平均的に〈音域〉が低い。低いということは、人間の姿勢に例えると腰を落として《かがんでいる》状態。つまり、サビへと大きくジャンプする前に《低くかがんで/力を溜め込んでいる》ということ……。

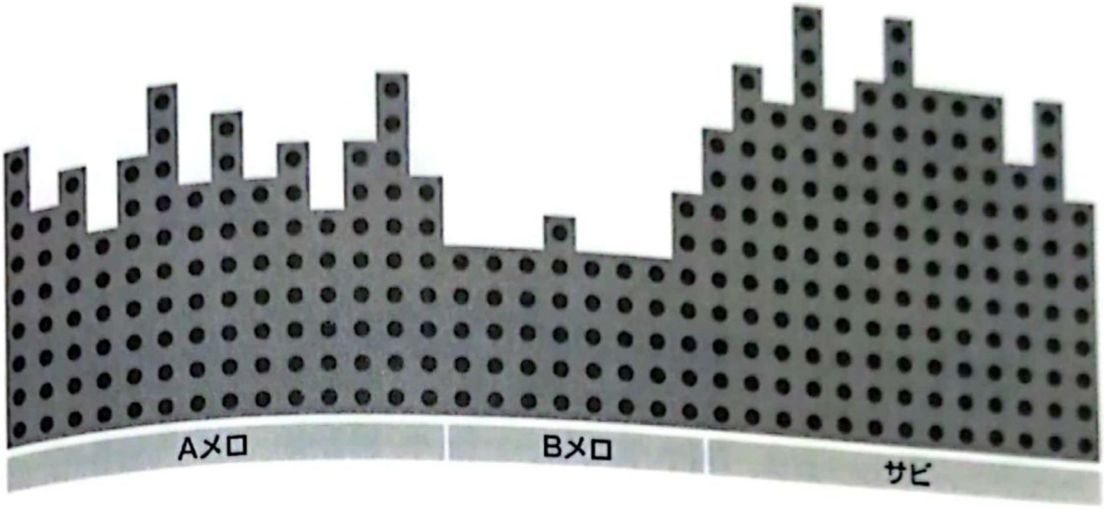
これぞまさに**サビの高揚感を予感させる完成度の高い〈上質なBメロ〉**であると言える。

歌詞① これは俳句か？ 川柳か？

営みの（5文字） 街が暮れたら（7文字） 色めき～（5文字）

意味なんか（5文字） ないさ暮らしが（7文字） あるだけ～（5文字）

図① 「恋」のメロディラインをグラフ化してみると……



繰り返しているようで繰り返していない……という印象

この「恋」も、今までの曲と同様に〈効果的な繰り返し〉が随所に施されている。どこがどのように繰り返されているのか？

まずは〈Bメロ〉部分を検証してみよう。

譜例②をご覧いただきたい。

Bメロの「1小節目～」「3小節目～」「5小節目～」の3つのフレーズ……。

似ているようで、似ていない。

いや、似ていないようで……似ている？

「これって、厳密には反復フレーズと言えないのでは？」

そう思われるのもうなずける。

しかし、**譜例③**をご覧いただきたい。このようにタテ軸に並べてみると《共通点》が見えてくる。各フレーズの冒頭4音の〈譜割〉に注目してほしい。点を打った箇所だ。

なるほど。

2小節単位の各フレーズの〈前半の音型〉は、ほとんど同じ。しかし〈後半の音型〉が異なっている。

つまりこの曲のBメロは、［前半/同音型］＋［後半/別音型］という《部分的に似ている3つのフレーズ》が順に登場する形で成り立っている。

〈繰り返しているようで繰り返していない〉という印象は、どうやら、この構造に起因していたようだ。

蝶の完全変態とは？

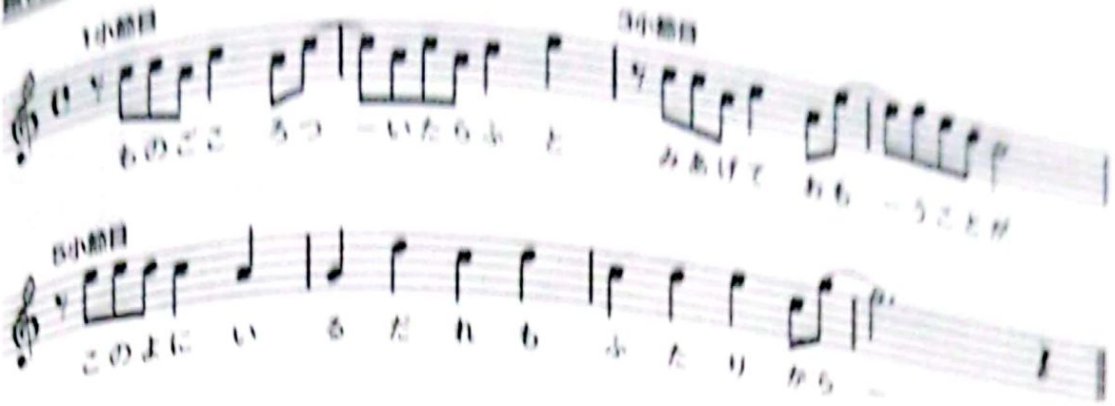
フレーズを反復させる過程の中で〈発展/進化〉させてゆく手法は「恋愛レボリューション21」で学んだ。そしてこれを〈ホップ→ステップ→ジャンプ〉の《反復三段跳び＝HSJ型》と命名した。

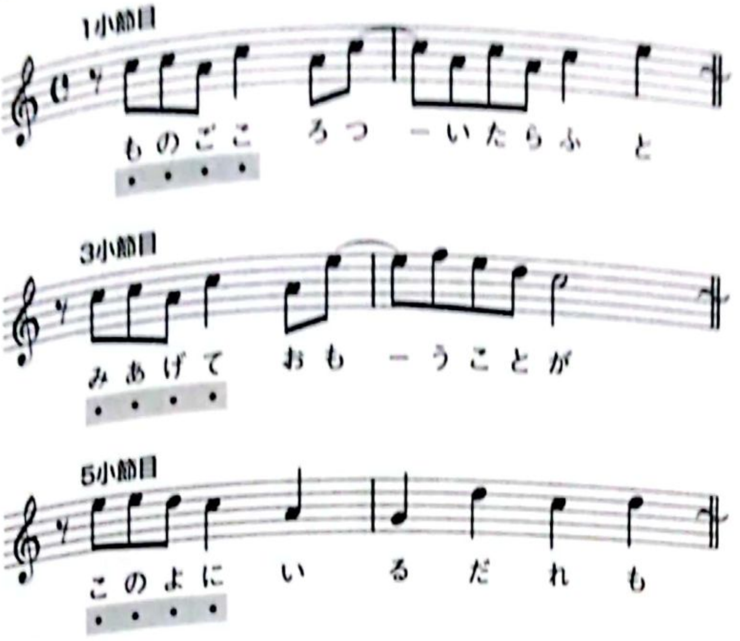
しかし「恋」のBメロにおける3つのフレーズは、なんらかの〈発展/進化〉を伴っているものの《HSJ型》の考え方には合致しない。

これは、斜め上をゆく新種の進化形態であると言えそうだ。

CamScannerでスキャン

譜例② 「恋」Bメロ

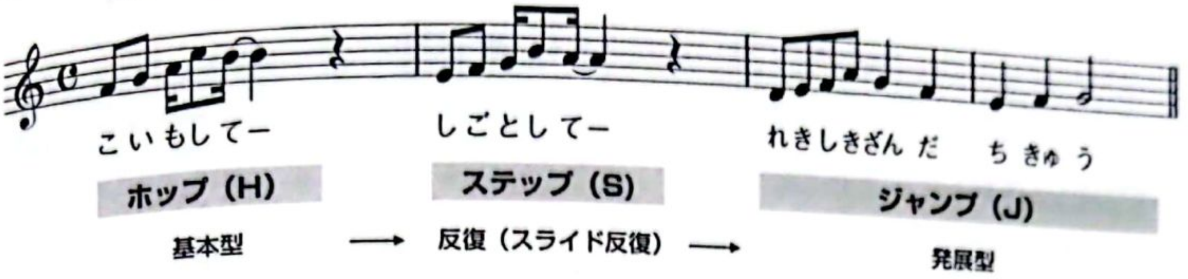
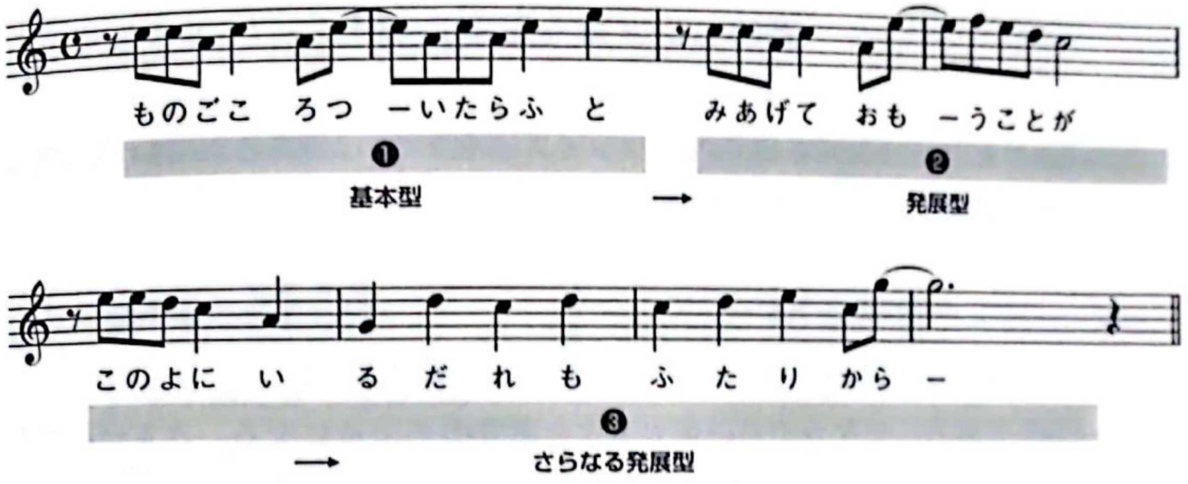
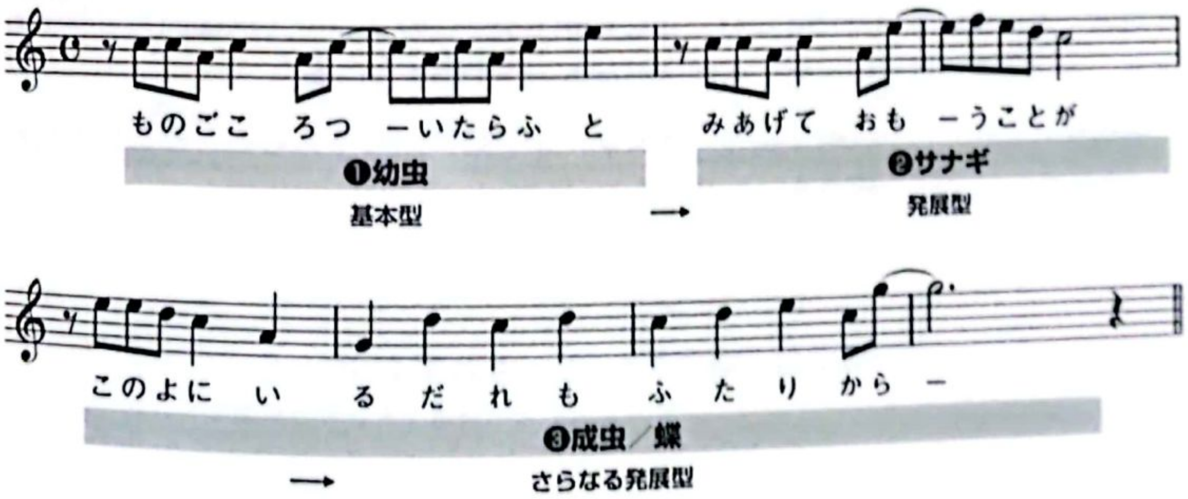


譜例③ 「Bメロ」各フレーズの〈共通点〉

CamScannerでスキャン

「恋愛レボリューション21」と「恋」の両者を譜例④と譜例⑤で比較してみよう。
双方とも、時間の経過と共にメロディが発展しているのがわかる。
あらためて「恋」のBメロの流れに注視していただきたい。
❶❷❸のフレーズは〈前半/同音型〉を保ちつつ、反復するたびに〈後半部分〉が徐々に変化している。例えて言うなら〔**幼虫→サナギ→成虫/蝶**〕と変貌を遂げてゆく《**蝶の完全変態**》の様相！（**譜例⑥**）。
それはあたかも、時の流れにおける〔**子供→少年→青年**〕の**成長物語**……。
というコトで、この手法、仰々しくも次のように命名したい。

極意29 バタフライ変態

いうまでもなく、変態とはそっちの意味での〈変態〉ではない。〈生物が成長過程で形態を変えること〉……あくまでも生物学的な意味合いでの〈変態〉であるので、そこはお間違えなきよう。
英語で記すと〈Metamorphose＝メタモルフォーゼ〉となるが、あまりにもカッコ良すぎてピンとこないので、本書では日本語表記《変態》で貫く所存。

譜例④　「恋愛レボリューション21」サビ＝〈HSJ型〉
作詞：つんく／作曲：つんく

譜例⑤　「恋」Bメロ＝〈❶基本型→❷発展型→❸さらなる発展型〉

譜例⑥　「恋」Bメロ＝〈❶幼虫→❷サナギ→❸成虫〉＝蝶の完全変態

CamScannerでスキャン

逃げるは恥だが、見逃すのも恥である!?

話はここで終わらない。

次にサビ前半のメロディをご覧いただきたい(譜例⑦)。

今までご登場いただいた名曲と同じく、これまた見本となるような素晴らしい〈繰り返し/反復〉がなされている。

繰り返し部分は〈2小節単位〉である。

❶基本型で始まり、次に❷単純反復+展開型が登場。

そして❸は歌詞が異なるが、❶基本型とまったく同じ。

というワケで、ここでまたしてもこの言葉の登場である。

☞ **美味しいメロも三度まで!**

この曲のサビ前半における繰り返しフレーズは〈三度〉に抑えられている。美味しいメロも三度まで、ここでも健在である。

話を元に戻す。

歌詞Ⓒをご覧いただきたい。……アナタは何かに気づくはず。

そう《韻》である。カタカナの母音で示すと**歌詞Ⓓ**のようになる。さすがお源さん、何の気負いもなくスラスラと《韻》を踏んでいらっしゃる!!

しかし、ここで見逃してはいけないコトがある。逃げるは恥だが、見逃すのも恥である(?)。

着目すべきはサビ4小節目……。

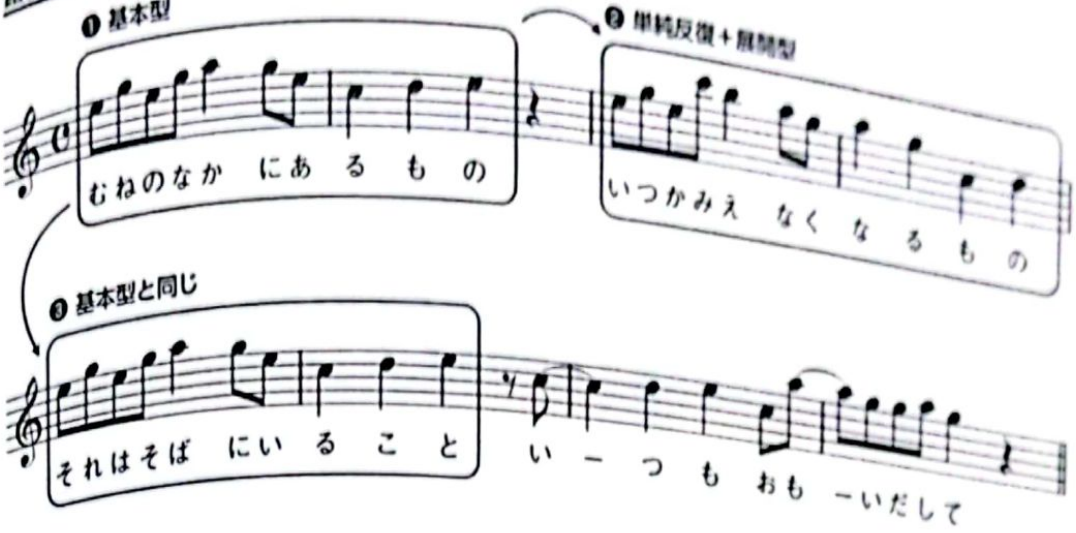
譜例⑧をよく見ていただきたい。ここに示した2つのフレーズはほぼ同じ音型であるが、実は2小節目に比べて4小節目のほうが〈i音〉だけ多い。

歌詞Ⓔでそれぞれの言葉を並べてみよう。文字数は異なるものの、そこに明らかな〈繰り返し/反復〉を感じる。なぜだ?

答えはただひとつ。

☞ **歌詞の《語尾》が統一されているから**

CamScannerでスキャン

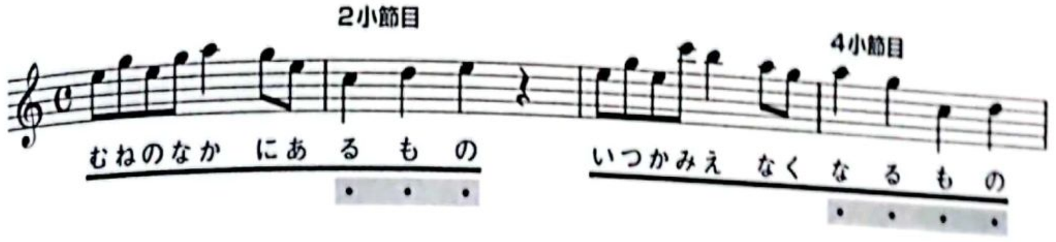
譜例⑦　「恋」サビ前半

歌詞Ⓒ　1番サビ前半部分（※傍点著者）

> 胸の中にあるもの
> いつか見えなくなるもの
> それは側にいること

歌詞Ⓓ　歌詞Ⓒの各末尾を（カタカナ母音）で示すと……

> あ[るもの] → ア[ウオオ]
> な[るもの] → ア[ウオオ]
> い[ること] → イ[ウオオ]

譜例⑧　サビ4小節目に注目



歌詞Ⓔ　サビ2小節目とサビ4小節目の文字数を比較

> 2小節目：胸の中にあるもの　　[10文字]
> 4小節目：いつか見えなくなるもの　[11文字]

歌詞Ⓔをすべて平仮名表記に直したのが**歌詞Ⓕ**だ。

なるほど……〈1文字〉の差異があるにもかかわらず、両者の語尾は〈~るもの〉でそろえられている。

この《**語尾/語感の統一**》が、繰り返し感を演出しているのであった。

心得 メロディの音符の数が異なっていても、〈語尾/語感〉をそろえる(または韻を踏む)ことによって、繰り返し感を与えることができる

目立たない工夫

さらに見逃してはいけないポイントがある。

譜例⑨の〈サビ7小節目〉をご覧いただきたい。

この7小節目のメロディの使用音は、直前の6小節目と同じ[ドレミ]であり、音型も〈ほぼ同じ〉である。

しかし、**ほんのわずかな違い**がある。

注目すべきは〈譜割〉……[い]の音が6小節目の終わりから〈前倒し〉で開始している。そう、お源さんは[い]の部分を《**8分音符で食った**》のだ。

この7小節目界隈は「三日月」の項で触れた《**中だるみ危険地帯**》である。気を抜いていると〈あたりさわりのない/無難で/ありがちな〉メロディにまとめてしまいそうになる超デンジャラス・ゾーン。

お源さんはきっと無意識に体が反応したに違いない。「ココは中だるみを回避すべく、何らかの仕掛けが必要な場面だ」と……。

ゆえに〈8分音符で食った〉のだ。

〈8分音符で食うこと〉によって、どれだけの効果があるのだろうか。

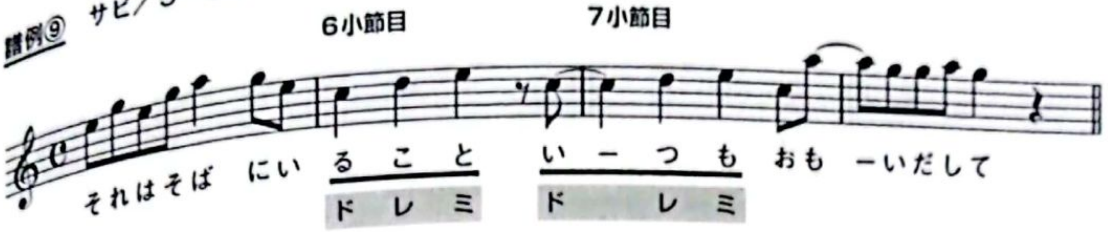
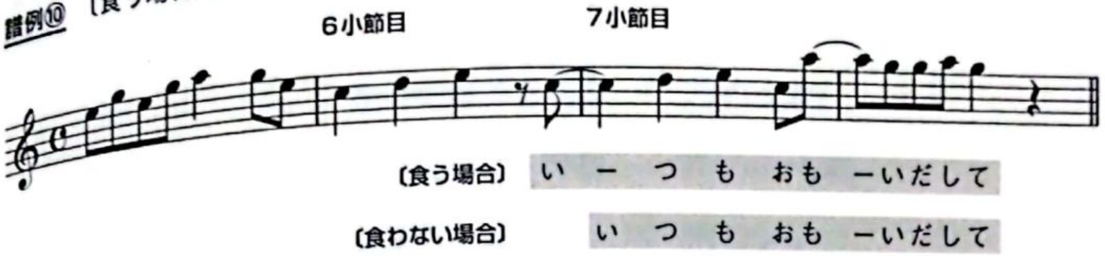
譜例⑩で〔食う場合〕と〔食わない場合〕をそれぞれ脳内プレイバックで比較していただきたい。

該当箇所のみを部分的に捉えると、大きな違いを感じられないかもしれないが、サビ冒頭から口ずさんでいただければ、そこに音楽的力学の〈妙味〉が生じていることを体感できるはず。

歌詞Ⓕ　ひらがなで文字数を比較（※傍点著者）

2小節目：むねのなかにあるもの　［10文字］

4小節目：いつかみえなくなるもの　［11文字］

譜例⑨　サビ／5～8小節目

譜例⑩　〔食う場合〕と〔食わない場合〕の比較

8分音符で食うことによりメロディの流れに〈刺激〉が与えられ→瞬間的に〈体感スピード〉が増し→よりいっそう〈耳にひっかかりやすいメロディ〉にバージョンアップ(進化)している。

これぞまさに《中だるみからの脱却》なのである。

極意 30　中だるみ回避〈8分食い〉

このような《目立たない工夫》の有無は、メロディの完成度に直結する。お源さんはやみくもに〈食っている〉のではない。〈8分音符で食うポイント〉および〈その効果〉を経験則的 or 本能的に十分に心得ていらっしゃるのである。

CamScannerでスキャン

なんと、サビもバタフライ変態

話はまだまだ終わらない。

次にフォーカスするのは〈サビ後半〉である（**譜例⑪**）。

まずは〈9～14小節目〉を見てみよう。基本構造は〈サビ前半部分〉と同様である。こちらの歌詞もしっかりと《韻》を踏んでいる（**歌詞Ⓖ**）。

ここでアナタは、あることに気がつかなければならない。

あらためて言うが〈逃げるは恥だが、見逃すのも恥〉……。

なんと、サビ後半で展開されていたのは、あの《バタフライ変態》だったのだ！

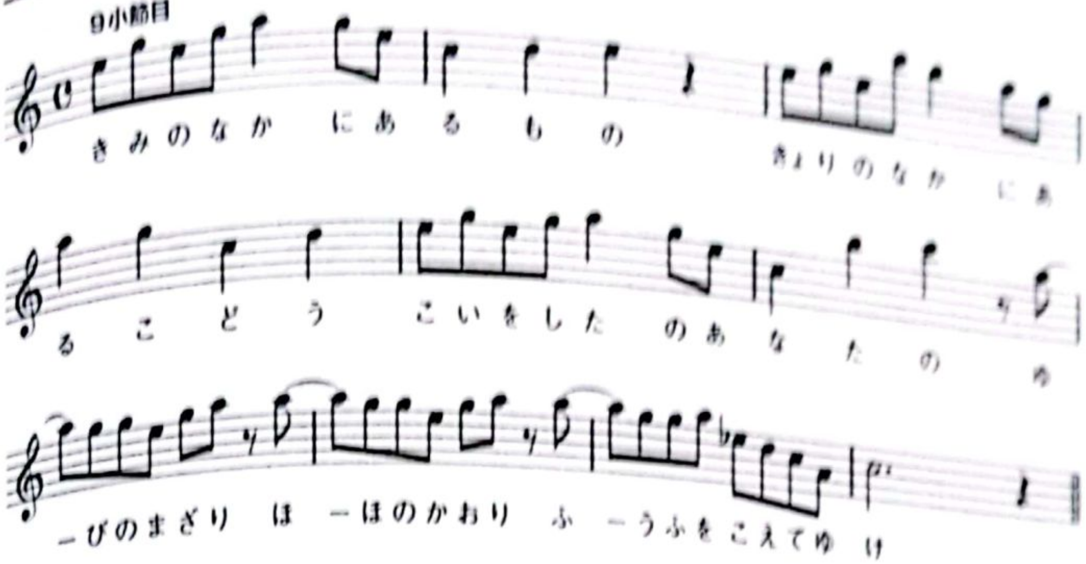
え!?

疑うのも無理はない。我々に目立たぬように、ひっそりと〈バタフライ変態〉は進行していたのである。

早速、**譜例⑫**で確認していただきたい。

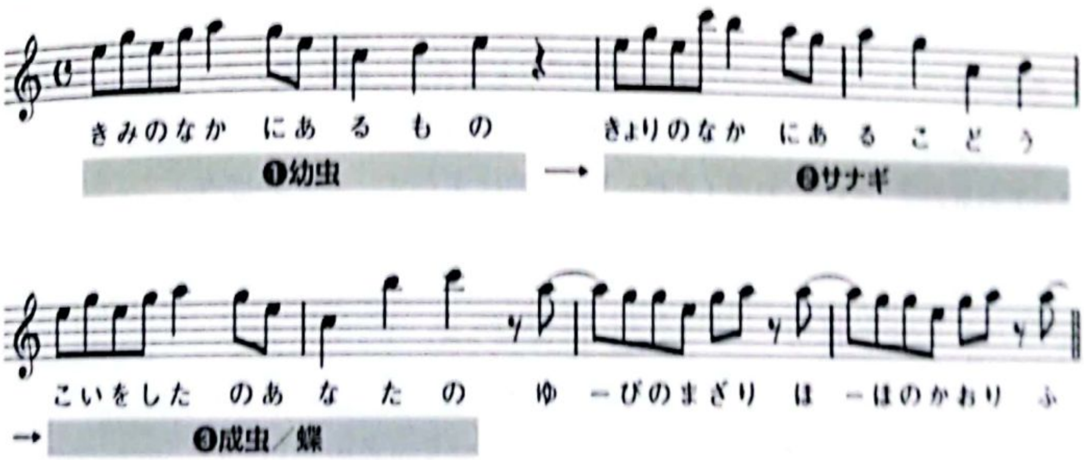
なるほど、まったく気がつかなかった。

「なんだか同じようなフレーズが繰り返されているなぁ～」という漠然とした印象はあったのだが、これぞまさに〈メタモルフォーゼ〉！

譜例⑪ サビ後半（9小節以降〜）

歌詞⑥ サビ後半（※傍点著者）

君の中に**あるもの** → ア［ウオオ］
距離の中に**ある鼓動** → ア［ウオオオ］
恋をしたの**貴方の** → ア［アアオ］

譜例⑫ サビ後半で展開する〈バタフライ変態〉



譜例⑬もご覧いただきたい。

各フレーズの前半部分は〈同音型＝安住〉、そして後半部分が〈別音型＝刺激〉。これが❶❷❸と展開されてゆく中で捲き起こる［高揚感＆上昇感］……。

これはまさに《安住と刺激》のハイブリッド！

飽きさせない工夫の〈極北〉ともいうべき匠の技！

〈適度な反復感〉＋〈適度な新鮮味〉という相反する旨味成分の同時提供に、実に見事なまでに成功しているのである。

極意 31

〈安住と刺激〉のハイブリッド

前半［同音型］	後半［別音型］
適度な繰り返し／反復感	適度な新鮮味／高揚感＆上昇感
《安住》	《刺激》

デザートは別腹であり、喜びである

話はサビ後半〈15〜18小節目〉へと移る。

ここにきて、今まで出てこなかった未知なるメロディ（音型）が満を持して初登場する。

これまでのサビにおいては「ココを覚えてください」と主張するいわゆる《主役的な反復フレーズ》が大きな存在感を示していた。

しかし、いくら主役級といえども、何度か繰り返されるうちに鮮度を失ってしまう。「そろそろ飽きてきたかも」「このまま予定調和的に終わるのかな」という想いがチラっと脳裏をかすめようとしたまさにその瞬間、救世主の如き現れたニューフェイス！（譜例⑭）

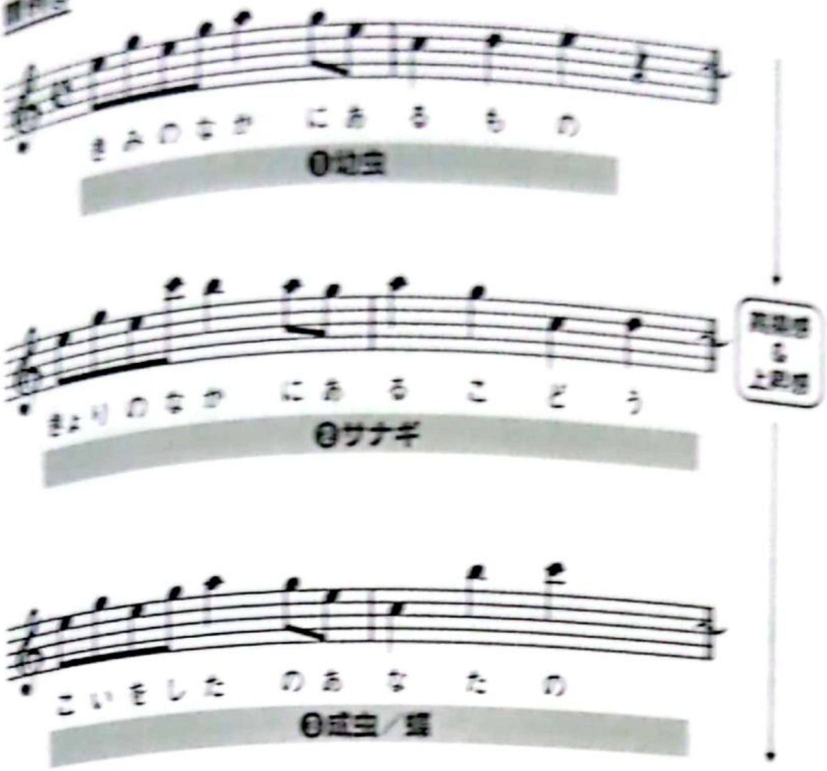
私はこのニューフェイスのことを《デザートくん》と呼んでいる。ここに至るまでに一切登場してこなかった新たな味わい。主役級のフレーズとは性質を異にするとっておきの味わい。これを〈デザート〉と呼ばずして、何と呼ぼう。

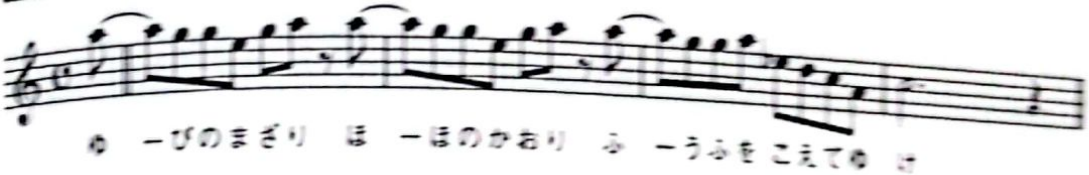
極意 32

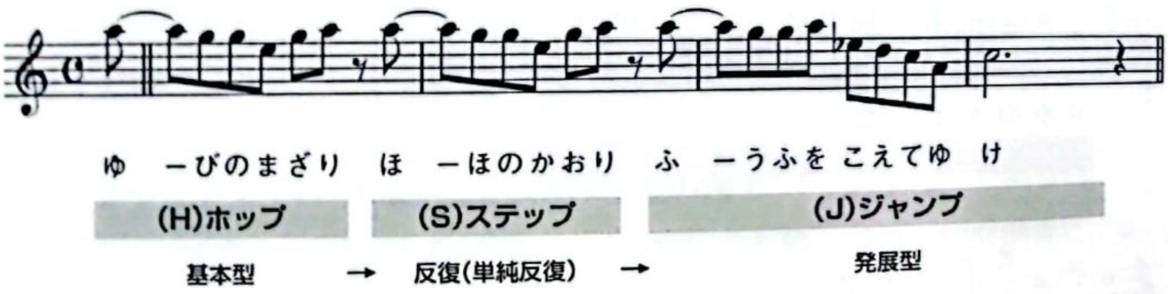
デザートは喜びである

→ それまで一切登場してこなかった〈新たな味わい〉
→ 最後の最後に登場する〈とっておきの味わい〉

CamScannerでスキャン

譜例⑬ 前半（同音型＝安住）＋後半（別音型＝刺激）

譜例⑭ 突如現れたニューフェイス



譜例⑮　「恋」のデザートは〈HSJ型〉

デザートは別腹であり、そして喜びの存在……。

ちなみにこの曲におけるデザートは〈単純反復〉とその〈発展型〉で成り立っている。というコトは、つまりは《HSJ型》！（譜例⑮）

この曲、最後まで抜かりがない。

§

抜のオンパレード……「恋」。

力まずにさらりと美味しく味わえてしまうメロディの裏側に、これほどまでに〈飽きさせない工夫〉が潜んでいたとは驚きである。

- ▶ 効果的な繰り返し＆バタフライ変態（サビ＆Bメロ）
- ▶ 中だるみ回避〈8分食い〉
- ▶ HSJ型のデザート

食べ残すところのない珠玉のメロディライン。

大変ご馳走さまでした！

休憩
intermission

サビ直前のキモ

―2タイプの弱起/メロディ界の〈助演男優賞〉―

「硝子の少年」

Kinki Kids

|作詞|松本 隆
|作曲|山下達郎
|編曲|山下達郎
|発売|1997年7月21日

「瞳をとじて」

平井 堅

|作詞|平井 堅
|作曲|平井 堅
|編曲|亀田誠治
|発売|2004年4月28日

「おどるポンポコリン」

B.B.クィーンズ

|作詞|さくらももこ
|作曲|織田哲郎
|編曲|織田哲郎
|発売|1990年4月4日

CamScannerでスキャン

有名曲の〈とある共通点〉

息つく間もなく、ここまで進めてきた。
歌モノ楽曲には〈間奏〉が必須……歌い続けていては息がもたない。

心得〉窒息防止の〈ブレスポイント（酸素吸入地点）〉を確保せよ！

というワケで、ここで〈箸休め的〉コーナー。
……といいつつ、間髪入れず、突然の質問！

【問】 次の3曲の共通点を挙げよ

①「硝子の少年」KinKi Kids
②「瞳をとじて」平井堅
③「おどるポンポコリン」B.B.クィーンズ

いずれも超ヒット曲である。共通点はいくつも思い浮かぶ。

- ヒット・チャート1位を記録した大ヒット曲
- 累計100万枚以上を売り上げた作品
- カラオケの定番曲
- 作曲者が男性

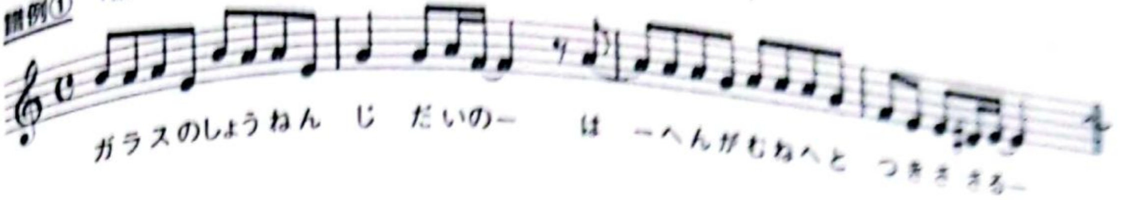
すべて正解である。しかし〈音楽的な共通点〉となると、首をかしげてしまう。
サビのメロディを並べてみよう。譜例①②③をご覧いただきたい。

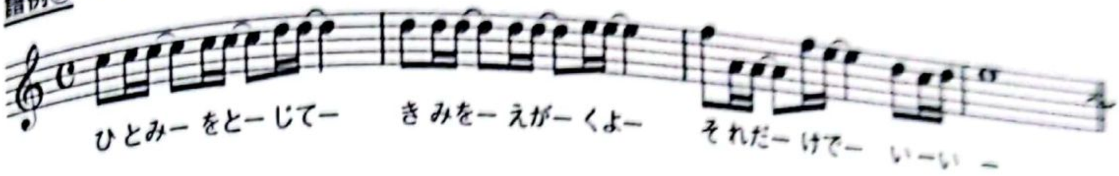
なるほど。3曲のサビ冒頭は言わずと知れた超有名な〈パワーフレーズ〉。そして言うまでもなく、これらのフレーズは《効果的に反復》されている。以下の考え方を堂々と見せつけられている感じだ。

心得〉ポップスのキモは〈効果的な繰り返し〉にあり

心得〉反復フレーズはヒット曲における〈最低限の作法〉

CamScannerでスキャン

譜例①「硝子の少年」……Key＝Aマイナーで記譜（原曲はEマイナー）

譜例②「瞳をとじて」……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はE♭メジャー）



譜例③「おどるポンポコリン」……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はEメジャー）

これら３曲における〈反復の作法〉の存在は、なにもサビ部分に限ったことではない。いずれの曲も〈Aメロ～Bメロ～サビ〉の流れの中で、実にシンプルかつ有機的になんらかの〈反復〉が展開されている。本来であればそのすべてを解説したいところだが、紙面の都合もあるので割愛させていただく次第。ぜひアナタ自身の目と耳で検証していただきたい。

♫　♫　♫

なにはともあれ、これらの曲のサビにおいて〈効果的な繰り返し〉が施されている、ということだけは理解できた。

しかし……これが今回の質問に対する正確な答えであろうか？

いや、きっと違う。ひねくれた思考法を推奨している本書が、そんな安易な回答を許すワケがない。

CamScannerでスキャン

答えはコード進行か？

硝子の少年　：　Am　-　Dm　-　G7　-　C△7 / E7
瞳を閉じて　：　F△7　-　G(onF)　-　Em　-　Am
おどるポンポコリン　：　C　-　Am　-　F　-　Gsus4

いや違う……見事にバラけてしまっている。さらに言えば、譜割も違う。BPM(テンポ)も異なる。むむむ。
〈サビにおける効果的な反復〉という答え以外に、いったいどんな答えがあるというのだろうか？

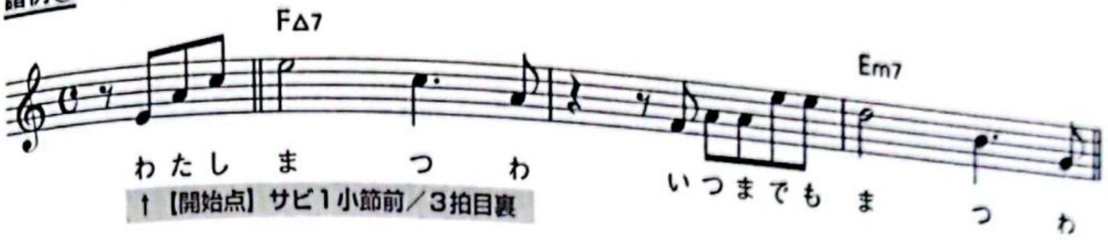
メロディの開始点

ではここで、一旦、質問から離れて、唐突ではあるが《メロディの開始点》というモノについて考えてみたい。
一般的にメロディは〈小節の1拍目〉ないしは〈2拍目〉から始まることが多い。では、これまで本書でご紹介してきた曲の〈サビのはじまり方〉はどのようになっていたのだろうか？

サビのメロディ開始ポイント

「どんなときも」　＝サビ1小節目〈1拍目〉
「ラブ・ストーリーは突然に」　＝サビ1小節目〈1拍目〉
「真夏の果実」　＝サビ1小節目〈1拍目8分裏〉
「恋愛レボリューション21」　＝サビ1小節目〈1拍目〉
「LOVEマシーン」　＝サビ1小節目〈1拍目〉
「SAKURAドロップス」　＝サビ1小節目〈1拍目〉
「三日月」　＝サビ1小節目〈1拍目〉
「恋」　＝サビ1小節目〈1拍目〉

これはビックリだ。
「真夏の果実」以外、ことごとく〈1小節目/1拍目〉からのスタート。
しかし！
これらの仲間に加えられない曲が1曲だけあった……「待つわ」である。

譜例④ 「待つわ」サビ冒頭

「待つわ」のサビ冒頭フレーズを口ずさんでみてほしい。

譜例④でおわかりの通り、サビ開始ポイントは〈サビ１小節前/３拍目裏〉である。そして思い出してほしい。私はこの「待つわ～♫」の直前のメロディについて、P30で次のように説明した。

> **主役級のメインのメロディを修飾（色づけ/補助）する存在を、**
> **以降〈オカズ〉と呼ぶことにする。**

〈オカズ〉……もちろん正式な音楽的名称ではない。本書前半部分では、音楽的な手法を〈平易なイメージ〉で理解していただくために、より感覚的な表現を使用したに過ぎないのだが、ここまで読み進めていただいた成熟した読者のためにも、そして感覚的に〈オカズ〉呼ばわりされている当の《オカズくん本人》にも大変失礼なので、103ページの時を経て、ここで〈本名〉を明かしてしまうことにしよう。

その名は……ジャジャン！

☞ 弱起くん

弱起……音楽理論書などでは次のように解説されている。

> 楽曲のメロディが小節の最強拍（第1拍）より前の部分から始まること。ピックアップまたはリード・インといわれるメロディ・ラインへの短い導入句は、アウフタクトで示されることが多い。
> （『最新音楽用語辞典』リットーミュージック刊より）

弱起くん……。

漢字で書くとなんだか弱々しいので、親しみを込めて〈ジャッキーくん〉と呼んでみることにしよう。いや、なんなら呼び捨てでもいい。

☞ ジャッキー

おぉ！ 急に勇ましくなった……笑。

さて、このジャッキー。

「待つわ」の項でもお伝えしたように、実に素晴らしい活躍をする。サビへの突入に《助走/勢い》を与え、メロディを際立たせてくれるありがたい存在……。

ジャッキーの活躍ぶりは他の有名曲でもうかがい知ることができる。譜例⑤「夜空ノムコウ」、譜例⑥「TSUNAMI」を見てみよう。

お見事である！

ジャッキーの《大活躍》により、サビ〈1小節目/1拍目〉にアタック感が生じ、とても力強く感じられる。

サビの旨味成分を見事なまでにあぶり出し、その楽曲の味わいをさらに高めてくれる《引き立て役》……。その存在感は絶大である。

ジャッキー、仕事ができるナイスガイ！

弱起の種類

さてここで、ふたたび冒頭の〈質問〉に戻る。

【問】 次の3曲の共通点を挙げよ

①「硝子の少年」KinKi Kids
②「瞳をとじて」平井堅
③「おどるポンポコリン」B.B.クィーンズ

音楽的な共通点、見出せるだろうか。

んんん……おわかりにならない？

では、ここで少し視点を高くしてみよう。

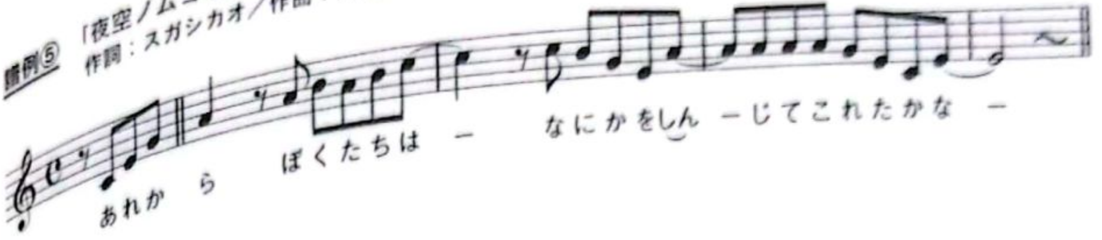
視点を高くすることで見えてくるのは、それぞれの曲の〈Bメロ最後の部分〉である（譜例⑦⑧⑨）。

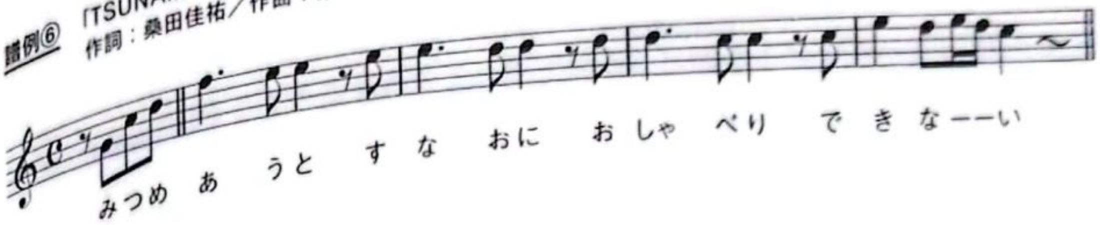
うおぉぉぉ……見えてきた、見えてきた！

そろいもそろって〈サビ前〉に出現したのは、ジャッキーである。

CamScannerでスキャン

譜例⑤ 「夜空ノムコウ」SMAP……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はFメジャー）
作詞：スガシカオ／作曲：川村結花／編曲：CHOKKAKU／発売：1998年1月14日



譜例⑥ 「TSUNAMI」サザンオールスターズ……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はDメジャー）
作詞：桑田佳祐／作曲：桑田佳祐／編曲：サザンオールスターズ／発売：2000年1月26日

譜例⑦ 「硝子の少年」サビ前に出現したジャッキー

譜例⑧ 「瞳をとじて」サビ前に出現したジャッキー

譜例⑨ 「おどるポンポコリン」サビ前に出現したジャッキー

CamScannerでスキャン

しかし。

これら3曲のジャッキーは「待つわ」「夜空ノムコウ」「TSUNAMI」のジャッキーたちとは様相が異なる。同じジャッキーでも何かが違う……。

ではこれらを【Aグループ】と【Bグループ】に分けて、サビへの進入の瞬間を比較してみよう(歌詞Ⓐ)。

Aグループは、弱起部分からサビ1小節目にかけて〈歌詞の切れ目〉がない。つまり弱起部分からサビ1小節目にかけて流れるように進入する《切れ目のないワンフレーズ》であることがわかる。

一方、Bグループはというと……。

お〜〜っと、長い!

Aグループの弱起はいずれも2拍以内であったが、Bグループは2拍以上あり、「硝子の少年」に至っては〈2小節〉にも及んでいる。

しかし、重要なのは長さではない。Bグループをよく見てみていただきたい。弱起部分とサビ1小節目の間に〈歌詞の切れ目〉という明らかな《境界線》が存在する。つまり〈弱起部分の歌詞〉と〈サビ1小節目以降の歌詞〉は、完全に〈分離〉しているのである。

2つの〈ジャッキー〉

なるほど。

同じ弱起でも【Aグループ】と【Bグループ】では〈タイプ〉が異なるようだ。見た目からして別モノであることは、まさに一目瞭然。

というコトで、この〈2タイプ〉を次のように命名することにする。

【Aグループ】= 直結型〈リトル・ジャッキー〉

【Bグループ】= 完全分離型〈ビッグ・ジャッキー〉

歌詞Ⓐ ジャッキーを比較してみる

Aグループ
「待つわ」
「夜空ノムコウ」
「TSUNAMI」

ジャッキー		サビ1小節目
私	|	待つわ
あれか	|	ら〜
見つめ	|	合うと〜

《境界線》

Bグループ
「硝子の少年」
「瞳をとじて」
「おどるポンポコリン」

ジャッキー		サビ1小節目
Stay | with me	|	硝子の少年
Your love forever	|	瞳をとじて
タッタタラリラ	|	ピーヒャラ ピーヒャラ

Aグループのように、切れ目なくサビのフレーズにそのまま繋がっている弱起を《直結型/リトル・ジャッキー》と呼び、かたやBグループのように、十分な存在感のある歌い切り型の弱起を《完全分離型/ビッグ・ジャッキー》と呼んでしまおうではないか。

完全分離型/ビッグ・ジャッキー

リトル・ジャッキーは、いわゆる〈一般的な弱起〉である。

しかしビッグ・ジャッキーは、その名の通り《存在感のある大きな弱起》であり、そのフレーズを口ずさんだだけで何の曲かわかってしまうという《キャッチーさ》を有している。言ってしまえば、サビ本編のフレーズから切り離しても1人で生きていける《一匹オオカミ的》な存在……。

☞ **完全分離型〈ビッグ・ジャッキー〉**
＝キャッチーな〈一匹オオカミ〉

CamScannerでスキャン

というワケで、ここで脳内実験を開始！
想像してみてほしい。もしも【Bグループ】の曲において、サビ前に〈ビッグ・ジャッキー〉の存在がなかったとしたら（歌詞Ⓑ）。
うむむ。
サビ突入への《スピード感/期待感/高揚感》が消失……かなり味気ない。サビという〈メインのフレーズ〉がそこに存在しているにもかかわらず、なぜか大いなる喪失感を覚えてしまう。さらには、サビ本体の《旨味成分》までもが、少なからず損なわれてしまっているようにも思えてくる。
嗚呼。
ビッグ・ジャッキー、貴方は偉大だ。
貴方なしに、このサビは語れない。
サビを輝かせる名バイプレーヤー！
サビという〈主演〉を引き立てる《一匹オオカミ的名優》！

主演と肩を並べられるほどの大きな存在である貴方に、今から喜んでこの称号を与えようではないか。
メロディ界の《助演男優賞》なる称号を……。

【メロディ界の〈助演男優賞〉受賞】

受　賞　者：ビッグ・ジャッキー（完全分離型弱起）
受賞理由：サビを輝かせる〈スピード感/期待感/高揚感〉
一匹オオカミ的な存在感およびキャッチーさ

§

今後、アナタが曲を作るとき、サビのメインメロディ（主演/主役）に目を向けるだけでなく、**サビ直前の配役**にも目を向けてほしい。
そしてぜひ、思い出していただきたい。
〈ビッグ・ジャッキー氏起用〉という《強力な選択肢》の存在を……。

心得　サビ直前の配役に困ったら、思い出すべし
〈ビッグ・ジャッキー〉の存在を……

「硝子の少年」 [Stay with me]……がなかったら
「瞳をとじて」 [Your love forever]……がなかったら
「おどるポンポコリン」 [タッタタラリラ]……がなかったら

CamScannerでスキャン

作曲プチQ&A 6

Q 作曲初心者です。
自分で納得できる曲がなかなか作れません。
どうしたらよいでしょうか？

A

〈作曲をはじめたばかりの人〉や〈作曲のコツがなかなかつかめない人〉の多くに見受けられる《ありがちな現象》をお教えしましょう。

●作曲初心者★あるある

・ワンコーラスがやたらと〈長い〉
・メロのパーツが多く〈情報過多〉で覚えきれない
・Aメロ、Bメロ、サビ……全セクションの〈譜割〉が似ている
・メロが〈ある一定の音域〉に過度に集中している

まずは、上記ポイントを見直してみるべし！

第5章

省エネ構造と気配りの関係

Lesson 0

「Lemon」

米津玄師

……で大発見！

極意 33 | 省エネ建築タイプ

極意 34 | HSJ★内部連続反復型（ドルフィンジャンプ）

極意 35 | 省エネ建築★三原則

極意 36 | 徹底的に〈韻を踏む〉＝リスナーへの《気配り》

極意 37 | 押し付けがましくない反復感

｜作詞｜米津玄師　｜作曲｜米津玄師　｜編曲｜米津玄師　｜編曲協力｜室屋光一郎
｜配信リリース｜2018年2月12日(発売：2018年3月14日)
｜備考｜TVドラマ『アンナチュラル』主題歌(出演：石原さとみ、ほか)

「Lemon」検証のきっかけ

さてさて、ここからは後半戦。

〈省エネ構造と気配りの関係〉……思わせぶりなタイトルだ。

ご登場いただくのは、米津玄師氏「Lemon」。

この曲を本書で取り上げるのにはワケがある。実は前著『一発で記憶に残る曲を作る！「9つのルール」』（株式会社ヤマハミュージックメディア刊）の発売直後、偶然にも次のようなツイートを目にしてしまったのが、そもそものはじまり……。

> 割田さんの本読んだ後にlemon（特にサビ）聴くと、
> あー、なるほどwってなる。（原文ママ）
>
> 【by 小桜咲狐（ザコp）@zako_sakurai】

ほほう、そんな風に思ってくれる人がいらっしゃるとは、ありがたい！　前著では本書と同様に〈効果的な繰り返しの重要性〉などを中心にアレコレと説いているのだが「あー、なるほどwってなる」と思われたからには、これはもう全力で検証しなければいけない。

マジック・ミラーの向こう側

米津玄師……。

2018年12月31日の『第69回NHK紅白歌合戦』、つまり平成最後の紅白に出演したことで一気に知名度を上げ、注目度が急上昇。〈ニコニコ動画〉出身の音楽クリエイターという一般人になじみのないバックボーンや、ミステリアスでクールな雰囲気なども手伝い、謎多き人物としても社会的関心を集め、瞬く間にファン層を拡大。平成から令和にかけて躍り出た大ブレイク・アーティストとなった。

米津氏の才能を育んだ〈ニコニコ動画〉〈YouTube〉〈各種SNS〉。これらを拠点にして、多くのインディーズ音楽家たちが活躍している。しかし、メジャー界隈で仕事をしていると、彼らと接点を持つ機会は皆無であると言ってよい。

かくいう私は、ボーカロイドの存在は知ってはいたものの、ボーカロイドを操って歌モノ楽曲を発表する〈ボカロP〉なる存在をしばらくの間まったく知る術もなく、そして知る必要もなく過ごしていた。さらに言えば、2018年秋までは、宅録ミュージシャンを意味する《DTMer》なる言葉も知らずにいた。

CamScannerでスキャン

ネット上に無限に広がる〈**電脳的インディーズ空間**〉は、あたかも極薄なマジック・ミラーを隔てて、我々〈**メジャー空間**〉に並行して存在している。あちらからコチラは視えるかもしれないが、コチラからあちらを視ることができない……そんなマジック・ミラー。

そんな薄っぺらな一枚を〈のれん〉のようにさっとめくれば、一瞬にしてあちらの世界に接することができるのかもしれないが、そもそも我々はそのマジック・ミラーの存在にすら気づいていないので、どうしたってめくりようがないのである。

しかし、今となってはその世界の一部を享受できるようになった。きっかけは〈Twitter〉である。

前著『一発で記憶に残る曲を作る！「９つのルール」』の出版をきっかけに、宣伝ツールとしてやむをえずTwitterを開設した私は、それまでは完全なる〈Facebook派〉であり、Twitterにはまったく魅力を感じていなかった一人である（音楽制作者のほとんどはなぜかFacebook派である）。

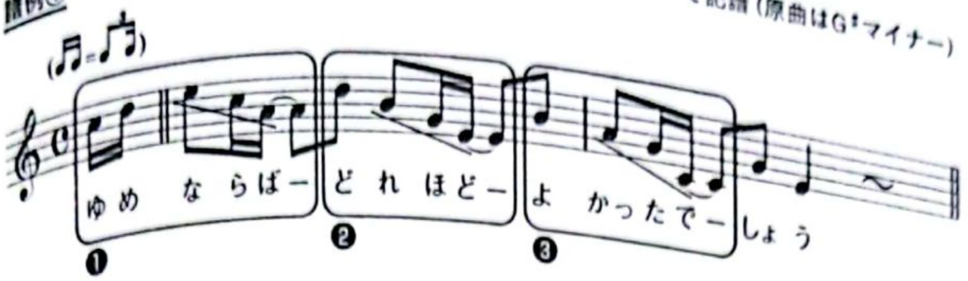
ところが、2018年11月、Twitterを開設して驚いた。Twitterはあちらとコチラを結ぶ〈渡し船〉であった。**ボカロＰ、絵師、動画師、MIX師、DTMer、週末作曲家**……。今まで知りえなかった多種多様な〈ネット系クリエイター〉がそこに生き生きと存在しているではないか。

日夜、彼ら彼女たちは積極的に自作を発表し、他人の作品を評価し、**年齢/職業/地位/居住エリア**という**社会的垣根を超越**する形で旺然たる《**音楽的交歓**》を営んでいた。電脳的インディーズ空間は、まさに全容をつかめない**魅惑的な**〈**巨大な沼**〉として存在していたのである。

そんな巨大な沼の住人のひとりであった**青年〈ハチ〉**は、作詞、作曲、アレンジ、プログラミング、演奏、ボーカル、ミックス、イラスト、動画制作のすべてを１人でこなし、やがてネット上で活動する音楽クリエイターたちにとって〈**憧れの存在**〉となり〈**大いなる希望**〉となった。マジック・ミラーという国境を越えさえすれば〈閉ざされた空間〉から〈不特定多数にアクセス可能なメジャー空間〉へと移行できる。その可能性を実証してくれたのが青年〈ハチ〉、つまりのちに本名で活動することになる《**米津玄師**》なのである。

米津〔師〕の功績はこれに留まらない。

彼の進化過程における〈痕跡/過去作品〉のほとんどが、今もなおネット上に《**財産/レガシー**》として残されている。これらは音楽家を目指す者にとっての〈生きた教科書〉であり、身近で偉大なお手本である。こんな幸福は他にはありえない。

譜例① Aメロ前半／繰り返し（下降型）……Key＝Aマイナーで記譜（原曲はG#マイナー）

さて、話を「Lemon」に戻す。

この曲は紅白出場が決定的な後押しとなり、異例のロング・ヒットを記録、2018~2019年を代表する曲となった。

ちなみに、2018（平成30）年とはこんな年だった。

・大谷翔平がメジャーリーグで二刀流の活躍
・大坂なおみが全米オープンテニス女子シングルスで優勝
・低予算映画『カメラを止めるな』が大ヒット
・カーリング女子LS北見の「そだねー」が流行語大賞に
・築地市場が83年の歴史に幕を閉じ、豊洲市場へ移転
・安室奈美恵が芸能界引退

随所に練り込まれている〈繰り返し成分〉

というワケで、ここからが本題……。畏れ多くも〈自説〉と照らし合わせる形で、平成最後の大ヒット曲「Lemon」を分析してみることにしよう。

この曲にはイントロがない。

〈ブレス音〉が口火を切って、突然〈Aメロ〉が展開される（譜例①）。

「ありがたや～！」そう叫ばずにはいられない。

Aメロ開始早々《効果的な繰り返しのお手本》の登場である。

同じ音型が、階段を下りてくるかのような形で〈❶→❷→❸〉と繰り返される。しかも同音型の登場回数は〈3回〉。

ここまで来ると【極意10】はもはや《鉄板化》しているも同然……。

CamScannerでスキャン

極意 10 美味しいメロも三度まで

次に譜例②で、Aメロ後半を見てみよう。ここにも〈効果的な反復〉が隠されている。

純粋な譜面のままではわかりにくいので、譜例③に譜割の注釈を加えてみた。音の上下移動に多少のバラつきはあるものの、同じ音型が規則性をもって展開されているのがわかる。これは明らかに〈あるモチーフを反復させながら段階的に発展させてゆく手法〉、つまり《反復★三段跳び＝HSJ型》なのである。

ここで私はひらめいた。

この曲は、音型の数を極力削ぎ落とし、無駄のない合理的な〈繰り返し〉によって構築された《省エネ建築タイプ》の楽曲なのかもしれない……と。

極意 33 省エネ建築タイプ

Bメロに進んでみて、その想いは確信へと変わった。

譜例④を見てほしい。ここにも《HSJ型》が！

やはりこの曲、とことん〈音型の反復〉を意識して作られている。しかも、単純な反復に留まらずメロディの上下移動にワビサビを利かせている。前後のメロディとのバランスを十分に考慮した上で構築された〈絶妙な展開〉であると言ってよい。

随所に練り込まれている〈繰り返し成分〉

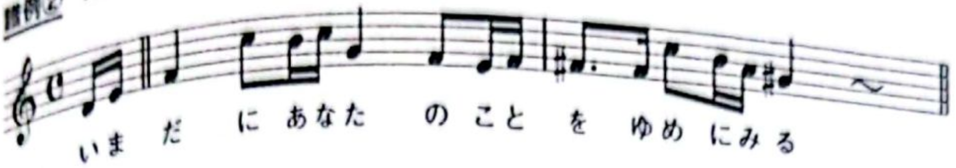
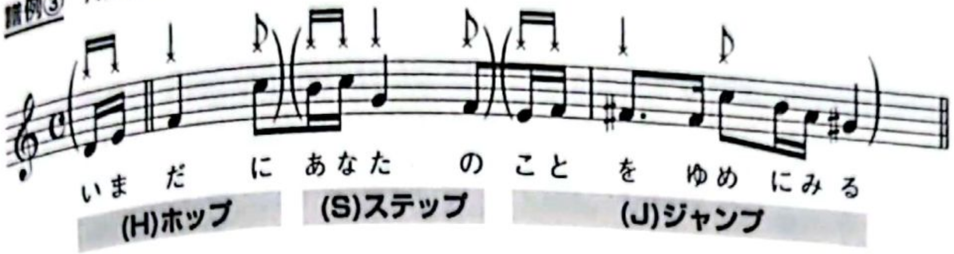
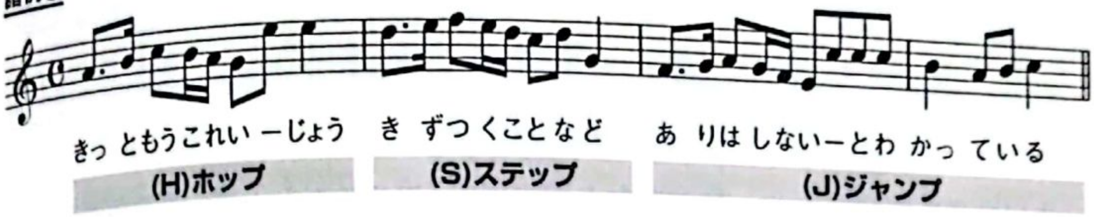
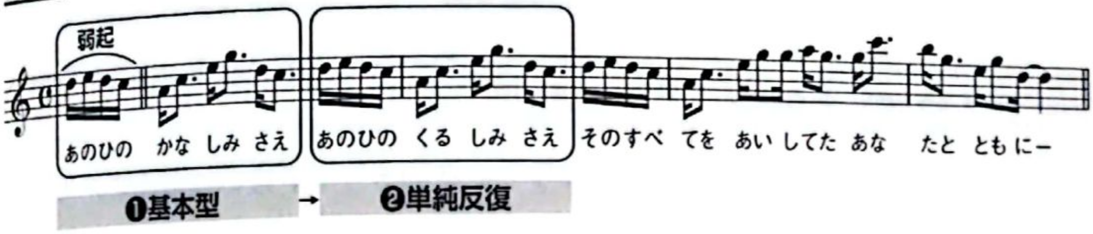
次に、譜例⑤でサビを見てみよう。

サビ冒頭は、一度聴いただけで耳に残るパワーフレーズ。フレーズ冒頭では、前項で学んだ《弱起/リトル・ジャッキー》が起用されている。

フレーズ❶&❷の関係は言うまでもなく《単純反復/味変》。

このメロディ反復に伴い、歌詞もきちんと反復されている（歌詞Ⓐ）。単純に同じ歌詞の繰り返しでは、芸がない上に深みもない。よって〈悲しみ〉→〈苦しみ〉と展開している。この2語はいわゆる《同族ワード》。同じ系統の言葉を配することで、より記憶に残りやすい、つまり一発で覚えてもらうための効果を狙っている。

CamScannerでスキャン

譜例② Aメロ後半

譜例③ Aメロ後半＝〈HSJ型〉

譜例④ Bメロ＝〈HSJ型〉

譜例⑤ サビ前半＝〈単純反復/味変〉

歌詞Ⓐ メロディ反復に伴う〈歌詞の繰り返し〉

あの日の悲しみさえ
あの日の苦しみさえ

CamScannerでスキャン

これは最も基本的かつシンプルな反復方法であり、覚えやすいという点においてはこれに勝るモノはない。

しかし、サビ前半における旨味は、フレーズ❶&❷の《単純反復/味変》がすべてではない。3小節目以降のフレーズ❸も含めて俯瞰で捉えなければいけない。

というわけで、**譜例⑥**で見てみると……またしても《HSJ型》!

フレーズ❸に〈歌詞の構造変化〉を認められるが、真の姿は《HSJ型》である。しかも最後の(J)ジャンプの部分においては、さらなる印象付けを与えるべく、**内部で細かな反復を個別に進行させる**という、実に行き届いた合理的な複合構造。この連続した細かな反復、まるで〈イルカの連続ジャンプ〉のようにも見えるので、次のように名付けてしまおうではないか。

極意 34 HSJ★内部連続反復型(ドルフィンジャンプ)

何度も言うようだが、この曲、トコトン反復にこだわっている。サビ後半はどのようになっているのだろうか、**譜例⑦**を確認してほしい。

サビ前半を踏襲しつつ、最後は念を押す形で〈締めのフレーズ〉が印象的に反復されている。

最後の最後まで、繰り返しの連続……。

やはり「Lemon」は〈音型の数〉を徹底的に抑え、無駄を省く形で効果的に構築された《省エネ建築タイプ》の楽曲なのであった。

〈省エネ建築〉の効能

音型の数が少ない《省エネ建築タイプ》……そのメリットはいくつかあるが、最たるモノはやはりコレであろうか。

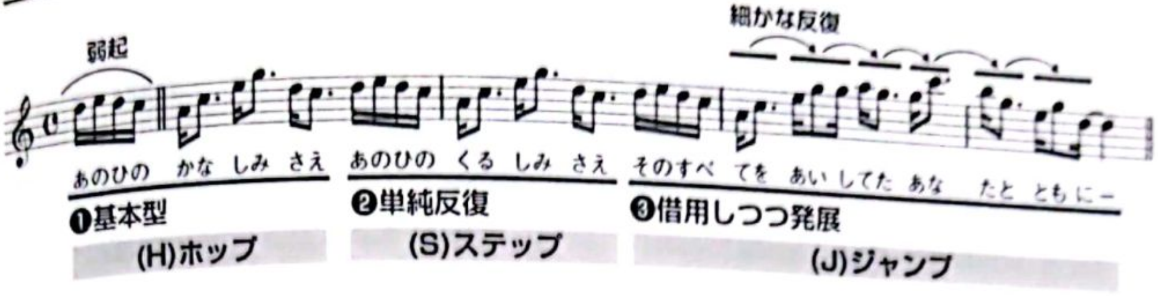
心得 省エネ建築タイプ = 覚えやすい

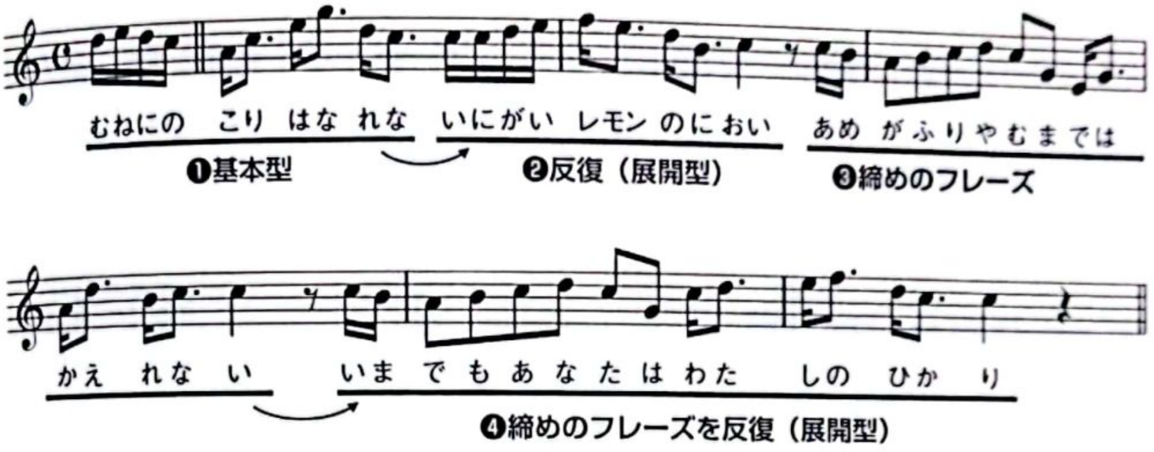
覚えやすいということは、喉を通りやすいというコトだ。つまり、すんなりと体内に入ってくる、少し格好つけた言い方をすれば〈吸収率が高い〉ということである。

心得 省エネ建築タイプ = 吸収率が高い

CamScannerでスキャン

譜例⑥　サビ前半を俯瞰で捉えてみる



譜例⑦　サビ後半／最後の最後まで、繰り返しの連続……

逆を考えてみよう。

例えば〈たくさんの音型が存在する複雑なメロディ〉の楽曲を耳にしたとする。アナタはこれにどう反応するだろうか？

きっと、次から次に押し寄せる数々の音型およびメロディの波に飲み込まれ、脳内での処理が追いつかないことになってしまうはず。**「食べにくいなぁ/喉を通りにくいなぁ」**などという評価を下してしまうこと必至である。

しかし、何度か聴くうちに慣れてしまって〈逆にクセになる〉ということも十分にあり得るが、いずれにせよ《省エネ建築タイプ》の楽曲は、**〈少ない音型で不要なストレスを感じずに楽曲を味わってもらいたい〉**という作者の強い気持ちの表れにほかならない。

CamScannerでスキャン

省エネ建築タイプが目指しているコト

少ないの音型

☟

高い吸収率

☟

ストレスなく味わってもらいたい

私はこれまで、講座やワークショップにおいて《省エネ建築タイプ》の典型的な例として、前掲の「ラブ・ストーリーは突然に」や、スピッツの「ロビンソン」を紹介してきた。今後このタイプの紹介ラインナップに「Lemon」を加えさせていただくことにする。

ちなみに、**譜例⑧**に示す通り「ロビンソン」で使用されている基本音型はわずかに「6つ」である（展開型含む）。

省エネ建築の〈三原則〉

省エネ、省エネ、省エネ……。

この言葉を連発すると、不本意にも〈手抜き〉というマイナス・イメージで捉えてしまう方もいらっしゃるようなので、そこは声高に反論させていただきたい。省エネとはつまり、

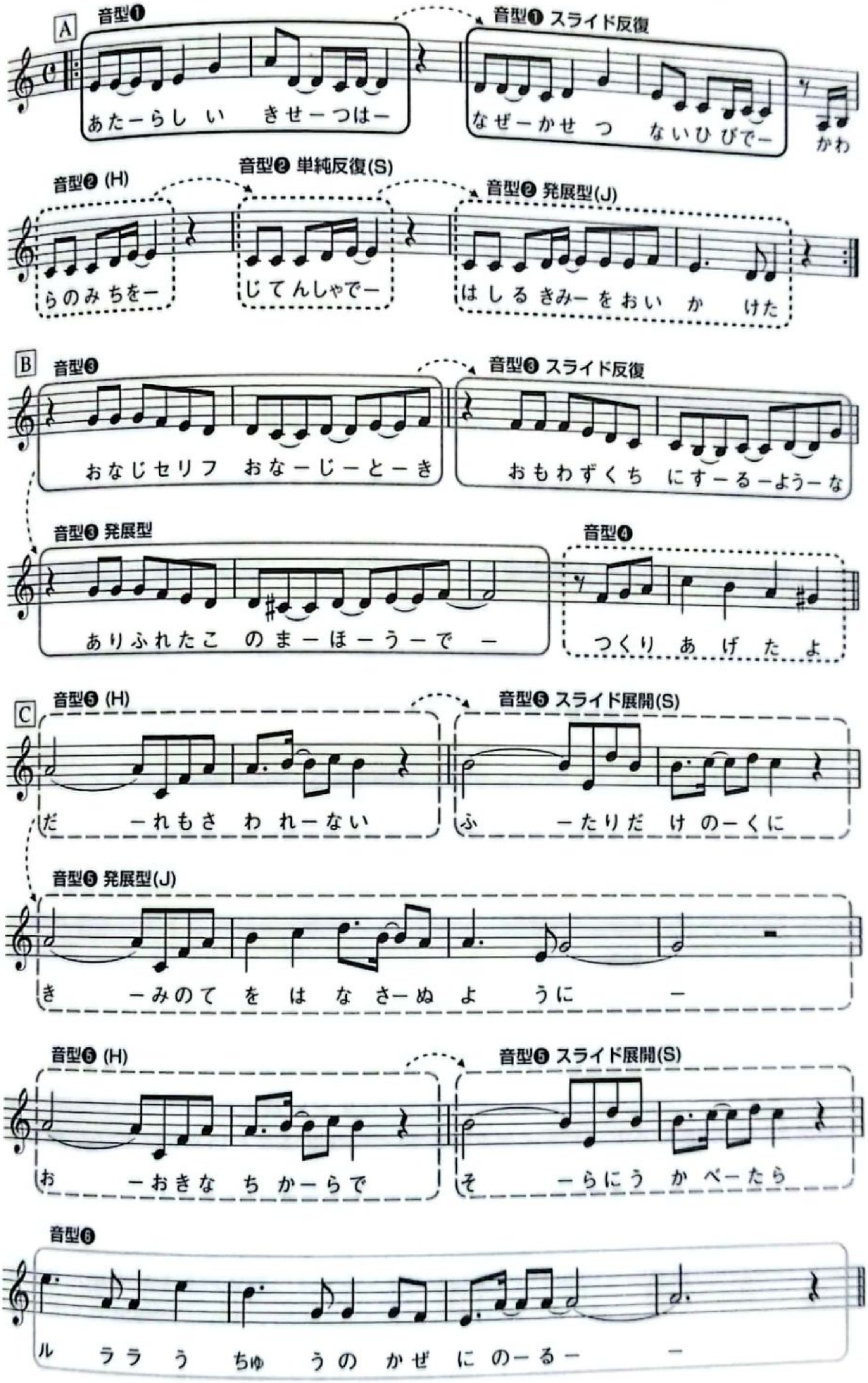
- **少ないエネルギーで高い効果を生む**
- **燃費が良い**
- **意識的に計算されている**

……ということである。

決して〈簡易的でお手軽〉ということではない。

いやむしろ、この手法を用いて美味しい作品に落とし込むには、それ相応の**《高度な技量》**が必要となる。メロディに〈旨味〉を与えられなかったり、〈効果的な繰り返し〉を演出できなければ、必ずや失敗してしまう。

譜例⑧　「ロビンソン」スピッツ ＝ 省エネ建築タイプ（音型＝全6種）……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はF#マイナー）
作詞：草野正宗／作曲：草野正宗／編曲：笹路正徳、スピッツ／発売：1995年4月5日



CamScannerでスキャン

そこで〈省エネ建築タイプ〉地位向上のために、そのあるべき姿を独自の視点で《三原則》としてまとめてみた。

ジャジャン！

極意 35

省エネ建築★三原則

其の一　▶〈端的＝効果的＝印象的〉であるべし
其の二　▶〈飽きられない工夫〉を施すべし
其の三　▶〈シンプル〉と〈深み〉を同居させるべし

〈其の一〉〈其の二〉は、メロディの流れや全体の構造に気を配り、創意工夫を凝らすことで達成できそうである。

しかし〈其の三〉の**《シンプルと深みを同居させる》**……コレが一番難しい。いったいどうあるべきなのか……。

「ラブ・ストーリーは突然に」においては、P50でご紹介した**《小田忍法★カラクリ二重反復の術》**が深みであると考えられる。「ロビンソン」においては、**起伏のある絶品級の〈サビ反復フレーズ〉**が既に深みを湛えている上に、サビ末尾には**高音域で響く〈美味しいデザート〉**が待ち受けている。つまり、この「キュンキュン」してしまうメロディの流れ自体に深みが存在していると言えるであろう。

音楽的見地から鑑みると、深みをもたらす要素としては、概ね次のようなモノが考えられる（注：②③④は長尺使用は逆効果ゆえ、瞬間的な使用を推奨）。

① **極上のメロディライン**
② **予想を裏切るような展開**
③ **高度なコード進行**
④ **リズムの変化**

と言えど、楽曲なるモノは**〈メロディ/コード/リズム〉**という要素のみで成立しているワケではない。我々が扱っているのは**歌モノ楽曲**である。

歌モノを《歌モノ》と呼ぶゆえんは**歌詞の存在**にある。歌詞があるから**《歌モノ》**と呼ばれる。〈何を歌っているのか〉が、その作品の顔つきを決定づける最たる**《核》**となる。

その作品で、

- 何を伝えたいのか？
- 何を訴えたいのか？
- 何を表現したいのか？

その大部分を〈歌詞〉が負っているのだ。〈歌詞テーマ〉や〈主張〉の如何によって《作品の深み》が左右されると言っても過言ではない。

心得 歌モノの《核》は〈歌詞/言葉〉である

歌モノの〈深み〉

歌モノにおいて、映像的イメージを決定的に喚起させるファクターもまた〈歌詞〉である。風という言葉があれば、そこに〈風〉が吹き、海という言葉があれば、目の前に〈海〉が広がる。

しかし、歌詞づくり（作詞）は、散文詩のようにはいかない。ただ漫然と伝えたいことを書けばよいというワケではない。前掲した《省エネ建築★三原則》の〈其の一〉は、歌詞においても当てはまる。

☞〈端的＝効果的＝印象的〉であるべし

伝えたいことを言葉で表現する。

それをメロディと同様に〈端的に/効果的に/印象的に〉伝える。しかも、以下の制約の中で……。

- メロディの音符の数に合わせる
- メロディの高低に合わせる（イントネーション）
- Aメロ、Bメロ、サビといった構成に合わせる

簡単なようで難しい。これを踏まえた上で《伝えたいこと》をしっかりと文字に落とし込まなければいけない。実に気の遠くなるようなパズルの世界……。しかし、そこに醍醐味があり〈面白み/やりがい〉を感じるのである。

CamScannerでスキャン

米津［師］はこの「Lemon」において、メロディもさることながら、しっかりと歌詞で《大いなる深み》を表現している。ドラマ主題歌ということもあり、ドラマ内容に紐づく〈死/別れ〉がテーマだ。

そこに難しい言葉は存在しない。

簡単な言葉でつづられている歌詞……その行間にさまざまな想いが交錯し、いくらでも深読みできる〈つくり〉になっている。

歌詞の解釈を聴き手に委ね、ある人にとっては〈死の歌〉とも受け取れ、ある人にとっては大切な人（恋人）との〈別れの歌〉とも受け取れる。わかるようでいて〈よくわからない〉という点も中毒性を感じる理由のひとつなのだろう。一元的でないところに《魅力》があり《深み》がある。

そして〈Lemon〉とはいったい**何の暗喩**なのか……その真実を知ったとき、きっとアナタはまた別の《深み》を知ることになるのである。

歌詞に忍び込ませた〈気配り〉

「Lemon」における歌詞の深みを知った。

しかし米津［師］は、その深みの中に、やはりというか当然というか《ある要素》を忍び込ませていたのである。しかもあまり目立たない形で、さりげなく……。

1番サビ2行目以降の各フレーズに注目してほしい（**歌詞Ⓑ**）。

《語尾》を見よ！

なんと、すべて［イ段］で終わっているではないか……。

では2番サビは……というと（同じく**歌詞Ⓑ**）

1～2行目は［ア段］でそろえ、3～5行目は［イ段］でそろえてある。

なるほど……《韻》を踏んでいる。

語尾の印象がバラつくことを嫌ったとしか考えられない。仕事が徹底している。計算ずくの上に成り立っていることがよくわかる。

米津［師］は、**端的/効果的/印象的**な〈反復メロディ〉に**《伝えたい想い》**を乗せ、そしてそれらを〈耳に残りやすく/覚えやすいフレーズ〉として味わってもらうべく、**《韻を踏む》**という効果的かつ印象的な戦法を選んだのだろうと想像する。

サビ後半（3～5行目）は、1番&2番ともに［イ段］に帰結している。このことで、毎回同じ場所に戻ってくるという《安堵感》が生まれている。

CamScannerでスキャン

1番サビ

あの日の悲しみさえ【エ段】 あの日の苦しみさえ【エ段】
そのすべてを愛してた あなたとともに【イ段】
胸に残り離れない 苦いレモンの匂い【イ段】
雨が降り止むまでは 帰れない【イ段】
今でもあなたはわたしの光【イ段】

2番サビ

どこかであなたが今【ア段】 わたしと同じ様な【ア段】
涙にくれ 淋しさの中にいるなら【ア段】
わたしのことなどどうか 忘れてください【イ段】
そんなことを心から願うほどに【イ段】
今でもあなたはわたしの光【イ段】

しかし残念なコトに、きっと多くのリスナーはこの《安堵感》を自覚していない。いうなれば〈イ段への帰結〉は、潜在意識に無意識的に働きかけている《隠れ安堵感》。これが〈覚えやすさ/高い吸収率〉に大きく寄与しているのは言うまでもないのだが、気づかれていない可能性が高い。

なるほど……もはやこれは〈気配りの域〉である。

徹底的に韻を踏むとは、リスナーへの最大級の《気配り》だったのか!?

このような細かな〈仕事/作業〉を人知れずこなしているこの曲の作者に私は猛烈な共感を覚えて仕方がない。

極意 36 **徹底的に〈韻を踏む〉=リスナーへの《気配り》**

最高級の教材

図らずも平成最後の大ヒットソングが、歌モノ楽曲の《最高級の教材》となってしまった。分析を試みるまでは、旨味成分がこんなにも多く織りこまれているとは全く想像しておらず、サビはともかく、特にA＆Bメロにおける〈反復フレーズ〉の存在は意外であった。

A＆Bメロは、サビというメインディシュを頂戴する前の〈さまざまな味わいを楽しんでいただくオードブル的な役割〉である。ゆえに、これみよがしな〈単純な繰り返しフレーズの乱発〉は、簡単に《飽き》を招いてしまいがち……。しかし「Lemon」におけるA＆Bメロは、その歌詞の深みと存在感の強さもあってか、乱発を全く感じさせない。

そして、サビ部分。

飽きを感じさせない形で構成されている〈メロディ反復〉、歌詞の中に主張なく隠されている〈韻〉の数々……。

これらの《押し付けがましくない反復感》こそが、気配りの達人である米津［師］の粋な計らいなのであろう。

極意 37　押し付けがましくない反復感

ポップスは口ずさんでもらってナンボ

米津［師］は、曲づくりについて2018年3月13日の「ORICON NEWS」のインタビュー（https://www.oricon.co.jp/special/50876/）で、とても興味深いことを語っている。要約すると次のようになる。

〜過去の先人たちの音楽を踏まえた上で、
幅広い層に受け入れられる《普遍的な音楽》を目指す〜

こうした姿勢には《美味しいと感じてもらいたい/覚えてもらいたい/口ずさんでもらいたい》という強い気持ちがにじんでいる。

僭越ながら、私が常日頃から唱えていることに合致する。

CamScannerでスキャン

心得 ポップスは口ずさんでもらってナンボである！

§

というワケで、冒頭のTwiiterに戻る。

> **割田さんの本読んだ後にlemon（特にサビ）聴くと、**
> **あー、なるほどwってなる。（原文ママ）**
>
> 【by 小桜咲狐（ザコp）@zako_sakurai】

いやはや、いやはや。
「なるほどw」どころの話ではない。
大いに学ばせていただいた次第……。

CamScannerでスキャン

作曲プチQ&A 7

Q 作曲のアプローチに行き詰まったとき何か対処法はありますか？

A

当院では民間療法（？）として《４つの詞先療法》を推奨しております。

- 知らないアーティストの〈知らない楽曲〉の歌詞にメロを乗せてみる
  ＝拝借的詞先療法＝

- 〈今朝何時に起きて、何を食べて、どこに出かけて、誰と会って、何をしたか〉を書き出し、そこにメロを乗せてみる
  ＝日記的詞先療法＝

- 〈夢、希望、目標、将来どうなりたいか〉をダダダ〜っと書き出し、そこにメロを乗せてみる
  ＝未来予想図的詞先療法＝

- 作曲に悩んでいる様子を〈グチと怒り〉を込めて書き出し、そこにメロを乗せてみる。特にサビは「あぁ〜メロができないぜ〜！」など感情を露わにしたフレーズに！
  ＝やぶれかぶれ詞先療法＝

CamScannerでスキャン

第6章

ニッチな旨味成分を探る

CamScannerでスキャン

Lesson

「Get Wild」

TM NETWORK

……で大発見！

極意 38 超VIP扱い〈SP〉完全シンクロ術

極意 39 〈ゲワイ〉信仰［VIm－V－IV］

|作詞|小室みつ子 |作曲|小室哲哉 |編曲|小室哲哉
|発売|1987年4月8日
|備考|TVアニメ『シティーハンター』エンディング・テーマ／『劇場版シティーハンター〈新宿プライベート・アイズ〉』エンディング・テーマ

CamScannerでスキャン

〈ゲワイ〉とは……

ここで少し趣向を変えてみたいと思う。

これまでは主に《反復》というワードに焦点を当ててきた。「この本は反復手法しか取り上げげないのか？」と思われるのも不本意なので、本章では全く異なる観点（ニッチな観点？）でメロディを論じてみたいと思う。

というワケで、簡単で平易なメロディでも、そこに〈ある存在〉が加わるだけで、一瞬にして《旨味のある美味しいフレーズ》に変身してしまう場合がある……というお話。

ご登場いただくのは、TM NETWORK（TMN）の代表曲「Get Wild」！

1987年4月、TMNの10枚目のシングルとして発売されたこの曲は、ご存じ、TVアニメ「シティーハンター」エンディング・テーマ曲であり、彼らを一躍スターダムに押し上げた初ヒット曲にして最大のヒット曲である。

ちなみに、1987年（昭和62年）とはこんな年だった。

- アップルコンピュータが「Macintosh II」「Macintosh SE」を発表
- 国鉄が分割民営化され「JR」が発足
- NTT（現NTT docomo）が日本初のハンディ・タイプの携帯電話を発売
- 村上春樹著『ノルウェーの森』、俵万智『サラダ記念日』がベストセラーに
- マイケル・ジャクソンがソロで初来日。後楽園球場でコンサート開催
- ボディコン、ワンレン（ワンレングス）が大流行
- 〈バブル〉〈花キン〉が流行語に

Mac、携帯、ボディコン、ワンレン、花キン……。

1987年、まさに景気は上り調子。世間が浮かれはじめている様子が見て取れる。バブル経済のはじまりである。

そんなウキウキとした時代に世に送り出された「Get Wild」。

タイトルをモジって通称〈ゲワイ〉として愛聴&愛唱されているこの曲は、今でも幅広い層に支持されており、なんと2017年には、発売30年を記念してコンピレーション・アルバムが発売された。

その名も「GET WILD SONG MAFIA」CD 4 枚組/全36曲！

収録曲のすべてが〈ゲワイ〉という、とんでもないアルバム。オリジナル音源、ライブ音源、リアレンジ音源、カバー音源などなど、どこを切っても、ゲワイ、ゲワイ、ゲワイ……。こんなアルバム、他に例がない。

それもそのはず、本アルバムは〈トップ100にチャートインしたCDアルバムに収録された同一曲のバージョン/リミックスの最多数〉でギネス世界記録に認定されている。バブル期に発表された〈ゲワイ〉は、バブル崩壊から30年の時を経て〈CD 4枚組/全36曲〉という超バブリーな形で、あらためてその偉大なる存在感を我々に示してくれたのであった。

とてもシンプルなメロディ

さてさて〈この曲といえばココ！〉の部分はどこであろうか？

100人が100人、きっと同じ回答をするはず（歌詞Ⓐ）。

いったいこのメロディ、何が〈美味しい〉のだろう。早速メロディを**譜例①**に書き起こしてみることにする。

なんの変哲もない……というと小室さんに怒られそうだが、とてもとてもとてもシンプルなメロディである。これはまさに１回聴いただけで覚えてしまう、いわゆる**一発で記憶に残るメロ**、というヤツである。

どれくらいシンプルなのかというと、小学校１年生の音楽教科書の最初のページに出てくるあの「ぶんぶんぶん」に匹敵するくらいのシンプルさであると言ってよい。**譜例②**で比較してみよう。

おぉぉ……！

やはり〈ゲワイ〉は超シンプルだ。

しかし、これだけシンプルだと、時に〈失敗〉をもたらす。

そう！

シンプルなメロディは〈覚えやすい〉。しかしその反面〈飽き〉を導きやすいという致命的な短所を併せ持っている。極端に覚えやすくなじみやすいメロディは、ともすると〈味わいがない/深みがない〉などと認識され、高評価につながらないことが多いのだ。

心得 シンプルなメロディの〈長所/短所〉

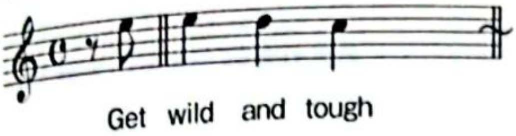
長所 ▶ **覚えやすい**

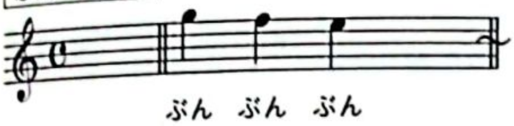
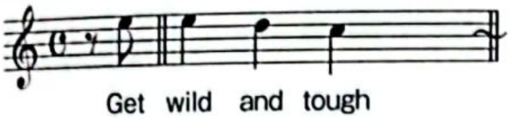
短所 ▶ **飽きやすい**

CamScannerでスキャン

歌詞Ⓐ 「Get Wild」の〈この曲といえばココ！〉

Get wild and tough ～♫

譜例① 「Get Wild」サビ部分……Key＝Aマイナーで記譜（原曲はG♯マイナー）

譜例② 「ぶんぶんぶん」と「Get Wild」の比較
「ぶんぶんぶん」作詞：村野四郎／ボヘミア民謡

ぶんぶんぶん

Get Wild

しかし私は、この曲について次のように評価する。
シンプルながらも〈大胆に攻めている〉……と。
その名の通り〈ワイルドに攻めている〉……と。

なぜ〈攻めている〉などと言えるのか？
理由はただひとつ。サビ冒頭に〈超シンプルなメロディ〉を配置すること自体、大いなる賭けだからである。
賭けに出る＝勝負に出るということ。
そう、小室さんは〈TMN 10枚目のシングル〉で大きな勝負に出たのだ。絶対的に〈飽きさせない〉という《強力な味方》を手に入れて……。

CamScannerでスキャン

強力な味方

「ぷんぷんぷん」と「Get Wild」……もう一度、譜面を見てほしい。

この2曲、ほぼ同じ譜割(音型)であり、似たような構造である。にもかかわらず、なぜか「Get Wild」のほうが**《強烈な訴えかけ》**を発生させている。**「オレのメロを聴け！」**と言わんばかりに、ワイルドに訴えかけている。そう思えないだろうか？

2曲とも譜面上ではとてもシンプルであり〈目視〉のみでは訴えかけを感じることはできない。しかしその違いは〈一聴〉すれば明らかだ。強烈な訴えかけを発生させているのは「Get Wild」のほうである。

なるほど……なにやらその強烈な訴えかけの背後に**《強力な味方》**という輩が潜んでいる気配あり。

では、小室さんはいったいどのような**《強力な味方》**を得たのであろうか？　答えはズバリ〈コード進行〉にある。**譜例③**をご覧いただきたい。

え……!?

[Am－G－F]……これが《強力な味方》？

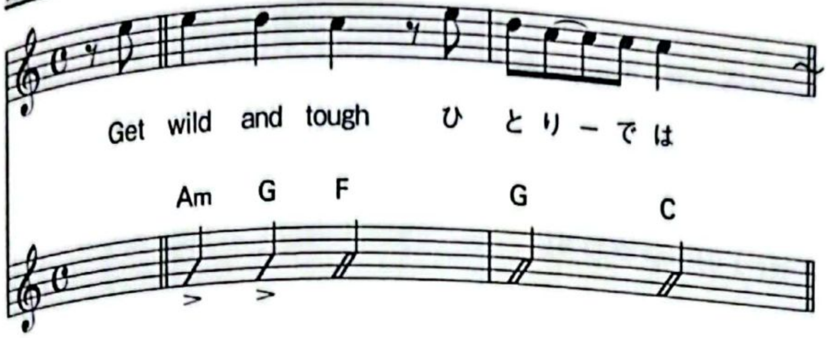
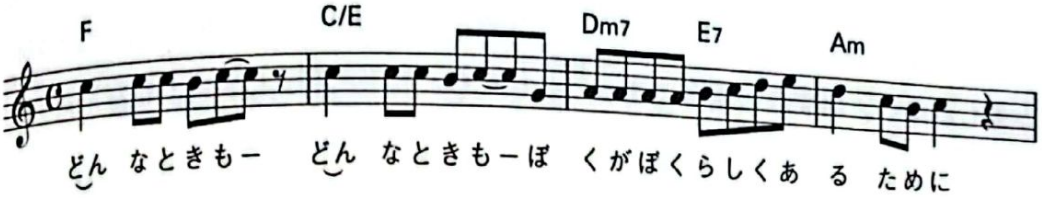
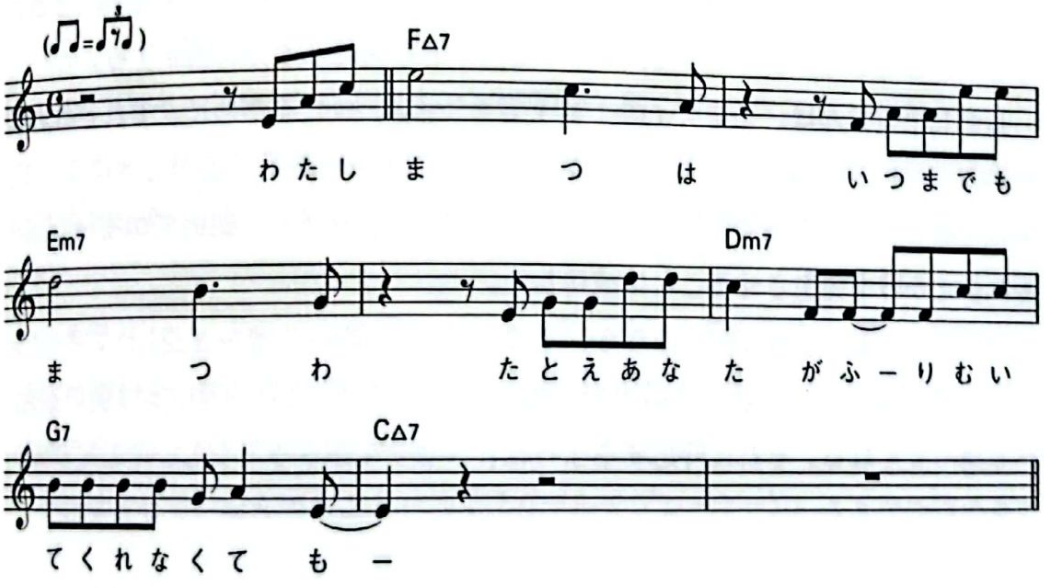
特別なコード進行だとはまったく思えないのだが……。

♫　♫　♫

ご紹介してきた楽曲の譜例をパラパラと見返してみてほしい。そこに、コード進行におけるなんらかの**〈共通項〉**を見出せるはず。〈1つのフレーズ〉に対して与えられているコードが、基本的に〈1～2種〉である……ということを。

譜例④をご覧いただきたい。「どんなときも。」のサビ前半部分では〈1小節単位〉でコードが変化し、後半部分では〈0.5小節単位＝2拍単位〉でコードが変化している。

次に**譜例⑤**、「待つわ」のサビ前半部分。1つのフレーズが2小節にまたがっているので、これに準じて〈2小節単位〉でコードが変化している。

譜例③　「Get Wild」サビ〈コード進行：Am→G→F〉

譜例④　「どんなときも。」(コード進行＝1小節単位)……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はF♯メジャー）
作詞：槇原敬之／作曲：槇原敬之

譜例⑤　「待つわ」(コード進行＝2小節単位)……Key＝Aマイナーで記譜（原曲はFマイナー）
作詞：岡村孝子／作曲：岡村孝子

CamScannerでスキャン

というワケで、譜例⑥でもう一度「Get Wild」をご覧いただこう。

サビ冒頭……。

なんと、1音ごとに〈コード・チェンジ〉しているではないか！

メロディの動きにピタリと寄り添う怪しきコードの存在……。

こ、こいつが《強力な味方》なのか!?

〈メロディ〉と〈コード〉のシンクロ!!!!

その正体、暴いたり！

♫ ♫ ♫

もしかしたら……小室さんは〈コード進行〉を先に生み出し、そこにメロディを乗せたのかもしれない。もしくは〈コード進行とメロディ〉を同時に生み出したのかもしれない。いずれの場合であったとしても、以下の図式に変わりはない。

シンクロ
メロディの動き　＝　コードの動き

一般的には、〈1フレーズ〉に対して〈1～2種のコード〉が与えられていたり、〈1小節〉に対して〈1種のコード〉が与えられていたりといった形が常套手段とされており、もちろん、それだけでメロディとコードの関係は十分に成立する。

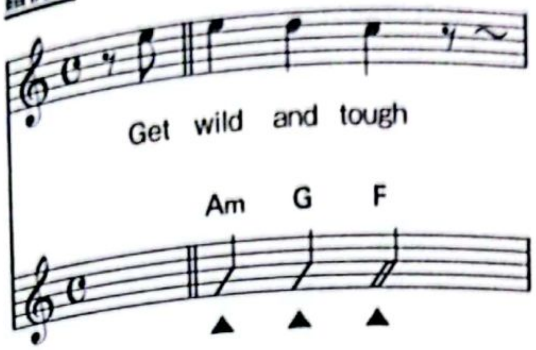
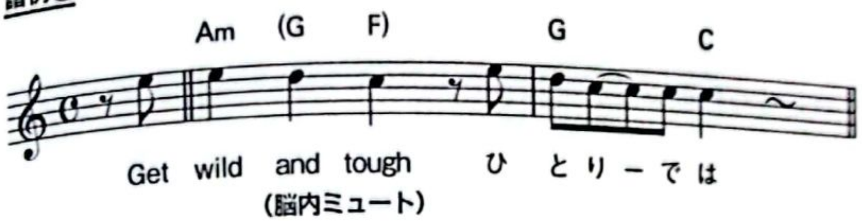
しかし小室さんは、メロディの1音1音を〈強調〉させるために、**それぞれの音に対してコードを与え、そして《シンクロ》させたのである**。このことによって、単純に聴こえがちなメロディは、1音ごとに〈変貌〉を遂げ、**劇的でエモーショナルな訴えかけを発生させることに成功した**。

マニュアル車の運転に例えるなら、1秒ごとに［1速→2速→3速］とギア・チェンジして加速していくようなものだ。加速するたびに、コード変化が〈別の景色〉へと誘ってくれる。それに呼応するように、メロディがドライブし、そしてグルーブを生むのである。

コード・チェンジがなかったとしたら

ではここで、実験してみよう。

例えば、サビ1小節目において〈コード・チェンジ〉が行われず［Am］のままだったとしたなら、どのように聴こえるのだろうか？

譜例⑥　1音ごとに〈コード・チェンジ〉！

譜例⑦　【実験】コード進行（G→F）を脳内でミュートしてみよう

譜例⑦で、2～3拍目のコードを（　）でくくってみた。この部分をアナタの脳内でミュートしてみると、どのように聴こえてくるだろうか？

そう、その通り！

〈劇的でエモーショナルな訴えかけ〉が完全消滅。

ここでアナタは再認識するはずである……1音ごとのコード・チェンジが意味のある強烈な《アクセント》を与えていたのだ、というコトを。

なるほど、コードとはただ単にメロディという主人公を下支えする〈背景画〉の役割にとどまらず、時に主人公の動きにピタリとシンクロして**《アクセントやスピード感を与える》**という働きをしてくれるものなのだ。

それはまるで、なんでもこなせる〈影のマルチプレーヤー〉!!

心得　**コード・チェンジは〈味変の効果〉のみならず、メロディに《アクセント》を与え、《スピード感》を与える。**

影のマルチプレーヤー、演劇の世界に例えていうならば、メロディという名の〈主人公〉の動きを《影》の存在となって助ける黒衣（くろご）のような存在……。

CamScannerでスキャン

いやむしろ、シンプルなメロディを〈VIP要人〉として際立たせ、そこにピタリと張り付き《盾》となってシンクロしながら動く要人警護専従警察官のような存在……つまり《SP》(セキュリティポリス)だ！

このイメージから、私はこの戦法を次のように命名したい。

極意38 超VIP扱い〈SP〉完全シンクロ術

おぉ、これ以上に《強力な味方》があろうか！

SPはシンプルなメロディを〈VIP扱い〉してくれる。そしてさらに、メロディの動きに完全にシンクロしてくれる。

「Get Wild」は《超強力な味方》を手に入れることに成功し、物怖じすることなく「オレを聴け！」と主張できる後ろ盾を手に入れたのであった。

これでは負けない。

何者にも負けるワケがない。

……じつにワイルドである。

超VIP扱い〈SP〉完全シンクロ術

シンプルなメロディの動きにコード進行を〈シンクロ〉させることで、そのメロディに《アクセント》を与え（メロディを際立たせ）、フレーズ全体に《スピード感》を与えるという美味しい効果を生む。

♪ ♪ ♪

シンプルながらも強力な印象を放つメロディ！

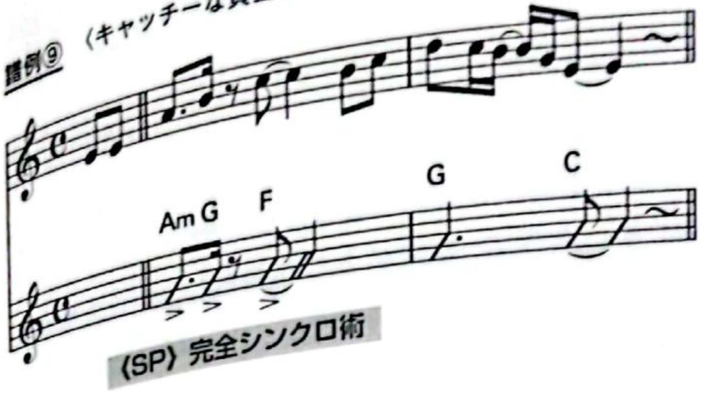
「情熱大陸」の背後でほくそ笑むSP

考察の結果、「Get Wild」のシンプルなメロディの背後にある《強力な味方＝SP》の存在を暴くことに成功した。そこでふと思う。

この手法は「Get Wild」特有のモノなのだろうか？

この例は、他の曲には見受けられないのだろうか？

譜例⑧　「情熱大陸」葉加瀬太郎……Key＝Aマイナーで記譜（原曲はDマイナー）
作曲：葉加瀬太郎

譜例⑨　〈キャッチーな黄金フレーズ〉の背後でほくそ笑む《SP》

そんなことを考えながら、週末の夜、テレビを眺めていたら、超キャッチーなメロディ（**譜例⑧**）が耳に飛び込んできた。

ご存じ、葉加瀬太郎氏の「情熱大陸」だ！

各界で活躍する達人を密着取材し紹介する人気ドキュメンタリー番組『情熱大陸』（MBS/TBS系）のテーマ曲として有名なこの曲は、現代の日本人にとって最もなじみのあるヴァイオリン曲であると言ってよい。

このキャッチーな黄金フレーズ、脳内再生するだけでビンビンと**劇的でエモーショナルな訴えかけ**が発生してくる。

聡明な読者の皆さんは、もうお気づきであろう……。

「情熱大陸」の背後でほくそ笑む《SP》の存在に。

譜例⑨をご覧いただきたい。

《SP》がピタリと張り付いている。

しかもシンコペーション……**俊敏だ！**

身体能力の高いSPである。

CamScannerでスキャン

では、ここでふたたび実験開始！

例えばこのSPが休暇を取得し、不在だった場合、どのように聴こえてくるだろうか？ **譜例⑩**の（　）内の２〜３つ目のコード・チェンジをミュートして、脳内で再生してみてほしい。

なるほど……メロディのキャッチーさは幾分残ってはいるものの、**劇的でエモーショナルな訴えかけは完全消滅**。やはり「情熱大陸」も〈ゲワイ〉同様、シンプルなメロディを際立たせる**《SP》という特殊部隊の存在**が不可欠のようである。

〈ゲワイ〉のコード進行

ここまでにご紹介したのは、２曲とも男性アーティストの作品であった。

SPは〈男性アーティスト〉の作品しか警護しないのだろうか？

いやいやいや、そんなことはない。女性アーティストの作品もしっかりと警護してくれている。

例えばこの曲（**譜例⑪**）、〈あゆ姫〉の代表曲「Boys & Girls」！

ただし、この曲のサビ冒頭は、前掲の２曲に比べて〈譜割〉が少し細かい。ゆえにシンプルさにおいては若干負けてはいるものの、「Get Wild」と同じコード進行［Ⅵm – Ⅴ – Ⅳ］＝［Am – G – F］を起用していることで《SP効果》は絶大なのである。

SP効果

- **メロディに《アクセント》を与える**
- **フレーズ全体に《スピード感》を与える**

……というか。

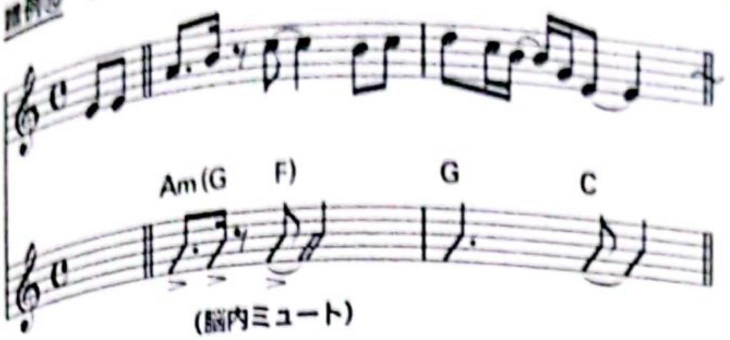
ここまで来ると、メロディ云々というよりも、このゲワイのコード進行自体が《独自の手法》であるようにも思えてきた。

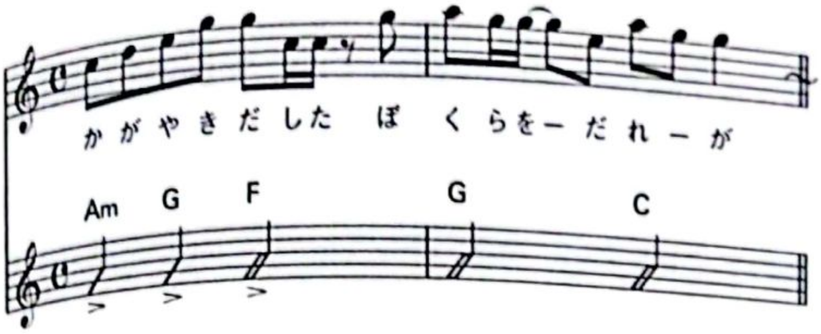
もしかして、既にこのコード進行はひとつの**《完成された手法》**なのかもしれない。

というワケで、この〈ゲワイ進行〉……。

敬意を込めて、大胆にも次のように命名してしまえ！

極意 39　〈ゲワイ〉信仰［Ⅵm – Ⅴ – Ⅳ］

譜例⑩ 【実験】コード進行(G→F)を脳内でミュートしてみよう

譜例⑪ 「Boys & Girls」浜崎あゆみ……Key＝Aマイナーで記譜(原曲はDマイナー)
作詞：浜崎ゆあみ／作曲：D・A・I／編曲：鈴木直人／発売：1999年7月14日



世の中に多くの〈小室信者〉がいるように、きっと「Get Wild」のこの〈カッコイイ〉コード進行のファン(信者)が、た～くさんいるはずだ。

この〈シンプルでありながらもスリリングなコード進行〉から刺激やヒントを授かり、自作に取り入れているという方もワンサカいるはず。

これを《ゲワイ信仰》と呼ばずして何と呼ぼう……。

メジャー系コード進行での《SP》

「Get Wild」「情熱大陸」「Boys & Girls」……。

これら3曲は、偶然にもすべてマイナー・コード系の楽曲であった。

ん……!?

もしかしてこの手法はマイナー系にしか当てはまらないのか？

メジャー・コード系の曲で《SP》が活躍している例はないのだろうか？

CamScannerでスキャン

……と、あれこれ思いをめぐらせていると、まったく想定していなかった往年の名曲に行き着いてしまった。

1981年のこの曲……。

今週の第1位は、松田聖子さんの「夏の扉」～!!!!

譜例⑫をご覧いただきたい。

メロディにピタリと寄り添うコード進行。

しかし、そこに〈SP〉の姿はない。

その代わり、突如として威勢のよい男性陣の声が響いてきた。

「フレッシュ、フレッシュ、フレッ～～～シュ!!!!」

1980年代のテレビ音楽番組の公開生放送で、熱狂的な声援を送る私的ファン組織による〈親衛隊コール〉だ。

そう、聖子ちゃんに寄り添っているのは〈SP〉ではなく……《親衛隊》！(譜例⑬)。

聖子ちゃんの曲をはじめとするアイドル系の明るい曲には、黒服の《SP》という言葉はまったくもって似合わない。

というワケで、あの頃のアイドル文化に敬意を表して……。

☞ 完全シンクロ〈アイドル親衛隊〉の術 (!?)

今から動画検索でタイムリープして、一緒にコールしていただきたい。

検索ワードは「夏の扉＋親衛隊」である。

コードという味方を探せ

コードという〈強力な味方〉がいるだけで、シンプルなメロディが引き立つ場合がある。ぜひ、シンプルなメロディを活かすコードワークを探しだしてほしい。

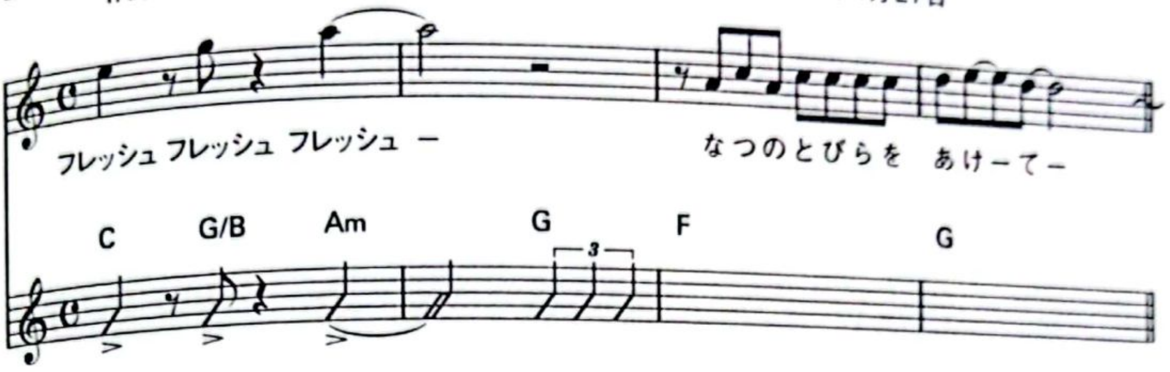
目指せ、第２の《ゲワイ信仰》！

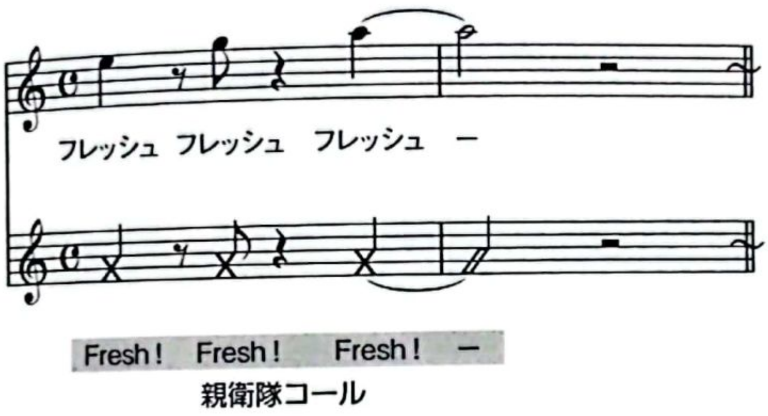
心得 **コードはメロディを引き立たせる〈強力な味方〉である**
シンプルなメロディを活かす〈コードワーク〉を探せ

次にご登場いただくのは、《ゲワイ信仰》を継承する……〈あの曲〉である。

CamScannerでスキャン

譜例⑫　「夏の扉」松田聖子……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はDメジャー）
作詞：三浦徳子／作曲：財津和夫／編曲：大村雅朗／発売：1981年4月21日



譜例⑬　ピタリと寄り添う〈親衛隊〉

CamScannerでスキャン

「千本桜」

黒うさP feat. 初音ミク ……で大発見！

法則 40 ここぞという時には〈日本刀〉を使え

〈ボカロP〉現る

次にご登場いただくのはこの曲「千本桜」。

音声合成ソフト〈初音ミク〉については私が論じるまでもないが、彼女の存否いかんで、その後の音楽シーンはまったく別モノになっていたはず。

〈初音ミク〉が話題に上りはじめた当時、我々メジャー界隈の音楽制作者たちは、この〈近未来的なツール〉と〈商業音楽〉との接点を見出せずにいた。機械が歌った歌をいったい誰が聴くのか、誰が買うのか。レコーディングの経費削減のために「コーラス・パートを賄ってもらうのはありかなぁ」程度の使い道しか思い浮かばなかったのが正直なところである。

しかし、若者の脳ミソは柔らかい。

折しも、DTM（宅録）機器が普及しつつある中、〈初音ミク〉をはじめとする新たなガジェットを駆使しながら作品づくりを行うことで、それまで音楽の受け手であった若者たちは〈作り手/クリエイター〉と名乗る権利を手に入れるようになっていった。さらにはニコニコ動画やYouTubeの台頭が追い風となり、**発表の場所**を手に入れることにも成功した。

この瞬間〈作り手＝送り手〉の図式が完成したのだ。

〈ボカロP〉の誕生である！

ボカロPを取り巻くように絵師（イラストレイター）や動画師（映像制作者）を名乗るビジュアル方面のクリエイターが出現し、それまで存在していなかった〈音楽＋映像〉という自前のコラボ作品を制作＆発表するというムーブメントが発生。

電脳社会の申し子たちである彼らは、競い合うようにボカロの魅力を活かした楽曲や動画を制作＆発表し、瞬く間に支持者を集め、広大な〈ボカロ文化圏〉を形成していったのである。

その集大成のひとつが、この「千本桜」だ。

この曲が発表された2011年（平成23年）とは、どんな年だっただろう？

・東日本大震災発生
・地上アナログテレビ放送が停波/地上デジタル放送に完全移行
・タイガーマスク運動広がる（児童養護施設への匿名寄付）
・FIFA女子ワールドカップで日本女子代表〈なでしこジャパン〉が初優勝
・NHK〈教育テレビ〉が〈Eテレ〉に名称変更

CamScannerでスキャン

・秋元康プロデュース〈乃木坂46〉発足
・米Apple社の創業者〈スティーブ・ジョブズ〉死去

東日本大震災の半年後、2011年9月……。

ひとりの若者がニコニコ動画に放った１曲は、いつしか〈日本の応援歌〉というイメージが与えられ、インターネットという海流に乗り、あれよあれよと数年のうちに多種多様に形を変え、ジャンルを超えて、日本に留まらず世界中に拡散され、そして浸透していった。

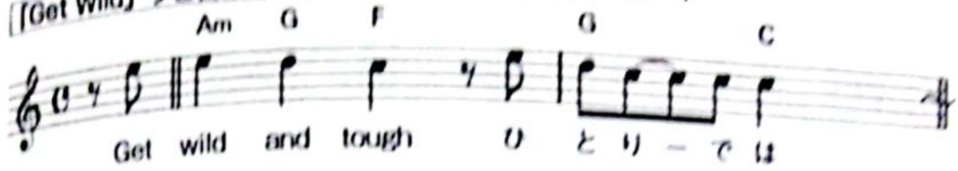
硬質な四字熟語や陰を感じさせる漢字の羅列によって構成された現実社会への諷刺を匂わせる暗喩に満ちた歌詞、大正浪漫テイストの動画……。それらが相まって醸成された中毒性は、若者の魂をわしづかみにしながら社会現象へと発展していった。現在までにいったいどれだけのメディア・ミックス/コラボレーションが行われたのだろうか。

小説漫画
カバー曲
TV-CMタイアップ
紅白歌合戦（小林幸子さん歌唱@2015年）
ゲーム
ミュージカル歌舞伎
イベント（温泉/カラオケ店など）
Tシャツ
メガネ
ネックレス
簪（かんざし）
のれん
せんべい
あんパン
デザート
カステラ
コンビニ弁当

CamScannerでスキャン

譜例① 「Get Wild」と「千本桜 feat. 初音ミク」
「Get Wild」作詞：小室みつ子／作曲：小室哲哉

「Get Wild」サビ冒頭 Key=Aマイナーで記譜（原曲はG#マイナー）



「千本桜 feat. 初音ミク」サビ冒頭 Key=Aマイナーで記譜（原曲はDマイナー）

千変万化にして変幻自在……枚挙にいとまがないとは、まさにこのこと。1曲の〈歌モノ楽曲〉の域を超えた展開。信じられない光景である。これは尋常ではない。音楽史上、まれに見る〈大事件〉であると言ってよい。

ゲワイ信仰を継承する「千本桜」

さてこの曲……前項で予告した通り《ゲワイ信仰》を継承している。

譜例①でコードの流れを検証してみよう。

なるほど。

「千本桜」には、コードとしての［G］は登場しないが、［Am→F］というコード・チェンジの流れの中で、ベースの経過音として［G音］が使用されている。これはもう明らかな〈ゲワイ進行〉であり《ゲワイ信仰》である。

とはいえ「千本桜」のメロディが醸し出す雰囲気には「Get Wild」との明らかな相違点がある。あらためて問うまでもないが、それはつまり、

☞ 和風テイスト

……である。なぜそう感じるのだろうか？

● 演奏に和楽器が使用されているから
● タイトルに〈桜〉が使用されているから
● 歌詞に〈四文字熟語〉や〈漢字〉が多用されているから
● MV（動画）が大正浪漫風だから

ふむふむ。どれも間違いではないが、音楽的側面から言わせていただくと、次の一言に集約される。

☞ 和音階の使用

というわけで、この項では「千本桜」を軸に、ポップスにおける和音階の美味しい活用法について探ってみたいと思う。

ヨナ抜き音階とは

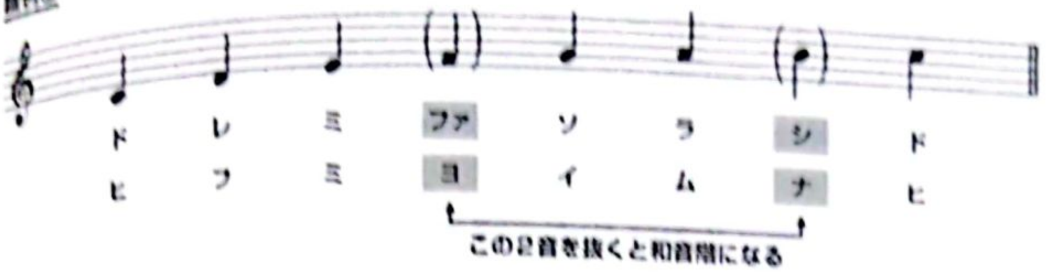
そもそも和音階とはなんぞや。頭の中に鍵盤を広げていただきたい。

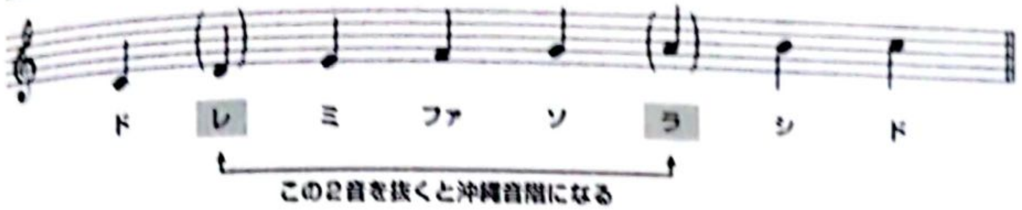
［ドレミファソラシド］から［ファ］と［シ］を抜いた［ドレミソラ］で構成されている音階が〈和音階〉……これを《ヨナ抜き音階》という。

☞ ヨナ抜き音階

明治期、音階の［ドレミファソラシド］は［ヒフミヨイムナヒ］と読まれていた。

イタリア語	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド
英語	C	D	E	F	G	A	B	C
ドイツ語	C ツェー	D デー	E エー	F エフ	G ゲー	A アー	H ハー	C ツェー
日本語（現代）	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド
日本語（明治）	ヒ 一	フ 二	ミ 三	ヨ 四	イ 五	ム 六	ナ 七	ヒ 一

譜例② ヨナ抜き音階

譜例③ 沖縄音階



［ド］から数えて４番目の［ファ］、そして７番目の［シ］を抜いた［ドレミソラ］で構成されていることから《四七抜き音階＝ヨナ抜き音階》と呼ばれている。これは西洋音楽が我が国に入ってくる前から根付いていた日本固有の音階〈五音音階〉である（正確には広くアジアに浸透していた音階）。

音階とは実に不思議だ。［ファ］と［シ］を抜いただけで、それまで西洋風だったモノが一気に〈和風〉な味わいになってしまう（譜例②）。

余談ではあるが、５音で構成されている音階の例としては、沖縄音階（譜例③）やインドネシアのガムラン音楽の音階（ペロッグ/スレンドロ）などが挙げられる。

和風テイストのメロディ

ここで検証してみよう。

ヨナ抜き音階でつくられた曲は、本当に《和風》に聴こえるのだろうか？

譜例④⑤⑥のそれぞれのメロディを口ずさんでみてほしい。
おぉ！ 目の前に〈THE ニッポン〉の愛しき風景が広がってきた。
そしてアナタは気づくはず……〈ヨナ抜き音階＝**覚えやすい**〉ということに。
そりゃそうだ、5音しか使っていない。覚えやすいに決まっている。

心得 〉ヨナ抜き音階は覚えやすい

ヨナ抜き音階をたどってゆくと、唱歌や童謡にたどり着く。昔の子供向けの歌はこの音階で作られていることが多い。この音階に慣れ親しんだ若者はやがて大人となり〈演歌〉を口ずさむようになる。演歌もまたそのほとんどが、ヨナ抜き音階でつくられている。

〈ヨナ抜き音階〉を味わえる演歌の名曲

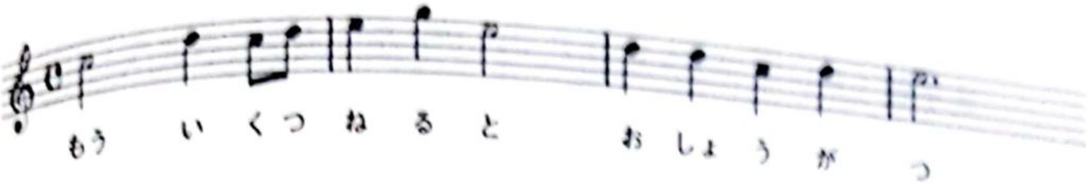
- □「北国の春」千昌夫
- □「北酒場」細川たかし
- □「箱根八里の半次郎」氷川きよし

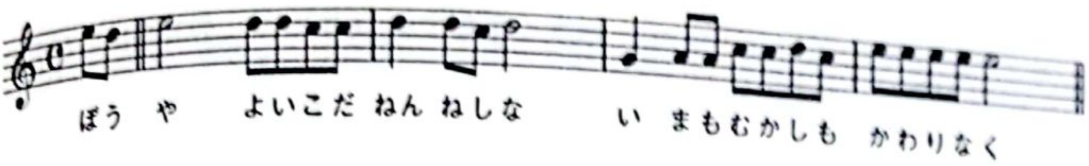
ヨナ抜き音階は〈日本人の拠り処〉であり、ソウル・スケール（音階）なのであろう。

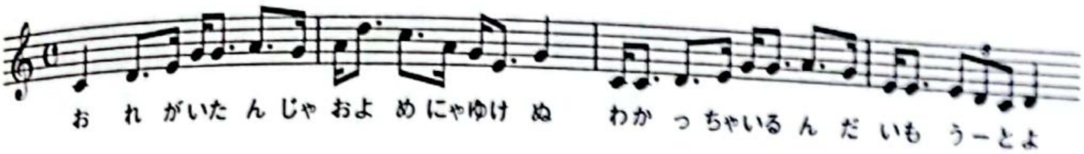
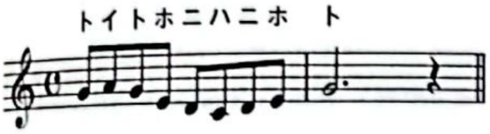
ヨナ抜き音階の〈魔法〉

ヨナ抜き音階を使った曲は覚えやすい。そして何より親しみやすい。
実はこの音階、構成音［ドレミソラ］の音を超テキトーに弾いてみるだけで、あっという間に心地よいメロディができてしまうという《魔法》のような性質を持っている。
では早速、実験開始……。
［ドレミソラ］のみを使用して、鍵盤上で思いつくままに超アドリブのフレーズを弾いてみたのが、**譜例⑦⑧**だ。
なるほど、和風に聴こえる上に、親近感のある素朴で優しいメロディ。勝手気ままに弾いたにもかかわらず〈それっぽく〉聴こえるではないか！
というワケで、この実験の成功を受けて、私は〈作曲初心者〉の皆さまに対して次のようにオススメしたい。「まずはドレミソラだけを使ってメロディをつくってみては？」……と。

CamScannerでスキャン

譜例④ 「お正月」……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はFメジャー）
作詞：東くめ／作曲：滝廉太郎

譜例⑤ 「にっぽん昔ばなし」（テレビ・アニメ『にっぽん昔ばなし』より）……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はFメジャー）
作詞：川内康範／作曲：北原じゅん／編曲：小谷充／発表：1975年



譜例⑥ 「男はつらいよ」（映画『男はつらいよ』より）……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はGメジャー）
作詞：星野哲郎／作曲：山本直純／編曲：山本直純／発表：1969年

譜例⑦ 【実験】ヨナ抜き音階の超アドリブ❶

譜例⑧ 【実験】ヨナ抜き音階の超アドリブ❷

CamScannerでスキャン

まずは〈ドレミソラ〉だけでメロディをつくってみよう！

和音階［ドレミソラ］だけを使用することで、それなりのメロディの生成が可能。とはいえ、実験で弾いたフレーズ（**譜例⑦⑧**）が「キャッチーか？」と問われると答えに窮する。親しみやすさや心地よさはあるが、キャッチーであるとは言いがたい。

当たり前のことであるが、やみくもに［ドレミソラ］を羅列するだけでは、美味しいメロディを紡ぎ出すことはできない。

そこで私は考えた。もしかして、数多く存在する〈和風メロ〉の有名曲のパワーフレーズに〈共通する法則〉が潜んでいるのではないか、そこに《秘伝秘法》が施されているのではないか……と。

というワケで、私は意を決して、ジョン・ウィリアムズの名曲「インディー・ジョーンズ」のテーマをバックに、隠された秘宝を暴く旅に出かけることにした。旅といっても、部屋にこもって〈和風メロの楽曲〉を片っ端から聴きまくるだけである。これは長旅になりそうだ。

しかし。

覚悟していたものの、旅は一瞬にして終わってしまった。なぜなら、旅支度をしている最中、BGMがジョン・ウィリアムズから、突如、教授こと**坂本龍一**さんの曲に変わり、やがて**久石譲**さんの曲へと移行し、これに連鎖するように２曲のJ-POPの〈特徴あるフレーズ〉が、ある共通音を強調しながら脳内に攻め込んできたからである（**譜例⑨⑩⑪⑫**）。

おぉ！　それぞれのパワーフレーズ、すべてが〈和風〉だ。

そしてお気づきだろうか、そこにキラリと見え隠れする《共通点》の存在を！

極上和風メロの陰に……

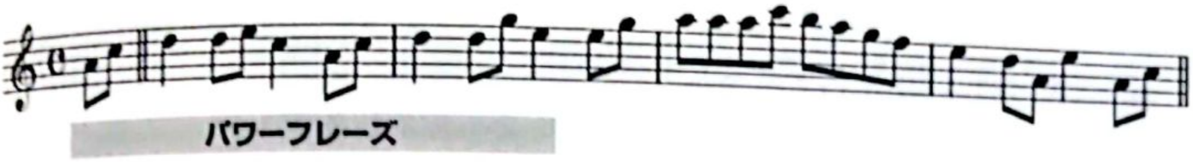
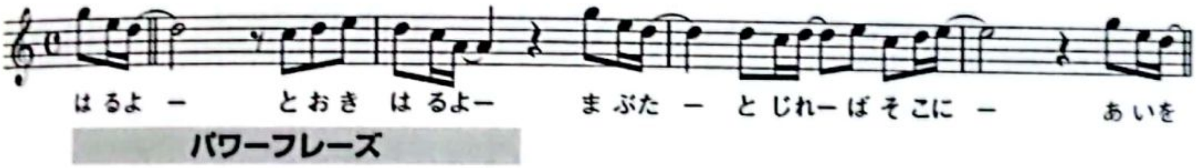
もしかして、既にその秘宝を暴いている方が、この世にゴマンといらっしゃるのかもしれない。何を隠そう、かくいう私も30年ほど前にその秘宝の存在をおぼろげながら認めてはいたものの、明確に〈言語化〉することができずにいた。しかしこの度、勇気をもってカミングアウトしようと決意するに至った次第……。

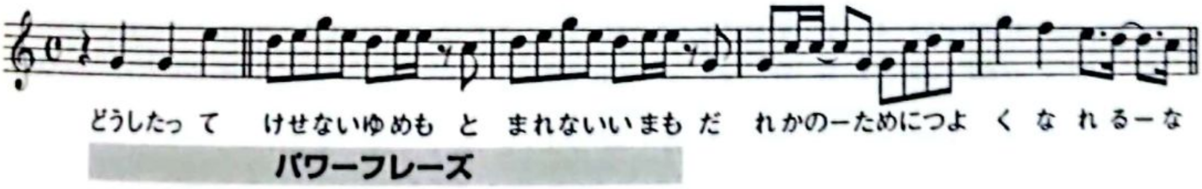
というワケで、ドラムロール、スタート！　*ダダダダダダ*……ジャカジャン!!

☞ 極上和風メロの陰に〈日本刀〉の存在あり！

CamScannerでスキャン

譜例⑨　「Merry Christmas Mr.Lawrence」坂本龍一（映画『戦場のメリークリスマス』より）……Key＝Aマイナーで記譜（原曲はB♭マイナー）
作曲：坂本龍一／編曲：坂本龍一／発売：1983年

譜例⑩　「風のとおり道」久石譲（映画『となりのトトロ』より）……Key＝Aマイナーで記譜（原曲はCマイナー）
作詞：宮崎駿／作曲：久石譲／編曲：久石譲／発売：1987年

譜例⑪　「春よ、来い」松任谷由実……Key＝Aマイナーで記譜（原曲はB♭マイナー）
作詞：松任谷由実／作曲：松任谷由実／編曲：松任谷正隆／発売：1994年

譜例⑫　「紅蓮華」LiSA……Key＝Aマイナーで記譜（原曲はEマイナー）
作詞：LiSA／作曲：草野華余子／編曲：江口亮／発売：2019年



CamScannerでスキャン

ん………わからない？
各方面から失笑が漏れてきた……（汗）。
では、わかりやすい言葉で言い換えてみる。ジャジャン！

☞ ここぞという時には〈日本刀〉を使え！

シーーーーーン。
え!? 余計わからない？ 伝わらないのも無理はないか……。

〈日本刀〉の正体とは

いったい〈日本刀〉が何を意味しているのか……。
この謎、そう簡単には見破れまい。ヒントをお教えしよう。
まず、日本刀をカタカナに変換してみる →〈ニホントウ〉。
そして次に、ホンを〈ホ〉、トウを〈ト〉に言い換える。

ニ ＝［ニ］
ホン＝［ホ］
トウ＝［ト］

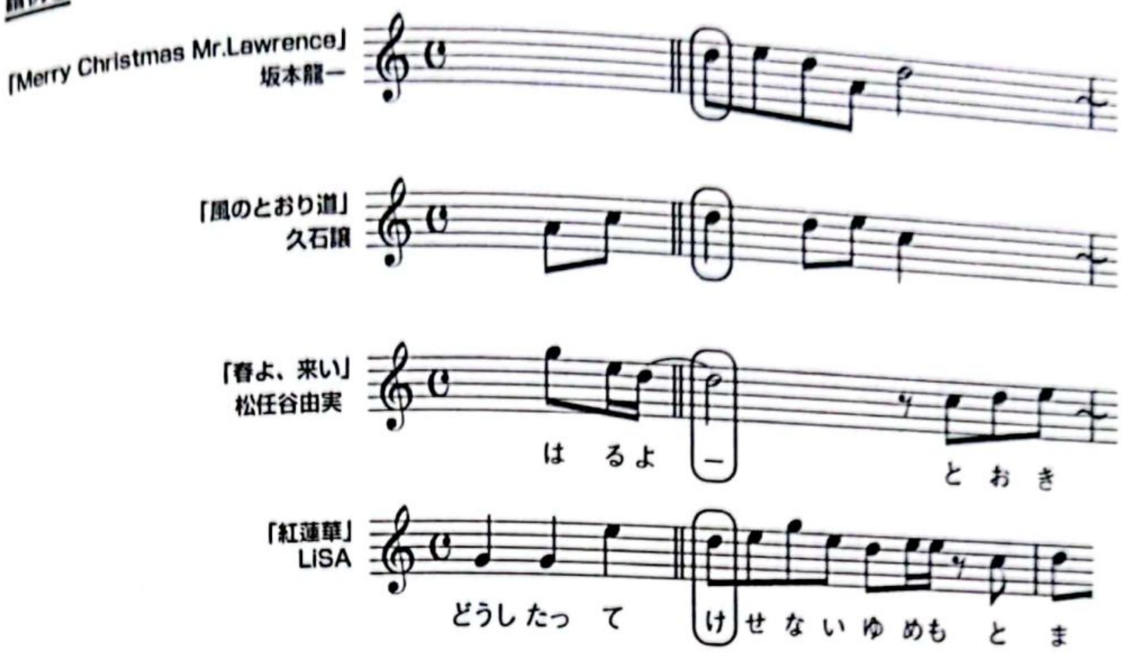
この時点で〈今後の展開〉を先読みできたアナタは勘が良すぎる！
次なるヒントは〈音名〉にある。

イタリア語：	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド
英語：	C	D	E	F	G	A	B	C
ドイツ語：	C	D	E	F	G	A	H	C
日本語：	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	イ	ロ	ハ

日本語の音名［ニ/ホ/ト］は、イタリア語の［レ/ミ/ソ］に相当。

	日本語		イタリア語
日 ＝	［ニ］	＝	［レ］
本 ＝	［ホ］	＝	［ミ］
刀 ＝	［ト］	＝	［ソ］

CamScannerでスキャン

譜例⑬　パワーフレーズ／サビ１小節目の〈１拍目〉に注目！

極意 40

ここぞという時には〈日本刀〉を使え！

↓（音名をイタリア語に変換）

レ　ミ　ソ

ここぞという時には〈ニ・ホ・ト〉を使え！

なるほどなるほど、そういうことか！

しかし、アナタの本心はこうだ。「文字ヅラでは理解できたが、その本質的な意味がさっぱりわからない……」

というワケで上記の譜例⑬をご覧いただこう。

先ほどの4曲のサビの冒頭部分を並べてみた。

きっとアナタはパワーフレーズに潜んでいる《日本刀》の威力およびその〈強力な共通点〉に驚愕するのである！

サビ１小節目の〈１拍目〉に注目！

なななな、なんと！
これは偶然か必然か！
4曲とも［レ］の音、つまり《ニ》で開始されているではないか。

強力な共通点：その1

☞ サビ1小節目の開始音が《ニ》である

それだけではない。その他の《ニ》の部分をご覧いただきたい。
《ニ》の前後に《ホ》が寄り添っている。

強力な共通点：その2

☞《ニ》と《ホ》の連続使用（順不同）

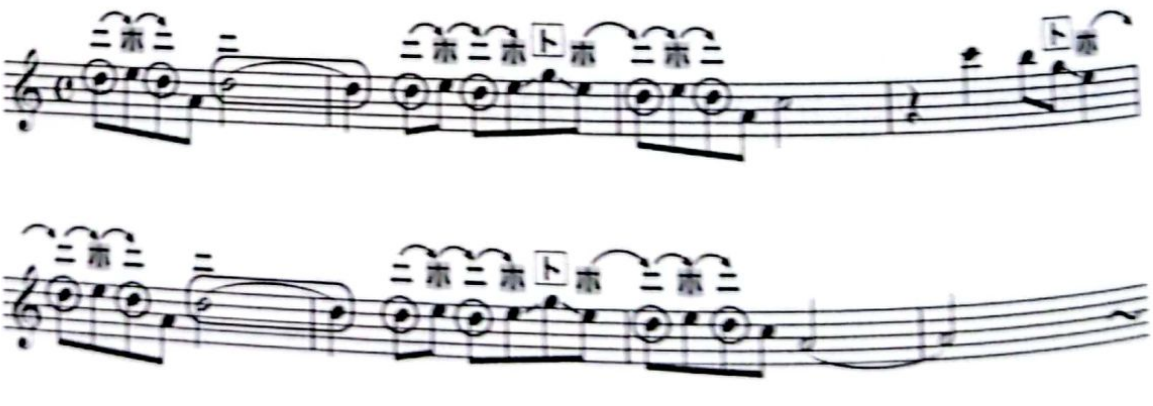
そしてさらに！
時折アクセント的に登場する《ト》は、《ホ》or《ニ》を従えている。

強力な共通点：その3

☞《ホ》or《ニ》を従える《ト》！（順不同）

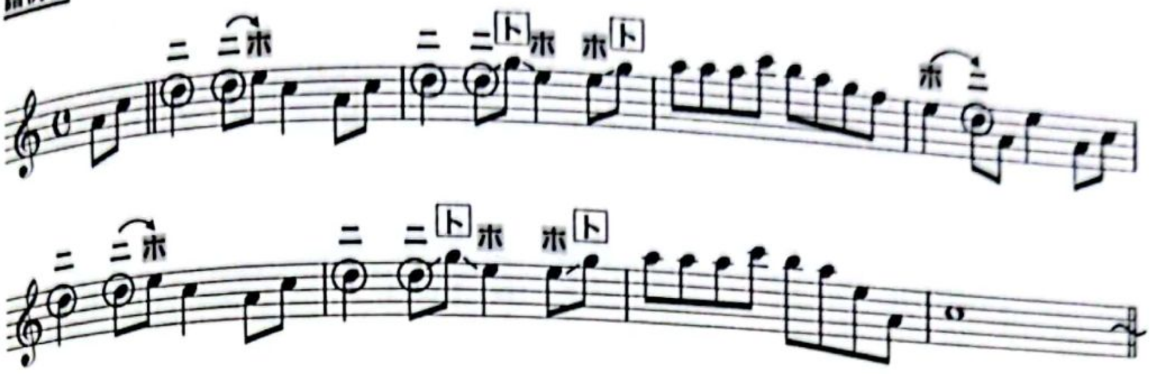
「なにがスゴいのか、よくわからん……」とお嘆きの方のために、譜面をご用意した（**譜例⑭⑮⑯⑰**）。

譜例⑭　「Merry Christmas, Mr.Lawrence」でキラリと光る〈日本刀〉

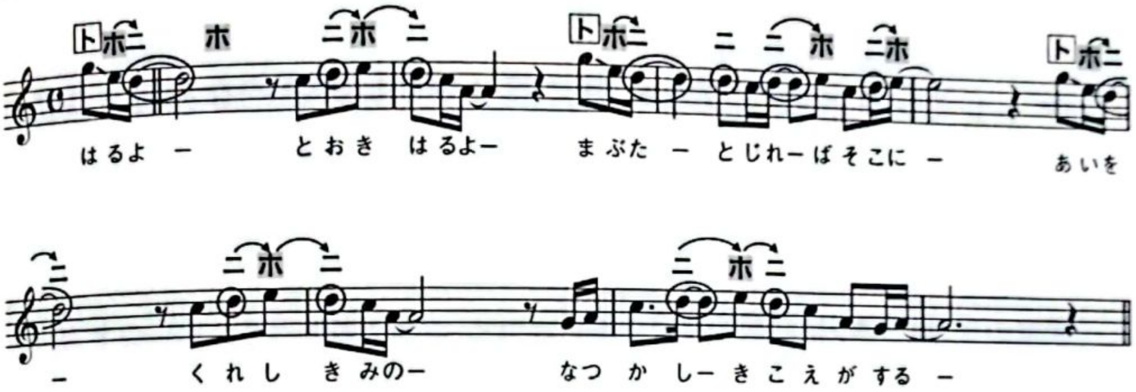


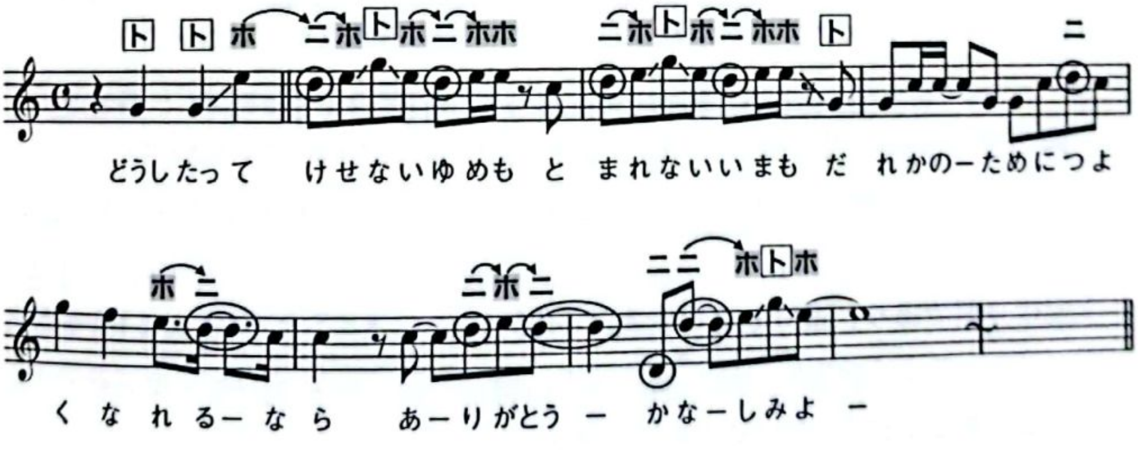
CamScannerでスキャン

譜例⑮ 「風のとおり道」でキラリと光る〈日本刀〉



譜例⑯ 「春よ、来い」でキラリと光る〈日本刀〉



譜例⑰ 「紅蓮華」でキラリと光る〈日本刀〉

なるほど！
ことごとく《ニ》と《ホ》と《ト》が重要な役割を果たしているではないか。
楽器を弾かれる方は、実際に音を出して検証してみてほしい。
《日本刀》の圧倒的な威力に納得していただけるはずである。

☞ ここぞという時には《日本刀（ニホト）》を使え！
（レ・ミ・ソ）

ついに白日の下にさらされた新事実（？）。
和風メロの〈美味しい切り口〉のカギは、驚くべきことに《日本刀》が握っていたのである。

☞ ドレミソラ（ヨナ抜き音階）×《日本刀（最強の切り口）》＝ 耳に残りやすい印象的な和風メロディ

ここで《日本刀》取扱心得３ヶ条をご紹介しよう。

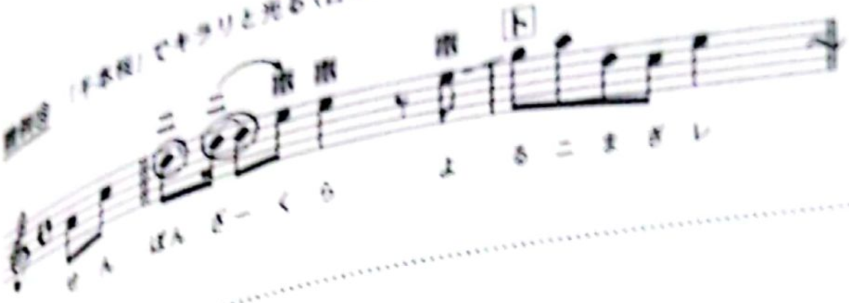
伝家の宝刀《日本刀》取扱心得３ヶ条

第１条：《ニ》を小節アタマに配置すべし
特に〈サビ冒頭〉での使用は効果的！

第２条：《ニ》と《ホ》を連続使用する箇所を必ず設けるべし
《ニ》は《ホ》とペアリングされることで和風味が発動（＝ニホンペア）

第３条：時折《ト》を引き立てるべし（ただし《ホ》or《ニ》を従えて）
［トのさま＝殿様］を引き立てよ！ お伴は《ホ》or《ニ》に任せるべし！

上記は一例であり、遵守していただく必要はない。《ニ》と《ホ》と《ト》を目立つ形でバランスよく曲中に忍ばせるだけで、きっと美味しいメロディを構築できるはず。成功するかどうかは〈剣術士〉次第……。

譜例⑱「千本桜」でキラリと光る《日本刀》

千本桜で光る《日本刀》

というワケでお待たせいたしました！

ここでようやく、本項の真打ち「千本桜」の登場!!!!

果たして作曲者〈黒ウサP氏〉は、この曲で《日本刀》を抜いたのか!?

上記、**譜例⑱**を見よ。

キター―――――！

初っぱなからバッサリやってくれている！

導起直後の〈サビの冒頭〉→《ニ》である!!!!

第1条：《ニ》を小節アタマに配置すべし

そして間髪入れずに《ホ》が登場！(＝ニホンペア)。

さらには《ホ》を従えて《ト》が登場！

第2条：《ニ》と《ホ》を連続使用する箇所を必ず設けるべし

第3条：時折《ト》を引き立てるべし（ただし《ホ》or《ニ》を従えて）

おぉ〜、ことごとく《日本刀》取扱心得３ヶ条に合致……！

美味しく聴こえてくる理由は、間違いなくコレ（↓）なのである。

☞ ここぞという時には《日本刀（ニホト）》を使え！

CamScannerでスキャン

日本刀の猛威はつづく……注目すべきは〈イントロ〉だ。印象的な《繰り返しフレーズ》が何度何度も繰り返されている（**譜例⑲**）。

ななな、なんたることだ！

フレーズ冒頭が《ニ》である。

しかも1～6小節目、ことごとく《ニ》で開始されているではないか!! そして、これら《ニ》の直後には必ず《ホ》が控えている。

嗚呼、**ニホ（ン）ニホ（ン）ニホ（ン）**の連呼……！

震災復興と相まって、いつしか**〈日本の応援歌〉**として位置付けられたこの曲に、このようなメタファーが組み込まれていたとは……!?

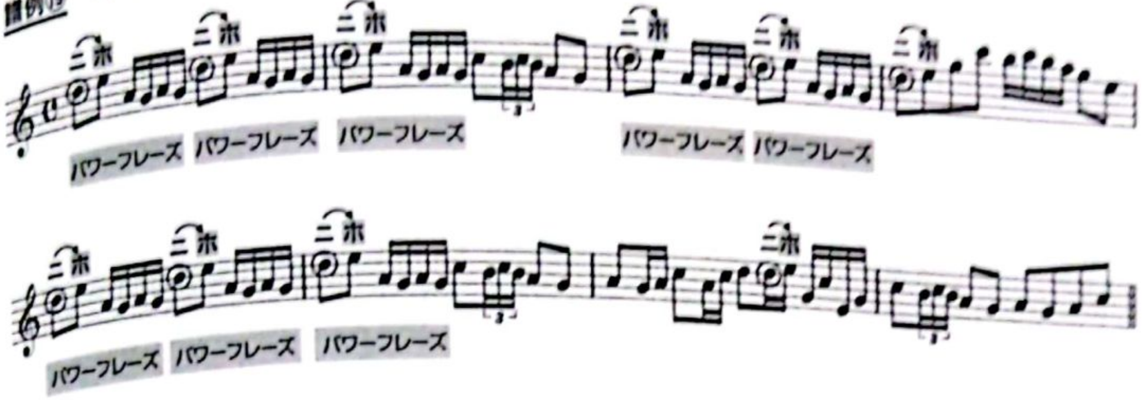
これはもう、誰がなんと言おうと「千本桜」は《超ニホンの曲》なのである。

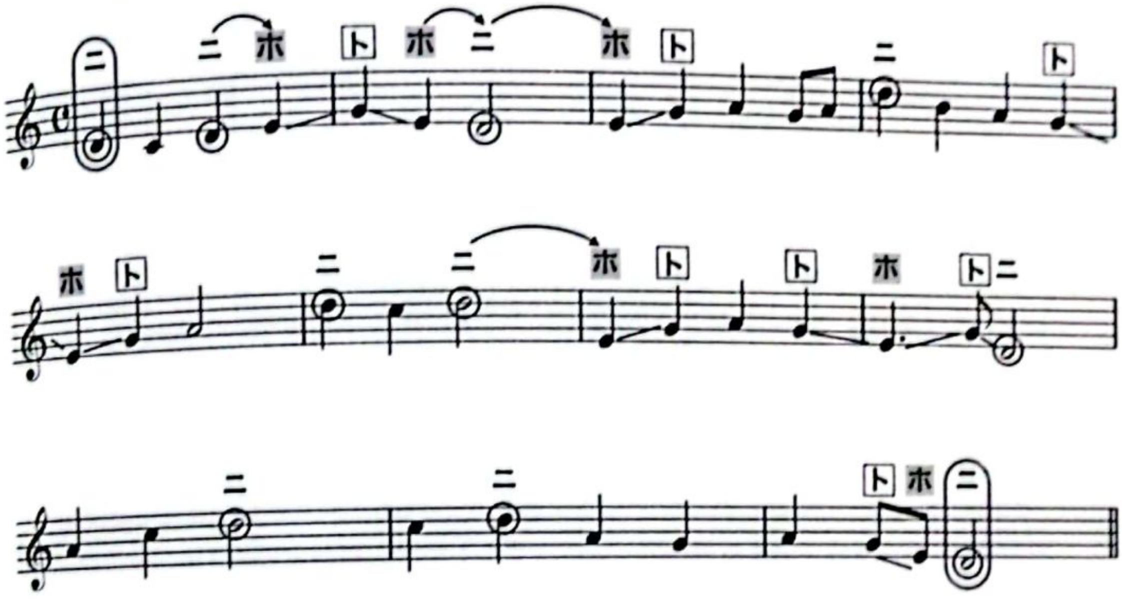
§

最後に和風メロの〈象徴的な1曲〉をご紹介して、この項を終えたい（**譜例⑳**）。

☞ 日本の歌は《ニ》ではじまり、《ニ》で終わる

譜例⑲ 「千本桜」イントロで繰り返されているのは……なんと!?



譜例⑳ 「君が代」
作詞：古今和歌集より／作曲：林 広守

Back Stage

実は「君が代」には３つのバージョンが存在するという。
「古今和歌集」の古歌に由来した歌詞を元に、1870年（明治３年）、薩摩藩の主導により、イギリス陸軍軍楽隊長J.W.フェントンが〈第１の君が代〉を作曲するも大不評。

これを受けて1880年（明治13年）、宮内省雅楽課の林広守らが中心となって、同じ歌詞をもとに作り上げた作品が〈第２の君が代〉。

1881年（明治14年）、これに反発した文部省がこれまた同じ歌詞をもとに音楽取調掛（文部省所属の音楽教育機関）に作らせたものが、賛美歌調の〈第３の君が代〉。

では、ここで問題……。

【問】

これら３つの「君が代」のうち、現在に受け継がれているモノはいったいどれでしょう？

1　第１の「君が代」(J.W.フェントン)
2　第２の「君が代」(林広守)
3　第３の「君が代」(音楽取調掛)

答えは「君が代＋３種類」で検索、またはP191。

第7章

音符に込める愛と工夫とエネルギー

CamScannerでスキャン

Lesson 13

「天体観測」

BUMP OF CHICKEN ……で大発見！

前編

極意 40 | 2文字@1音〈Wスタック〉(乗車率200%型)の術
……密デス効果

作詞｜藤原基央　作曲｜藤原基央　編曲｜BUMP OF CHICKEN
発売｜2001年3月14日
備考｜TVドラマ「天体観測」挿入歌（出演：伊藤英明、坂口憲二、オダギリジョー、小雪、ほか）、docomo CMソング（出演：松坂桃李）

CamScannerでスキャン

新たな潮流を感じさせたバンド

本章では〈音符におけるエネルギー〉について深堀りしてみたい。教材はBUMP OF CHICKENの「天体観測」。今もって世代を超えて根強い支持を誇るバンドの代表曲にして超人気曲である。

BUMP OF CHICKEN……通称〈バンプ〉。

このバンドは世の中の若者に対して、具体的な数値に表せないないほどのすさまじい影響を与えたと言ってよい。多くの〈次世代ロック少年〉を生み出し、音楽の道を志すきっかけや夢を与えられた若者も少なくない。RADWIMPSや米津玄師たちもその中の一人である。

悩める青春期に、優しい視点を持つ物語性と死生観/孤独感が絡み合ったその独創的で繊細な歌詞の世界から〈光〉と〈希望〉と〈勇気〉を授かり、大いに救われたというリスナーもたくさんいるに違いない。

この曲は、2001年にBUMP OF CHICKENの2枚目のシングルとしてリリースされ、翌年2002年には、この曲から着想を得たとされるテレビ・ドラマ「天体観測」(関西テレビ/フジテレビ系)が制作された。新人バンドの曲が短期間にこれほどまで大きくメディア・ミックス的に発展していくこと自体、とても珍しい。同ドラマではもちろんこの「天体観測」が挿入歌として起用され、大きな話題となり、さらなるヒットに結びついた。2013年にはdocomoのCMソングにも起用された。

個人的には、荒々しい重層的なギターのフレーズと、4つ打ちのキック(バスドラム)を基調とした16ビートの疾走感のあるバンド・アレンジに心を奪われ、極限までマイクに近づいた形で録音されたであろうボーカル〈藤原基央氏〉の声の佇まいがとても内証的であったと同時に強靭な意志を感じさせ、従来のロック・ミュージシャンの〈派手/パワフル/扇動的〉というイメージとは一線を画しているその彼らの姿に、来るべき日本のロック・バンドの新たな潮流の予兆を感じていたのだった。

CamScannerでスキャン

さて、2001年とはどんな年だったのか。

・ユニバーサル・スタジオ・ジャパン開園
・東京ディズニーシー開園
・アップルが〈iPod〉を発売
・JR東日本がICカード〈Suica〉のサービス開始
・札幌ドーム完成
・アニメ映画『千と千尋の神隠し』が大ヒット
・アメリカ同時多発テロ事件が発生

テーマ・パークのオープン、新たなデバイスやサービスの導入などなど。なにやら明るい未来へと開けてゆく〈うごめき〉を感じられる。

子供の頃に描いていた2001年のイメージは、名作映画『2001年宇宙の旅』に代表されるような、はるか彼方の遠い未来の〈非現実的世界〉であり、もしかしたら空飛ぶ車や宇宙旅行などが現実になっているのかな……などと夢見ていたものであるが、実際の2001年は、そこに劇的な変化が待ち受けていることもなく、子供の頃から脈々とつづく日常の積み重ねの延長線上に想像の範囲内で存在していた。
とはいえ個人的には、2001年よりも前年の2000年のほうが印象深い。
西暦2000年は〈ミレニアム/千年紀〉という1000年に一度の大きな節目ということもあり、1999年の年末のカウントダウン・イベントの過剰な盛り上がりや〈ミレニアム婚〉などという流行現象に世間は大いに沸き立ち、活況を呈していたように記憶している。

さて〈この曲といえばココ！〉、アナタはどのフレーズを示すだろうか？
やはりサビ冒頭……どうあがいても、これだけは譲れない！（歌詞Ⓐ）
このフレーズ、口ずさむだけで心が浄化される。あふれ出る救済感とでも言おうか。歌詞とメロディの強固な信頼関係によって構築され、さまざまな旨味成分を蓄えている名曲……早速、分析してみることにしよう。

名将〈藤原氏〉の戦略

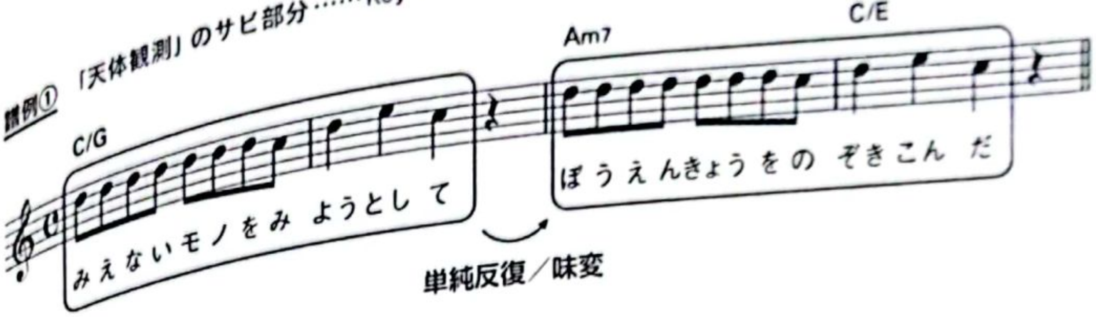
譜例①をご覧いただこう。
サビ部分、おわかりいただけるように〈1～2小節目〉と〈3～4小節目〉は同じ音型、つまり〈単純反復/味変〉である。

CamScannerでスキャン

歌詞Ⓐ　「天体観測」といえば、このフレーズ

見えないモノを見ようとして　望遠鏡を覗き込んだ～♫

譜例①　「天体観測」のサビ部分……Key＝Cメジャーで記譜（原曲は$D^{\flat}$メジャー）



CamScannerでスキャン

では、ここで質問。

【問】
〈サビ1小節目/3小節目〉グループと
〈サビ2小節目/4小節目〉グループの
メロディと歌詞の《関係性》における違いを述べよ

メロディと歌詞の関係性？
つまり〈歌詞の乗せ方〉の違いを示せ……というコトか？
歌詞Ⓑならびに譜例②で考察してみよう。

なるほどなるほど、答えが出た！
基本的にサビ1小節目＆3小節目が〈ひとつの音符＝1文字〉であるのに対し、サビ2小節目＆4小節目は〈ひとつの音符＝2文字〉となっている。つまり定員オーバーの状態……これはまさに《密》!!
この《2文字@1音》のギュっと詰まった感じに、なんともいえない力強さと魅力を覚えてしまう。〈密〉を避けなければいけない社会情勢下の今(2020年現在)、いつにも増して〈密集/密接/密閉〉的な状況に惹かれてしまっている自分がいる。
〈密〉には何か特別な効能があるのだろうか？ 検証してみるしかない。

歌詞の載せ方が生む〈キャッチーさ〉

ここで、またしても実験コーナー。
例えば、2小節目の［とし］部分を譜例③のように《1文字@1音》で歌ってみたらどう感じるだろうか？ 各自、脳内で再生していただきたい。
むむむ……なんだか間延びした〈ゆる〜い感じ〉がする。
同じように、4小節目の［ぞき］と［こん］を譜例④のように《1文字@1音》で歌ってみるとどうだろうか？
ふむふむ、これも間延びする。
やはり［とし］［こん］のように《2文字@1音》のほうがしっくりくる。実際に歌ってみるとわかるが、圧倒的にノリの良さ＆心地よさを感じる。そしてなにより〈感情〉を乗せやすい。
これはつまり、1音に〈2文字〉を詰め込んで凝縮させることで《高密度エネルギー》が発生し → 語感が良くなり＆スピード感が増して → 聴き手に対する《訴えかけ》が出現する……というコトであろう。

CamScannerでスキャン

歌詞Ⓑ　メロディと歌詞の関係性を探る

▶1小節目……[みえないモノをみ]

1音に対して〈1つの文字〉が割り当てられている。
これは日本語の歌における一般的な手法《1文字@1音》である。

▶2小節目……[ようとして]

[よう]&[とし]は、それぞれ1音に対して〈2つの文字〉が割り当てられている。つまり《2文字@1音》である。

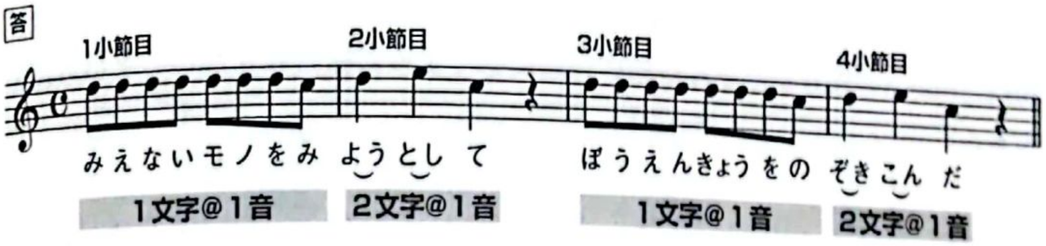
▶3小節目……[ぼうえんきょうをの]

これもすべて《1文字@1音》。
(「きょ」は拗音なので1文字としてカウントする)

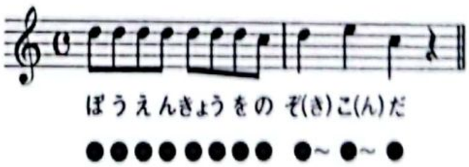
▶4小節目……[ぞきこんだ]

[ぞき]&[こん]の部分は《2文字@1音》である。

譜例②　《メロディと歌詞の関係性》の答え

答

・サビ1小節目／2小節目＝基本的に〈1文字@1音〉
・サビ2小節目／4小節目＝基本的に〈2文字@1音〉

譜例③　【実験】[し]をミュートして脳内再生

譜例④　【実験】[き][ん]をミュートして脳内再生

CamScannerでスキャン

〈2文字＠１音〉による効能

《高密度エネルギー》の発生
《語感》が良くなる
《スピード感》が増す
《訴えかけ》の出現

☞

インパクト
キャッチー
美味しい

……というワケで、多くの〈裏付け〉が出そろった。

２文字＠１音、これは明らかな旨味成分、いわば美味しい〈蜜〉である！

心得 〉２文字＠１音 ☞ 旨味成分 ☞〈密〉は〈蜜〉

歌詞の〈乗せ方〉次第で、メロディの印象は変わる。〈２文字＠１音〉をうまく使うことで、〈キャッチー度〉が一気に増幅される場合がある。

これは大発見だ!!!!

いや、筆がすべった。大発見などではない……昔からあった（汗）。

極私的な音楽体験から鑑みると、サザンオールスターズの桑田圭祐さんが日本語を英語的に発音するという巻舌唱法とのセットで積極的にこの《２文字＠１音》を発信し、さらに岡村靖幸さんがブラック・ミュージックのノリに合わせる形で時代の三歩先を行く刺激的かつ斬新なスタイルで独自に発展させ、それらを受けてMr.Childrenの桜井和寿さんが幅広い層に届くように拡散させた……という印象がある（……あくまでも私感です）。

しかし、今となっては多くのミュージシャンがごく当たり前のように使っているこの手法、よくよく考えてみると〈確たる名称〉が与えられていない可哀想な存在である。

というワケなので、この機会に便乗して、ちゃっかりと命名してしまおう。

その名も、ちょいとカッコつけて……ジャカジャン！

極意 41 ｜ ２文字＠１音〈Ｗスタック〉の術

乗車率200％型

……密デス効果

乗車率200% ＝ 音符の高密度化

Wスタック（ダブルスタック/double stack）とは**《二段重ね》**という意味である。1つの音符に〈文字を二段重ね〉させることで、その音符に〈圧〉を与えて**《高密度化》**させる……そんなイメージ。

☞ 音符の高密度化

高密度化された音符には〈強いエネルギー/訴えかけ/スピード感〉という旨味成分が凝縮されることになる。

2文字@1音〈Wスタック〉の術（乗車率200%型）

2文字　×　1音　＝　音符の高密度化

［強いエネルギー/訴えかけ/スピード感など］

ただしこの手法、どんな場合にも適用できるというワケではない。メロディや歌詞の乗せ方によっては、ダサく聴こえてしまい失敗する恐れがあるので、しっかりと吟味し、試行錯誤を重ねた上でご使用いただきたい。

心得〉〈促音・撥音・拗音・長音〉などは比較的使用しやすい

	促音	撥音	拗音	長音
	[●っ]	[●ん]	[●ゃ]	[●~]
例	[しっ]	[しん]	[しゃ]	[し~]
例	[びっ]	[びん]	[びゃ]	[び~]

さて、この時点でピンときたアナタは、最高の読者である（もちろん、ピンとこなかったアナタも最高の読者である）。

もしかして、あの人のあの曲も《Wスタック》だったのではないか……と。

そう、槇原敬之さんの「どんなときも。」！

CamScannerでスキャン

「どんなときも。」で展開されているのは、比較的オーソドックスな《Wスタック》である。

サビ冒頭の歌い出し〈どん〉は、1音に対して〈2つの文字〉が割り当てられている《2文字@1音》、つまり乗車率200%型(歌詞©)。

ご記憶にもあるように、P21でこの曲のサビのメロディに異なる言葉(文字)を当てはめる実験を試みた。しかし、やはりしっくりこなかった。

つまり、あの〈どん〉の箇所は《Wスタック》がハマりすぎていて、それを超える言葉のパートナーを探し出せなかった……というコト。

これぞまさに《メロディと歌詞の幸福な結婚生活》のお手本である。

そして、その結婚生活の裏に《Wスタック》の存在あり……。

181ページの時を経て暴かれた〈新事実〉……!?。

心得 メロディと歌詞の〈幸福な結婚生活〉
【1】聴いていて気持ちが良い
【2】歌っていて気持ちが良い
【3】覚えやすい/覚えたくなる

〈詞先〉で実践してみる

この《Wスタック》、なにも〈1音＝2文字〉のルールを遵守する必要はない。場合によっては《トリプルスタック》＝《3文字@1音》などのバリエーションも考えられる。(＝通称3密)

せっかくなので、例を示すべく〈詞先〉で実践してみよう。

例えば、次のような歌詞があったとする。

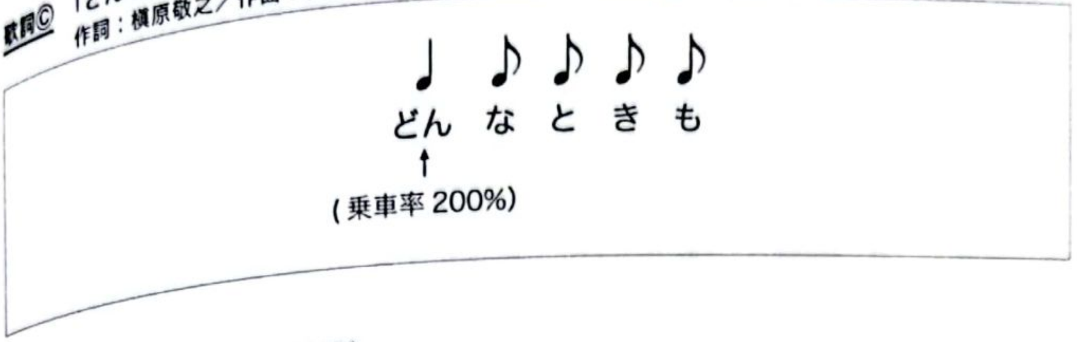
☞ **愛してる　恋してる**

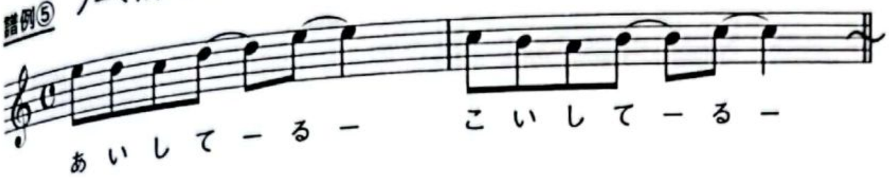
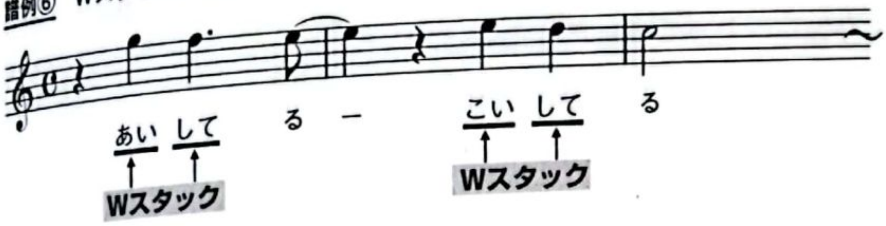
「**この歌詞にキャッチーなメロディをつけよ！**」と指令が下った場合、アナタはどう攻めるだろうか？ どのようなタイプの曲調にするかによって〈譜割の着想〉はまったく異なってくるのだが、私なりに即興で、**譜例⑤⑥⑦**の3タイプのメロディを作ってみた(本書限定オリジナル書き下ろし即興作品!?)。

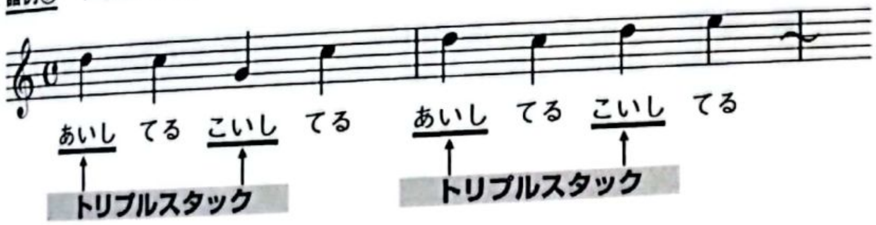
実際に歌ってみていただきたい。

CamScannerでスキャン

歌詞© 「どんなときも。」のサビ冒頭における《Wスタック》
作詞：槇原敬之／作曲：槇原敬之



譜例⑤ ノーマル／乗車率100%型

譜例⑥ Wスタック／乗車率200%型

譜例⑦ トリプルスタック（通称３密）／乗車率300%型



いかがだろうか？

音符への対峙方法（歌詞の乗せ方/ハメ方）によって、印象はガラリと変わるものの、譜例⑤⑥⑦のいずれのメロディも悪くはない。あとはTPOに合わせた選択をすればよいだけの話……。

CamScannerでスキャン

メロディと歌詞の幸福な結婚生活……。

相手が同じでも、どう向き合うかで〈幸せのカタチ〉は異なるようだ。

心得 相手が同じでも、どう向き合うかで〈幸せのカタチ〉は異なる

ちなみに……岡村靖幸さんの超弩級名盤『家庭教師』(1990年)は、メロディに対する歌詞の乗せ方の妙技&奥義を得られる刺激的な教典となるはずである。

ご一聴あれ！

《Wスタック》を探せ！

さて、この項の最後に「天体観測」のサビにおけるすべての《Wスタック》を歌詞Ⓓに示しておこう。

動画サイトやサブスクの音源と共にご確認いただき、メロディと言葉のマッチングの心地よさを存分に味わっていただきたい。

きっとアナタは、蜜デス効果(密＝蜜)の虜になるに違いない……。

CamScannerでスキャン

歌詞Ⓓ 「天体観測」サビにおける《Wスタック》のすべて

1サビ前半	みえないモノをみ	よう	とし	て
	ぼうえんきょうをの	ぞき	こん	だ
1サビ後半	あいたがぼくらを	よん	だっ	て
	へんじもろくにし	な	かっ	た
2サビ前半	しらないモノをし	ろう	とし	て
	ぼうえんきょうをの	ぞき	こん	だ
2サビ後半	そうしてしったい	た	み	を
	いまだにぼくはお	ぼえ	てい	る
3サビ前半	みえてるモノをみ	お	とし	て
	ぼうえんきょうをま	たか	つい	で
3サビ後半	そうしてしったい	た	み	が
	いまだにぼくをさ	さえ	てい	る
4サビ前半	もういちどきみにあ	おう	とし	て
	ぼうえんきょうをま	たか	つい	で
4サビ後半	はじめようかてん	たい	かん	そく
	にふんごにきみがこ	なく	と	も

Lesson 14

「天体観測」

BUMP OF CHICKEN ……で大発見！

後編

極意42 斜め切り〈フライング反復〉

極意43 反復の〈援護射撃〉

極意44 メロディの高カロリー化
［2種ソース添え］

｜作詞｜藤原基央 ｜作曲｜藤原基央 ｜編曲｜BUMP OF CHICKEN
｜発売｜2001年3月14日
｜備考｜TVドラマ「天体観測」挿入歌（出演：伊藤英明、坂口憲二、オダギリジョー、小雪、ほか）、docomo CMソング（出演：松坂桃李）

CamScannerでスキャン

名将〈藤原氏〉の戦術、ふたたび

「天体観測」を分析しているうちに、さまざまな**愛と工夫と旨味成分**が練りこまれていることに気づかされた。アレもコレもとお伝えすると供給過多になり、皆様の満腹中枢にダメージを与えてしまう恐れがあるので、このへんにしておいたほうが無難かなぁ～などと考えてしまったのだが、それは良心が許さない。

というワケで「天体観測」……**前後編の2本立て**でお送りする。

「天体観測」前編では〈サビ冒頭部分〉について分析した。このような旨味成分にあふれたメロディを提供されると、我々リスナーは、その直後に登場するメロディに、ついつい**〈過度な期待〉**を寄せてしまう。

というワケで、ここで取り上げるのは、まさにその期待が集中する〈サビ5～6小節目〉部分……。うわわ、ここは例の**《中だるみ危険地帯》**ではないか!? (「三日月」の項P102を参照)

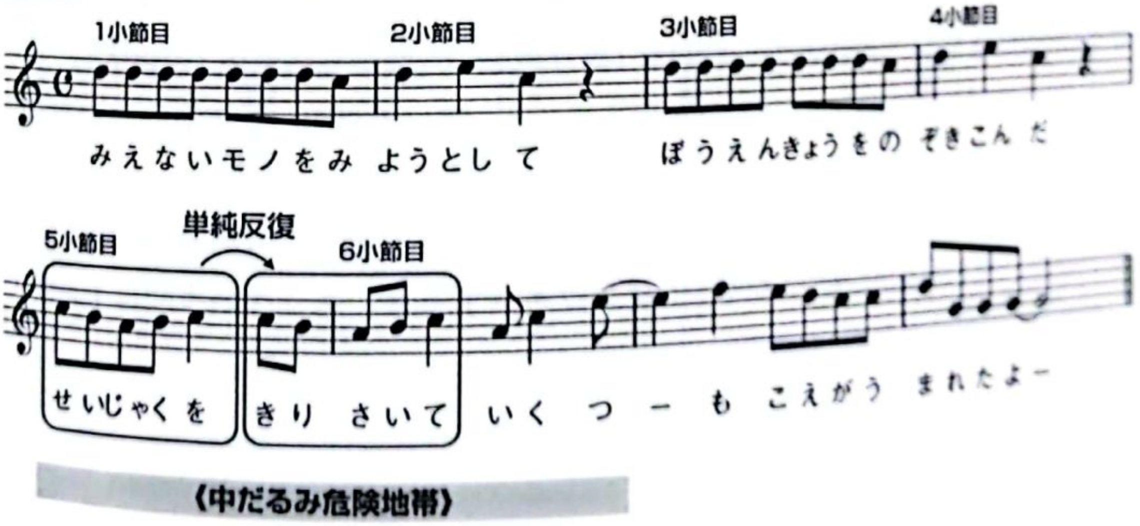
〈サビ・エリア〉の中で攻略が難しいとされるこの難所を、名将〈藤原氏〉はいったいどのような戦術で突破するのであろうか!?

譜例①をご覧いただきたい。

サビ5～6小節目……。

おおっ～と、まさかまさかの繰り返し……**〈単純反復〉**だ！

つまり「三日月」で学んだ**【極意26】中だるみ回避〈中継ぎ反復〉**の術。

譜例① 「天体観測」サビ5～6小節目〈なかだるみ危険地帯〉

CamScannerでスキャン

しかし、譜例②をよく見ていただきたい。繰り返されてはいるが、なんだかちょっと様相が違う。

6小節目……ん？

なにやらズレている？

そう、この部分、実は純粋な《単純反復》ではない。せっかちな感じで繰り返しが〈1拍分〉早く開始されているではないか。まさに、勇み足。陸上競技であれば、不正スタートで厳重注意される場面……。

☞ ピピピ～！ フライング!!!

音型を単純に繰り返したい場合は、譜例③に示すように譜割をそろえるのが一般的だ。しかし藤原氏は〈1拍分フライング〉する形で繰り返しを開始させている。いわば《フライング反復》！（譜例④）

☞ フライング反復

《フライング反復》の作り方

〈フライング反復〉の作り方は実に簡単だ。

我が家のキッチンに残っていた《1本のネギ》で実演させていただく。

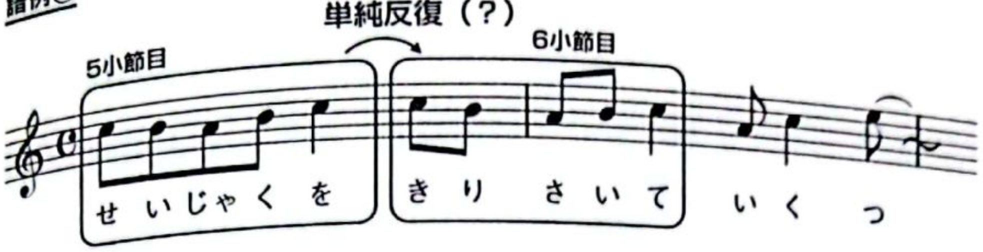
【ぶつ切り】

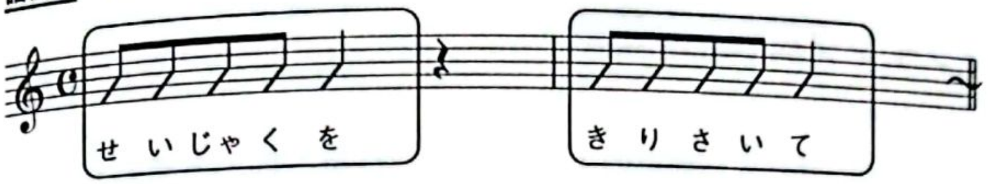
フレーズのちょうど真ん中に〈まっすぐ〉包丁を入れる。この切り方を料理用語で【ぶつ切り】という。これで一般的な〈繰り返し〉の型が完成する（歌詞Ⓐ）。

【斜め切り】

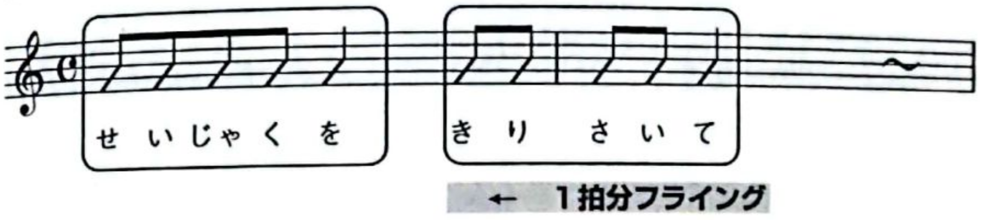
次に別の切り方を試してみよう。繰り返しポイントに対して〈斜め〉に包丁を入れてみる。そしてお好みで〈左下方〉にスライドすると、あっという間に「フライング反復」の完成である（歌詞Ⓑ）。

CamScannerでスキャン

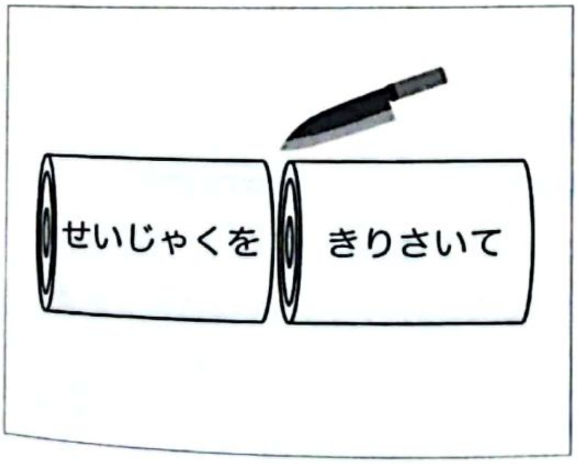
譜例② 繰り返されているが、ちょっと様相が違う……

譜例③ 純粋な〈単純反復〉のモデル型



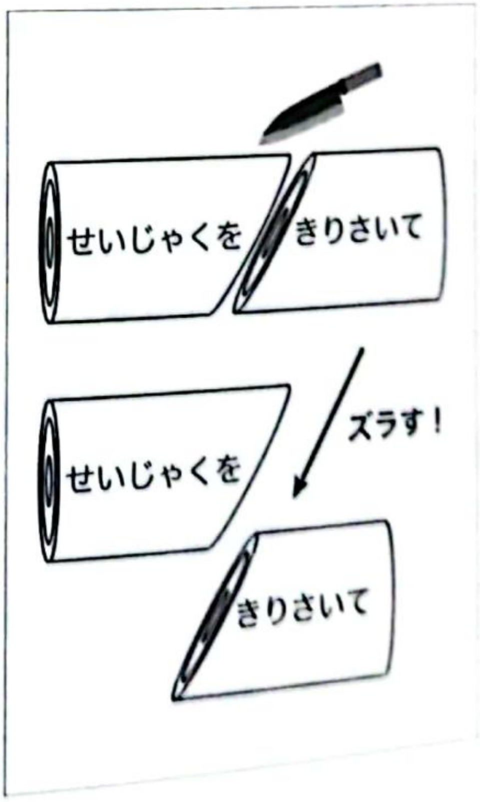
譜例④ 1拍分フライングする形で〈繰り返し〉がスタート＝フライング反復



歌詞Ⓐ 一般的な〈繰り返し〉のつくり方
＝【ぶつ切り】



歌詞Ⓑ 〈フライング反復〉のつくり方
＝【斜め切り】



CamScannerでスキャン

今回、藤原氏が《中だるみ危険地帯》で用いたのは、この〈斜め切り〉戦法。
以下、奇をてらわず、そのままズバっと命名しよう（譜例⑥）。

極意 42 ｜ 斜め切り〈フライング反復〉

斜め切り〈フライング反復〉の効果

この反復術、実に効果絶大である。

スライドさせることで、サビ5小節目の〈4拍目〉（いわゆる弱拍と言われる拍）にアクセントが生じ、安定していたリズムが一瞬〈ズレた〉ように聴こえてくる（拍が逆転したように聴こえる）。

このように、リズムの強弱をズラした形で聴かせることをシンコペーションという。シンコペーションは瞬間的に聴き手に対して違和感を与え、同時に〈インパクト＝刺激〉を発生させる。

さらには、フレーズの〈フライング〉によって〈スピード感＝攻めている感〉が沸き立ち、加えてフレーズが圧縮されることによってエネルギーが〈高密度化〉して、旨味成分が凝縮される。

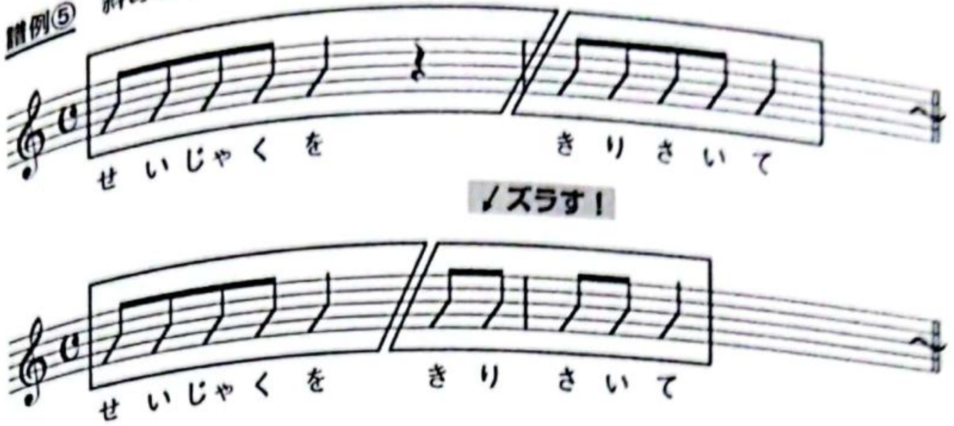
斜め切り〈フライング反復〉の効果

（1）シンコペーション ☞ インパクト／刺激
（2）フライング ☞ スピード感／攻めている感／エネルギーの高密度化

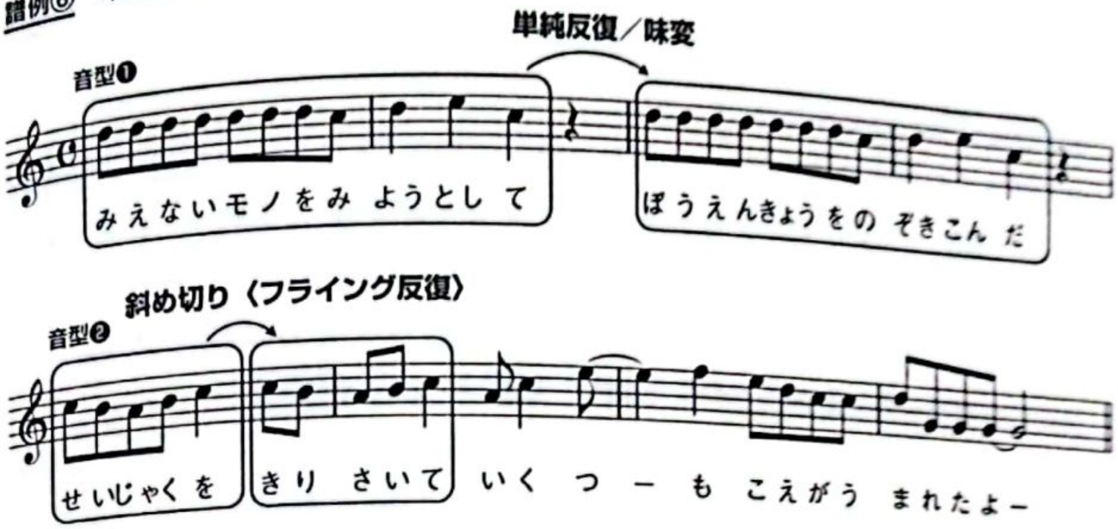
いうなればこの反復術は、繰り返しという《安定成分》に、リズムのズレによる《刺激成分》を掛け合わせた〈合わせ技〉であると言ってよい。これは【極意09】〈安住〉と〈刺激〉の共存の応用にほかならない。

斜め切り フライング反復の術	＝	安住 ［繰り返し］	×	刺激 ［リズムのズレ］ ［シンコペーション］

譜例⑤ 斜め切り〈フライング反復〉



譜例⑥ 単純反復＋フライング反復



このテクニック、何かと汎用性が高く、さまざまな有名曲で使用されている。それらをひとつひとつご紹介するのも大変なので、ぜひアナタ自身の力で探し出していただきたい。

反復につぐ反復 → 反復の〈援護射撃〉

さてここで、前項「天体観測」（前編）で学んでいただいた部分も含めて、〈サビ前半〉の特徴を整理しておこう（譜例⑥）。

〈1～2小節目〉→〈3～4小節目〉 ＝《単純反復》
〈 5小節目 〉 →〈 6小節目 〉 ＝《フライング反復》

CamScannerでスキャン

今、気がついた。

単純反復＋フライング反復→〈反復につぐ反復〉ではないか！

なんと藤原氏、1～6小節という限られた空間の中で、異なる2種類の美味しいフレーズ（音型❶/音型❷）を用意し、それらを一気に畳み掛けるという戦術に出ている。これは《反復の援護射撃》ではないか！

極意 43　反復の〈援護射撃〉

今までにお目に掛かったことのない構造……。

メイン・フレーズ（音型❶）の登場直後に、間髪入れず美味しいオマケ（音型❷）を追加サービスされたようなイメージだ。

譜例⑦をご覧いただきたい。

洋食屋さんに例えて言うなら、特製ハンバーグ定食（メイン＝音型❶）のお皿の上に、オーダーしていない絶品カキフライ（オマケ＝音型❷）が無料サービスで乗っかって出てきてしまったかのような**超お得感**……。

これまでにご紹介してきた楽曲ではまったく見当たらなかった現象である。

まさにカロリーの追撃、明らかな過剰サービス！

というワケでこの手法、大げさな表現が許されるのであれば、こんな異名を与えてみるもよし。

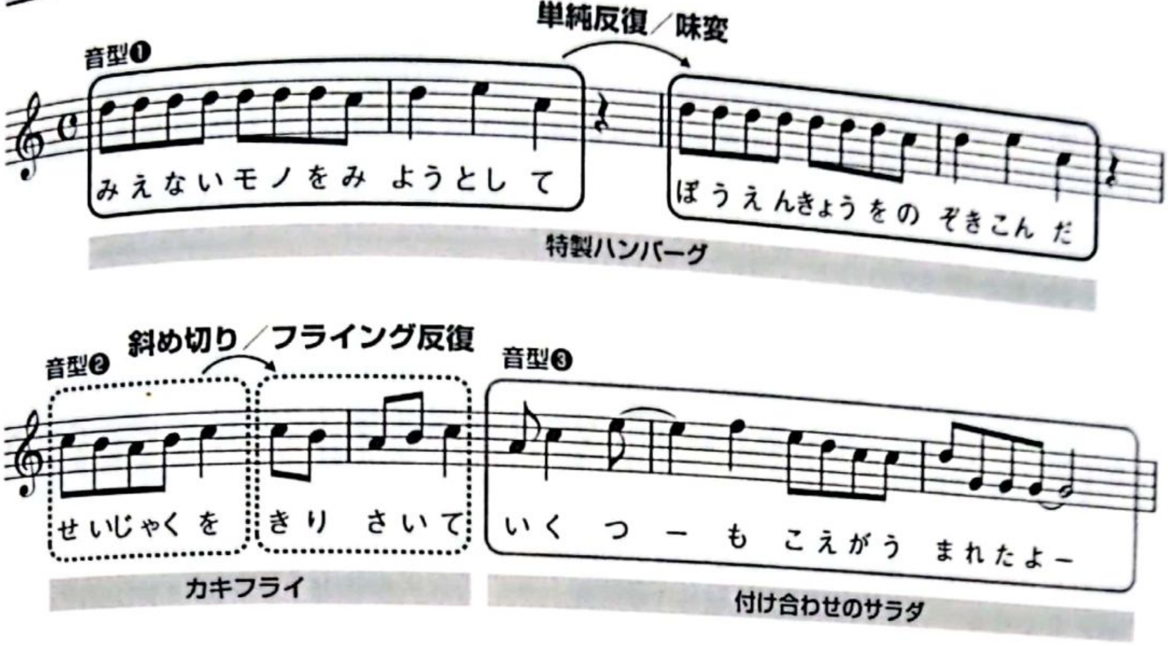
☞　**過剰サービス〈トッピング商法〉**

反復の援護射撃（トッピング商法）の利点

この曲のサビ前半部分に登場する音型は、大別すると〈音型❶/音型❷/音型❸〉……たったの3種。あらためて譜面を俯瞰で見てみると、その音型の少なさに驚かされる。この曲も《省エネ建築タイプ》だったのだ。

しかも3種のうちの〈音型❶/音型❷〉は反復フレーズとして使用されている。効率よく覚えてもらうために〈反復〉で音型を効果的に再利用し、作り手&聴き手の両者にとって無駄のない〈エコ〉なつくりに仕立て上げているのである。

CamScannerでスキャン

譜例⑦ サビ前半部分に登場する〈3つ〉の音型

というワケで、「Lemon」の項でも触れたこの言葉を再掲する。

心得 省エネ建築タイプ ＝ 覚えやすい

心得 省エネ建築タイプ ＝ 吸収率が高い

サビのひとつの〈公式〉

《反復の援護射撃＝トッピング商法》が大部分を占めている「天体観測」のサビ前半……その構造を〈式〉で表してみると、次のようになる。

（特製ハンバーグ）　（絶品カキフライ）　（付け合わせのサラダ）

音型❶×２回 ＋ 音型❷×２回 ＋ 音型❸

（反復の援護射撃＝トッピング商法）

あれれ？ コレってどこかで見たような気がする。

CamScannerでスキャン

デジャブ？　いやいやデジャブではない……**譜例⑧**を見るがよい！

こ、これは!?

なるほど、名曲の構造には共通点がある。そして案外とてもシンプルだ。

〈人間が気持ち良いと感じる構造〉には**《然るべき共通のルール》**が存在するはず。

「天体観測」および「SAKURAドロップス」に当てはまるこの式は、サビ構築における**《重要な公式》**のひとつなのかもしれない。

飽きさせない工夫＝おもてなし

さて次に、トッピング部分である**〈カキフライ＝音型❷〉**に注目してみよう。カキフライの1つ目はサビ前半〈5～6小節目〉に登場（**譜例⑨**）、そして2つ目はサビ後半〈13～14小節目〉に登場する（**譜例⑩**）。

同じカキフライだが、何かが違う。

音型は全く同じなのだが、何かが違っている……。

そう、音の〈高さ〉が異なっているのだ。

カキフライ〈2つ目〉の後半部分、気分の高揚と相まって〈音〉が3度ほど上昇しているではないか！　**譜例⑪**で確認してほしい。

なるほど、〈1つ目〉と〈2つ目〉の間に微妙な変化を与えている。メロディ反復を〈単なる繰り返し〉に終わらせない**《飽きさせない工夫》**……いうなれば**《メロディの高カロリー化》**！

まずはカキフライ1つ目を**〈中濃ソース〉**でいただく。そして2つ目は少しカロリーの高い**〈タルタルソース〉**でいただく……そんなイメージ。

これぞまさに〈安定〉の中に忍ばせた、細やかな〈刺激〉。

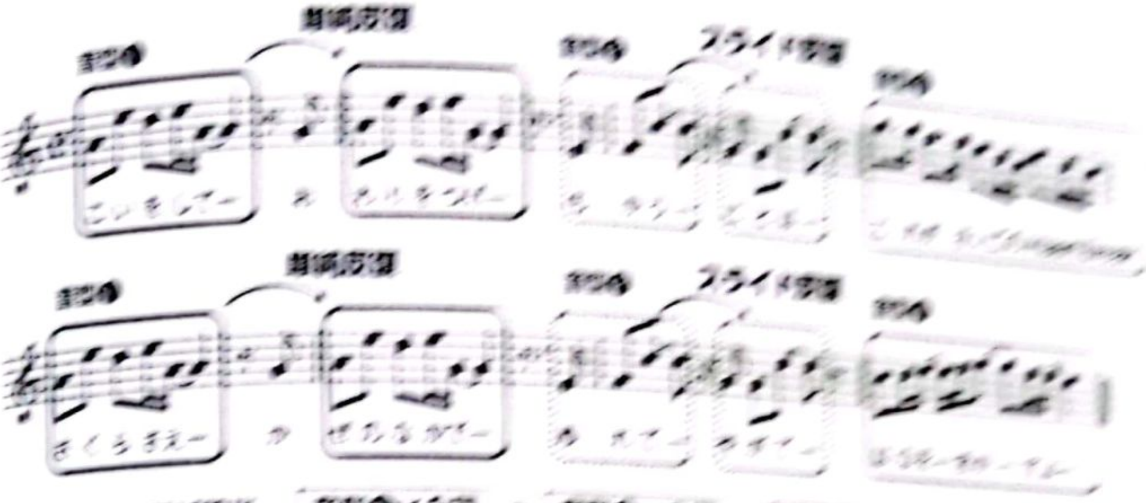
極意 44　**メロディの高カロリー化**［2種ソース添え］
～安定の中に忍ばせた細やかな刺激～

▶カキフライ〈1つ目〉サビ5～6小節目

☞ **中濃ソース**［大さじ1：約23kcal］

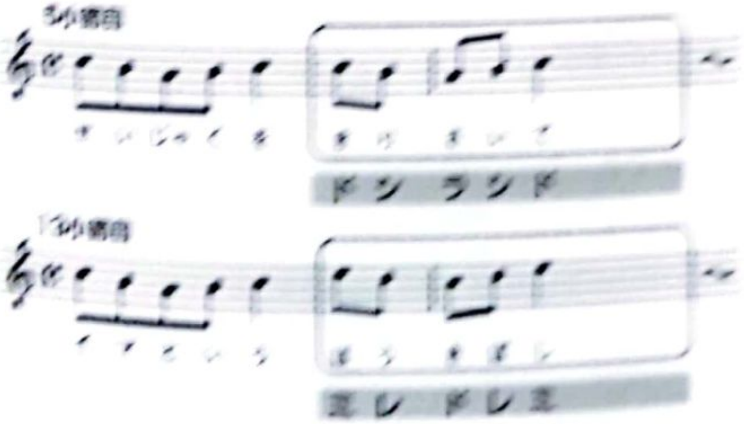
▶カキフライ〈2つ目〉サビ13～14小節目

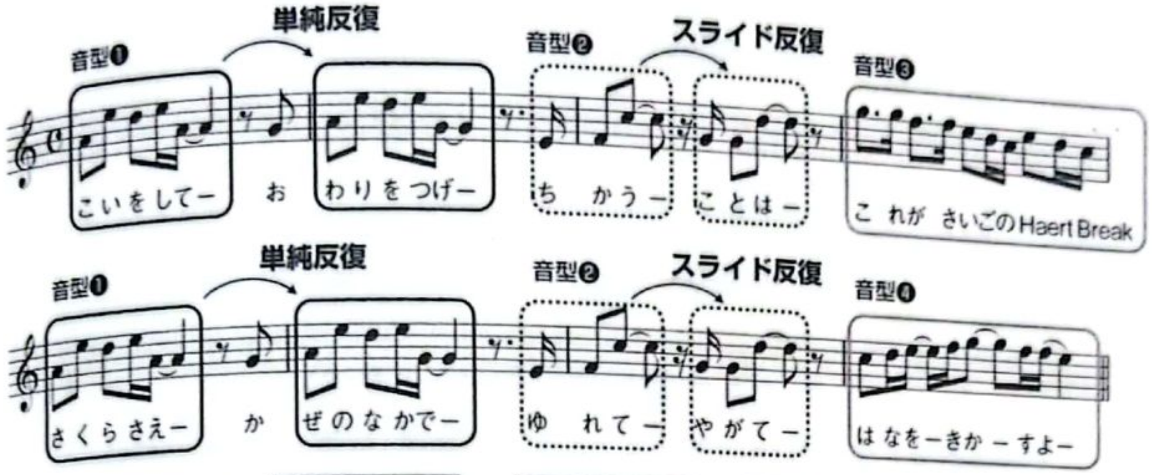
☞ **タルタルソース**［大さじ1：約45kcal］

譜例⑧ 「SAKURAドロップス」サビ
作詞・宇多田ヒカル／作曲・宇多田ヒカル

サビ前半 音型❶／2回 → 音型❷／2回 → 音型❸
サビ後半 音型❶／2回 → 音型❷／2回 → 音型❸

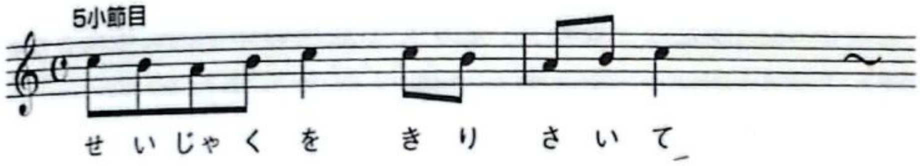
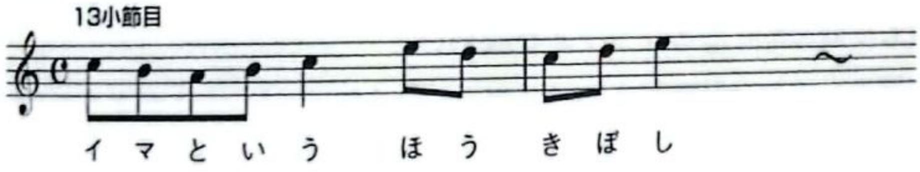
譜例⑨ カキフライ（1つ目）サビ5〜6小節目

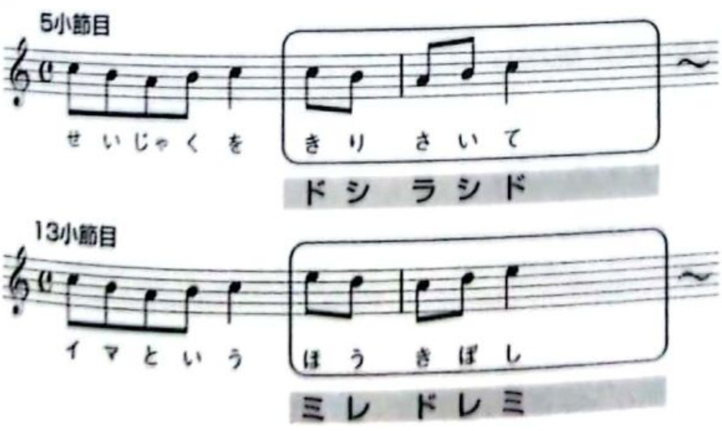
譜例⑩ カキフライ（2つ目）サビ13〜14小節目

譜例⑪ カキフライ（1つ目）と（2つ目）の後半部分を比較

譜例⑧　「SAKURAドロップス」サビ
作詞：宇多田ヒカル／作曲：宇多田ヒカル



サビ前半	音型❶×2回	＋	音型❷×2回	＋	音型❸
サビ後半	音型❶×2回	＋	音型❷×2回	＋	音型❹

譜例⑨　カキフライ〈１つ目〉サビ５～６小節目

譜例⑩　カキフライ〈２つ目〉サビ 13～14小節目）

譜例⑪　カキフライ〈１つ目〉と〈２つ目〉の後半部分を比較



CamScannerでスキャン

藤原シェフ……〈気配り〉が徹底している。これは過剰サービスなどではない。藤原洋食店が誇るお客様への〈おもてなし〉なのである。

よって以下、謝意と共に〈前言〉を訂正させていただくことにする。

訂正

☞ ~~過剰サービス〈トッピング商法〉~~

☞ **おもてなし〈トッピング商法〉**

そして〈デザート〉へとつづく

この曲、すんなりとは終わらない。シェフはきちんと《デザート》まで用意してくださっているのだ。

デザートについては、P126ページの「恋」の項で説明した通り。そこに至るまで一度も登場してこなかった〈新たなフレーズ〉をサビの最後に印象的に登場させることで、その料理を華麗にまとめ上げてくれる美味しい存在……。

「天体観測」におけるデザートとはどこか？

いわずもがな、サビ最後に登場するこのフレーズだ！(歌詞©)

最後の［Ah～♫］実に効いている。

一度聴いただけで覚えてしまうフレーズ。

口の中で何度も反芻したくなるシンプルな味わい。

あたかも焼肉屋さんのお会計時にもらう〈ガム〉や〈キャンディー〉のようなそんなプチ幸福感。

徹底した〈おもてなし〉……実に後味が良い。

藤原シェフ、その巧みの技

前後編に渡ってお送りしてきた「天体観測」。

この曲のサビは、作り手の〈愛と工夫〉が丹念に練りこまれた《特製ハンバーグ定食/絶品カキフライ&デザート付》であった。

あらためて、匠の技を整理しておこう。

CamScannerでスキャン

歌詞© 「天体観測」におけるデザートは……このフレーズ！

Oh Yeah〜 Ah〜♫

= 藤原洋食店 =

《特製ハンバーグ定食/絶品カキフライ＆デザート付》における巧みの技

- ☞ ２文字@１音〈Wスタック〉（乗車率200％型）
- ☞ 反復の〈援護射撃〉
- ☞ 斜め切り〈フライング反復〉
- ☞ おもてなし〈トッピング商法〉
- ☞ メロディの高カロリー化［2種ソース添え/中濃ソース＆タルタルソース］
- ☞ シンプルながらも美味しいデザート

後を引く美味しさ。
また来たいな、このお店……。

CamScannerでスキャン

作曲プチQ&A 8

Q

「良い曲ができた！」と思っても、他人に聴かせると「キレイなんだけど、イマイチ印象に残らない」と言われてしまいます。どうしたらよいでしょうか？

A

全体的に耳心地が良く、美しいメロディで構築されてはいるものの**「結局、一番覚えてほしい部分(フレーズ)ってどこなの？」**……きっとそんな状態。作曲者本人に尋ねても、ピンポイントで答えられないはず。**「この部分だけは絶対に覚えてほしい！」**という気持ちを込めているか？**《主張ある光り輝くメロディ》**が存在しているか？作曲中、常にこの点を意識すべし。

CamScannerでスキャン

第8章

シンプルな構成を味わう

CamScannerでスキャン

Lesson 15

「クリスマス・イブ」

山下達郎

……で大発見！

極意45 | サンドイッチ型は《冒頭メロディ（イチロー選手）》を軸に采配せよ

| 作詞 | 山下達郎 | 作曲 | 山下達郎 | 編曲 | 山下達郎
| 発売 | 1983年6月8日（アルバム『MELODIES』収録曲として）、1983年12月14日（シングル）
| 備考 | JR東海テレビCM『クリスマス・エクスプレス』（ほか、多数タイアップあり）

CamScannerでスキャン

ギネス級〈冬の風物詩〉的名曲

さて、最終章である。

高カロリーの内容が続いたので、最後はカロリーオフでいこう。

ここまで取り上げてきた楽曲の**〈この曲といえばココ！〉**の箇所は、すべて〈サビ〉であった。

「どんなときも。」「ラブストーリーは突然に」「Lemon」「Get Wild」「天体観測」……思わず口ずさんでしまうフレーズは**すべて《サビ》のメロディ**であった。

しかし、物事には必ず〈例外〉というモノが存在する。その代表格がこの曲。ニッポンの冬の**風物詩的鉄板ソング**、孤高のポップス職人/山下達郎御大の「クリスマス・イブ」である。

この曲がどこからともなく流れてくると「冬が来たなぁ」「もうすぐクリスマスかぁ」「今年も1年早かったなぁ」などという感慨が渦巻きはじめ、国民全員を一気に年末モードへと誘い込んでしまう**条件反射機能付冬歌定番曲！**

この1曲だけで〈山下達郎〉という言葉が冬の季語になってしまったそうであるが、名曲「SPARKLE」で達郎様にハマってしまった私にとっては、絶対的に〈山下達郎=夏オトコ〉なのであり、当時のキャッチ・フレーズ「夏だ！海だ！タツローだ！」を今もって信奉しているのであるが、よくよく調べてみると〈山下達郎〉は夏の季語でもあるらしい。俳人の黛まどかさん主宰の俳句グループが提唱しているそうなのだが、こうなったら、夏と冬に加えて、春と秋の季語にもなっていただき、前人未到の〈季語の四冠王〉を目指していただきたい(!?)。

実はこの「クリスマス・イブ」、初出はアルバムである。私がこの曲を最初に認識したのも、1983年発売のアルバム『MELODIES』B面ラストを飾る印象的な曲……としてであった。

5年後の1988年、深津絵里出演による〈JR東海〉のテレビCMソングに起用されたことで広く世間一般に知られるようになり、翌1989年の牧瀬里穂出演の同CMでの再起用で支持者が急増。ついにはこの年の12月にチャート1位に登りつめることになる。発売から実に〈6年6か月〉を費やして1位を獲得、これは当時の最長記録とされた。

その後、毎年クリスマス時期になると必ずチャートにランクイン。なんと2016年には、30年連続でチャート100位入りしたことで〈日本のシングル・チャートに連続でチャートインした最多年数の曲〉としてギネス世界記録に公式認定された(1986年~2015年：30年連続シングルチャート100位入り)。

サンドイッチ型の構成

ぜひ友人知人に尋ねていただきたい。

「クリスマス・イブってどんな曲？」と。

きっと誰もが無意識に口ずさんでしまうのは、歌詞Ⓐのフレーズ……。

ん？

このフレーズは〈Aメロ〉……サビではない!?

なぜ、サビではなく〈Aメロ〉が日本国民に浸透しているのだろう。

テレビCMで流れる部分が、毎回決まって〈このフレーズ〉だから……!?

あれれ、そもそもこの曲における〈サビ〉とは、一体どこなのだろうか？

譜例①を見てみよう。

んんん……〈Aメロ〉直後のメロディがサビなのか？

いや、サビっぽくも聴こえるが、通常の〈Bメロ〉として捉えることもできる。だがしかし。この〈Bメロ〉の直後に《大きな展開》は訪れない。ふたたび〈Aメロ〉が登場し、そして間奏へと流れを受け渡している。

なるほど、この曲の正体がわかった！

2つの〈Aメロ〉が〈Bメロ〉を挟んでいる構造、つまり［A-B-A］の《サンドイッチ型》なのである。

「クリスマス・イブ」の構成 →《サンドイッチ型》

イントロ -［A-A-B-A］- 間奏 -［B-A-A］- エンディング（コーダ）

※注：間奏とエンディングは〈A〉と同じコード進行

一曲を通して、なんと〈A〉の登場回数の多いこと。楽曲の大部分をAメロが支配している。頻出度合いの観点からみても、この曲における《領土主権》はAメロだ。ゆえに〈強く印象に残るフレーズ＝Aメロ〉となる。これは自明の理である。

心得 サンドイッチ型の領土主権は《Aメロ》である
～Aメロが圧倒的な支配力を握る～

その昔……。

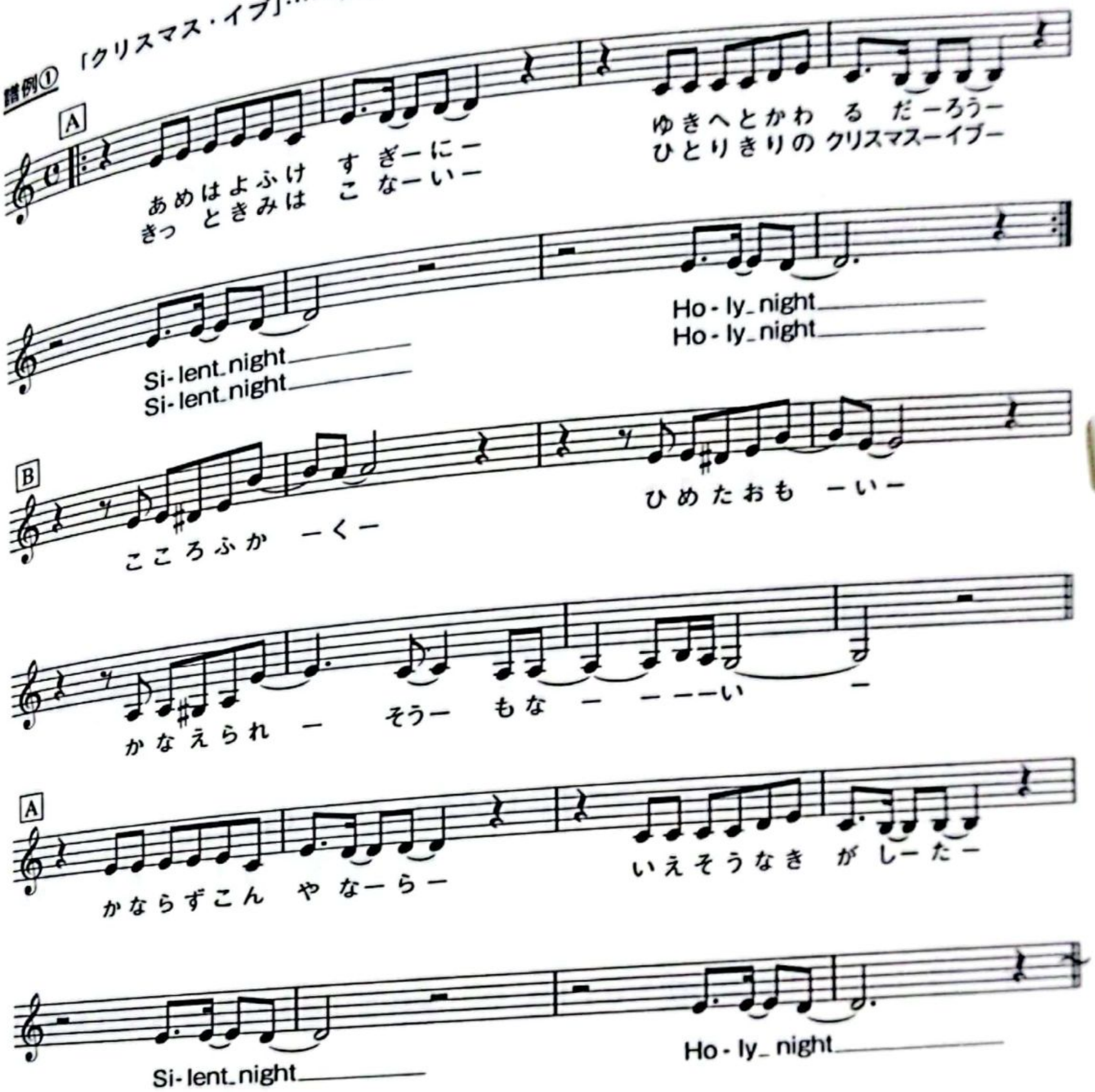
［A-B-A］や［A-B-A'］のサンドイッチ型のヒット曲が多かったように思う。いくつか挙げてみよう（→P224）。

CamScannerでスキャン

歌詞Ⓐ 「クリスマス・イブ」といえば、このフレーズ

雨は夜更け過ぎに〜♫

譜例① 「クリスマス・イブ」……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はAメジャー）



□「上を向いて歩こう」坂本 九（1961年発売）
□「君といつまでも」加山雄三（1965年発売）
□「およげたいやきくん」子門真人（1975年発売）
□「いい日旅立ち」山口百恵（1978年発売）
□「ルビーの指環」寺尾 聰（1981年発売）
□「北の国から ―遥かなる大地より―」さだまさし（1982年発売）
□「少年時代」井上陽水（1990年発売）

これらの名曲、メロディの展開が少ないので、とにかく覚えやすい。

読んで字のごとく、サンドイッチのようなお手軽感があり、すっと喉を通り、食べやすい。消化活動に余分なエネルギーを使わず、胃もたれしない、まさにカラダにやさしいイメージだ。

心得 〈サンドイッチ型〉は親しみやすい

〈サンドイッチ型〉と〈イチロー選手〉の関係

上記に示した往年の名曲は、日本歌謡史に燦然と輝く超レジェンド級の楽曲である。リアルタイムで体験していないアナタでも、このうちの何曲かはテレビやネットで耳にしたことがあり、もしかしたらそれぞれの〈有名なフレーズ/象徴的なフレーズ〉をなんとなく口ずさめてしまうのではないだろうか？

そう……歌詞つきで！（歌詞⑧）。

はらはらはら、そこのアナタ、完ぺきに口ずさめているではないか！

そしてお気づきであろうか、これらの有名フレーズ/象徴的フレーズには《強力な共通点》が存在していることを。

そう、アナタが口ずさんだフレーズは、なななんと……。

ジャジャン！

すべて〈Aメロ1小節目〉なのである！

☞ **有名フレーズ ＝ すべて〈Aメロ1小節目〉**

CamScannerでスキャン

「上を向いて歩こう」坂本 九 …………………………… 上を向いて～♫
作詞：永 六輔／作曲：中村八大

「君といつまでも」加山雄三 ………………………… 二人を夕闇が～♫
作詞：岩谷時子／作曲：弾 厚作

「およげ！たいやきくん」子門真人 ……… 毎日毎日 僕らは鉄板の～♫
作詞：高田ひろお／作曲：佐瀬寿一

「いい日旅立ち」山口百恵 ………………………… いい日 旅立ち～♫
作詞：谷村新司／作曲：谷村新司
※注：繰り返し回のAメロ1小節目

「ルビーの指環」寺尾 聰 ……………………… 曇りガラスの向こうは～♫
作詞：松本 隆／作曲：寺尾 聰

「北の国から ー遙かなる大地よりー」さだまさし ………… ア～ア～♫
作曲：さだまさし

「少年時代」井上陽水 ………………………………… 夏が過ぎ～♫
作詞：井上陽水／作曲：井上陽水、平井夏美

というワケで、これで確信するに至った。サンドイッチ型楽曲における〈キモ〉は冒頭メロディにあり……。これぞ、サンドイッチ型の法則！

心得　サンドイッチ型の法則

冒頭メロディ（Aメロ1小節目）は、
必ずやその曲を代表するフレーズとなり、
自動的に《牽引役＝リーダー》に任命される。

なるほど、サンドイッチ形式で曲をつくる場合は〈冒頭メロディをいかに美味しく仕上げるか〉が最重要課題になるというワケだ。となると、**歌詞を含めてイヤーキャッチのある印象的なフレーズに仕上げなければいけない**。冒頭メロディの成否が〈サンドイッチ型楽曲の成否〉に大きく影響してくるのである。

野球の世界に例えて言うなら〈冒頭メロディ＝1番バッター〉。

つまり、トップ・バッターであり続けた〈**イチロー選手**〉のような存在。4番バッター以上に注目され、常にチームの牽引役だった〈1番イチロー〉。サンドイッチ型の成否は、イチロー選手レベルの《**冒頭メロディ**》を育成し、試合で大活躍させることができるか……にある。

監督の指導力と采配が問われる場面……。

そう〈監督〉はアナタである！

極意 45　サンドイッチ型は《冒頭メロディ（イチロー選手）》を軸に采配せよ

サンドイッチ型をたどってゆくと

サンドイッチ型……その変遷をたどってゆくと、クラシック音楽に行き着く。誰もが知っているベートーヴェン大先生の「**交響曲第5番"運命"**」。

〈この曲といえばココ！〉は、全人類的に考えてみても冒頭〈ジャジャジャジャ〜ン〉以外ありえない（**譜例②**）。

このフレーズ、ポップス的に捉えると〈Aメロ〉的な立ち位置にありつつも、十分に〈サビ的〉な役割を担っているとも言える。いわば存在感たっぷりの《**牽引役＝リーダー**》。「運命」第1楽章は、冒頭にこの〈ジャジャジャジャ〜ン〉が第1主題として提示され、以降、大なり小なりこのフレーズが変身を遂げ、間断なき**波状攻撃**を展開してゆく（**譜例③**）。

「運命」第1楽章は〈ソナタ形式〉で作られている。

上記フレーズを含んだ〈提示部〉から〈展開部〉に移行し、最後に主題が再び提示される〈再現部〉へと進む。

これをポップス的に大ざっぱに解釈すると［提示部A→展開部B→再現部A'］、つまり**サンドイッチ型**として捉えることができる。

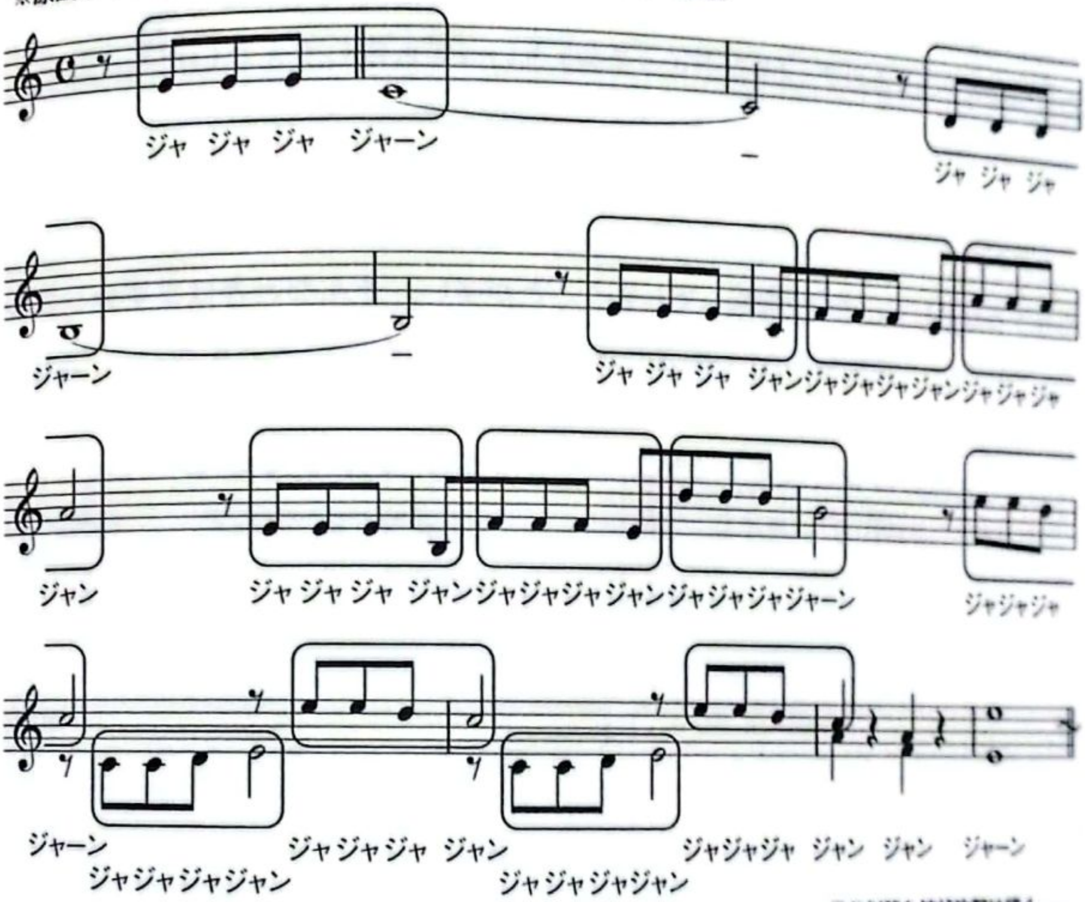
CamScannerでスキャン

譜例② 「交響曲第５番"運命"」第１楽章／冒頭フレーズ……Key＝Aマイナー／４分の４拍子で記譜（原曲はCマイナー／４分の２拍子）

「SYMPHONIE NR.5 SCHICKSAL OP.67」作曲：LUDWIG VAN BEETHOVEN

譜例③ 「ジャジャジャジャ〜ン」の波状攻撃！

※原曲は「4分の2拍子」だが、ここでは「4分の4拍子」で表記



これ以降も波状攻撃は続く……

クラシック作品の多くは、この形式で作られている。

とはいえ、交響曲はあまりにもスケールが大きすぎてピンと来ないので、小学生でも知っている「**きらきら星**」を例に挙げてみよう。ちなみにこの曲は、モーツァルトが変奏曲として発表している由緒正しきクラシック曲である（**譜例④**）。

なるほど、実にわかりやすい。

［提示部A→展開部B→再現部A］である。

日本の唱歌や童謡などにもこの形が多い。

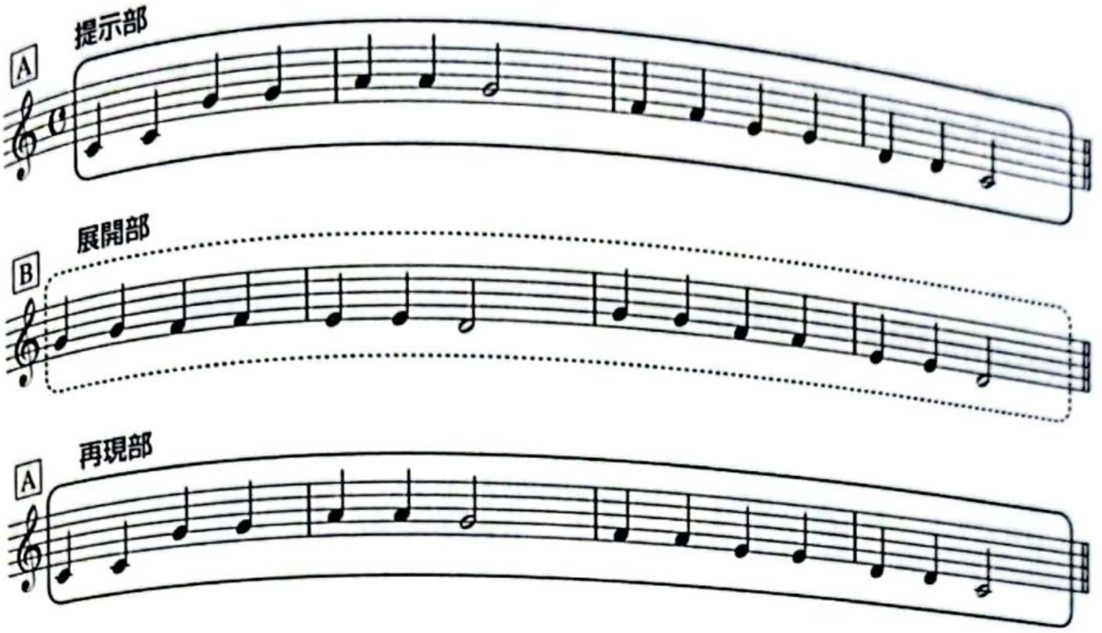
譜例⑤の「花」は、厳密には［A-A'-B-A''］である。［A］［A'］［A''］のそれぞれメロディは後半部分が微妙に異なるのだが、譜面上で判断しても**〈顔つきがそっくりな兄弟関係〉**にあるので、《サンドイッチ型》といっても差し支えないだろう。

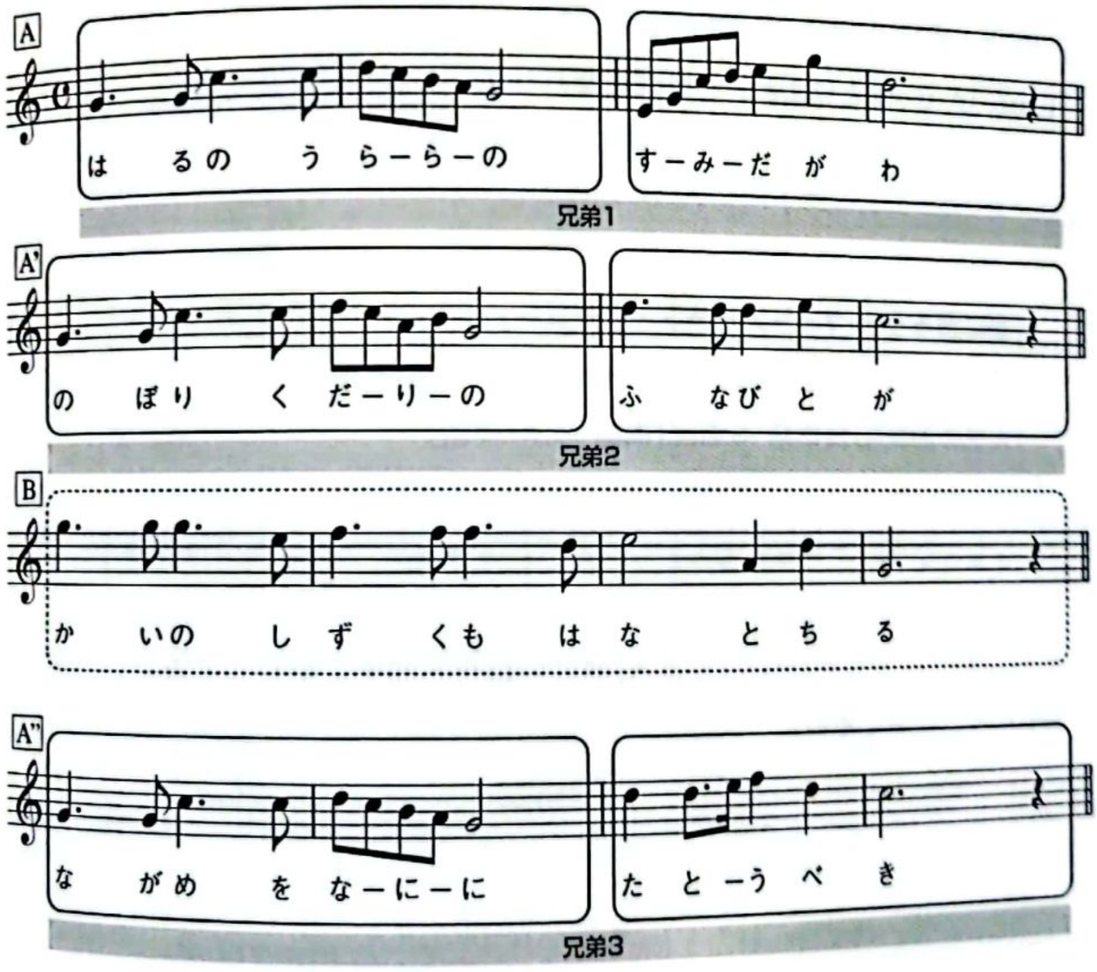
作曲を始めて間もない人は、一般的なポップスの形式である［A-B-サビ］の構成にとらわれすぎるあまり、全体のバランス配分が思うようにいかず、チグハグになったりするなどして、途中で挫折してしまうことが多い。そんなときはまずシンプルな《サンドイッチ型》［A-B-A］の構成で作ってみることをオススメする。

心得　初心者はまず《サンドイッチ型》で作ってみるべし

CamScannerでスキャン

譜例④ 「きらきら星変奏曲」主題
「12 VARIATIONEN UBER EIN FRANZOSISCHES LIED AH VOUS」
フランス民謡／作曲：WOLFGANG AMADEUS MOZART



譜例⑤ 「花」
作詞：武島羽衣／作曲：滝 廉太郎

CamScannerでスキャン

サンドイッチ型の名手

ここで、あらためて「クリスマス・イブ」の譜面を見てみよう(**譜例⑥**)。音型の〈数〉を数えてみてほしい。

えええええええ!?

思わず、目を疑ってしまった。

音型❶(スライド反復)

音型❷(単純反復)

音型❸(HSJ型)

……**たったの〈3つ〉である!!!!**

CD等のオリジナル音源では、フレーズ谷間の「Woo～♫」「Yeah～♫」などの〈達郎節フェイク〉や、間奏部分で展開されている荘厳な〈ひとり多重コーラス〉など、耳を満足させてくれる要素が多分に存在していたため、この30数年間、全く意識していなかったのだが、この名曲を構成している〈音型〉がこれほどまでに少ないとは、実に衝撃的である！

楽曲は必ずしも[A-B-サビ]の構成である必要はない。**印象的な〈A〉と魅力ある〈B〉**さえあれば、それだけで曲は成立する。

しかし[A-B-A]といえど、さまざまなバリエーションが存在する。

達郎さんの奥様でいらっしゃる**竹内まりやさん**も《サンドイッチ型》の名手。次に挙げる名曲たちもお手本にしていただきたい。

「家に帰ろう ～マイ・スイート・ホーム～」

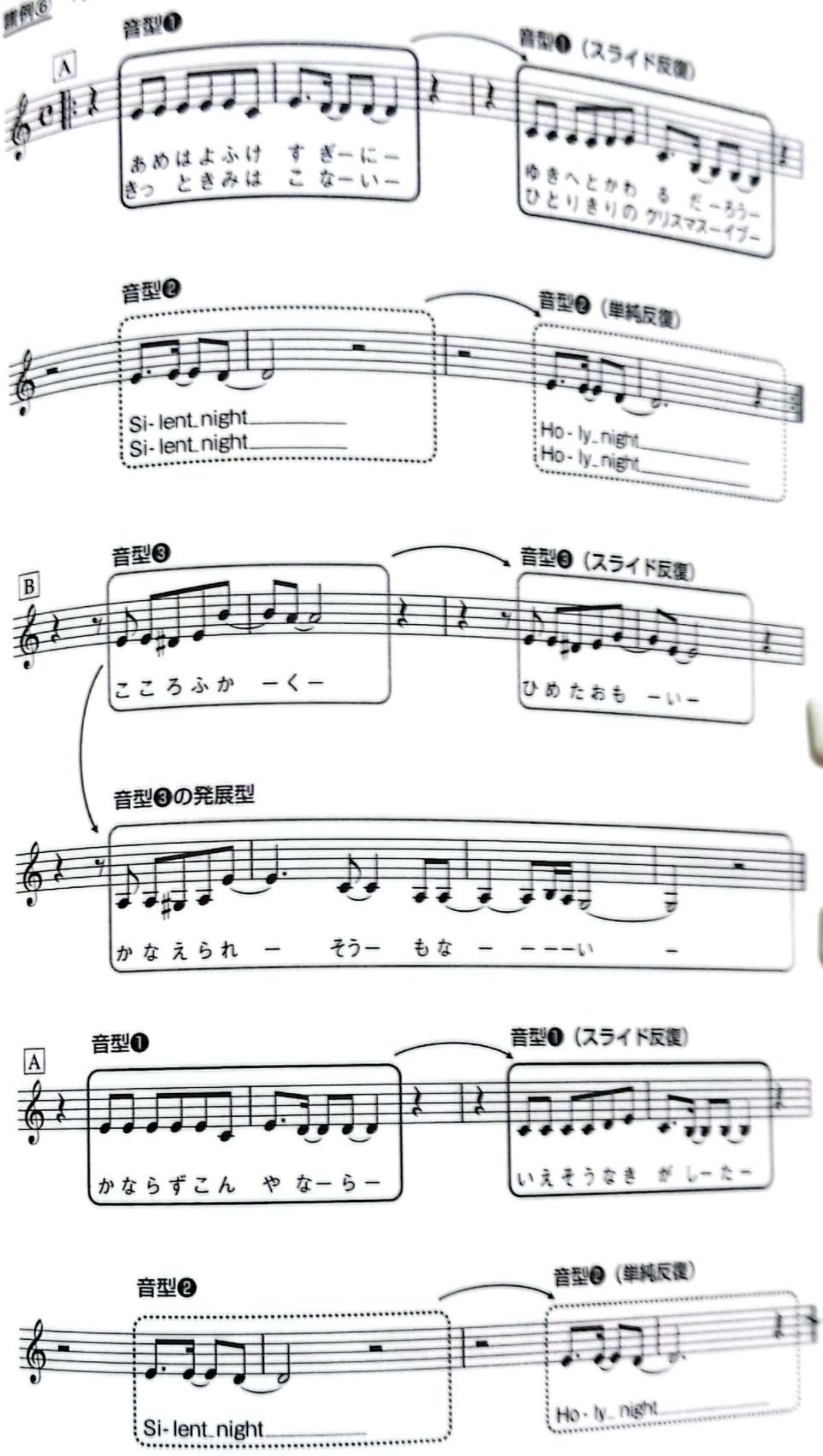
「元気を出して」[基本的にサンドイッチ型＋別展開あり]

「人生の扉」[A: 日本語 → B: 日本語 → A: 英語]

§

さて次項では、少し変わった[A-B-A]構成の超有名曲をご紹介してみたいと思う。ついに最後の項である。

CamScannerでスキャン

譜例⑥ 「クリスマス・イブ」における衝撃的な〈音型数〉

CamScannerでスキャン

Lesson 16

「LOVE LOVE LOVE」

DREAMS COME TRUE

……で大発見！

極意 46　秘伝★音楽的〈D・I・Y〉
……困った時のスキャット頼み

極意 47　劇的ビフォーアフター型サビ

極意 48　伝えたいことを伝え
第三者が受け入れやすい構造であれば
〈一定の形式〉にこだわる必要はない

作詞｜吉田美和　｜作曲｜中村正人　｜編曲｜中村正人
発売｜1995年7月24日
備考｜TVドラマ「愛していると言ってくれ」主題歌（出演：豊川悦司、常盤貴子）

CDが売れに売れていた時代

さてさて、最後にご登場いただくのは、DREAMS COME TRUEの名曲「LOVE LOVE LOVE」。この曲はドリカム18枚目のシングルとなる「LOVE LOVE LOVE/嵐が来る」(両A面)としてリリースされた。

この曲が発売された1995年とは、どんな年だったのだろうか。

- 阪神淡路大震災発生
- 地下鉄サリン事件発生
- コギャル現象
- 野茂英雄が大リーグ・デビュー
- 大相撲で貴乃花、若乃花、曙が大活躍
- Windows 95発売
- 新語流行語大賞トップテンに〈インターネット〉がランクイン

この年、CDが売れに売れていた。

驚くべきことに、年間シングル売上1～10位の全曲が〈150万枚〉を超えている。これは異界のお話か、はたまた並行世界での出来事か……。

「ドラマ主題歌」ヒットの法則

「LOVE LOVE LOVE」は累計で約250万枚を売った大ヒット作品。その大きな理由のひとつに、TBS系ドラマ『愛していると言ってくれ』の主題歌であったことが挙げられる。

思い返せば、1990年代のヒット曲といえばドラマ主題歌ばかり。

〈ドラマ主題歌は必ず当たる〉……この法則は、TBS系ドラマ「男女7人夏物語」主題歌の石井明美「CHA-CHA-CHA」(1986年)のヒットなどが端緒となり、その後フジテレビ系のいわゆる〈月9ドラマ〉における小田和正「ラブ・ストーリーは突然に」、CHAGE & ASKA「SAY YES」、浜田省吾「悲しみは雪のように」、米米CLUB「君がいるだけで」の大ヒットの連発で決定的なものとなる。1990年代前半に限ってみても〈ドラマ主題歌〉は今に残る名曲ぞろいである。

CamScannerでスキャン

1991年　「ラブ・ストーリーは突然に」小田和正

→『東京ラブストーリー』(出演：鈴木保奈美、織田裕二)

「SAY YES」CHAGE & ASKA

→『101回目のプロポーズ』(出演：武田鉄矢、浅野温子)

1992年　「悲しみは雪のように」浜田省吾

→『愛という名のもとに』(出演：鈴木保奈美、唐沢寿明、江口洋介)

「君がいるだけで」米米CLUB

→『素顔のままで』(出演：安田成美、中森明菜、東幹久)

1993年　「YAH YAH YAH」CHAGE & ASKA

→『振り返れば奴がいる』(出演：織田裕二、石黒賢)

「TRUE LOVE」藤井フミヤ

→『あすなろ白書』(出演：石田ひかり、筒井道隆、木村拓哉)

1994年　「Hello, my friend」松任谷由実

→『君といた夏』(出演：筒井道隆、いしだ壱成、瀬戸朝香)

「Tomorrow never knows」Mr.Children

→『若者のすべて』(出演：萩原聖人、木村拓哉、武田真治)

1995年　「HELLO」福山雅治

→『最高の片想い』(出演：本木雅弘、深津絵里、杉本哲太、長瀬智也)

「LOVE LOVE LOVE」DREAMS COME TRUE

→『愛していると言ってくれ』(出演：豊川悦司、常盤貴子)

1996年　「名もなき詩」Mr.Children

→『ピュア』(出演：和久井映見、堤真一、高橋克典)

「PRIDE」今井美樹

→『ドク』(出演：香取慎吾、安田成美、椎名桔平、菅野美穂)

CamScannerでスキャン

左ページの一覧は、あたかも《大ヒットの必須条件＝ドラマ主題歌》を赤裸々に証明しているかのようなデータである。
さもありなん。
新作ドラマが発表されるたびに、我々音楽業界人にとっての話題の中心は「主役は誰？」ではなく「主題歌は誰？」であった。当時、レコード会社や音楽事務所の最重要課題がドラマ主題歌タイアップ獲得であったことは言うまでもない。

1990年代、CD店&レンタル店に人があふれていた。一般庶民がCDに投下できるだけの金銭的な余裕を持っていたということか。当時のパソコンの世帯普及率は20%にも達していない状況。携帯電話も発展途上、スマホもソシャゲもない時代。お金の使い途は今ほど多様化されてはいない。
そんな状況の中、若者に強く支持され進化を遂げていった娯楽がある。世界共通語にまでなったメイド・イン・ジャパンの大衆文化＝〈カラオケ〉である。

〈カラオケ文化〉の恩恵

私が子供の頃（1980年前後）、カラオケは〈おじちゃん&おばちゃん〉のたしなみの道具であった。それもそのはず「ガッチャンガッチャン」と入れ替えるカラオケ専用〈8トラック・カートリッジ・テープ〉（通称8トラ/4曲入り）に収録されている曲は、ほとんどが演歌であった。
カラオケ再生機は、スナックやパブ、ホテル宴会場、はたまた酔狂な個人宅など、限られた場所にしか設置されていなかったが、次第にカセットにポップス曲が収録されるようになり、じわりじわりと若年層に浸透していったように思う。

1985年、岡山県に船舶用コンテナを改造した〈屋外型カラオケ・ブース〉が登場し、その後、1992年頃より通信カラオケのサービスが始まるなどして、カラオケ産業は飛躍的な成長を遂げることになる。
初期の屋外型ブースは、その形状から〈カラオケボックス〉と呼ばれるようになり、1980年代後期、日本全国各地を席巻した。私が通っていた大学の駅前（江古田）の空き地にはじまり、実家方面（群馬）の田舎の畑に至るまで、周囲の景観にミスマッチなコンテナがポコンポコンと雨後のタケノコのように乱立していった光景を今でも覚えている。

今では〈カラオケ＝プライベート空間〉という考え方が一般的であるが、コンテナ登場以前のカラオケの形態はいわゆる《空間共有型》。スナックや飲食店に会し

ている客たちが、店内にたったひとつしかない前方ステージに順番に登壇し、大勢の視線とスポット・ライトを浴びて、譜面台の歌詞とにらめっこしながら必死に歌っていた。しかも、まったく知らない他人の歌を聴かねばならない上に、自分の歌も聴かせねばならない。今思えば、かなり度胸のいる大胆な営みである。

しかし、**密閉式の〈コンテナ型ブース〉**の登場により、**空間の占有化**に成功。見ず知らずの他人に自分の歌を聴かせる必要もなくなり、アカの他人の歌を聴く必要もなくなっていった。

1990年代前半、バブル崩壊後の若者たちにとってカラオケは、安価で気軽に楽しめる**〈娯楽の王様〉**であった。リアル参加型の発散系エンターテインメントは、学生から社会人までの幅広い年齢層を巻き込み、一大市場を形成していったのである。

この〈カラオケフィーバー〉の存在こそが、当時のCDの売上げに大きく貢献したと言っても過言ではない。

● 今流行っているあの〈ドラマ主題歌〉を歌いたい
↓ 誰よりも早く覚えて、みんなをアっと言わせたい
↓ シングルCDを買えば、カラオケ・バージョンが収録されている
↓ 自宅や車の中で何度も聴いて&歌って練習したい
● 明日CDを買いに行こう(or レンタル店に行こう)

この頃からヒット曲は、聴くモノから**《歌うモノ》**に変容していった。
1990年以前のCDに〈カラオケ・バージョン/インスト・バージョン〉が収録されていないという事実が、その最たる証拠である。
思えばあの頃、誰も彼もが競うようにして**新曲のマスター**に執念を燃やしていた。

・流行に乗り遅れてはいけない。
・みんなの話題についていかなくてはいけない。
・自分の十八番を持たなくてはいけない。
・カラオケに行ったときは必ずウケなくてはいけない。
・「ワタシ歌えません……」なんて口が裂けても言ってはいけない。

知らず知らずのうちに、そんないくつもの〈強迫観念〉に支配されてはいなかったか？

CamScannerでスキャン

夜な夜なレンタル店で〈新譜シングル盤〉だけをカゴいっぱいに詰め込んでいる客を何度も見かけたことがある。私はその人たちに聞いたい。

☞ その時カゴに入れた曲を今でも愛聴していますか？
今でも愛唱していますか？

ヒット曲＝みんなで盛り上がるための〈かりそめ〉の共通ツール。
ヒット曲＝自己アピールのための〈かりそめ〉のアイテム。

悲しいかな、それが当時の流行歌の《役割の一部》でもあった。大量に生産され、大量に消費されていったあの頃の歌たち。

しかし、そんな消費社会の荒波にも動じず、今もなおエバーグリーンな輝きを放つ名曲がある。本書の最後にその中の１曲を取り上げさせていただく。

DREAMS COME TRUEの「LOVE LOVE LOVE」である。

「LOVE LOVE LOVE」の衝撃……

さてさて、前置きがだいぶ長くなってしまったが、ここからが本題。

「LOVE LOVE LOVE」……初めてフルコーラスを聴いたときの衝撃は忘れられない。あまりのことにガクゼンとしてしまった記憶がある。

いったい何にガクゼンとしたのか……。

なんとこの曲、**〈２番がない〉**のだ！

１コーラス目が終わり、そのまま２番に行くのかなと思いきや、突然ドラムロールが始まり → 印象的なリフレインが展開 → 感動的に終結する。

ななな、なんじゃコレは!?

日本ポップス史上、**２番が存在しない楽曲**なんてなかったのではないか!? いや探せばあるのかもしれない。しかし、チャートインした数多あるヒット曲の中で、2コーラス目が存在しない曲など聞いたことがない。

実のところ、ラジオか何かでこの曲を初めて聴いたとき、私はその音源を〈TVサイズ〉だと思い込んでいたのである。TVサイズとは、いわゆる〈ショート・バージョン〉のことであり、テレビ番組の都合でフルサイズを流せない場合に備えて作成される［イントロ → 1番 → エンディング］の短尺サイズのことである（ちなみにラジオ番組用の〈Radio Edit〉なるモノも存在する）。

私は〈フルサイズ〉を聴いてみたいと考え、早速知人からCDを借りた。流れてきた1トラック目は、聴き覚えのある短尺サイズだ。

「ふむふむ、1曲目にTVサイズが収録されているのか、珍しいなぁ」そんなコトを思いながら、ふと歌詞カードに目をやる。

ん？

歌詞のサイズは、今流れている音源のサイズとまったく同じ。

アレ……？

この瞬間、悟ったのである。この曲には《2番が存在しない》ということを。

一般的なポップスでは、楽曲にボリューム感を与えるべく、1番の後に〈2コーラス目的な役割を担うセクション〉を設けるのが常である。

ところが「LOVE LOVE LOVE」は、これを完全に無視した。

2番をすっとばしたのである。……これは大事件だ！

一般的なポップス

イントロ － 1番 － 2番 － 間奏 － サビ繰り返し － エンディング

LOVE LOVE LOVE

イントロ － 1番 － エンディング（コーダ的リフレイン）

なんだこの構成は……短い……短すぎる!!　どうして……????

疑問符しか浮かんでこないこの曲には、他にも多くの〈なぜ？〉がある。

私にとって「LOVE LOVE LOVE」は「NAZE NAZE NAZE」だ……。

以下、細かく検証していくことにしよう。

歌詞における〈引き算〉の美学

「LOVE LOVE LOVE」を象徴するのは、［ねぇ］ではじまる冒頭のこのフレーズに他ならない（**歌詞Ⓐ**）。

イチロー選手、試合開始早々やってのけた。

先頭打者ホームランである！

心に寄り添うように語りかけてくるフレーズ……なぜか妙に〈ほっと〉できるこの安住感。いわずもがな、これは**サビではなく〈Aメロ〉である。**

歌詞Ⓑをご覧いただきたい。

CamScannerでスキャン

歌詞Ⓐ「LOVE LOVE LOVE」といえば、このフレーズ

ねぇ、どうして～♫

歌詞Ⓑ「ねぇ」で始まる〈Aメロ〉が3回出現

ねぇ どうして　すっごくすごく好きなこと
ただ伝えたいだけなのに　ルルルルルル
うまく言えないんだろう…

ねぇ せめて　夢で会いたいと願う
夜に限って　いちども　ルルルルルル
出てきてはくれないね

ねぇ どうして　すごく愛してる人に
愛してると言うだけで　ルルルルルル
涙が出ちゃうんだろう

このフレーズは［ねぇ●●●～♫］の形を保ちつつ、歌詞の変化を伴いながら都合3回出現することで、知らず知らずのうちに安住感を芽生えさせている。
これぞ効果的な反復。《イヤーキャッチ》大成功である。

それにしてもこの曲、素敵な歌詞だ。
限られた音符数にもかかわらず、端的&的確に〈恋心〉が描写されている。
このシンプルさは奇跡レベルである。
しかも、シンプルの極みは［ルルルルル～♫］である。
これぞ《引き算の美学》！

心得 歌詞の〈引き算〉

あえて言語的な情報を盛り込まず、そこに［ルルルル～］という隙間を与え、リスナーの想像力をかき立たせる。意味を持たない［ルルルル～］というスキャットだからこそ、聴き手に自由なイメージを喚起させ、歌詞世界を〈自主的に構築させる〉ことをうながしている。

CamScannerでスキャン

つまりこれは音楽的《D・I・Y ＝ Do It Yourself》なのである。

若手の作詞家さんや作詞家を目指している方の多くに〈与えられたメロディに対して隙間なく言葉をビッシリと乗せなければいけない〉という使命感をお持ちの方がいらっしゃるが、何度も言うように《情報供給過多》になってはいけない。言葉を詰め込みすぎると、聴き手が処理しきれなくなり、本質（伝えたいメッセージ）が伝わらなくなってしまう恐れがある。

言葉の選択に困ったら、この［ルルルル～］を思い出してほしい。意味を持たない《スキャット》は、時に救世主となり得る。そして絶大なる奇跡的効果を発揮する場合がある。

なにはさておき「ルルルル～」は、極めてキャッチーなのである！

心得　時に《スキャット》は絶大なる奇跡的効果を発揮する

極意46　秘伝★音楽的〈D・I・Y〉
……困った時のスキャット頼み

スキャットは使い方次第で、極上の《旨味成分》となる。
侮ることなかれ。

特異な構成

話を歌詞からメロディに戻そう。

この曲、前述したようにAメロが都合3回ほど出現する。ゆえに「クリスマス・イブ」と同様、Aメロの支配力が強い［A-B-A］のサンドイッチ型なのだろうと解釈してしまいそうになるが、これは大きな間違いだ。

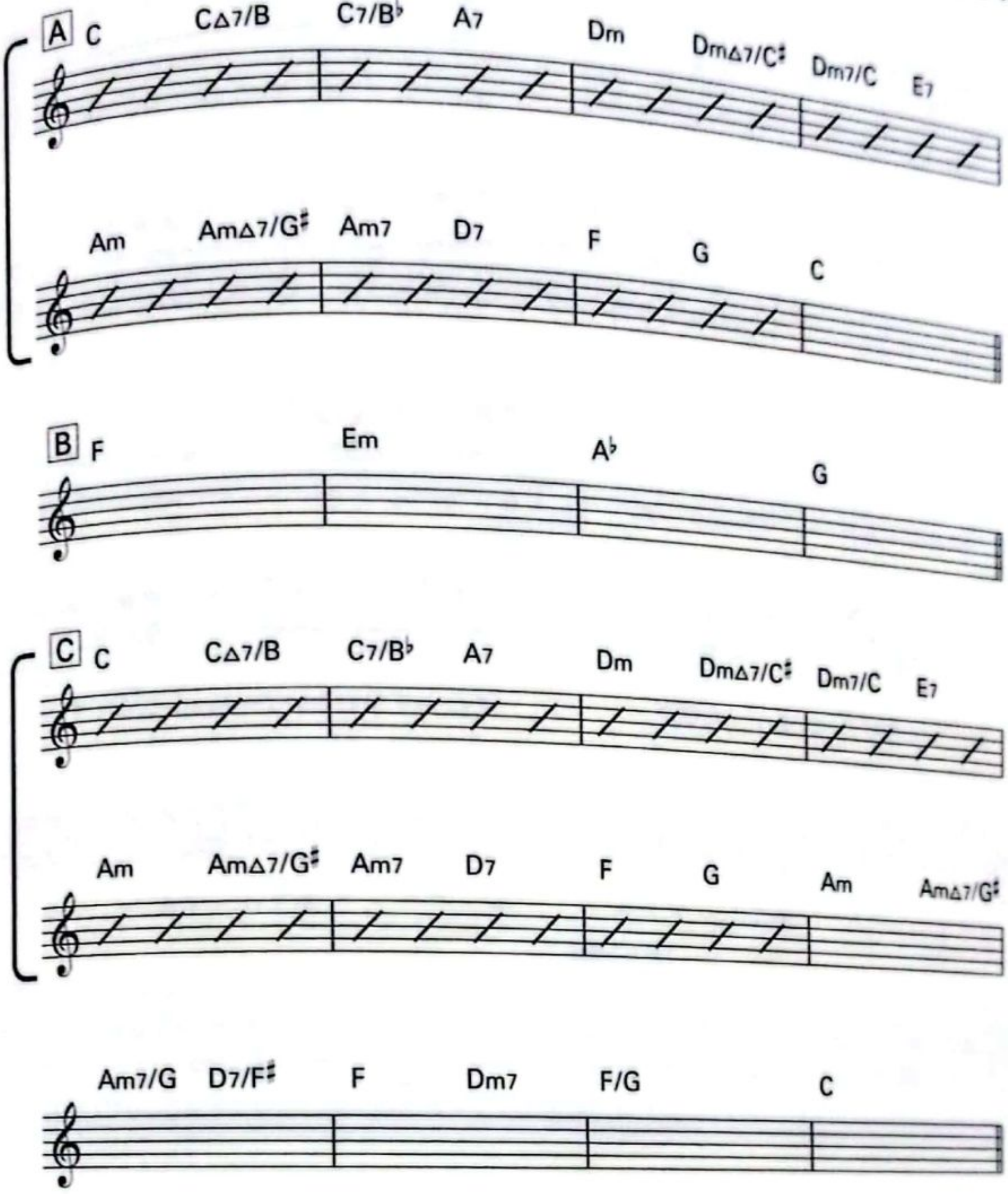
実はこの曲には、サビらしきメロディが存在する。

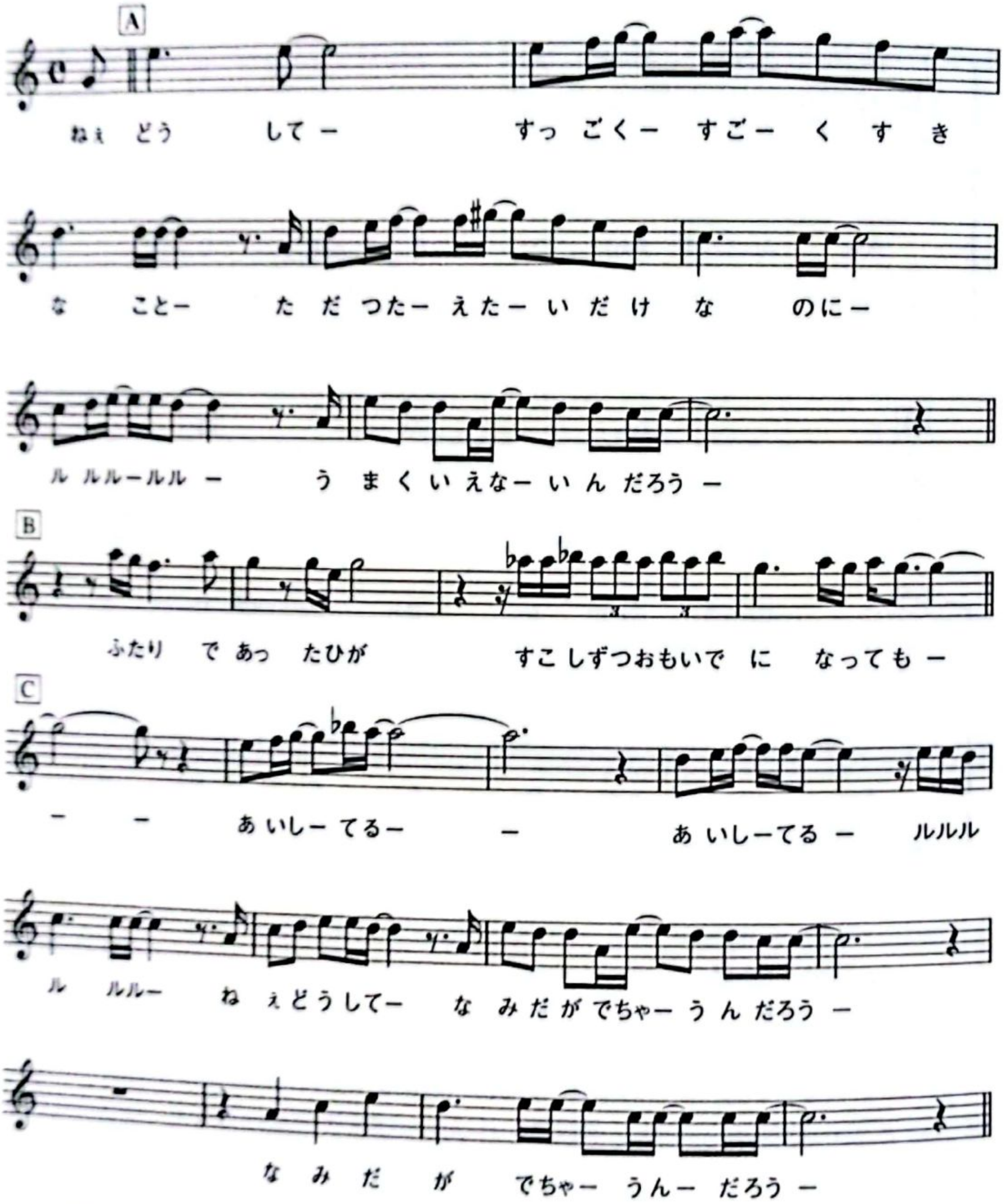
〈～らしき〉と表現したのには理由がある。

まずは譜例①でコード進行の流れをご覧いただきたい。

Cメロは〈サビらしきメロディ〉が存在する箇所なのだが、よく見てみると、コード進行はAメロと同じである（Cメロ8小節目以降はデザート展開のため除外）。

譜例① 「LOVE LOVE LOVE」のコード譜（A&Cは同じ進行）……Key＝Cメジャーで記譜（原曲はD♭メジャー）



譜例② メロディを加えてみると……サンドイッチ型にあらず？

コード進行の流れで考えた場合、この曲を［A-B-A］の《サンドイッチ型》と解釈するのが自然だが、そこにメロディを書き加えた途端、ガラリと様相が変わる。

上記の**譜例②**をご覧いただきたい。

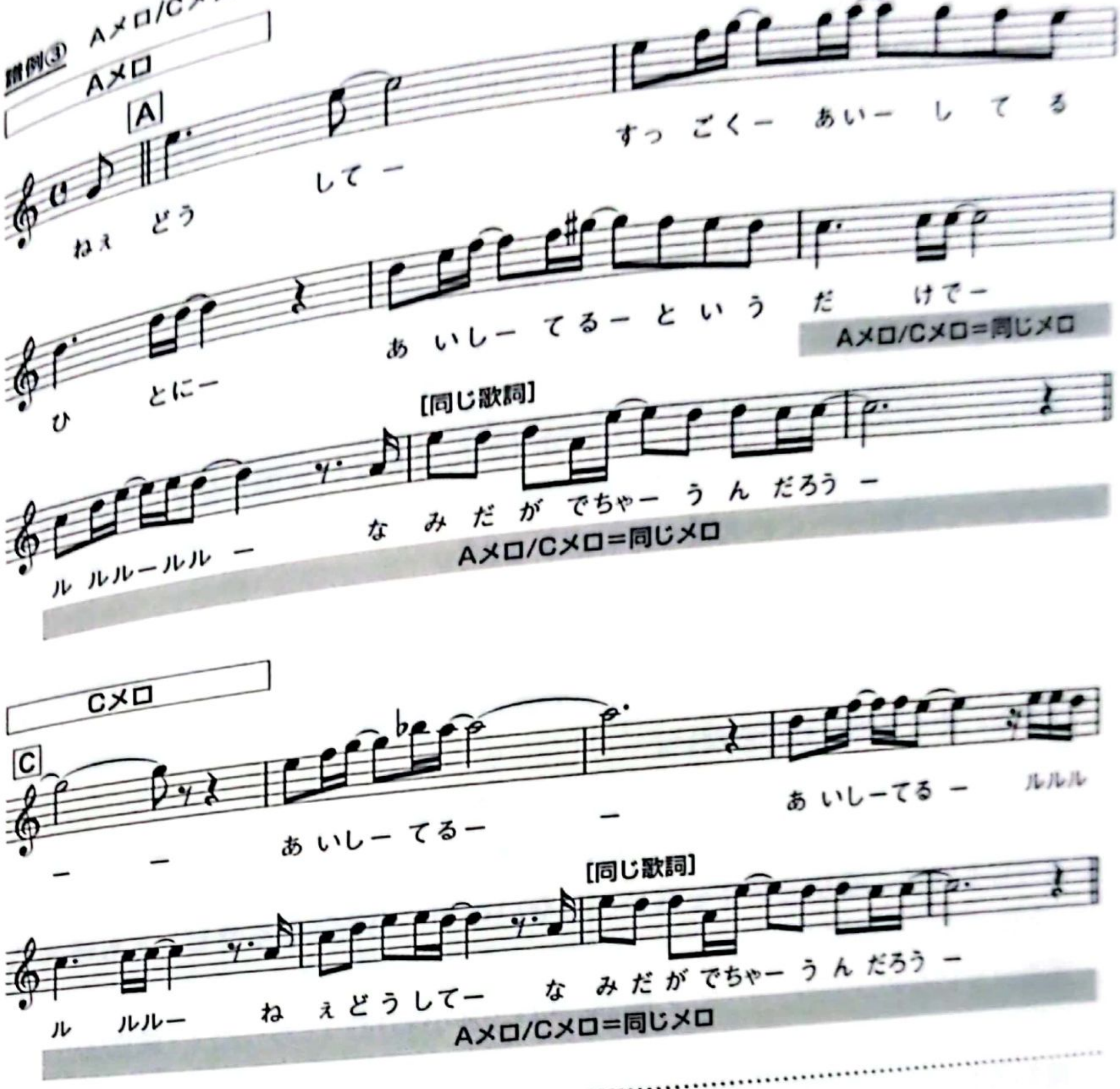
うむむ……これは**サンドイッチ型とは言えない**。

Aメロ/Cメロのメロディラインが異なっている。

……というコトは、やはりCメロは「サビ」なのか？

CamScannerでスキャン

譜例③ Aメロ/Cメロにおける〈同じメロディ〉(※Aメロ歌詞は3回目を記載)



いやいや、そう決めつけるのも早計だ。よく見ると、Aメロ/Cメロには〈似ている部分〉が存在している。**譜例③**で比較検証してみるしかない。

なるほど、Aメロ/Cメロの冒頭4小節のメロディは完全に別モノだ。

しかし……。

- **・5〜8小節目はともに同じメロ** ---------------------------- **条件①**
- **・最後のフレーズに至っては同じ歌詞** ---------------------- **条件②**
- **・基本的に同じコード進行［P241譜例①参照］** ---------------- **条件③**

以上〈3つの条件〉から総合的に判断して、次の推論を導き出せる(次ページへ)。

☞ Cメロは〈Aメロの変態型〉である

つまり、CとAの成分が〈半分ずつ〉配合された〈C50%＋A50%型〉。これを簡略化して〈CA型〉と表記してしまうと〈キャビン・アテンダント型〉や〈カルシウム型〉、はたまた〈CHAGE & ASKA型〉などと誤認識されてしまいそうなので、ここは〈混成/交配〉という言葉を横文字に変換し、カッコよく次のように命名したい。ジャカジャン！

☞ ハイブリッド変態

おぉぉ！ 字面だけで捉えると、なんだか〈とんでもない変態〉をイメージしてしまうが、そうではない。 CとAの掛け合わせによって誕生した〈有機的な変態メロディ〉なのである(……この表現も語弊があるが)。

Cメロの実態

さて、Cメロの〈正体〉がハイブリッドであることを突き止めた。

しかし、その実態がわからない。

私はずっとこのCメロを〈サビ〉と呼ばずに、一貫して〈Cメロ〉と表現してきた。Aメロの要素を含んではいるものの〈完全なるAメロ〉とも呼べず、フレーズ的&音域的にも特段の盛り上がりを感じられないので、〈完全なるサビ〉とも呼べず、ずっと困っていたのである。

実態はサビなのか否か……ヒントはCメロ〈2小節目〉にあった！(譜例④)。

譜例④をよくご覧いただきたい。Cメロにおいて、最初のフレーズが登場してくるのは〈2小節目〉からである。これは他の曲には見当たらない現象だ。なぜこのような形になっているのだろうか？

これはどうやら、直前の〈Bメロ末尾〉が鍵を握っているようだ。

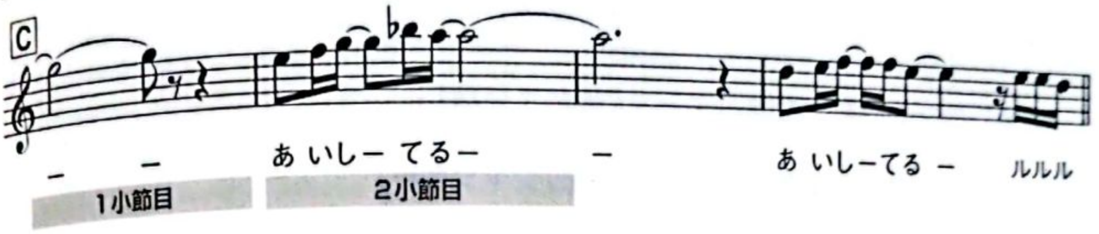
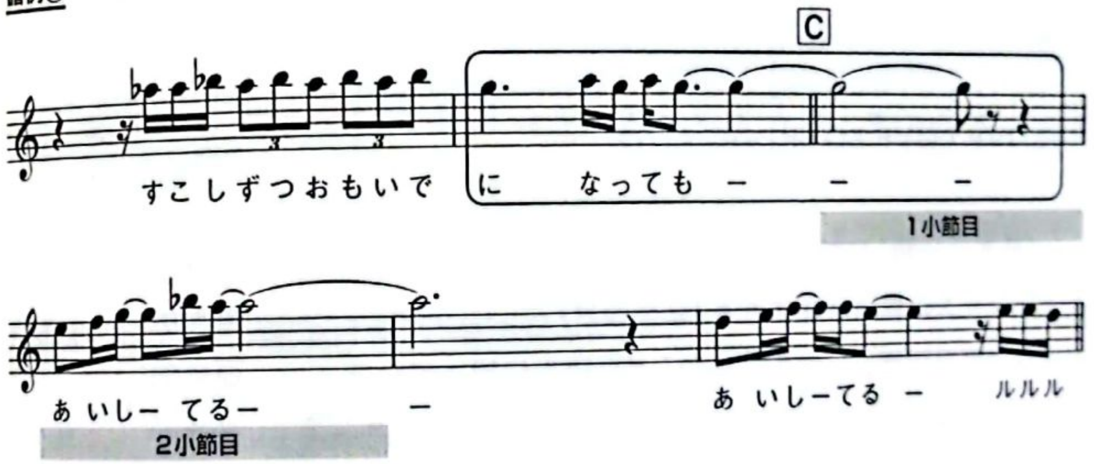
譜例⑤で、Bメロ後半からCメロへの突入の瞬間を探ってみよう。

おっと、Bメロ最後のフレーズ……長〜〜〜い！(四角で囲った部分)

尾を引いたまま遠慮なくCメロを侵食しているではないか！

この強引な侵食をモロに受けた影響で、Cメロ最初のフレーズが通常より遅れて〈2小節目〉から登場……という不思議なつくりになっている。Cメロを〈サビ〉と呼べない理由は、この構造のせいなのだろうか？

CamScannerでスキャン

譜例④ Cメロ〈2小節目〉に注目！

譜例⑤ 遠慮なくCメロを侵食している〈Bメロ末尾〉……!?

CamScannerでスキャン

ここで、サビのフレーズの《登場パターン》について考察してみる。
ジャッキー（弱起）の項の内容と一部重複するが、基本３分類を以下に示す。

サビのフレーズの登場パターン【基本３分類】

【1】少し前から登場 ＝ 助走型〔弱起/ジャッキー〕
【2】ジャストに登場 ＝ オンタイム型
【3】少し遅れて登場 ＝ チョイ遅れ型

譜例⑥に【基本３分類】に該当する曲をそれぞれ2曲ずつ挙げてみた。
「LOVE LOVE LOVE」との違いが如実に浮かび上がってくるではないか！
「LOVE LOVE LOVE」のCメロは……、

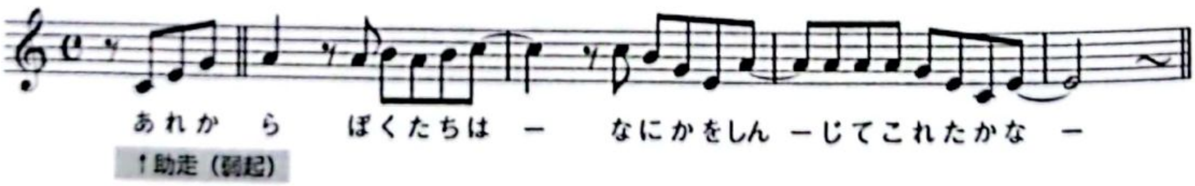
・【基本３分類】に該当しない ------------------------------------- 条件①
・フレーズの登場が遅すぎる（２小節目）---------------------- 条件②
・５小節目以降、いつの間にかAメロ後半に戻っている ------ 条件③
・似たような事例が他にない ------------------------------------- 条件④

試しにアナタのまわりの人たちに片っ端から尋ねていただきたい。
「LOVE LOVE LOVEの《サビ》を歌ってみてください」と。

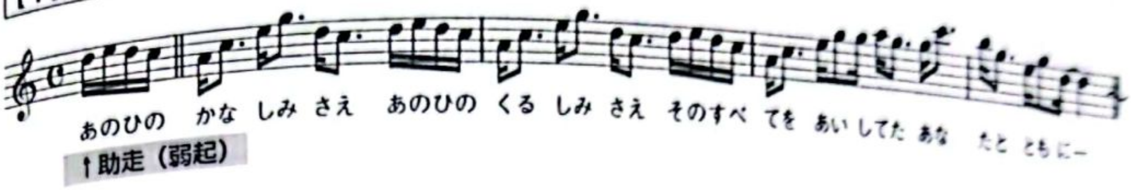
・きっとみんな、困ってしまうハズである -------------------- 条件⑤

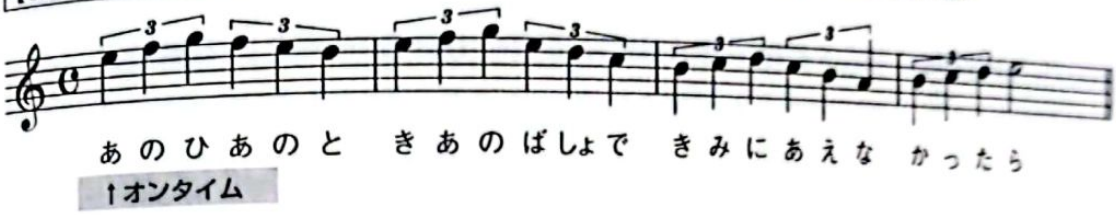
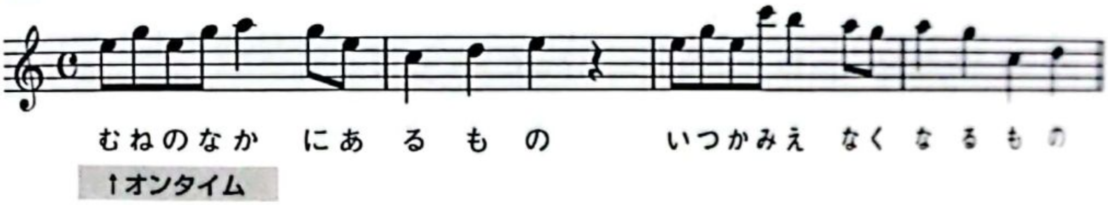
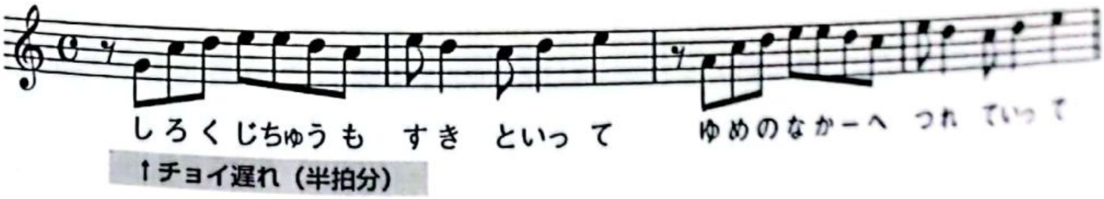
これら5つの条件により《Cメロはサビにあらず》と結論づけたいのだが、いやしかし、サビっぽい雰囲気もあるにはあるので断言できない。
さて困った。あえて表現するなら《サビらしくないサビ》……とでも言おうか。

譜例⑥ サビのフレーズの登場パターン【基本３分類】

【1】助走型〔弱起〕 「夜空ノムコウ」SMAP （作詞：スガシカオ/作曲：川村結花）

CamScannerでスキャン

【1】助走型（弱起）　「Lemon」米津玄師　（作詞/作曲：米津玄師）



【2】オンタイム型　「ラブ・ストーリーは突然に」小田和正　（作詞/作曲：小田和正）

【2】オンタイム型　「恋」星野 源　（作詞/作曲：星野 源）

【3】チョイ遅れ型　「真夏の果実」サザンオールスターズ　（作詞/作曲：桑田佳祐）

【3】チョイ遅れ型　「ガッツだぜ!!」ウルフルズ　（作詞/作曲：トータス松本）

CamScannerでスキャン

ほっとする理由＝隠れリフォーム

実は数ページ前で、Aメロのフレーズについて次のように語っていたのを覚えていらっしゃるだろうか？

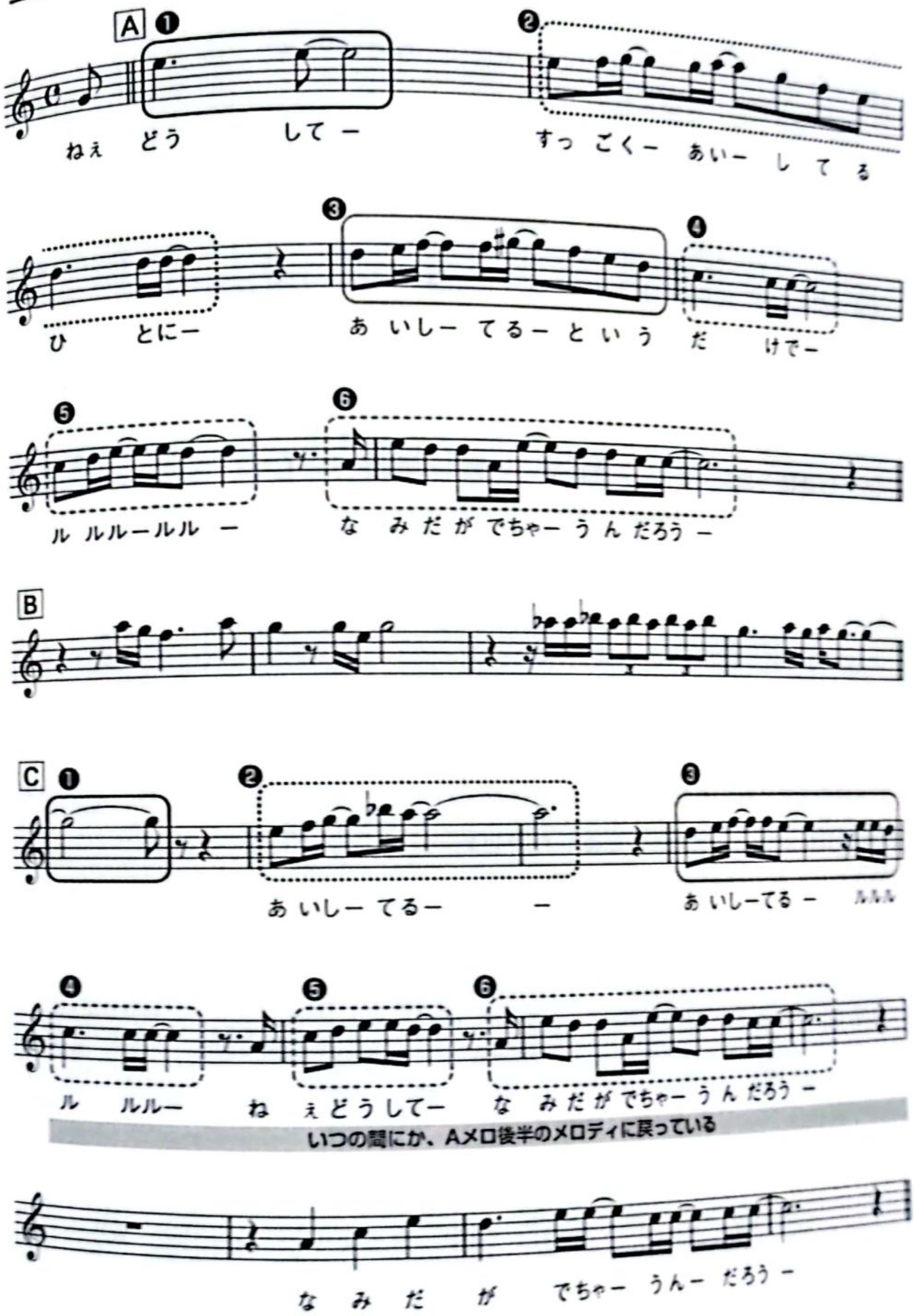
☞ なぜか妙に〈ほっと〉できるこの安住感

実は〈ほっとできる〉のは、Aメロだけではない。
この曲、前述したように「Cメロに入った！」と思わせておきながら、5小節目以降で、**いつの間にかAメロ後半のメロディに戻っている**……という構造。
例えて言うなら、旅に出てさまざまな場所をめぐり、紆余曲折の果てに「ようやく目的地（Cメロ）にたどり着いたぁ～」とバタンと倒れこんだ先が「アレ、ここって自分の実家（Aメロ）じゃん？」というような感覚。
しかも、旅に出ている間に実家が改築を行い、リフォームの結果、**部屋の形や家具の配置が少し変わってしまったが、慣れ親しんだあの懐かしい感じになんら変化はなく**……という感覚。
ゆえに、Aメロのみならず、Cメロでも〈ほっと〉できてしまっている。
これが《**サビらしくないサビ**》と思わせてしまう最大の要因なのだ。

さて、旅の間に改築を行った実家……どんなリフォームなのだろう？
譜例⑦で、検証してみよう。
Aメロ/Cメロのそれぞれ❶～❻を対比させてみると……。

Aメロ❶～❸と、Cメロ❶～❸のメロディは部分的に似ている。
歌詞もそれぞれ同じ言葉を使っていたりもするが、メロディへの乗せ方や前後のワードの有無などの点で少々異なる。
なるほどなるほど！
これは同じ建物（コード進行）という住み慣れた空間の中で、Aメロと Cメロにおける**部屋の形（メロディ形状）**や**家具の配置（歌詞の配置）**が、微妙に変化しているということ。これはまさに**安住と刺激の共存**……。
❹～❻の部屋の形（メロディ形状）は完全に一致。
しかし、何かが違う……。
家具（歌詞）だ！
家具の配置（歌詞の配置）が違っている！

CamScannerでスキャン

譜例⑦ 改装を行った実家の〈リフォーム具合〉を検証する。~Aメロ/Cメロの比較~

CamScannerでスキャン

まさに、その家具の配置（歌詞の配置）の絶妙な変化たるや、匠の技！
聴いているだけでは全く気がつかない。
早速、譜例⑧でその《マジック》をご堪能いただきたい。
うおぉぉぉぉ、これは驚きだ！
Aメロで登場した歌詞が、Cメロで配置を変えて登場している！

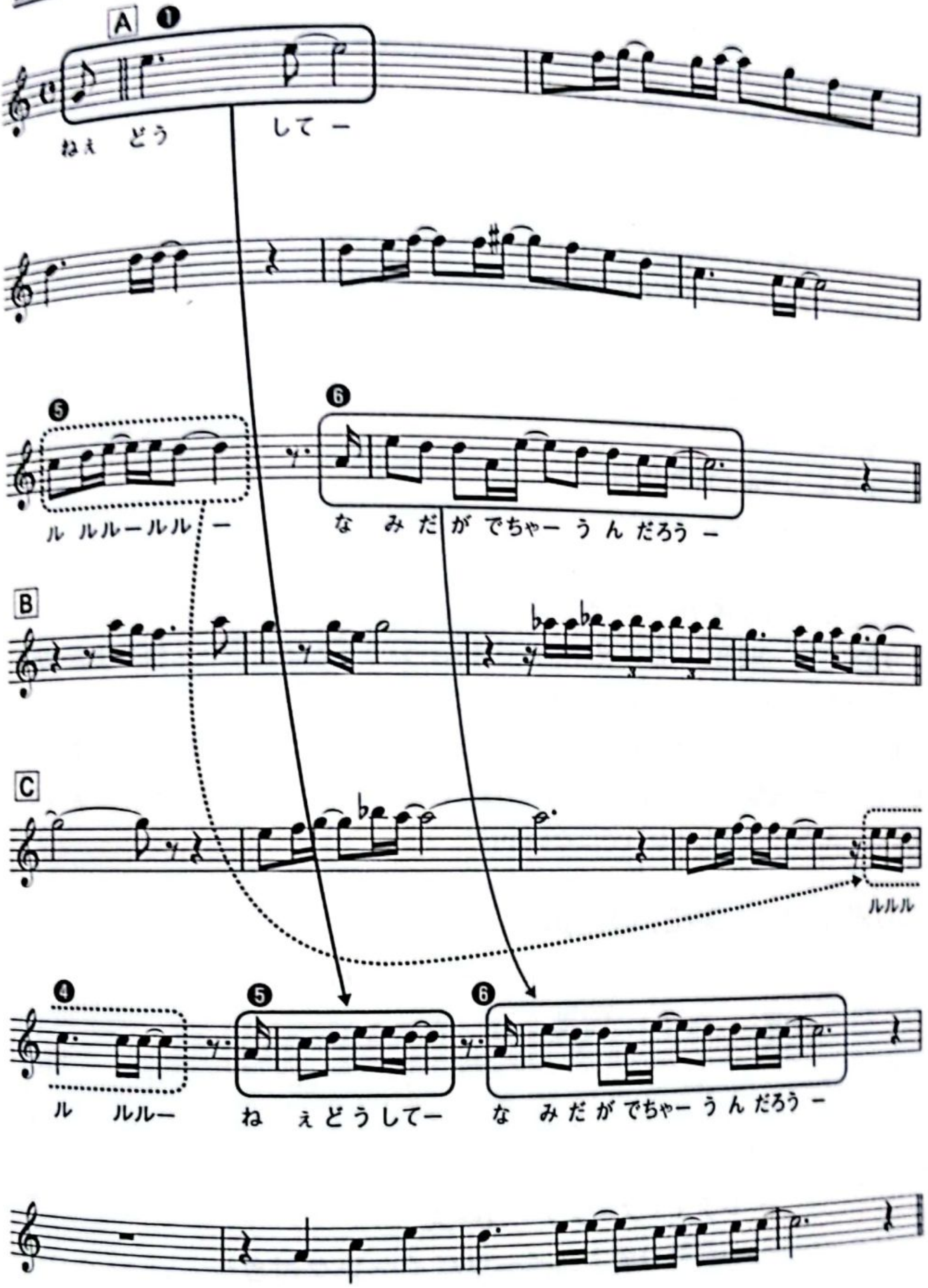
Aメロ❶の歌詞は、Cメロ❺のメロディに
Aメロ❺の歌詞は、Cメロ❹のメロディに（❸末尾からの弱起あり）

旋律が違うのでもちろん〈譜割〉も異なるのだが、それを感じさせないほどの自然な流れ。
〈Aメロ最後の歌詞〉と〈Cメロ最後の歌詞〉が❻で共通しているので、まったく違和感がない。
これぞ隠れリフォーム！
いやはやビックリだ……。
吉田美和さん、リフォームの達人!!!!

というワケで、ここで結論……。
Cメロの〈サビらしくないサビ〉の正体は《ハイブリッド変態》であり、その実態は《Aメロに微妙なリフォームを施したサビ》……である。
つまりコレだ……ジャジャン！

極意 47 | 劇的ビフォーアフター型サビ
〜隠れリフォーム系ハイブリッド変態〜

CamScannerでスキャン

譜例⑧　吉田美和さんの〈マジック・ショウ〉！　～歌詞の隠れリフォーム～

CamScannerでスキャン

スイーツバイキングの宴

しかししかし……この曲、このままでは終わらない。

終わらないどころか、ここからもうひとつのドラマが始まる。

1番が終わった瞬間、意味深なニュアンスで〈スネア・ロール〉が響き、空気が一変する。それはまるで1番という〈本編〉の終幕を受けて、聖なるエンディングへとエスコートするかのような凜としたたたずまい。

やがて扉が開き、**譜例⑨**のリフレインが繰り返されることになる。

この曲のフルサイズの尺はおよそ〈3分20秒〉。その内訳は……。

イントロ：20秒（10％）
歌本編：120秒（60％）
ドラム・ロール：10秒（5％）
リフレイン：50秒（25％）

なんとリフレイン部分だけで〈曲全体の25％〉を占めているではないか。

リフレイン、つまりこれは贅沢な余韻である。いうなれば、コース料理を食べ終えたお客様だけが享受できる豪華なスイーツバイキング。

なるほど、この曲に2番が存在しない理由がわかった。コース料理のその果てに《スイーツ食べ放題》が待ち受けているからなのだ。2番で満腹になってしまったら、極上スイーツを楽しめないではないか!?

「LOVE LOVE LOVE」の正体

というワケで、「LOVE LOVE LOVE」の型破りな構造……。

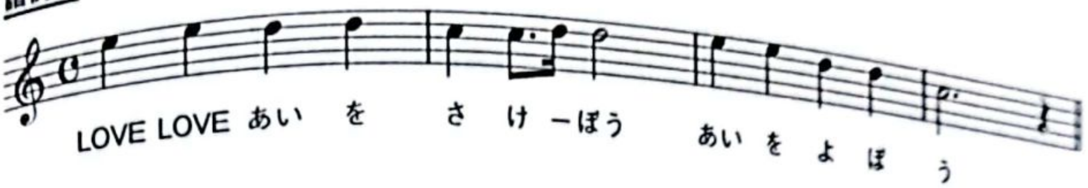
その理由に肉薄し、独自の結論を導くに至った。

歌本編は、いわば上品なフレンチの〈レディース・プチ・コース〉であり、その後に登場するエンディング部分は〈極上スイーツバイキング〉の如し……。

☞ レディース・プチ・コース
～至福の極上スイーツバイキング付き～

コース料理で舌鼓を打ち、スイーツでカタルシスを得る。やはりこの曲の旨味は〈料理〉と〈スイーツ〉の2本立てにあるのであろう。

CamScannerでスキャン

譜例⑨　エンディングを飾る厳かなリフレイン

しかも、スイーツをゆっくりと味わってもらうべく、全体のバランスを考慮し、大胆にも《２番をカットして１番のみに留める》という作戦に出たのだと推察する。これは大英断である。

「LOVE LOVE LOVE」の構成

イントロ　→　１番　→　エンディング（コーダ的リフレイン）

［レディース・プチ・コース］　［至福の極上スイーツバイキング］

§

この曲は我々に「必ずしも構成にこだわる必要はない」というコトを教えてくれている。

極意 48　**伝えたいことを伝え 第三者が受け入れやすい構造であれば 〈一定の形式〉にこだわる必要はない**

「LOVE LOVE LOVE」はさまざまな意味において、《贅沢な余韻》を我々に与えてくれているのである。

おわりに

〈プロの技〉を暴く疾風怒濤の旅は、これにて終了。現地解散とさせていただく。

本書に示した極意や心得は、あくまでも私独自の分析によるモノにすぎないが、これらがヒントとなり、アナタの創作活動の一助となれば、これ以上の喜びはない。

言うまでもなく、作曲や歌づくりにおける《極意》の数は〈48〉には収まらない。たまたま本書で紹介したのが〈48〉だっただけの話である。もっと多くの曲を分析すれば、その数は50になり100になったであろう。

重要なのは〈数〉ではない。そして〈極意〉を完璧にマスターすることでもない。

一番大切なのは、本書を通じて《分析することの楽しさ》や《物事の捉え方/視点の持ち方》を学んでいただくことなのである。

さて、本書タイトルで使用したこの〈48〉という数字、日本人にとても《親和性》がある。

若い人には「AKB48」を代表とする「48グループ」、年配の方には相撲の決まり手「四十八手」、江戸の町火消「四十八組」、花札の一組「四十八枚」「赤目四十八滝」など。

日本人は〈48〉という数字に無条件で親近感を覚えるようである。

私はこの数字にこだわり、縁起をかつごうとしたワケではない。再度申し上げるが、まったくの偶然である。本書を脱稿した際、担当編集者が《極意》となりそうなトピックを数えたところ不運にも〈47〉であり、そこに無理矢理ひとつ加えて〈48〉にした……などという実話は、とてもじゃないがココには書けない。

例えばこの数字が、52だったり、71という中途半端な数字だったりしたら、どうだろうか？ そこに〈親近感〉は生じず印象度は絶望的……。

やはり〈48〉という数字に、我々は安心感（＝安住）を覚えてしまうのだ。

しかし《48》を用いただけでは、食指が動く魅力的なタイトルにはなりえない。

そこで必要になってくるのが、〈安住の対義語〉→《刺激》だ。

というワケで、あの極意の再登場……ジャジャン！

【極意09】〈安住〉と〈刺激〉の共存

では、いかに刺激を与えるべきか!?

［刺激１］→48の「位置」を独立させる。

［刺激２］→48の「フォント」を大きくする。

［刺激３］→48の「色味」を変える。

CamScannerでスキャン

おぉ！ これで「見た目」の刺激が成立した。タイトルの全文は記憶に残らなくても（48）という数字だけは、なぜか記憶に残る。これが大事だ！

次に〈知的好奇心〉に訴える刺激が必要だ。

そこで用意したのが《誰も教えたがらない》というキャッチ・コピー。

例えば、この文言が〈誰にでもわかる〉や〈やさしく教える〉でも十分に成立するであろう。しかし、これらの言葉の味わいは完全に「甘口」……刺激がない。

では逆に教則本の責務に背く《教えたがらない》という文言を加えるとどうだろうか。これは「辛口」だ。その刺激が舌先から脳内にビビビと走り、食欲増進！

[安住] 48という数字が持つ親近感
[刺激] 48のデザイン（独立性/大きさ/色味）
《誰も教えたがらない》という文言

曲づくりも、タイトルづくりも、根本は同じ。

作詞も編曲も演奏も然り、そして映画も演劇もお笑いも……。

考えてみれば、エンタテインメント全般が、この《安住と刺激の共存》に基づいているのではないだろうか？

なるほど、コレは例えるなら「ジェットコースター」だ。シートベルトという約束された安全（安住）があるからこそ、猛スピード＆急降下というあのスリル（刺激）を楽しめるのである（……やや強引な理論展開か？）。

〈安住〉と〈刺激〉の共存 ≒ ジェットコースターの法則（!?）

2020年は職業作曲家として音楽業界に飛び込んでから満30年という区切りの年であった。極私的な記念すべき年に出版の機会を与えてくださったリットーミュージック編集部の皆様、そして本書誕生のそもそものきっかけをつくってくださったリットーミュージック松本伊織様、作曲本らしからぬ素敵なカバーデザインに仕上げてくださったwaonica様、タイトルについての相談に乗ってくださったDTM界の住人各位、仕事仲間、音楽仲間、飲み仲間、日々の暮らしを支える我が割田家御一行様、そして本書を手に取ってくださった皆々様（立ち読み含む）に、改めて深く感謝御礼を申し上げます。

2020年10月27日 割田康彦

割田康彦 Yasuhiko Warita

音楽プロデューサー、作曲家。群馬県出身。日本大学芸術学部映画学科中退。1990年、作曲家デビュー。1994年、東京Qチャンネルとして CDデビュー。平井堅、SMAP等に楽曲提供するほか、作家マネジメント、ゲーム・アニメ・ドラマ・CM・子供番組・映画・演劇・お笑い等の音楽制作から、クラシック公演プロデュース、ラジオパーソナリティーまで、その活動は多岐に及ぶ。作詞作曲講座、オンライン個別指導など、後進の育成にも力を注ぐ。
（Twitter）@yasuhikowarita

誰も教えたがらない！
キャッチーなメロディの極意48
超ヒット曲に学ぶシンプルな作曲のメカニズム

割田康彦 著

2020年11月26日　第1版1刷 発行

定価（本体2,000円＋税）

ISBN978-4-8456-3552-8

発行所　株式会社リットーミュージック
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地
https://www.rittor-music.co.jp/

発行人　松本大輔
編集人　野口広之

【乱丁・落丁などのお問い合わせ】
TEL：03-6837-5017　FAX：03-6837-5023　service@rittor-music.co.jp
受付時間／10:00-12:00、13:00-17:30（土日、祝祭日、年末年始の休業日を除く）
【書店様・販売会社様からのご注文受付】
リットーミュージック受注センター
TEL：048-424-2293　FAX：048-424-2299
【本書の内容に関するお問い合わせ先】
info@rittor-music.co.jp
本書の内容に関するご質問は、Eメールのみでお受けしております。お送りいただくメールの件名に「キャッチーなメロディの極意48」と記載してお送りください。ご質問の内容によりましては、しばらく時間をいただくことがございます。なお、電話やFAX、郵便でのご質問、本書記載内容の範囲を超えるご質問につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

編集長　服部 健　　デザイン／DTP　waonica
編集担当　永島聡一郎　　楽譜浄書　株式会社クラフトーン
印刷所　株式会社リーブルテック

JASRACの承認により許諾証紙貼付免除
JASRAC 出 2008662-001
許諾番号の対象は、当該出版物中、当協会が許諾することのできる著作物に限られます。

NexTone PB000050842号

©2020 Yasuhiko Warita　©2020 Rittor Music, Inc.
Printed in Japan
●落丁・乱丁本はお取り替えいたします。 ●本書記事／写真／図版などの無断転載・複製は固くお断りします。

CamScannerでスキャン